

ト云ヘリ算用
ナリ
〔所管〕田地ニ
テ課スルモノ
ナリ

三國
地志

〔按〕和銅以來一段ノ租ハ米七升五合ヲ以テ制トス今諸國ノ莊園ヲ觀ルニ其租昂低齊シカラズ蓋シ班田ノ法破テ莊園興ル
莊園ハ多ク權門勢家ノ領スル所ニ係リ其專横ナル固ヨリ官家ノ能ク禁スル所ニ非ス途ニ制權ノ勢ヲ成ス所以ナリ

大正稅

〔按〕令義解ニ云凡ソ官租ノ源田租ヨリ出ツ即チ分テ三ト爲ス一ニ曰ク大稅云々令鈔ニ云新輪ヲ租ト曰ヒ輕貯ヲ稅ト曰フ
大稅ハ正稅ヲ謂ナリ本額ナリ毎國本額ヲ置キ公田ヲ作ル輩ニ班給シ十束ニ三束ノ利ヲ加テ返納セシメ公用ニ充ツ輕貯此
中ニアリ每國式數アリト大稅邦言オホチカラ又フトチカラ江家次第ニ云本額トハ國司貯積ノ總名ナリ類聚名物考正稅此
本額米ト旨ヒ且云正稅トハ年貢米ヲ取納メ不動トテ限ニ使用セサル本額ニ入置キ國用ノ設トシテ貯置クナリト之ヲ要
スルニ大稅正稅大租皆一ナリ即チ田租ヲ分チタル者ニシテ之ヲ官倉ニ貯藏シ以テ國家ノ經費及ヒ出舉等ニ充ルナリ而シ
テ臨時支出ニ係ルモノ類ル廣シ今其大槪ヲ揭録シテ參照ニ備フ

〔持統天皇五年四月朔日〕大學博士上村主百濟ニ大稅一千束ヲ賜フ以テ其學業ヲ勸ルナリ日本
〔文武天皇元年八月十七日〕今年ヨリ始テ三箇年大稅ノ利ヲ收メスシテ高年老人ニ加恤ス日本
〔按〕是月天皇禪ヲ受ケ位ニ即ク因テ此恩與アルナリ

〔大寶元年六月八日勅〕國宰相大稅ヲ貯ヘ置ク必ス須ラク法ノ如クスヘシ如シ關意アラハ事ニ隨
テ科斷セヨ是日使ヲ七道ニ遣シ新令ニ依テ政ヲ爲シ及ヒ大租ヲ給フノ狀ヲ宣告シ并ニ新印ノ頒布ヲ
頒付ス類聚國史

〔二年二月十九日〕諸國ノ大租驛起稻及ヒ義倉并ニ兵器ノ數文ヲ始テ辨官ニ送ル類聚國史
〔按〕凡ソ租額其國府ノ倉廩ニ收ルモノハ國司之ヲ掌リ京師ニ輸スモノハ民部省主稅寮之ヲ掌ル其總管ニ送ルハ各種ノ員
數ヲ錄シ以テ太政官ニ致スナリ

〔元明天皇和銅元年閏八月十日太政官符〕大稅ハ自今已後別ニ不動ノ倉ヲ定メ以テ國貯ノ物トナシ
郡別ニ檢一國郡司等各稅文及ヒ倉案ニ其人時定倉ヲ注セヨ後檢按シ欠レハ違害スル所ノ
勾テ違ル
〔元正天皇養老三年六月十六日制〕殺ノ物タル年ヲ經テ府チス自今以後稅及ヒ雜稻ハ必ス殺ト爲シ

テ之ヲ收メヨ本紀

〔聖武天皇天平二年四月十日〕太政官處分大稅ノ收納輕惡ニスルコトヲ得ス稅帳ヲ進ル日類聚
問ハス倉別ニ主當官人ノ名ヲ署セヨ類聚國史、續日本
〔按〕大稅ノ收納トハ蓋シ每國之ヲ官倉ニ收納スルナリ而シテ其算計ハ乃チ根據ニ勸錄シテ之ヲ上進セシム類ト殺トハ昔
長久ニ堪フ故ニ不動ノ貯ルモノハ多ク二ツノモノヲ納メシム倉別ニ主當官人ノ名ヲ署セシムルハ特ニ其處惡ヲ戒慎セシ
ムルナリ

〔六年正月十八日〕諸國ニ勅命シテ雜色官稻ハ驛起稻ヲ除ク以外悉ク正稅ニ混合セシム本紀
〔十一年六月十七日〕諸國ノ驛起稻成悉ク正稅ニ混合セシム本紀

〔廿三日〕出雲守從五位下石川朝臣年足ニ絶三十疋布六十端正稅三萬束ヲ賜フ善政ヲ賞スルナリ類
聚國史

〔光仁天皇天應元年正月朔日詔〕去年恩免ノ神寺ノ封租ハ宜ク正稅ヲ以テ填償スヘシ類聚國史
〔桓武天皇延曆四年七月廿四日勅〕夫レ正稅ハ國家ノ資水旱ノ備ナリ而シテ比年國司苟モ利潤ヲ貪
リ費用各衆シ官物減耗シ倉廩實タサルハ職トシテ此レ之ニ由レリ宜ク自今以後嚴ニ禁止ヲ加フヘ
シ其國司如シ一人犯用スルコト有ラハ餘官モ同ク坐シテ並ニ見任ヲ解キ永ク叙用セサレ贓物ハ其
ニ填納セシメヨ死ヲ免シ赦ニ逢フノ限ニ在ラス遞ニ相檢察シテ違犯ヲ爲スコト勿レ其郡司和シテ
許スモ亦國司ニ同セヨ類聚國史

〔按〕古昔正稅帳ヲ開スルニ每國概テ官倉及ヒ益ノ數ヲ益シ國司其責ニ任ス是時世運漸ク降リ食汚ノ弊已ニ生ス當
太々重キ所以ナリ

〔十七年正月廿三日〕公廩ヲ停止シ一ニ正稅ニ混シ正稅ノ利ヲ割キ國儲及ヒ國司ノ俸ヲ置ク類聚
國史

〔九月廿三日勅〕錢ヲ用フルノ道ハ輕便ニシテ有無利ヲ均フシ彼是宜ヲ得ルニ取レル者ナリ聞カ知
キハ外國ノ吏民多ク貯蓄アリテ京畿ノ士庶遠テ費用ニ乏シト既ニ利ヲ均フスルノ義ニ乖キ亦宜ヲ
得ルノ方ヲ失フ宜ク限制ヲ下シ更ニ然ルコトヲ得サラシムヘシ所有ノ錢ハ盡ク皆官ニ納メ仍テ正

〔新印〕是年令
ナリ
〔所管〕田地ニ
テ課スルモノ
ナリ

〔舊〕是年令
ナリ
〔所管〕田地ニ
テ課スルモノ
ナリ

〔舊〕是年令
ナリ
〔所管〕田地ニ
テ課スルモノ
ナリ

〔舊〕是年令
ナリ
〔所管〕田地ニ
テ課スルモノ
ナリ

〔功〕貸ナリ
〔陸〕解前篇
ニ見エタリ

税ヲ用ヒ價ニ准シテ之ヲ給ヒ京ニ送ルノ功モ亦正税ヲ用ヒヨ如シ藏シテ進メス他ノ爲ニ告ラシム

コトアラハ陸贖ヲ論セス遠勅ノ罪ヲ科シ其物ヲ五分ニシテ一分ハ告者ニ給ヒ四分ハ没官セヨ他伊賀近江若狹丹波紀伊等ノ國ハ禁スル限ニ在ラス〔按〕外國トハ京畿外ノ國ヲ謂フ伊賀近江等ノ國禁限ニ在ラサルハ京畿下均ク費用ニ乏キテ以テナリ

〔十八年四月九日勅〕澗水日ヲ經テ苗稼腐損ス窮弊ノ民更ニ播スコトヲ得ス宜ク山城河内攝津等ノ國ヲシテ貧民ヲ巡檢シ正税ヲ以テ之ニ給ハシムヘシ〔按〕日本後紀

〔平城天皇大同元年八月四日〕畿内水害ヲ被ル百姓ノ調係ヲ免シ其正税ハ明年之ヲ納ルコトヲ聽ル〔按〕日本後紀

〔廿五日〕參議東海道觀察使從三位藤原朝臣葛野麻呂言ス延暦十七年ノ格ニ正税ヲ出舉センニハ穀ヲ給テ穀ヲ收メ立テ、恒例ト爲セト而シテ今勅ヲ奉スルニ稻ニ早晚アリ各土ノ宜ニ任ス而シテ額ヲ盡シテ穀ト爲サハ種子辨シ難シ宜ク本ノ額ヲ收メ利ハ穀ヲ納メ本額ヲ絶タヌ廻テ種子ニ充テヨ本額ノ外ハ額ヲ收ルコトヲ得ス若シ限ニ過テ額ヲ收ルコト有ラハ國郡官司ハ遠勅ノ罪ヲ科セント

〔通〕漢語抄モ
美濃國ト謂セ
リ稻ヲ春テ穀
トナスノ名ナ
リ

今或ハ國司等偏ニ此格ヲ執テ公廩ノ利稻并ニ年中ノ雜用皆悉ク糶ニセシム其額穀ヲ收ルノ意ハ本遠貯センカ爲ナリ而シテ今日糶ニ勞シテ明年盡ク用フ徒ニ民ノ弊有テ會テ公益無シ伏シテ望ム延暦十一年十一月廿八日ノ格ニ依テ年中ノ雜用并ニ公廩等ノ稻ハ糶ト爲スコトヲ勞セス以テ民ノ弊ヲ省カント之ヲ許ス〔按〕日本後紀、類聚三

〔嵯峨天皇弘仁十一年五月四日太政官符〕存恤ノ事ハ載テ令條ニアリ國郡ノ官司理須ラク遵行スヘシ而シテ收養醫藥未タ其事ヲ聞カス勅ス照育ノ道理然ル可ラス違法ノ吏深ク科責スヘシ宜ク更ニ下知シテ勤テ醫養セシメ彼黎民ヲシテ徒ニ非命ヲ致サシムルコト勿ルヘシ其料ハ正税ヲ量リ用ヒ

〔專〕解前篇
ニ見エタリ
〔朝〕集使ノ解前
篇ニ見エタリ
〔稅〕帳使ノ稅帳
ヲ進ル使ナリ
〔齊〕內親王ノ解
前篇ニ見エタリ

ヨ其年中用フル所ノ正税大國ハ五百束以下上國ハ四百束以下中國ハ二百束以下下國ハ一百束以下即チ國郡ノ官司親ヲ訪察ヲ加ヘヨ若シ符旨ニ乖キ存活所ヲ失ヒ他ノ爲ニ告ラシムルハ法ニ依テ罪ヲ科セン夫レ專當ノ國郡司ノ名及ヒ存濟スル所ノ人數ハ朝集使ニ附シ用フル所ノ正税ハ稅帳使ニ附シ並ニ別卷トナシ年毎ニ言上セヨ但自存スル能ハサルノ輩ハ一ニ令條ニ依テ之ヲ行ヘ法ニ違テ額ク正税ヲ用フルコトヲ得ザレ〔按〕類聚三

〔仁明天皇承和八年七月十五日〕伊勢齋內親王ノ離宮ヲ造ラシム伊勢尾張兩國ノ正税稻ヲ以テ料ニ充ツ〔按〕日本後紀、類聚三

〔光孝天皇仁和二年十月廿七日〕勅シテ伊豫國ノ正税穀千斛讃岐國ノ千斛ヲ以テ齋宮寮ニ充ツ承前ノ例齋內親王大神宮ニ入ノ後伊勢國ノ正税穀三千斛ヲ以テ新居ノ費ヲ資ク今廻シ換テ以テ之ニ充ツ〔按〕類聚三

〔宇多天皇寬平七年七月十一日太政官符〕官物ノ重キ正税ヲ本ト爲ス雜稻ニ至テハ恰モ枝葉ノ如シ而ルヲ新任ノ國宰意ニ物ヲ剩サンコトヲ要シ交替ノ日所在ノ見物ハ先ツ往古無實ノ雜稻ノ代ニ總テ當時出舉スル正税ノ欠ラ致セリ遷替ノ吏其非ヲ歎スト雖モ放還ヲ求ンカ爲メ合眼シテ承引ス官物ノ損耗スル此ニ依ラサルハナシト勅ス自今以後所在ノ見物ハ先ツ正税ノ定數ヲ割キ置テ其遺ヲ以テ色々ノ雜稻ヲ辨置セヨ〔按〕類聚三

〔式〕凡ソ中宮ノ封若シ損有ルノ年ニ當ラハ當國ヲシテ正税ヲ以テ交易シ辨進セシム春宮坊此ニ進ス〔按〕民部式

凡ソ正月三節及ヒ十一月新嘗會等ノ料酒ハ預メ畿内ニ仰セテ正税ヲ用ヒ釀シテ造酒司ニ送ル〔按〕山内式

凡ソ正税ヲ用フル者十束以上ハ皆内印ヲ請フ但畿内ノ官田ノ稻ヲ用フル者ハ外印ヲ請フ〔按〕民部式

〔按〕内印ハ天皇ノ御璽ナリ外印ハ太政官ノ印ナリ令ニ云内印ハ方三寸五位以上ノ位記及ヒ諸國ニ下ス公文ニハ則チ印セ

日外印ハ方二寸半六位以下ノ位記及ヒ大政官ノ文案ニハ則チ印セコト今正税ヲ用フル十束以上皆内印ヲ請ハシム特ニ之ヲ重ニスルナリ然トモ條違ノ國海陸ノ便未タ開ケス一々之ヲ請フ恐クハ不便ニ堪ヘサルモ有ラン蓋シ例規有ルモノハ據テ而シテ之ヲ處分シ臨時支出ニ係ルモノハ則チ之ヲ稟請スルナリ

凡ソ京職ノ正税義倉ノ穀ハ省主計主税ト共ニ出納ヲ知ル正税ハ主税義倉ハ主計〇民部式

凡ソ正税帳ヲ進ル者ハ皆二月卅日以前ヲ限リ竝ニ官ニ申シ送ル但西海道諸國并ニ嶋ハ二月卅日以前太宰府ニ送ル府以テ覆勘ヲ加ヘ五月卅日以前官ニ申ス民部式

凡ソ諸國大祓ノ馬ハ若シ國造ナキ國ハ正税ヲ以テ買ヒ用フ其價ハ五十束ニ過ルコトヲ得ス但太宰府及ヒ肥前肥後日向三國ハ竝ニ牧馬ヲ以テ之ニ充ツ民部式

年料春米

- 伊勢國 大炊ニ一千七十石糧卅石
- 尾張國 大炊ニ一千八十石糧卅石
- 參河國 大炊ニ七百石
- 近江國 内藏ニ五十石省ニ五百石大炊ニ一千二百石糧卅石
- 美濃國 内藏ニ廿石大炊ニ一千四百石糧卅石
- 若狹國 大炊ニ二百石
- 越前國 内藏ニ五十石大炊ニ六百五十四石糧卅石
- 加賀國 大炊ニ四百五十五石糧卅石
- 丹波國 内藏ニ廿石大炊ニ五百石糧卅石
- 丹後國 大炊ニ五百石
- 但馬國 大炊ニ五百石

〔按〕日本書紀ニ云天武天皇詔シテ曰ク四方ニ大解除ヲ爲ス用物ハ則チ國別國造祓社ニ馬子輪セト大解除ハ即チ大祓ナリ六月十二月ノ晦日之ヲ行フ神祇令亦云國造馬一疋ヲ出スト故ニ國造有ルノ國ハ之ヲ買フテ須タルサルナリ

〔養院〕解前篇
 〔冠〕冠ニ用
 〔白〕白ナリ
 〔名〕名ニ加止利
 〔下〕下ニシテ
 〔二〕二ニシテ
 〔三〕三ニシテ
 〔四〕四ニシテ
 〔五〕五ニシテ
 〔六〕六ニシテ
 〔七〕七ニシテ
 〔八〕八ニシテ
 〔九〕九ニシテ
 〔十〕十ニシテ
 〔十一〕十一ニシテ
 〔十二〕十二ニシテ
 〔十三〕十三ニシテ
 〔十四〕十四ニシテ
 〔十五〕十五ニシテ
 〔十六〕十六ニシテ
 〔十七〕十七ニシテ
 〔十八〕十八ニシテ
 〔十九〕十九ニシテ
 〔二十〕二十ニシテ
 〔二十一〕二十一ニシテ
 〔二十二〕二十二ニシテ
 〔二十三〕二十三ニシテ
 〔二十四〕二十四ニシテ
 〔二十五〕二十五ニシテ
 〔二十六〕二十六ニシテ
 〔二十七〕二十七ニシテ
 〔二十八〕二十八ニシテ
 〔二十九〕二十九ニシテ
 〔三十〕三十ニシテ
 〔三十一〕三十一ニシテ
 〔三十二〕三十二ニシテ
 〔三十三〕三十三ニシテ
 〔三十四〕三十四ニシテ
 〔三十五〕三十五ニシテ
 〔三十六〕三十六ニシテ
 〔三十七〕三十七ニシテ
 〔三十八〕三十八ニシテ
 〔三十九〕三十九ニシテ
 〔四十〕四十ニシテ
 〔四十一〕四十一ニシテ
 〔四十二〕四十二ニシテ
 〔四十三〕四十三ニシテ
 〔四十四〕四十四ニシテ
 〔四十五〕四十五ニシテ
 〔四十六〕四十六ニシテ
 〔四十七〕四十七ニシテ
 〔四十八〕四十八ニシテ
 〔四十九〕四十九ニシテ
 〔五十〕五十ニシテ
 〔五十一〕五十一ニシテ
 〔五十二〕五十二ニシテ
 〔五十三〕五十三ニシテ
 〔五十四〕五十四ニシテ
 〔五十五〕五十五ニシテ
 〔五十六〕五十六ニシテ
 〔五十七〕五十七ニシテ
 〔五十八〕五十八ニシテ
 〔五十九〕五十九ニシテ
 〔六十〕六十ニシテ
 〔六十一〕六十一ニシテ
 〔六十二〕六十二ニシテ
 〔六十三〕六十三ニシテ
 〔六十四〕六十四ニシテ
 〔六十五〕六十五ニシテ
 〔六十六〕六十六ニシテ
 〔六十七〕六十七ニシテ
 〔六十八〕六十八ニシテ
 〔六十九〕六十九ニシテ
 〔七十〕七十ニシテ
 〔七十一〕七十一ニシテ
 〔七十二〕七十二ニシテ
 〔七十三〕七十三ニシテ
 〔七十四〕七十四ニシテ
 〔七十五〕七十五ニシテ
 〔七十六〕七十六ニシテ
 〔七十七〕七十七ニシテ
 〔七十八〕七十八ニシテ
 〔七十九〕七十九ニシテ
 〔八十〕八十ニシテ
 〔八十一〕八十一ニシテ
 〔八十二〕八十二ニシテ
 〔八十三〕八十三ニシテ
 〔八十四〕八十四ニシテ
 〔八十五〕八十五ニシテ
 〔八十六〕八十六ニシテ
 〔八十七〕八十七ニシテ
 〔八十八〕八十八ニシテ
 〔八十九〕八十九ニシテ
 〔九十〕九十ニシテ
 〔九十一〕九十一ニシテ
 〔九十二〕九十二ニシテ
 〔九十三〕九十三ニシテ
 〔九十四〕九十四ニシテ
 〔九十五〕九十五ニシテ
 〔九十六〕九十六ニシテ
 〔九十七〕九十七ニシテ
 〔九十八〕九十八ニシテ
 〔九十九〕九十九ニシテ
 〔一百〕百ニシテ

- 因幡國 大炊ニ四百石
 - 播磨國 内藏ニ卅石大炊ニ一千一百石糧卅四石
 - 美作國 大炊ニ一千百石糧卅石
 - 備前國 内藏ニ廿石大炊ニ一千一百七十石
 - 備中國 大炊ニ一百五十五斗九升糧卅石
 - 備後國 大炊ニ一千一百九十五石四斗三升五合
 - 安藝國 大炊ニ六百石
 - 紀伊國 大炊ニ二百石
 - 讃岐國 大炊ニ一千四百石糧卅石
 - 伊豫國 大炊ニ一千四百石糧卅石
 - 土佐國 大炊ニ四百石
- 右廿二國各正税ヲ以テ春キ運フ白米ハ大炊寮ニ送リ黒米ハ省及ヒ内藏寮ニ送ル其運送ノ儀夫ハ並ニ路ノ糧ヲ給フ民部式
- 凡ソ大和國交易シテ齋院ニ進ル所ノ四月賀茂祭料冠絹十五疋河内國白練卅疋ハ毎年二月ニ之ヲ送リ其直ハ正税ヲ用フ並ニ彼院ノ返抄ヲ以テ抄帳ニ勘會ス主計式
- 諸國出舉スル正税
- 山城國 十五万束
 - 河内國 十四万九千四百七十七束
 - 攝津國 十八万五千束
 - 伊勢國 卅万束
 - 尾張國 廿万束
 - 大和國 廿万束
 - 和泉國 八万束
 - 伊賀國 十三万五千束
 - 志摩國 毅一千二百斛
 - 參河國 廿万束

三百六十八

遠江國	廿八万束	駿河國	廿三万束
伊豆國	六万五千束	甲斐國	廿四万束
相模國	卅万束	武藏國	卅万束
安房國	十五万束	上總國	卅万束
下總國	卅万束	常陸國	五十万束
近江國	卅万束	美濃國	卅万束
飛騨國	四万束	信濃國	卅五万束
上野國	卅万束	下野國	卅万束
陸奥國	六十万三千束	出羽國	廿万束
若狹國	九万束	越前國	卅万束
加賀國	卅万束	能登國	十五万束
越中國	卅万束	越後國	卅三万束
佐渡國	三万八千束	丹波國	廿三万束
丹後國	十七万束	但馬國	卅四万束
因幡國	卅万束	伯耆國	廿五万束
出雲國	廿六万束	石見國	十五万五千束
隱岐國	二万束	播磨國	卅四万束
美作國	卅万束	備前國	卅八万一千一百五十束
備中國	卅万束	備後國	廿四万束
安藝國	廿三万束	周防國	廿一万束
長門國	十一万束	紀伊國	十七万五千束

三百六十九

紀伊國	十七万五千束	淡路國	三万五千束
阿波國	卅万束	讃岐國	卅五万束
伊豫國	卅万束	土佐國	廿万束
筑前國	廿万束	筑後國	廿万束
肥前國	廿万束	肥後國	卅万束
豊前國	廿万束	豊後國	廿万束
日向國	十五万束	大隅國	八万六千束
薩摩國	八万五千束	壹岐島	一万五千束
對馬島	三千九百廿束		

〔十五大寺〕
 東大、興福、元
 興、大安、法
 隆、新、本
 元、天、東
 寺、弘、東
 福、弘、東
 ナリ
 〔安居供養〕
 式ニ據ルニ
 安居ハ四月十
 五日ヨリ七月
 十五日マテ經

〔按〕原書欄上諸國本稱ノ字ヲ掲記ス是レ乃チ民人ニ出舉スル所ノ本稱ヲ明ク其利干ハ則チ當ニ此十分ノ三ヲ納ムヘキナリ
 凡ソ官符有ルニアラスシテ輒ク正税ノ數ヲ減スル者ハ其帳ヲ返却シテ更ニ改正セシメ然ル後之ヲ
 勘ス但除耗ノ分ハ此限ニ在ラス主税
 凡ソ諸國貯ル所ノ正税穀ハ官ニ申スニ非ルヨリハ出舉スルコトヲ得ス主税
 〔按〕出舉ハ皆預科ヲ以テス其穀ハ即チ輸ク之ヲ出舉スルヲ得サルナリ
 凡ソ十五大寺ノ安居供養ノ料米ハ寺別ニ廿一石六斗二升七合但大安寺ニハ大般若經會ノ料六石八
 斗ヲ加フ並ニ當國正税ヲ吞テ之ヲ送ル其春運ノ功モ亦正税ヲ用フ主税
 凡ソ按察使及ヒ記事ノ季祿衣服厮丁ノ衣服ハ陸奥國ノ正税ヲ以テ交易シテ之ニ充ツ遺授ノ人ハ給フ限
 凡ソ諸國司ノ賻物ハ正税ヲ以テ之ヲ給フ主税
 凡ソ陸奥國七圍ノ軍穀主帳卅五人ノ糧米ハ太宰府統領ニ准シ正税ヲ以テ之ヲ給フ主税
 凡ソ主水司年料ノ水ヲ運フ駄株ノ料稻一百卅九束八把ハ山城國ノ正税ヲ以テ之ニ充ツ主税
 〔醍醐天皇延長七年八月朔日宣〕去月廿六日流損スル山城ノ百姓等ニ正税稻一萬束ヲ以テ賑給スヘ

ナ分チ請説ス
ルナリ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

〔按〕使節
ヲ送リテ非
ズ

シ扶桑略

〔朱雀天皇慶元八年正月六日〕

在中辨小野朝臣好古傳宣ス右大臣宣ス勅ヲ奉スルニ諸國受領ノ吏解

由ヲ進ルノ輩其不與解由狀實錄帳注スル所ノ正税不動殺并ニ楠等ノ欠ハ宜ク勘解由使ニ下知シテ

毎年十二月廿日以前ニ之ヲ勘申スヘシ立テ、恒例ト爲セヨ

〔二條天皇長保四年二月十九日〕阿波國正税ヲ以テ交易シテ絹ヲ進ルノ文ヲ申ス主税寮ノ續文相違

アリ仍テ尋問セシメンカ爲メ陣殿ニ候スヘキノ由ヲ仰ス件ノ文意ハ正税交易ノ絹數多ケレトモ而

モ正税ノ減スルニ依テ絹ヲ進ルコト本數ニ足ラス仍テ須ラク無直ノ由ヲ申スヘシ然リ而シテ代々

ノ國掌誤テ用殘ヲ以テ交易スヘキノ由ヲ申ス勘文ト相違フト雖モ先例アルニ依テ之ヲ許ス

〔按〕江家次第ニ云正税ノ利ヲ以テ絹布ノ類ニ交易シテ之ヲ進納スルニ正税實無ク利納減少スルノ國ハ免除申出スル

ナリ但式ニ國々直無シト雖モ猶交易物ヲ進納スルナリト此ニ由テ之ヲ考ルニ無直ノ由ヲ申スヘシトハ正税減少シテ直ノ

以テ交易進納ニ當ツヘキ無キニ限テ其由ヲ申請スルナリト然ルニ尙ホ用殘ヲ以テ交易進納スヘキノ先例有ルニ依テ之ヲ

許スナリ是時朝綱漸ク弛ミ正税ノ重キ頗ル減少スルニ至レリ爾後復タ其事蹟ノ以テ明徴スヘキノ有ルナリ見ス

〔白河天皇承保三年十二月十日〕主税寮主計寮ニ移ス攝津國年々ノ稅帳ヲ檢スルニ治曆四延久元二

三四五并セテ六箇年正稅交易雜物願ル物疑アリ宣旨ニ依テ勘送セラレント欲スルノ狀移送スルコ

ト件ノ如シ以テ解ス

〔按〕公廩ハ官衙ナリ稻ハ即チ本稻ナリ之ヲ出舉シテ其利ヲ收メ諸國官衙及セ諸司等ノ用ニ供ス因テ多ク之ヲ公廩ト見稱

ス延喜式ニ云諸國出舉スル正稅公廩雜稻云々ト而シテ稻上揚記之ヲ諸國本稻ト稱ス江家次第ニ云本廩ハ國司貯積ノ總名

ナリ正稅公廩雜稻出舉是ナリト稻積互ニ稱スレトモ其實ハ則チ之ヲ通用ス正稅公廩同ク是レ本稻ナリ然トモ其之ヲ使用

スルハ正稅ハ以テ臨時公用ニ充テ公廩ハ以テ官衙ニ係ル常用ニ充テ是レ其異ナル所ナリ天平十七年始テ諸國其數ヲ定メ

天平寶字元年處分ノ法ヲ定ム其法タル先ツ欠負ヲ補ヒ次ニ國債ニ割キ然ル後長官以下等差ヲ爲シテ之ヲ分配ス而シテ其

處分ニ關スルモ頗ル多端トス今其梗概ヲ舉ルコト左ノ如シ

〔文武天皇慶元元年七月十七日〕公廩ノ祿ヲ式部省大學散位等ノ寮ニ給フ

〔聖武天皇天平八年三月二十日〕太政官奏ス諸國ノ公田ハ國司郷土ノ沽價ニ隨テ賃租シ其價ヲ以テ

太政官ニ送リ以テ公廩ニ供セント奏ス之ヲ可ス

〔十四年八月廿五日制〕大隅薩摩壹岐對馬多嶺等ノ國ノ官人ノ祿ハ筑前國司ヲシテ廢府ノ物ヲ以テ

給ハシメ公廩ハ又便國ノ稻ヲ以テ常ニ依テ之ヲ給ヘ其三嶋ノ擬郡司并ニ成選ノ人等ハ身當嶋ニ留

リ名ヲ筑前國ニ附シテ申上セヨ仕丁ハ國別ニ三人ヲ點シテ皆悉ク京ニ進メヨ

〔十七年十一月廿七日制〕諸國ノ公廩大國ハ四十方東上國ハ三十方東中國ハ二十方東中ニ就テ大隅

薩摩ノ兩國ハ各四方東下國ハ十方東中ニ就テ飛騨隱岐淡路ノ三國ハ各三方東志摩國壹岐嶋ハ各一

方東若シ正稅數少ク及ヒ民舉スルコトヲ肯セサル者アラハ必シモ限ニ滿テス其官物欠負未納ノ類

ハ玆ヲ以テ填セシメヨ更ニ申スコトヲ許サス

〔孝謙天皇天平寶字元年十月十一日〕太政官處分ス比年諸國司等交替ノ日各公廩ヲ食リ競テ爭論ヲ

起シ自ラ上下ノ序ヲ失ヒ既ニ清靡ノ風ヲ虧ク理ニ於テ商量スルニ此ノ如クナルヘカラス今故ニ式

ヲ立ツ凡ノ國司公廩ヲ處分スル式ハ總テ當年出スル所ノ公廩ヲ計テ先ツ官物ノ欠負未納ヲ填テ次ニ

國內ノ儲物ニ割キ後ニ見殘ヲ以テ差ヲ作シテ處分セヨ其法ハ長官ニ六分次官ニ四分判官ニ三分王

典ニ二分史生ニ一分其博士醫師ハ史生ノ例ニ准セヨ員外ノ官ハ各當色ニ准セヨ

〔十一月九日勅〕聞カ如キハ頃年諸國ノ博士醫師多クハ其才ニ非ス託請シテ選ヲ得ル唯政ヲ損スル

ノミニ非ス亦民ニ益ナシ自今已後更ニ然ルコトヲ得サレ云々任ヲ被ルノ後給スル所ノ公廩一年ノ

分ハ必ス應ニ本受業師ニ送ラシムヘシ此ノ如クナレハ師ヲ尊フノ道終ニ行ハレ發賣ノ業永ク繼ク
コトアラシク國家ノ良政茲ヨリ要ナルハ莫シ宜ク所司ニ告テ早ク施行セシムヘシ類聚日本紀
〔二年五月十六日〕太宰府言ス承前ノ公廩稻合セテ一百萬束然ルニ中間官人意ニ任セテ費用シ今但
一十餘萬束ヲ遺セリ官人數多ク給フ所甚タ少シ家ヲ離ル、コト既ニ遠ク生活尙ホ難シ是ニ於テ遺
ル所ノ公廩ヲ以テ悉ク正稅ニ合セ更ニ諸國ノ正稅ヲ割キ國別ニ遍ク置テ其本ヲ失ハス毎年出舉シ
得ル所ノ利ヲ以テ式ニ依テ班給セン其諸國ノ地子稻ハ一ニ先符ニ依リ任マニ公廩トナシ以テ府中
ノ雜事ニ充ン類聚日本紀

〔淳仁天皇天平寶字三年七月廿三日〕乾政官奏ス陸奥國鎮守府ノ官人家ヲ離テ遠ク任ス理須ラク於
恤スヘシ伏シテ請フ自今以後將軍ハ守ニ准シ將監ハ掾ニ准シ將曹ハ目ニ准シテ並ニ公廩ヲ給ハン
若シ國ヲ帶ル者ハ須ラク兼給フヘカラス臣等商量スルニ前ノ如シト勅ス奏ニ依レ類聚三

〔四年八月七日勅〕對馬多嶺二島等ノ司身邊要ニ居テ稍飢寒ニ苦ム之カ官稻ヲ舉スルモ曾テ利ヲ得
ス宜ク太宰申ス所ノ部ノ諸國ノ地子ヲ割テ各給フヘシ守ハ一萬束掾ハ七千五百束目ハ五千束史生
ハ二千五百束其大隅薩摩壹岐ハ別ニ公廩アリ地子ヲ給ハサレ類聚三

〔光仁天皇寶龜六年八月十九日〕太政官奏シテ曰ク伏シテ去シ七月廿七日ノ勅ヲ奉スルニ聞カ如キ
ハ京官ハ祿薄クシテ飢寒ノ苦ヲ免レヌ國司ハ利厚クシテ自ラ衣食ノ饒アリ茲ニ因テ庶僚咸ク外任
ヲ望ミ多士曾テ廉耻無シ朕區區ニ君臨シテ志平分ニアリ諸國ノ公廩ヲ割テ在京ノ俸祿ニ加ヘント
思欲ス卿等宜ク詳議シテ奏聞スヘシト臣聞ク三代弛張シ百王沿革ス時ニ隨テ損益スルハ事人ヲ利
スルニ在リ伏シテ惟ルニ陛下仁品物ヲ活シ化群方ニ被ル庶僚ノ飢寒ヲ感テ内外ノ豐儉ヲ均クシ彼
有餘ヲ損シテ此不足ヲ補フ凡ソ勳植ニ在テ雷潤セサルハ莫シ臣等聖旨ヲ承奉シテ喜愜情ニ百ニス
臣等商量スルニ國毎ニ公廩四分ノ一ヲ割キ取リ以テ在京ノ俸祿ニ益サント奏ス之ヲ可ス類聚日本紀

〔十年十一月十九日〕太政官奏シテ曰ク謹テ去シ寶龜六年八月十九日ノ格ヲ檢スルニ云ク京官ハ祿
薄クシテ飢寒ノ苦ヲ免レヌ國司ハ利厚クシテ自ラ衣食ノ饒アリ宜ク諸國ノ公廩ヲ割テ以テ在京ノ
俸祿ニ加フヘシト格ヲ立テシヨリ以來年月稍積レトモ濡澤ノ恩虛ク流レ優賞ノ款未タ洽カラス河
トナレハ諸國ノ正稅略欠負多ク或ハ僅ニ論定ヲ舉シ或ハ全ク公廩無シ而シテ暗ニ出舉ニ據テ四分
ノ一ヲ割カシム今一年送納ノ物ヲ計ヘ差ヲ作シテ處分スルニ人毎ニ得ル所千錢已下百錢已上ナシ
然ラハ則テ諸國交替ニ煩シク厚秩多士ニ負キ徒ニ勞擾ヲ増シテ行フニ穩ナラス臣等望請フ此新格
ヲ停テ彼舊例ヲ行ハント奏ス之ヲ可ス類聚日本紀

〔桓武天皇延暦元年十二月四日詔〕公廩ノ設ハ先ツ欠負ヲ補ヒ次ニ國儲ニ割キ然ル後差ヲ作シテ處
分ス聞カ如キハ諸國會テ遵行セス有ル所ノ公廩且以テ費用シ稅帳ヲ進ルニ至テ詐テ未納ト注ス茲
ニ因テ前人解由ニ滯リ後人受領ニ煩ハシ事ニ於テ商量スルニ甚タ道理ニ乖ケリ又其四位已上ハ冠
蓋既ニ貴ク榮祿亦重シ授ルニ兼國ヲ以シテ善政ヲ聞コトヲ行ツ今乃チ苟モ公廩ヲ貪テ徵求スル
コト以甚ク遷替ニ至テ多クハ解由ナシ此ノ如ニシテ責メサレハ豈皇憲ト曰ンヤ自今以後遷替ノ國
司百廿日ニ滿チ解由ヲ得サレハ宜ク位祿食封ヲ奪テ以テ將來ヲ懲スヘシ類聚日本紀

〔五年六月朔日〕是ヨリ先キ去シ寶龜三年諸國公廩處分ノ事ヲ制ス前人出舉シ後人收納ス彼此功有
リ料無カルヘカラス前後ノ司宜ク各平分スヘシ是ニ至テ勅ス出舉收納其勞同カラス宜ク前例ヲ革
テ一ニ天平寶字元年十月十一日ノ式ニ依リ收納ノ前ハ有ル所ノ公廩後人ニ入レ收納ノ後ハ前人ニ
入ルヘシ又勅ス百姓ヲ撫育シ部内ヲ糾察スルハ國郡ノ官司同キ職掌ナリ然ラハ則チ國郡ノ功過ハ
共ニ預リ知ル所ナリ而ルニ頃年正倉ヲ燒コト有リ獨リ郡司ヲ罪シテ國守ヲ坐セス事稍理ニ乖ク豈
法意ニ合ハンヤ自今以後宜ク國司等ノ公廩ヲ奪テ總テ燒失ノ官物ヲ填セシムヘシ其郡司ハ赦ニ會
フノ限ニアラス類聚日本紀

〔八年五月十五日〕是ヨリ先キ諸國司等使ヲ奉シテ京ニ入り返抄無クシテ任ニ歸ル者ハ釐務ニ預ラ
シメスシテ其公廩ヲ奪フ而シテ在國ノ司偏ニ此格ヲ執リ曾テ催領セス專ラ使人ヲ煩ハス是ニ於テ

【舊式】出舉ノ規則ヲ謂フ

始テ制ス此ノ如キノ類ハ入京在國ヲ問ハス共ニ目已上ノ料ヲ奪ヘ但遙ニ便使ニ附スルハ奪フ限ニ

【九年十一月三日勅】公廩ノ設ハ本欠負未納ヲ填補センカ爲ナリ國ノ大小ニ隨テ既ニ舉式ヲ立ツ而シテ今聞ク諸國司等欠物有リト雖モ猶公廩ヲ得ルト理須ラク法ニ依テ罪ヲ科シ没シテ官物ト爲ス

【按】是時公廩稍ヲ停止スル所以諸書明言スル所無シ前數條ヲ比シテ之ヲ觀ルニ諸國司處分ノ際弊習多キ由レロト知ルヘシ然レモ其制終ニ止ム可ラス後三年乃チ其舊ニ復セリ

【舊】類史數ニ作ル

【十八年六月十日勅】前ニ公廩ヲ停止シ正稅ニ混合シ兼テ舉殺ヲ減シ以テ民ノ煩ヲ省ク然ルニ諸國任中ノ未納ト稱シテ公廩ノ息利ヲ徵ス百姓弊ヲ受ケ艱苦實ニ深シ自今以後宜ク徵スルコトヲ停ム

【十九年九月二日】諸國論定ノ公廩舊ニ依テ出舉ス類案

【廿二年二月二十日太政官符】

一公廩ヲ割テ國儲ヲ置ク數ヲ定ル事

大國壹萬貳仟束公廩ノ利ヲ計リ率一萬束ニ一十割キ取リ以テ國儲ト爲ス若シ上國玖仟束

中國陸仟束 下國參仟束

【四度使】年中四度京ニ使スルヲ謂フ即チ上ニ所謂朝集ノ使ナリ

右案内ヲ檢スルニ去シ神龜元年三月廿日ノ格ニ云ク正稅稻ヲ割キ出舉シテ利ヲ取り名ケテ國儲ト爲シ以テ朝集使國ニ還ルノ間及ヒ非時役ヲ差シ并ニ籍帳ヲ繕寫スル書生并ニ調庸ヲ運スルヲ除クノ外京ニ向フ擔夫等ノ糧食ニ充ツ其出舉ノ法ハ大國ニ四萬束上國ニ三萬束中國ニ二萬束下國ニ一萬束天平十七年ニ至テ始テ公廩ヲ置キ即チ國儲ヲ停ム天平寶字元年十月十一日ノ式ニ唯公廩ノ内ヲ割キ國儲ノ物ヲ置クト稱シテ未タ割キ置クノ數充テ用フルノ色ヲ立テ茲ニ因テ諸國置ク所多少限ナシ或ハ貧吏有テ贓汚ヲ免レヌ自今以後宜ク件ニ依テ定ト爲シ以テ公用ニ充ツヘシ其糧食ノ色ヲ充テ給フハ神龜元年ノ格ニ准セン但稅帳大帳貢調等ノ使モ亦糧料ヲ充ン其長官佐職各遞ニ使ヲ奉スルハ品秩異ナリト雖モ使務是レ同シ聞カ如キハ或ル國ハ一使ノ料上下數ヲ別ニスト事實ニ穩ナラス宜ク一使ノ糧料ハ羸卑法ヲ同フスヘシ但四度使ノ料多少ノ數ハ事ノ閑繁ヲ量リ増減シテ之ヲ定シ此制ニ違ヒ輒チ私ニ犯用セハ贓ヲ計ヘ罪ヲ科スルコトニ官物ニ同フセン

一公廩ヲ處分スル例ヲ定ル事

右去シ延曆五年六月一日ノ格ニ曰ク寶龜三年八月十五日ノ格ヲ檢スルニ云ク前人出舉シ後人收納ス彼此功アリ宜ク共ニ半分スヘシト今出舉收納勞逸均カラス自今以後宜ク件ノ例ヲ革テ一ニ天平寶字元年十月一日ノ式ニ依リ收納ノ前ハ後人ニ入レ收納ノ後ハ全ク前人ニ入ルヘシト聞カ如キハ諸國行フ所頗ル穩ナラサルコトアリ何トナレハ前人任ニ在テ秋冬徵收シ新人後ニ到テ徵ニ限月ニ逢ヘハ格ニ依テ公廩全ク後人ニ入ル今勞逸ヲ量ルニ實ニ穩便ニ乖ケリ或ハ收納未タ了ラスシテ國司身亡スルコトアラハ孤遺ノ輩艱苦言ヒ難ケン自今以後宜ク此格ヲ改テ七月已後選代ノ國司ハ彼此半分シ以テ苦樂均クスヘシ六月已前ハ宜ク後人ニ入ルヘシ

以前ノ勅右ノ如シ諸國承知シ件ニ依テ之ヲ行ヘ延曆五年六月已前ハ宜ク後人ニ入ルヘシ

ニ及ハスシテ遷代スルコト有ラハ後任ニ於テ填納セシム日本後紀
〔三年九月二十日詔〕官多ケレハ政蹟ル人少ケレハ事務ル故ニ省併宜ク量リ委寄要ヲ期ス昔諸司百

寮開アリ劇アリ是ヲ以テ資俸賞賜或ハ厚ク或ハ薄シ今官既ニ改ルニ從フ賞何ソ符ニ依ラン宜ク要
劇馬料時服公廩悉ク前例ヲ革テ普ク衆司ニ給フヘシ詳ニ條例ヲ爲シテ具ニ以テ奏聞セヨ日本後紀
〔按〕天平實字中國以下及ヒ陸奥鎮守府ノ官人ニ公廩額ヲ給フノ制ヲ立ツ實中又其四分ノ一ヲ割キ京官ニ加給スルノ
法ヲ定メ既ニシテ之ヲ廢ス是條普ク衆司ニ給フトハ蓋シ復タ以テ京官ニ班給スルナリ

〔嵯峨天皇大同四年六月廿二日勅〕觀察使外任ヲ兼帶セハ暫ク食封ヲ停テ代ルニ公廩ヲ以テセヨ而
シテ陸奥國ハ官多クシテ料少シ宜ク按察使ノ公廩ハ便近ノ國ヨリ給フヘシ又太宰帥ノ公廩二萬東
ハ因幡備前備中讃岐伊豫等ノ五國ヨリ給テ遠ク運フノ費ヲ省ケ但觀察使ヲ帶ルニ非レハ一ニ前例
ニ依レ類聚

〔弘仁元年三月廿八日〕諸國ノ稅帳大帳實調等ノ使ノ上日ハ民部省ヲシテ勤ヘ給ハシメヨ若シ上日
三分ノ一ニ滿タサレハ即チ公廩ヲ奪ヒ兼テ考ニ預ラサラシメヨ其奪フ所ノ公廩ハ數ヲ録シテ之ヲ
言セ類聚

〔五月十二日〕東山道觀察使正四位下兼陸奥出羽按察使藤原朝臣緒嗣言ス國ハ民ヲ以テ本ト爲ス民
ハ食ヲ以テ命ト爲ス而シテ鎮兵三千八百人一年ノ糧料五十餘萬東此ニ因テ百姓糜弊シ倉庫空虛ナ
リ如シ畜積ナケレハ何ソ非常ヲ防カン加以ス往年征伐アル毎ニ必ス軍糧ヲ坂東ノ國ニ仰ス伏シテ
請フ坂東ノ官稻ヲ以テ陸奥ノ公廩ニ充テ陸奥ノ公廩ヲ以テ留テ官庫ニ收シ然ラハ則チ公私所ヲ得
テ實ニ便宜ニ愜ハント之ヲ許ス類聚

〔十三日〕東山道觀察使正四位下兼陸奥出羽按察使藤原朝臣緒嗣言ス陸奥國元來國司鎮官等各公廩
ヲ以テ差ヲ作シテ米四千餘斛ヲ春カシメ人ヲ雇テ運送シ以テ年糧ニ充ツ因循年久シト雖モ法ニ於
テ據ナシ但邊要ノ事ハ頗ル中國ニ異ナリ何トナレハ菟田以北近郡ノ稻ハ軍糧ヲ支ヘ信夫以南遠郡

〔坂東〕令義解
ト相模トノ駿河
ト坂東トノ界河
フ坂東トノ界河
足柄ナリ

〔菟田〕郡名ナ
リ今岩代國ニ
屬ス

〔信夫〕郡名ナ
リ今岩代國ニ
屬ス

〔遠〕藤原家
傳藤原ニ云其
國ニ杜カスシ
テ朝廷ノ奉公
ナリ

〔起請〕請ナ起
ス書ナ請フ

ノ稻ハ公廩ニ給フ其國府ヲ去ルコト二三百里ナルモ城柳ニ於テハ七八百里ナリ車力ノ力春キ運フ
可ラス若シ勸當シテ停止セハ必ス飢餓ヲ致サン請フ春運ノ功ヲ給ヒ例ト爲シテ之ヲ行ハント之ヲ
許ス類聚

〔按〕雜令ニ云凡ソ地ヲ度ルハ五尺ヲ歩ト爲シ三百歩ヲ里ト爲ス田令集解ニ云五尺ヲ以テ歩ト爲スハ是レ高麗法即チ高麗
ノ五尺ヲ以テ今ノ尺ニ准スレハ大六尺ニ相當ルト今ノ尺解所引大尺ハ今ノ曲尺ナリ曲尺ノ
一尺ニ寸ヲ以テ尺解ノ一尺トスレハ今ノ五尺ト相當ルナリ此時三百歩ヲ以テ一里トス乃チ其二百里ハ今
ノ二十七里二十八町三百里ハ四十一里二十四町七百里ハ九十七里八町八百里ハ百一十一里四町ナリ

〔二年二月十五日〕太宰府官并ニ所管ノ國司ニ公廩四分ノ一ヲ年コトニ京ニ漕スルコトヲ聽ルニ遠
授ノ官ハ半分ニセヨ日本後紀

〔四年九月廿七日勅〕邊要ノ地ハ外寇是レ防ク不虞ノ備ハ糧ヲ以テ重ト爲ス今大軍頻ニ出テ儲糧悉
ク罄キ遺寇猶在リ非常測リ難シ若シ貯蓄ナケレハ機急ヲ如何セン宜ク陸奥出羽兩國ノ公廩ハ正稅
ニ混合シ毎年相換テ信濃越後二國ヨリ給フヘシ但年穀登ラヌシテ稅ニ混スルニ物ナク并ニ公廩ヲ
得ヘカラサルノ人アラハ狀ニ隨テ移送シ實ニ依テ相換フヘシ停止ノ事ハ宜ク後勅ヲ待ツヘシ類聚

〔按〕奧羽ノ地ハ邊防ノ爲メ許多ノ貯蓄ニ要ス故ニ諸國ノ例ニ從ハス公廩ヲ正稅ニ混合シテ非常ニ備ヘ公廩ノ代ヲ信越ノ
二國ヨリ徵シ以テ國司等ノ公廩ニ供給ス後復タ兩國ノ公廩ヲ增加ス亦特例ナリ

〔十年十二月廿五日太政官符〕造式所ノ起請ニ曰ク太政官去シ延曆廿二年二月廿二日ノ符ニ云ク去
シ延曆五年六月一日ノ格ニ云ク實德三年八月十五日ノ格ヲ檢スルニ云ク前人出舉シ後人收納ス彼
此功アリ宜ク共ニ半分スヘシト今出舉收納勞逸均カラス自今以後宜ク此例ヲ革テ一ニ天平實字元
年十月一日ノ式ニ依リ收納ノ前ハ後人ニ入レ收納ノ後ハ前人ニ入レシムヘシト聞カキハ諸國行
フ所頗ル穩ナラサルコトアリ何トナレハ前人任ニ在テ秋冬徵收シ新人後ニ到テ總ニ限月ニ逢ヘハ
格ニ依テ公廩全ク後人ニ入ル今勞逸ヲ量ルニ實ニ穩便ニ乖ケリ或ハ收納未タ畢ラヌシテ國司身亡
スルコトアラハ孤遺ノ輩艱苦言ヒ難ケン自今以後宜ク此格ヲ改テ七月以後遷代ノ國司ハ彼此半分

〔水鏡〕唐高宗ノ時ノ年號ナリ

シテ以テ苦樂均フシ六月已前ハ後人ニ入レシムヘシト案内ヲ檢スルニ去シ天平十七年始テ公麻ヲ置ク茲ヨリ以降處分ノ法屢改張ヲ經或ハ出舉收納ヲ以テ期ト爲シ或ハ遷替ノ月ヲ取テ限ト爲ス竝ニ皆事人情ニ迂ニシテ理偏頗ニ涉ル茲ニ因テ昔ヨリ今ニ至ルマテ爭論紛繁シ終ヒ前人春首初テ任シテ夏季替ヲ得ルコト有ラハ後格ニ准據シテ當年ノ公麻全ク後人ニ給ス而シテ前人或ハ父母ノ喪ニ遭ヒ職ヲ去テ空ク歸ラハ徒ニ半年ノ勞ヲ失テ欠ニ填ルノ累ヲ免レヌ或ハ不幸ニシテ身亡シ妻孥子獨存シテ家ニ還ルニ由ナク他郷ニ流離シ或ハ一年頻ニ遷テ數處ニ料ヲ得或ハ近ヨリ遠ニ拜セラレテ中路ニ分ヲ失フ斯ノ如キノ類事ニ觸テ多端ナリ仍テ唐ノ永徽ノ祿令ヲ案スルニ云ク諸祿並ニ日ニ依テ給ヘ京官ハ詔書出ル日ニ據リ外官ハ籤符到ル日ニ據テ給ヘト今若シ二年ノ公麻總計シテ分ツコトヲ爲シ各歷任ノ日數ニ准シテ班チ給ハ、則チ新舊ノ吏甘心シテ賞ヲ受ケ競争ノ源茲ヨリシテ永ク絶ヘント勅ス請ニ依レ宜ク所司ニ付シテ施行スヘシ類案三

〔六國〕筑前筑後前肥後後豐前豐後ナリ

〔八年五月廿三日〕陸奥國ノ公麻稻一十三万束ヲ加舉ス邊吏ヲ優スルナリ類案一
〔仁明天皇承和元年五月十三日〕太宰府司ノ公麻ハ元來六國ヨリ班給ス天長八年ニ至テ民部省ノ請フ所ニ依テ六國ヨリ給フコトヲ停メ混シテ肥後國ヨリ給フ是ニ至テ勅シテ曰ク聞カ如キハ轉送ノ勞民其費ヲ受ク混シテ一國ヨリ給フコト穩便ニ乖ケリ宜ク舊ニ復シテ之ヲ給フヘシ續日本後紀

〔六國〕筑前筑後前肥後後豐前豐後ナリ

〔五年六月八日勅〕雜藥ヲ貢セシムルノ國ハ未進ノ多少ヲ論セス醫師ノ公麻ヲ拘留シ返抄ノ畢ルヲ待テ而シテ後充テ行ヘ以テ恒例ト爲セヨ續日本後紀
〔十五日勅〕天平寶字元年ノ勅書ニ曰ク諸學生等諸國ノ博士并ニ醫師ニ任セラル、ノ後給フ所ノ公

〔兩色公麻〕府下國下ノ公麻ヲ謂フ

麻一年ノ分ハ必ス應ニ本受業師ニ送ラシムヘシト夫レ全ク二年ノ俸ヲ取ラハ物情和シ難シ分析ノ事宜ク節級アルヘシ須ラク在國兼任ヲ論セス大國ハ二百束上國ハ百五十束中國ハ百束下國ハ五十束毎年拘留シ國ノ出ス所ニ隨テ輕物ニ交易シ博士ノ料ハ大學寮ニ送リ醫師ノ料ハ典藥寮ニ送ルヘシ大學博士侍醫等兼任ノ類ハ此限ニ在ラス類案一

〔兩色公麻〕府下國下ノ公麻ヲ謂フ

〔廿一日太政官符〕太宰府ノ解ヲ得ルニ曰ク案内ヲ檢スルニ太政官去シ弘仁十四年八月一日ノ符ニ云ク府ノ解ニ云ク管内出舉シテ府國ノ公麻各別ニ數アリ謹テ延曆十六年ノ格ヲ案スルニ云ク公麻ハ欠負ノ儲ト然ラハ則チ管内ノ諸國未納アルノ年ハ須ラク兩色ノ公麻ヲ以テ先ツ欠負等ヲ補フ、シ而シテ府ノ官人千里家ヲ離テ一方事ニ從フ京ニ非ス國ニ非ス中間孤居ス如シ公麻ヲ給ハサレハ何ソ能ク存計セン加以ス此府掌ル所ノ雜物類ニ觸テ繁積ナリ彼欠失アリ何ヲ用テ之ヲ補ハン望請フ件ノ公麻ハ未納アリト雖モ猶全ク給ハラント宣ス宜ク論定シテ公麻ヲ并セ見納ノ數ヲ計テ毎色相率シ先ツ割置カシムヘシ府ノ公麻ヲ以テ當國ノ欠失等ヲ補フコトヲ得スト而シテ今筑前肥前等ノ國ノ解ヲ得ルニ曰ク頃來總ナラスシテ見納數少ク諸定ノ外雜稻ノ本額ヲ割キ置ク仍テ府ノ公麻ヲ行フコトヲ得スト國司執ル所格旨ニ非スト雖モ雜稻本ヲ絶ツニ至ル須ク處分ヲ請フヘシ五聞ノ裁可借貸ヲ董霜シ府司翻テ俸料ヲ失フ望請フ未納アリト雖モ正稅ヲ以テ猶全ク給ハラレシ五聞ハ國司ヲシテ徵填セシメント勅ス請ニ依レ若シ當國正稅員少ケレハ管内相通シテ之ヲ行ヘ類案三

〔兩色公麻〕府下國下ノ公麻ヲ謂フ

〔同日〕太宰府言ス府吏ノ公麻ハ未納アリト雖モ猶正稅ヲ以テ全ク之ヲ給ハラレ彼代ハ國司ヲシテ徵填セシメン若シ當國ノ正稅數少ケレハ管内ニ通シ行ハント之ヲ許ス續日本後紀
〔十一年九月八日太政官符〕
合公麻本稻七十五万三千三百七十八束
國司料六十四万一千二百束
鎮守料十一万二千七十八束

〔兩色公麻〕府下國下ノ公麻ヲ謂フ

〔十一年九月八日太政官符〕
合公麻本稻七十五万三千三百七十八束
國司料六十四万一千二百束
鎮守料十一万二千七十八束

〔兩色公麻〕府下國下ノ公麻ヲ謂フ

〔十一年九月八日太政官符〕
合公麻本稻七十五万三千三百七十八束
國司料六十四万一千二百束
鎮守料十一万二千七十八束

〔兩色公麻〕府下國下ノ公麻ヲ謂フ

〔十一年九月八日太政官符〕
合公麻本稻七十五万三千三百七十八束
國司料六十四万一千二百束
鎮守料十一万二千七十八束

〔兩色公麻〕府下國下ノ公麻ヲ謂フ

〔十一年九月八日太政官符〕
合公麻本稻七十五万三千三百七十八束
國司料六十四万一千二百束
鎮守料十一万二千七十八束

〔兩色公麻〕府下國下ノ公麻ヲ謂フ

〔十一年九月八日太政官符〕
合公麻本稻七十五万三千三百七十八束
國司料六十四万一千二百束
鎮守料十一万二千七十八束

〔兩色公麻〕府下國下ノ公麻ヲ謂フ

〔十一年九月八日太政官符〕
合公麻本稻七十五万三千三百七十八束
國司料六十四万一千二百束
鎮守料十一万二千七十八束

〔兩色公麻〕府下國下ノ公麻ヲ謂フ

〔十一年九月八日太政官符〕
合公麻本稻七十五万三千三百七十八束
國司料六十四万一千二百束
鎮守料十一万二千七十八束

〔兩色公麻〕府下國下ノ公麻ヲ謂フ

〔十一年九月八日太政官符〕
合公麻本稻七十五万三千三百七十八束
國司料六十四万一千二百束
鎮守料十一万二千七十八束

〔兩色公麻〕府下國下ノ公麻ヲ謂フ

〔十一年九月八日太政官符〕
合公麻本稻七十五万三千三百七十八束
國司料六十四万一千二百束
鎮守料十一万二千七十八束

〔兩色公麻〕府下國下ノ公麻ヲ謂フ

〔十一年九月八日太政官符〕
合公麻本稻七十五万三千三百七十八束
國司料六十四万一千二百束
鎮守料十一万二千七十八束

〔兩色公麻〕府下國下ノ公麻ヲ謂フ

〔十一年九月八日太政官符〕
合公麻本稻七十五万三千三百七十八束
國司料六十四万一千二百束
鎮守料十一万二千七十八束

〔小利大利〕小
大利十分ノ三
五等雜薦ニ具
レリ

利稻廿二万五千九百八十三束四把小利

三百八十

國司料十九万二千三百六十束

大利ヲ相折シテ減スル所十二万八千二百卅束

鎮守料三万三千六百廿三束四把

大利ヲ相折シテ減スル所二万二千四百五十五束六把

應ニ減分料十五万六百五十五束六把ヲ加ヘ給フヘシ

右陸奥國ノ解ヲ得ルニ曰ク邊城ノ吏ハ事勤王ニ在リ遠ク郷國ヲ辭シテ資糧給シ難シ專ラ公俸ヲ賴

テ更ニ支用ナシ而シテ給フ所ノ公廩在昔太利ノ時率テ一分ノ人五千三百廿束當今小利ノ日率テ一

分ノ人二千八百八十束斯減折ニ依テ以テ歳ヲ終ヘ難シ況ヤ陸奥ノ事晝夜休マズ夷狄ノ情貪慾業ト

爲ス長吏遂ニ潤澤ナシ何ヲ以テ彼類ニ食餌セン此國中收ル所ノ息利調庸租地子等積貯特ニ多ク

納量スルニ處ナシ斯ニ因テ年別ニ屋倉ヲ造加ス徒ニ民ノ弊有テ還テ宰吏ヲ煩ハス望請フ彼利稻ヲ

用テ公廩ニ加ヘ賜ヒ殘ル所ハ年別ニ數ニ依テ繕納セン亦例用ノ外特ニ公用アラハ先ツ其料ヲ支テ

後公廩ニ宛ント勅ス請ニ依レ類聚三

〔清和天皇貞觀二年九月廿七日〕正三位行中納言兼陸奥出羽按察使平朝臣高棟奏ス鎮守府上言ス邊

垂ノ吏郷ヲ去テ遠遼ナレトモ公廩ノ外復々資糧ナシ而シテ未納有ルニ至テハ抑テ行ハス請フ太宰

府司ノ公廩ニ准シ未納有リト雖モ正稅ヲ以テ之ヲ給ヒ永ク恒例トセント詔シテ之ヲ許ス 三代實錄、類聚國史、

類聚三

〔五年二月十五日〕太政官處分シテ紀伊國司守從五位上並山王ノ公廩ヲ沒ス前司介從五位下山口伊

美吉西成カ放還與不ノ狀限ヲ過テ言上セサルヲ以テナリ 三代實錄、類聚國史、

〔六年十一月十四日〕若狹國言ス謹テ齊衡二年五月十九日ノ格ヲ檢スルニ曰ク當年ノ調庸來年宛テ

サレハ明年三月卅日以前主計寮具ニ未進ノ數ヲ錄シテ主稅寮ニ移シ未進ノ數ニ准シテ國司史生已

上ノ公廩ヲ沒セヨ貞觀四年三月廿日ノ格ニ曰ク業ヲ受ル博士醫師ニ非サレハ宜ク史生ニ准シ其解

由ヲ責ムヘシト然ラハ則チ史生已上既ニ其制ヲ立ツ博士醫師ハ沒スル例ニ入ラス況ヤ復々事ニ從

フコト史生ニ同フス何ソ獨其俸料ヲ保タンヤ望請フ博士醫師業ヲ受ケ道ヲ煉ルヲ除クノ外同ク公

廩ヲ沒セント之ニ從フ諸國モ亦之ニ准セヨ 三代實錄、類聚三、類聚國史、

〔七年三月二日〕七道ノ貢蘇期ニ違ハ、國司五位以上ハ位祿ヲ奪ヒ六位已下ハ公廩五分ノ一ヲ折

取ス自今以後永ク恒例ト爲セヨ 三代實錄、類聚國史、

〔五月十七日〕土野國言ス權任國司公廩料ノ稻七万束ヲ加舉セント之ニ從フ 三代實錄、類聚國史、

〔八年三月七日〕太政官符

甲斐、能登、丹後、石見、周防、長門、土佐、日向

右八箇國ノ介ハ公廩四分公廩田一町六段事力五人

飛騨

右一國ノ椽ハ公廩三分公廩田一町三段事力四人

以前能登國ノ解ヲ得ルニ曰ク太政官去年六月二日ノ符ヲ被ルニ云ク太政官去シ三月九日ノ奏ニ依

ルニ新ニ介員ヲ置ク延暦十二年二月十五日ノ格ニ云ク和泉伊豆甲斐安房能登石見周防淡路阿波土

佐等ノ國司ノ公廩守ハ五分椽ハ三分又令ヲ案スルニ云ク公廩田大國ノ守ハ二町六段上國ノ守大國

ノ介ハ二町二段中國ノ守上國ノ介ハ二町下國ノ守大上國ノ椽ハ一町六段中國ノ椽大上國ノ目ハ一

町二段中下國ノ目ハ一町軍防令ニ云ク事力ヲ給フ大國ノ守ハ八人上國ノ守大國ノ介ハ七人中國ノ

守上國ノ介ハ六人下國ノ守大上國ノ椽ハ五人中國ノ椽大上國ノ目ハ四人中下國ノ目ハ三人ト件ノ

格令ヲ案スルニ未タ中國ノ介ノ分法ヲ見スト官判ス新ニ置ク介椽ハ諸國宜ク同ク件ニ依テ之ヲ行

フヘシ 類聚三代格、三代

實錄、類聚國史、

〔按〕甲斐以下八國本文ヲ玩味スルニ皆以テ中國トナスモノハ如シ而シテ延喜式甲斐周防ヲ以テ上國トナス蓋シ貞觀延喜

ノ時ニ於テ中國トナスモノハ如シ而シテ延喜式甲斐周防ヲ以テ上國トナス蓋シ貞觀延喜

ノ時ニ於テ中國トナスモノハ如シ而シテ延喜式甲斐周防ヲ以テ上國トナス蓋シ貞觀延喜

ノ時ニ於テ中國トナスモノハ如シ而シテ延喜式甲斐周防ヲ以テ上國トナス蓋シ貞觀延喜

ノ時ニ於テ中國トナスモノハ如シ而シテ延喜式甲斐周防ヲ以テ上國トナス蓋シ貞觀延喜

ノ時ニ於テ中國トナスモノハ如シ而シテ延喜式甲斐周防ヲ以テ上國トナス蓋シ貞觀延喜

ノ時ニ於テ中國トナスモノハ如シ而シテ延喜式甲斐周防ヲ以テ上國トナス蓋シ貞觀延喜

ノ時ニ於テ中國トナスモノハ如シ而シテ延喜式甲斐周防ヲ以テ上國トナス蓋シ貞觀延喜

ノ時ニ於テ中國トナスモノハ如シ而シテ延喜式甲斐周防ヲ以テ上國トナス蓋シ貞觀延喜

ノ時ニ於テ中國トナスモノハ如シ而シテ延喜式甲斐周防ヲ以テ上國トナス蓋シ貞觀延喜

ノ時ニ於テ中國トナスモノハ如シ而シテ延喜式甲斐周防ヲ以テ上國トナス蓋シ貞觀延喜

ノ時ニ於テ中國トナスモノハ如シ而シテ延喜式甲斐周防ヲ以テ上國トナス蓋シ貞觀延喜

ノ時ニ於テ中國トナスモノハ如シ而シテ延喜式甲斐周防ヲ以テ上國トナス蓋シ貞觀延喜

ノ時ニ於テ中國トナスモノハ如シ而シテ延喜式甲斐周防ヲ以テ上國トナス蓋シ貞觀延喜

ノ時ニ於テ中國トナスモノハ如シ而シテ延喜式甲斐周防ヲ以テ上國トナス蓋シ貞觀延喜

ノ時ニ於テ中國トナスモノハ如シ而シテ延喜式甲斐周防ヲ以テ上國トナス蓋シ貞觀延喜

ノ時ニ於テ中國トナスモノハ如シ而シテ延喜式甲斐周防ヲ以テ上國トナス蓋シ貞觀延喜

〔當年來年〕福
甲午乙未ト曰
フカトトシ明
年ハ即チ丙午
ナリ
〔傳料〕實錄檢
斷ニ從フ今類
史ニ從フ今類
〔蘇〕實錄檢
作ル今類史ニ
從フ解後篇ニ
見エタリ

〔與不狀〕實錄
不與ニ從ル今
類史ニ從フ解
由チ與フルト
與ヘサルトナ
百上スルノ狀
ナリ

〔式部〕式部式ナリ

相拒ルコト數十年國ノ品位或ハ其等ヲ異ニスルカ悉ク下國ニシテ介無シ獨リ據ノ公廩等ヲ處定スルナリ

〔十年六月廿八日太政官符〕撰格所ノ起請ニ曰ク天長元年六月廿日正三位行中納言兼右近衛大將春宮大夫陸奥出羽按察使良峯朝臣安世ノ奏狀ニ云ク一良守ヲシテ數國ヲ兼帶セシメハ其公廩ハ國ノ中般阜ヲ擇テ二守ノ分ヲ以テ給ハント今祿令ヲ案スルニ一人數官ヲ帶フル者ハ祿多キトコトニ從テ給フ又式部ニ云ク一人數官ヲ帶ヒ若シ高官ノ上日足ラスシテ卑官ノ上日限ニ滿タハ祿多キニ從テ給フト此ニ據テ之ヲ見レハ一身數官ヲ帶ルモ猶一官ニ從テ給フ而シテ或ハ國宰二國ヲ兼テ同ク其俸ヲ費ス之ヲ法式ニ論スルニ甚タ公平ニ乖ケリ伏テ望ム兩處ニ食スル公廩ヲ停テ一ニ多キニ從テ給ヒ其給ハサル公廩ハ正稅ニ混合セン損アルノ年ニ至テハ必シモ多キニ拘ラス但陸奥國ノ守中國ヲ兼任スル者特ニ其身ヲ優スルハ此限ニ在ラスト勅ス請ニ依レ

〔十二年十二月廿五日制〕諸國ノ博士醫師受業師ノ料請ル所ノ公廩十分ノ一ヲ割テ本寮ニ送り納メヨ

〔按〕諸國ノ博士醫師給スル所ノ公廩受業師ニ送ルコト天平寶字元年十一月勅シテ其任ヲ殺ルノ後一年分ヲ以テセシメ承和五年六月其給スル所ヲ分析シ國ノ大上中下ニ國テ之カ率ヲ設ク是ニ至テ其十分ノ一ヲ送ラシム蓋シ公廩ハ諸官人ノ仰テ以テ費用ニ供給スル所當初風教激勵ノ爲メ抑損ノ法ヲ設クト雖モ道次酌量シテ之ヲ寬恕スルナリ

〔備前〕本史ニ據ルニ滿チ納テ給フ爲ス等處ナリ以テ實ト爲スナリ

〔十五年十二月廿三日〕正五位下行陸奥守安陪朝臣貞行三事ヲ起請ス其二曰ク國中ノ政ハ收納ヨリ重ハナシ云々望請フ虛納欠損ヲ致スコトヲ爲サハ國司ノ公廩ヲモツテ先ツ欠ク所ヲ補ヒ然ル後ニ責ヲ科セン若シ欠物巨多ニシテ公廩ノ數少ケレハ長官以下相共ニ兼納セン

〔十七年十二月朔日〕讃岐國司申請フ國司ノ例ニ准シ受業練道ノ博士醫師ノ公廩ヲ以テ未納ノ官物ヲ填ント太政官處分ス請ニ依レ

〔按〕實觀六年ノ條ニ據ルニ受業練道ノ博士醫師ノ公廩ハ没スル例ニ入ラス蓋シ特例ナリ是ニ至テ未納欠負ヲ填納セシムルコト一般國司ノ例ノ如シ

〔准〕實錄唯ニ作ル今類史ニ

〔十八年七月八日〕山城丹波國司申請フ國司ノ公廩ヲ割キ一分ニ准シ檢非違使ニ給ハシ但調庸未進

從フ

〔上〕實錄出ニ作ル今類史ニ從フ出仕スルヲ謂フ

欠負未納アルノ年ハ國司ノ例ニ准シテ勘補セシメント之ニ從フ

〔陽成天皇元慶四年八月十五日〕丹波國司言ス史生槍前宗範故無シテ上ヘス檢非違使丹波宗雄私ニ錢ヲ鑄ル人刑部永淵ノ事ニ坐セラレ隱避シテ出テス請フ此二人ノ公廩稻一千七百廿四束七把ヲ以テ國儲ノ足ラサル所ヲ補ハント太政官處分ス請ニ依レ

〔五年二月十九日〕制シテ太宰府ヲシテ公廩處分帳ヲ進メシム是ヨリ先キ民部省言ス主稅寮ノ解ニ曰ク謀テ式ヲ案スルニ府ノ公廩百萬束管內諸國各舉數アリ而シテ去シ承和五年六月二十一日ノ條ニ曰ク府ノ公廩未納アリト雖モ正稅ヲ以テ全ク給ヒ若シ當國ノ正稅減少セハ管內相通シテ之ヲ行ヘト茲ニ因テ府司彼ヲ減シテ此ヲ増シ每國行フ所其數定リナシ所司須ラク管內ノ稅帳ヲ總勘シテ通行ノ物數ヲ辨知スヘシ而シテ事差差アリ據勘ニ由ナシ何トナレハ管國ノ稅帳相共ニ下サス或ル國ハ纔ニ貞觀年中ヲ勘シ或ル國ハ天安以降未タ勘セス仍テ甲國ヲ減シテ乙國ニ加フルノ由徒ニ年序ヲ經テ勘知スルコト能ハス雜掌到ルニ隨ヒ其違式ヲ責メ追テ以テ勘出ス然リ而シテ時遷リ人替リ更ニ如何トモスルコトナシ又承和十四年十月十四日ノ格ニ曰ク貢物ノ廳惡違期未進アラハ府司ノ公廩四分ノ一ヲ奪ヘト此ノ如キノ怠リ有ルニ至テハ格ニ准シテ應ニ公廩ヲ沒スヘシ而シテ其儀ヲ進メス勘沒スルニ由ナシ勾勘ノ吏事未タ體ナラサルニ似タリ望請フ每年府司ノ公廩處分帳ヲ進メシメ以テ勘會ニ備ヘント之ニ從フ

〔每〕實錄或ニ作ル今類史ニ從フ

〔內〕實錄國ニ作ル今類史ニ從フ

〔雜〕實錄辨ニ作ル今類史ニ從フ

〔光孝天皇仁和三年二月五日〕美濃下野若狹能登越中越後丹後但馬因幡伯耆石見等ノ國司ノ位祿公廩ヲ奪フ貢蘇期ニ違フヲ以テナリ

〔三月十一日〕長門國司言ス云々齊衡二年五月十日ノ格ニ曰ク當年ノ未進來年究メサレハ主計寮未進ノ數ヲ具錄シテ明年三月以前主計寮ニ移シ即チ國司ノ公廩ヲ沒セヨト今案スルニ伊豫國宇和宮多ハ三月ヲ以テ貢調ノ期トナスモ猶六月卅日ヲ以テ未進ヲ究ルノ限トス長門國ハ四月ヲ以テ貢調ノ限トス未進ヲ究ルノ期隨テ其程アルヘシ而ルニ未タ別制アラズ但格文ニ稱スル所明年三月以前

〔雜〕實錄或ニ作ル今類史ニ從フ

〔三月十一日〕長門國司言ス云々齊衡二年五月十日ノ格ニ曰ク當年ノ未進來年究メサレハ主計寮未進ノ數ヲ具錄シテ明年三月以前主計寮ニ移シ即チ國司ノ公廩ヲ沒セヨト今案スルニ伊豫國宇和宮多ハ三月ヲ以テ貢調ノ期トナスモ猶六月卅日ヲ以テ未進ヲ究ルノ限トス長門國ハ四月ヲ以テ貢調ノ限トス未進ヲ究ルノ期隨テ其程アルヘシ而ルニ未タ別制アラズ但格文ニ稱スル所明年三月以前

ヲ以テ公廩ヲ破スルノ限トス是レ調物當年貢納スル諸國ノ爲ニ制スル所ナリ而シテ所司偏ニ未進
ヲ究ルノ期明文アル事ナシト稱シ調物當年貢納スル諸國ノ例ニ准シテ明年三月以前ヲ以テ公廩ヲ
没スルノ限トナス事格式ノ外ニ出テ、甚タ國宰ノ愁トナル望請ヲ伊豫國宇和喜多ノ兩郡並ニ越後
佐渡等ノ國ノ例ニ准シテ未進ヲ究ルノ期ヲ延テ公廩ヲ没スルノ責ヲ免レント勅シテ聽ルル_{三代實錄}

〔式〕諸國出舉スル公廩

- 山城國 十五万束
- 河内國 十四万九千四百七十七束
- 攝津國 十八万五千束
- 伊勢國 卅万束
- 參河國 卅万束
- 駿河國 卅五万束
- 甲斐國 卅四万束
- 武藏國 卅万束
- 上總國 卅万束
- 常陸國 五十万束
- 美濃國 卅万束
- 信濃國 卅五万束
- 下野國 卅万束
- 出羽國 卅四万束
- 越前國 卅万束
- 能登國 十五万束
- 大和國 廿万束
- 和泉國 八万束
- 伊賀國 十三万五千束
- 尾張國 廿万束
- 遠江國 廿八万束
- 伊豆國 六万五千束
- 相模國 卅万束鎮守府五万四千卅七束
- 安房國 十五万束
- 下總國 卅万束
- 近江國 卅万束
- 飛騨國 四万束
- 上野國 卅万束
- 陸奥國 八十万三千七百十五束
- 若狹國 九万束
- 加賀國 卅万束
- 越中國 卅万束

- 越後國 卅三万束
- 丹波國 卅五万束
- 但馬國 卅四万束
- 伯耆國 卅五万束
- 石見國 十五万五千束
- 播磨國 卅四万束
- 備前國 卅八万一千一百五十束
- 備後國 卅四万束
- 周防國 卅一万束
- 紀伊國 十七万五千束
- 阿波國 卅万束
- 伊豫國 卅万束
- 筑前國 卅万束府十五万束
- 肥前國 卅万束府十五万束
- 豐前國 卅万束府十五万束
- 已上六國ノ出舉スル府ノ公廩總テ一百万束若シ舉スルニ堪ヘサレハ隨テ即チ之ヲ減ス
- 日向國 十五万束
- 薩摩國 八万五千束
- 佐渡國 八万束
- 丹後國 十七万束
- 因幡國 卅万束
- 出雲國 卅万束
- 隱岐國 四万束
- 美作國 卅万束
- 備中國 卅万束
- 安藝國 廿二万八千八百束
- 長門國 十一万束
- 淡路國 四万五千束
- 讃岐國 卅五万束
- 土佐國 卅万束
- 筑後國 卅万束府十万束
- 肥後國 卅万束府三十五万束
- 豐後國 卅万束府十五万束
- 大隅國 八万五千束
- 壹岐嶋 五万束_{去稅}

〔按〕是レ諸國公廩額ノ出舉ニ充ツヘキモノニシテ全額千七百七拾九束トス之ヲ出舉シ利稻ヲ收メ以テ諸司
公廩ノ用ニ充ツルナリ

〔衛士〕軍防令
ニ云兵士ノ京

凡ソ衛士仕丁日功養物ノ未進ハ主計寮本司本家ノ移文ヲ待テ調庸未進ト與ニ之ヲ寮ニ移シ即チ未

ニ向フ者ナシ
士下名ク
〔住下〕和訓兼
ニ云使令ノ夫
役ナリ

進ノ數ニ准シ國司史生已上ノ公廩ヲ没シ正税ニ混合ス主税

凡ソ國司公廩ヲ處分スル差法ハ大上國ハ長官ニ六分次官ニ四分判官ニ三分主典ニ二分史生ニ一分
中國介無ケレハ長官ニ五分下國據無ケレハ長官ニ四分員外ノ司ハ各當員ニ准ス其國ノ博士醫師ハ
史生ニ准ス但陸奥國ノ博士醫師陰陽師ハ並ニ目ニ准ス鎮守府將軍ハ守ニ准シ軍監ハ據ニ准シ軍曹
ハ目ニ准シ醫師醫師ハ史生ニ准ス若シ國ヲ帶スル者ハ兩ナカラ給フヘカラス其按察使ハ當國ノ守
ニ准シ記事ハ據ニ准ス主税

凡ソ諸國一分已上遙授兼任ノ輩他國并ニ京官ニ遷任セハ公廩ヲ受用スルコトヲ得ス若シ停任ノ官
符未タ到ラサルノ前處分已ニ畢テ改帳ニ妨ケアラハ便チ國儲ニ加フ主税

凡ソ志摩國ノ公廩料ハ尾張國緣海ノ郡正税ノ殺ヲ用テ給フ守ニ三百石目ニ百五十石史生ニ七十五
石主税

凡ソ鎮守府ノ公廩ハ當國并ニ相摸國ヨリ給フ主税

凡ソ太宰府公廩ヲ處分スルハ帥ニ十分大貳ニ六分半少貳ニ五分監ニ三分典ニ二分主神主工博士明
法博士音博士ニ一分大半主城陰陽師醫師卒師主船主廚ニ一分半大唐通事ニ一分少半史生醫師新羅
譯語儀仗ニ一分主税

〔防人〕軍防令
ニ云兵士ノ邊
ヲ守ル者ヲ防
人ト名ク

凡ソ筑前筑後肥前肥後豐前豐後等ノ國ハ毎年穀二千石ヲ對馬嶋ニ漕送シ以テ嶋司及ヒ防人等ノ糧
ニ充ツ主税

〔按〕本條公廩ノ文ナシ式文ヲ玩味スルニ公廩ノ料タルコト明カナリ

凡ソ諸司ノ公廩ハ三箇年ヲ限テ出舉ス其本ハ數ニ依テ返納シ仍テ利ヲ以テ本トス出息ハ毎年十二
月本數ヲ錄定シテ官ニ申送ス交替ノ官長分明ニ付領シ然ル後放還ス其處分法ハ長官ニ五分次官ニ
四分判官ニ三分主典ニ二分史生ニ一分若シ次官或ハ判官無ケレハ止タ見官ニ准シテ差ヲナス主税

〔按〕諸司ハ所謂諸國司ナリ公廩處分ノ法天平寶字元年十月十一日大政官處分及ヒ主税式此條等配賦ノ具數小差有リト雖

〔付領〕權受授
ト官ヲカコト

モ大要ハ則チ同シ

〔冷泉天皇康保四年十二月朔日太政官符〕前和泉守從五位上菅原朝臣雅規去シ八月三日ノ解ヲ得ル
ニ曰ク云々貞觀新定交替式ヲ按スルニ天長九年十二月十七日ノ官符ニ公廩本額ヲ率トシ舊年ノ未
納欠物ヲ填ス可シト此國ノ公廩本額八万束ナリ減省スル定舉二万六千束然リト雖モ彼本數八万束
ヲ率トシ毎年所當二千四百束前司任終一年當任四年并セテ五箇年ノ料万二千束適マ忠勤ヲ致シ填
納已ニ了ル望請ヲ殊ニ天裁ヲ蒙リ官旨ヲ下サレ且填スル所ヲ以テ公文ヲ勘會シ且其遺ヲ以テ暫ク
勘出ヲ置キ將ニ公文ヲ勘濟セントス然ラハ則チ官物漸ク填納ノ期有リ公文自ラ勘濟ノ煩ヒ無カラ
ント勅ス請ニ依レ類聚符宣抄ノ事未

〔按〕出舉ノ利ハ本額十分ノ三トス所謂公廩本額ヲ率トシ舊年ノ未納欠物填ストハ本額十分ノ三ノ利額ヲ以テ填納ノ率ト
ナスナリ康保以後公廩ノ制明敷スル所ナシ姑ク之ヲ闡知ス

雜 稻

〔按〕正税公廩稻ニ次キ諸國官稻ノ内ヨリ割置キ以テ雜事ニ充用フル是ヲ雜稻ト曰フ蓋シ正税公廩ハ其使用ニ係ルモノ類
ル廣シト雖モ公用及ヒ官衙ノ用ニ供スル各區域有リ雜稻ハ右二ノモノ使用ノ外社寺池溝窪田等ノ事ニ充ツ而シテ其出舉
以テ利ヲ收ルハ則チ一ナリ看ル者宜ク雜稻出舉ノ條ト參觀スヘシ

〔文武天皇大寶二年二月十九日〕諸國ノ大租驛起稻及ヒ義倉并ニ兵器ノ數文始テ辨官ニ送ル本紀
〔元正天皇養老三年六月十六日制〕殺ノ物タル年ヲ經テ腐チス自今以後稅及ヒ雜稻ハ必ス殺ト爲シ
テ之ヲ收メヨ本紀

〔聖武天皇神龜元年三月廿五日〕七道ノ諸國ヲシテ國ノ大小ニ依テ稅稻四万束已上二十万束已下ヲ
割キ取リ每年出舉シテ其息利ヲ取リ以テ朝集使ノ在京及ヒ非時使ヲ差シ調庸ヲ運フヲ除クノ外京
ニ向フ擔夫等ノ根料ニ充テシム本紀

〔天平元年四月三日〕山陽道諸國ノ驛家ヲ造ルカ爲ニ驛起稻五万束ヲ充ツ本紀
〔六年正月十八日〕諸國ニ勅命シテ雜色官稻ハ驛起稻ヲ除ク以外悉ク正税ニ混合セシム本紀

〔十一年六月十七日〕諸國ノ驛起稻ヲシテ成悉ク正税ニ混合セシム續日本紀
〔十六年七月廿三日詔〕四畿内七道ノ諸國國別ニ正税四万束ヲ割キ取リ以テ國分僧尼兩寺ニ入ル、
コト各二萬束毎年出舉シテ其息利ヲ以テ永ク寺ヲ造ルノ用ヲ支ヘヨ但志摩國ノ分ハ尾張國ヨリ充
テ壹岐嶋ノ分ハ肥前國ヨリ充テヨ多嶺對馬ハ此限ニ在ラス類聚三格

〔按〕六年諸稻止メ十一年驛起稻止メ而シテ其科ハ正税中ヨリ之ヲ支給ス然トモ終ニ之ヲ止ルコト能ハス是ニ至テ復
々逆寺ノ科ヲ設ク志摩壹岐ハ壤地細小以テ其正税ヲ割クニ足ラス因テ他國ヨリ之ヲ充テシムルナリ是ヨリ以後事ニシテ
而シテ置キ時ヲ視テ而シテ移ス彼ニ始リ此ニ起リ途ニ以テ主税式ニ掲ル所諸國各其定數有ルニ至ルナリ

是月辛酉無シ
一本辛卯ニ作
ル辛卯ハ十九
日ナリ

〔稱徳天皇神護景雲二年三月朔日〕北陸道使右中辨正五位下豐野真人出雲言ス佐渡國國分寺ヲ造ル
料稻一万束毎年支テ越後ニ在リ常ニ農月ニ當テ夫ヲ差シテ運漕スルニ海路ノ風波動スレハ數月ヲ
經濟損アルニ至テハ復々運脚ニ徵ス乞フ當國ノ田租ヲ割テ以テ用度ニ充ン續日本紀
〔桓武天皇延暦八年四月辛酉〕美濃尾張參川等ノ國去年五穀稔ラス饑饉スル者衆シ賑恤ヲ加フト雖
モ自存スルニ堪ヘス是ニ於テ使ヲ遣シテ倉庫ヲ開キ賤時ノ價ニ准シテ百姓ニ糶與ス其價物ハ國庫
ニ收貯シ秋收ニ至テ留テ額稻ト成シ名ケテ救急ト曰ヒ其國郡司及ヒ般當ノ民ヲシテ交易スルヲ得
サラシメヨ如シ違犯スルモノ有ラハ違勅ノ罪ヲ科セン續日本紀

〔按〕蓋シ救急稻此ニ始ル此文上命ニ出ツ而シテ前ニ詔勅ヲ記セス恐クハ史ノ闕文ナラン

〔三編〕解前篇
ニ見エタリ

〔平城天皇大同三年七月四日勅〕國內ノ庶務事ニ觸テ繁多ナリ宜ク其燈分料稻ハ國司ニ預ルコト
停メ便チ講師三綱ヲシテ伴ニ依テ出舉セシメ省察例ニ依テ之ヲ勸シ僧約モ亦檢校ヲ加フヘシ立
、恒例ト爲シ漏失スルコトヲ得サレ類聚三格

〔嵯峨天皇弘仁二年九月八日〕諸國ヲシテ舊ニ依テ國分寺ヲ修理スルノ料ヲ出舉セシム續日本紀
〔七年十月廿三日勅〕聞カ如キハ靈安寺構作年久シ徒ニ伽藍ノ名有テ未タ說法ノ事ヲ修メス宜ク正
税四千束ヲ割テ毎年出舉シ其息利ヲ用テ春秋ノ悔過并ニ修理料ニ充ツヘシ類聚三格

〔加藤〕精舎ヲ
謂フ
〔梅〕通ノ權ニ
同シ權書ニ據
ルニ先驅ヲ陳
露シ往チ改メ
水ヲ修メスル
謂ナリ

〔仁〕明天皇承和二年四月五日勅シテ天下諸國ヲシテ文殊會ヲ修メシム其會料ハ毎年救急稻ノ利三
分ノ一ヲ割キ取テ用ニ充テヨ續日本紀

〔淳和天皇天長十年七月六日太政官符〕案内ヲ檢スルニ太政官去シ六月三日五畿内七道ノ諸國ニ下
ス符ニ曰ク飢民ヲ賑給スルノ料稻大國ハ十万束上國ハ八万束中國ハ六万束下國ハ四万束ト宣ス因
ノ大小ニ隨テ彼料ヲ下知スト雖モ而モ賑給ノ法恒例ナキニ非ス宜ク大男ハ三束中男大女ハ二束小
男小女ハ一束ヲ給フヘシ若シ口少ク稻剩ラハ實錄シテ言上セヨ人多ク稻少キハ只符内ニ盡クセ
類聚三格

〔七年三月十四日勅〕去シ承和二年文殊會料施ス所ノ稻急ヲ周フニ足ラス宜ク正税ヲ加舉シ其息利
ヲ以テ之ヲ先數ニ加フヘシ大上國ハ各二千束中小國ハ各千束永ク會料ニ宛テヨ續日本紀

〔十四年七月四日〕日向國俘囚祿料ノ稻十萬七千六百束ヲ減省ス俘囚死シ盡キ存スル者員少キヲ以
テナリ續日本紀

〔政〕實錄改ニ
作ル今類史ニ
從フ
〔舊〕實錄者ニ
作ル今類史ニ
從フ
〔丁〕實錄給ニ
作ル今類史ニ
從フ

〔清和天皇貞觀四年三月廿六日詔〕燈分料ノ稻ハ先代ノ宿禰事功德ニ緣ル民ヲ願ルト云フト雖モ何
ソ停廢スルヲ得ンヤ凡ソ出舉ノ政ヲ嫌フ所以ノ者ハ將ニ以テ吏民ノ苦ヲ除ントス假使ヒ昔ノ十分
今其一ヲ行フ之ヲ物情ニ論スルニ豈煩擾ト爲ンヤ但小吏目據ラシテ奸濫ニ容レサラシメンノミ
三代實錄
類聚國史

〔老〕善案式部
省ニ屬セリ職
員令ニ云佛寺

〔六年正月廿八日〕左京大夫兼山城大和守正四位下紀朝臣今守上言ス貞觀四年三月廿六日ノ格ニ云
ク諸寺ノ燈分料ヲ除クノ外悉ク出舉ヲ停ム但田租ヲ增收シテ以テ例用并ニ年中ノ雜用ニ充ント今
彼年ノ稅帳ヲ檢スルニ收ムヘキ租稻其數乏少ニシテ曾テ備丁ノ功食ニ足ラス多ク往年ノ正税ヲ費
用ス今守等格旨ヲ守テ民間ニ施行ス而シテ古先ノ舊規ニ慣テ當今ノ新制ヲ嫌フ早ク帳ヲ改メサレ
ハ恐クハ公損ヲ致サン請フ舊法ニ復シテ以テ民望ニ叶ヘント勅シテ之ヲ許ス三代實錄
〔十六年九月二十日制〕諸國填スル所舊年ノ未納率分ノ敷立審察ヲシテ主稅寮ニ移サシメヨ是ヨリ
類聚國史

備尼ノ名精供
諸客ノ辭見
諸送迎ヲ掌
ル

先キ紀伊國司申ス案内ヲ檢スルニ去年納ル所正税ノ率分二千六百三十五束六把或ハ雜稻ノ率分正
税ノ半ヲ納ム仍テ納ル所千三百七束八把即チ件ノ稻ヲ以テ國分ニ寺救急池溝公麻地子等五箇帳
各二百六十三束五把六分填納已ニ了ル而シテ主税寮彼玄蕃寮ノ帳ヲ勘知セス偏ニ雜稻ノ率分格ニ
違テ未タ填セスト稱スルニ依テ署帳國司ノ公麻ヲ勘沒ス今事意ヲ案スルニ勘出ノ旨甚ク苛酷ニ涉
レリ何トナレハ國司填スル所格意ヲ失ハス所可勘出シテ還テ一件ヲ存ス望請フ玄蕃寮ヲシテ不
ノ狀毎年直ニ主税寮ニ移送セシメ然ラハ即チ勾勘ノ寮明ニ填スル所ヲ知リ辨納ノ目自ラ勘出ヲ
免レント之ニ從フ三代實錄

〔十八年二月十日〕右京職言ス出舉セル官舎道橋ヲ修理スルノ料貞觀錢六十貫文ヲ返上ス職司乘物
ヲ以テ米二百斛ヲ買收シ其息利ヲ納テ彼料ニ充ント太政官處分ス請ニ依レ三代實錄

〔陽成天皇元慶三年五月廿三日〕太政官處分ス加賀國ヲシテ救急料ノ稻一萬束ヲ割キ出舉シテ官舎
ヲ修理スルノ料ニ充テ用ヒシメ限ルニ二年ヲ以テス國司ノ請ニ從フナリ三代實錄

〔五年二月廿一日〕伊勢國ノ正税一萬束ヲ割テ大神宮司ニ付シ毎年出舉シ其息利ヲ以テ齋宮ノ雜舍
ヲ修理セシム三代實錄

〔八月十五日〕每年春ノ仲月仁王般若經ヲ講演ス其料國儲救急等ノ色ヲ用テ望請フ改テ國分寺料稻
ノ内一千五百一十五束四把七分二毫ヲ用テ其料ニ宛ント勅シテ之ヲ許ス三代實錄

〔七年十月十七日〕勅シテ備前國ヲシテ國司ノ公麻稻二萬束ヲ割テ別ニ出舉シ其息利ヲ以テ御賊兵
士二百二十四人ノ糧ニ充ルコトヲ得セシム是ヨリ先キ國宰言ス境內海畔ノ別島是レ多ク奸賊ノ聚
ル所タリ公私ノ制シ易キニ非ス常ニ人民ヲ殺略シ財物ヲ掠奪ス往還ノ輩侵害セラル、者衆シ是ニ
由テ浪人ノ勇幹アル者二百二十四人ヲ擇テ宿舍ヲ要害ノ處ニ造リ兵器舟楫ヲ給テ非常ヲ守禦セシ
メン望請フ件ノ出舉ニ依テ以テ其糧食ニ充ント是ニ至テ之ヲ聽ル三代實錄

〔八年四月廿一日〕伊豆國司言ス國分法華寺承和三年火ヲ失シテ燒亡ス其後定額寺ヲ以テ法華寺ト
爲ス請フ將ニ新ニ建ントス其料ハ國分ヲ修理シ并ニ三寶ニ通スル布施料ヲ用テ可キヤト之ヲ聽ル
ス三代實錄

〔八月廿八日〕山城國ノ正税稻一千三百八十七束九把ヲ以テ左京北邊ノ溝ヲ造ル等ノ料ニ充ツ三代實錄

〔光孝天皇仁和元年十二月四日〕是ヨリ先キ大外記大藏朝臣善行解テ申シ請テ曰ク大和國靈藏
アル山寺ニ長谷堂坂兩精舎アリ並ニ燈分ノ稻アリ國司ニ付シテ出舉ス但島山寺ニ至テハ凡ソ其靈
驗彼兩寺ノ亞ナリ而シテ未タ燈分アラズ曉夜ヲ照ス者ハ星月ノミ望請フ稻四百束ヲ以テ之ヲ國宰
ニ付シ正税ヲ加舉シテ利稻ヲ寺家ニ送リ長明燈ノ資ト爲サント是ニ至テ詔シテ之ヲ許ス三代實錄

〔二年六月二十日〕勅シテ清和院ノ稻一千束ノ直新錢二十貫文ヲ以テ山城國ニ付シテ正税ヲ加舉シ
其息利ヲ收テ圓覺寺ノ長明燈料ニ宛ツ是ヨリ先キ清和院ノ申牒ニ曰ク圓覺寺ハ是レ先太上天皇ノ
落飾ニ始テ登遐ニ終ルノ地ナリ南北ノ二堂佛像ヲ莊嚴ニシ十口増テ定テ齋飯ヲ供給ス皆是レ先皇
ノ御願ナリ去シ元慶五年三月十三日ノ詔ニ官寺ニ列シ訖ル而シテ明燈未タ供セス暗夜照シ難シ望
請フ安祥寺ノ例ニ准シテ稻一千束ヲ以テ國司ニ付シ毎年出舉シテ其息利ヲ近寺愛宕郡ニ請ヒ常燈
分ニ充ント是ニ至テ之ヲ許ス三代實錄

〔宇多天皇寬平七年七月十一日〕太政官符「官物ノ重キ正税ヲ本ト爲ス雜稻ニ至テハ恰モ枝葉ノ如シ
云々勅ス自今以後所在ノ見物ハ先ツ正税ノ定數ヲ割キ置テ其遺ヲ以テ色々ノ雜稻ヲ辨置セヨ三代實錄

〔式〕諸國出舉スル雜稻

山城國國分寺料一万五千束嘉祥寺料一千七百卅六束四把海印寺料三千束元慶寺料一千束圓覺寺料

一千束東光寺料一千束文殊會料二千束修理障家料一千束油溝料三萬束救急料六萬束交易葛直八千

三百卅三束三分

大和國國分寺料一万束豐山寺料二千四百束靈坂寺料三千束松尾寺料二千八百束靈安寺料四千束八

三百九十一

爲ス請フ將ニ新ニ建ントス其料ハ國分ヲ修理シ并ニ三寶ニ通スル布施料ヲ用テ可キヤト之ヲ聽ル
ス三代實錄

〔八月廿八日〕山城國ノ正税稻一千三百八十七束九把ヲ以テ左京北邊ノ溝ヲ造ル等ノ料ニ充ツ三代實錄

〔光孝天皇仁和元年十二月四日〕是ヨリ先キ大外記大藏朝臣善行解テ申シ請テ曰ク大和國靈藏
アル山寺ニ長谷堂坂兩精舎アリ並ニ燈分ノ稻アリ國司ニ付シテ出舉ス但島山寺ニ至テハ凡ソ其靈
驗彼兩寺ノ亞ナリ而シテ未タ燈分アラズ曉夜ヲ照ス者ハ星月ノミ望請フ稻四百束ヲ以テ之ヲ國宰
ニ付シ正税ヲ加舉シテ利稻ヲ寺家ニ送リ長明燈ノ資ト爲サント是ニ至テ詔シテ之ヲ許ス三代實錄

〔二年六月二十日〕勅シテ清和院ノ稻一千束ノ直新錢二十貫文ヲ以テ山城國ニ付シテ正税ヲ加舉シ
其息利ヲ收テ圓覺寺ノ長明燈料ニ宛ツ是ヨリ先キ清和院ノ申牒ニ曰ク圓覺寺ハ是レ先太上天皇ノ
落飾ニ始テ登遐ニ終ルノ地ナリ南北ノ二堂佛像ヲ莊嚴ニシ十口増テ定テ齋飯ヲ供給ス皆是レ先皇
ノ御願ナリ去シ元慶五年三月十三日ノ詔ニ官寺ニ列シ訖ル而シテ明燈未タ供セス暗夜照シ難シ望
請フ安祥寺ノ例ニ准シテ稻一千束ヲ以テ國司ニ付シ毎年出舉シテ其息利ヲ近寺愛宕郡ニ請ヒ常燈
分ニ充ント是ニ至テ之ヲ許ス三代實錄

〔宇多天皇寬平七年七月十一日〕太政官符「官物ノ重キ正税ヲ本ト爲ス雜稻ニ至テハ恰モ枝葉ノ如シ
云々勅ス自今以後所在ノ見物ハ先ツ正税ノ定數ヲ割キ置テ其遺ヲ以テ色々ノ雜稻ヲ辨置セヨ三代實錄

〔式〕諸國出舉スル雜稻

山城國國分寺料一万五千束嘉祥寺料一千七百卅六束四把海印寺料三千束元慶寺料一千束圓覺寺料
一千束東光寺料一千束文殊會料二千束修理障家料一千束油溝料三萬束救急料六萬束交易葛直八千
三百卅三束三分
大和國國分寺料一万束豐山寺料二千四百束靈坂寺料三千束松尾寺料二千八百束靈安寺料四千束八
三百九十一

島寺料一万束子島寺料四百束文殊會料二千束修理官舎料二万束池溝料四万束救急料六万束
 河内國分寺料一万束文殊會料二千束修理池溝料二万束堤防料一万束救急料六万束
 和泉國分寺料五千束文殊會料一千束卷尾寺觀音堂料五百束勅旨莊御稅一千束修理官舎料一万束
 池溝料二万束救急料三万束
 攝津國分寺料一万五千束大日寺料五千束修理池溝料三万束救急料六万束
 伊賀國分寺料五千束文殊會料一千束修理池溝料一万束堰河防料一千束救急料三万束
 伊勢國分寺料四万束修理志摩國分寺料三千束文殊會料二千束修理池溝料四万束救急料四万束
 俘囚料一千束
 志摩國救急料穀五百斛
 尾張國分寺料二万束文殊會料二千束修理池溝料三万束救急料二万束
 參河國分寺料二万束修理志摩國分寺料三千束文殊會料二千束修理池溝料三万束救急料二万二
 千束
 遠江國分寺料三万束大安寺料四万九千束文殊會料二千束修理池溝料三万束救急料六万束夷俣料
 二万六千八百束白羽官牧馬直四千四百六十束藥分料一万束
 駿河國分寺料二万束大安寺料四万一千束藥師寺料八千束文殊會料二千束修理池溝料三万束救急
 料六万束俘囚料二百束官牧牛直一千三百卅四束
 伊豆國三嶋神料二千束國分寺料一万束大安寺料三千束禪院料一千束國分二寺供養料一万束三神寺
 料二千束文殊會料一千束修理池溝一万束救急料一万束
 甲斐國分寺料二万束大安寺料一万二千束文殊會料二千束堤防料二万束救急料八百束俘囚料五万
 束
 相模國分寺四万束大安寺料二万六千九百束文殊會料二千束藥分料一万束修理池溝料三万束救急

〔悲田料〕孤獨
 病者等ヲ養フ
 料ナリ

料七万一千束俘囚料二万八千六百束官牧馬牛直五千五百八十三束
 武藏國分寺料五万束藥師寺料四万二千束梵釋四王料七千七百束文殊會料二千束藥分料一万束修
 理池溝料四万束救急料十二万束悲田料四千五百束俘囚料三万束勅旨繫御馬秣料二千廿束神埼收
 牛直五千五百卅四束
 安房國藥師寺料二万束文殊會料一千束安居僧供料一千束修理池溝料二万束
 上總國分寺料四万束藥師寺料三万四千束文殊會料二千束藥分料一万束修理池溝料四万束救急料
 十二万束俘囚料二万五千束
 下總國分寺料五万束藥師寺料三万五千束文殊會料二千束藥分料一万束修理池溝料四万束救急料
 七万束俘囚料二万束
 常陸國分寺料六万束大安寺藥師寺料各五万束文殊會料二千束藥分料一万束交易料册二万束大
 寮料五万四千束修理池溝料四万束救急料六万束俘囚料十萬束
 近江國大學寮料一万束國分寺料六万束崇福寺修理料五千束同寺傳法會料一万束梵釋寺料六百七十
 六束國興寺修理料一千束淨福寺料七千束延曆寺定心院料三万束西塔院料一万五千束文殊會料二千
 束造院料二万束修理國府料四万束勢多橋料一万束池溝料四万束救急料五万一千七百束俘囚料十
 五千束
 美濃國分寺料四万束藥師寺料二万七千束延曆寺總持院料四万束同寺四王堂料四万束文殊會料二
 千束藥分料一万束修理官舎料二万束池溝料四万束救急料二万束俘囚料四万一千束
 飛騨國分寺料五千束文殊會料一千束救急料二万束
 信濃國分寺料四万束興福寺料四万束文殊會料二千束修理池溝料三万束救急料八万束俘囚料三千
 束
 上野國分寺料五万束興福寺料三万束文殊會料二千束藥分料一万束學生料一万束修理池溝料四万

東救急料十二万束俘囚料一万束勅旨御馬秣料四千七百廿束同紫伺御馬秣料五千九百束占市牧牛直四千三百十五束

下野國分寺料四万束興福寺料二万二千束文殊會料二千束修理池溝料三万束救急料八万束俘囚料十万束

陸奥國祭鹽竈神料一万束國分寺料四万束學生四千束文殊會料二千束救急料十二万束

出羽國月山大物忌神祭料二千束文殊會料二千束神宮寺料一千束五大尊常燈節供料五千三百束四天王修法僧供養并法服料二千六百八十束健兒糧料五万八千四百十二束修理官舍料十万束池溝料三万束救急料八万束國學生食料二千束

若狹國國分寺料一万束京法華寺料一万束文殊會料一千束修理池溝料一万束救急料三万束

越前國國分寺料三万束京法華寺料二万束文殊會料三千束藥分料六千束修理池溝料四万束救急料十二万束俘囚料一万束

加賀國京法華寺料一万五千束國分寺料二万束文殊會料二千束藥分料四千束修理池溝料一万束救急料三万束俘囚料五千束

能登國國分寺料五千束京法華寺料一万束文殊會料一千束修理池溝料一万束救急料六万束

越中國大學寮料一万束國分寺料三万束京法華寺料二万五千束文殊會料二千束修理池溝料三万束救急料十三万束俘囚料一万三千四百卅三束

越後國國分寺料二万束京法華寺料一万八千四百五十五束西隆寺料一万束神宮寺觀音院料四千束文殊會料二千束修理池溝料三万束救急料八万束俘囚料九千束

佐渡國國分寺料一万束同寺新造藥師佛燈分料五百束文殊會料一千束修理池溝料一万束救急料三万束俘囚料二千束

丹波國國分寺料四万束文殊會料二千束圓成寺料一千束鷄園寺料一千束修理池溝料三万束救急料四万束

万束修理驛家料二万束官舍料四万束造院料一万束

丹後國國分寺料二万束文殊會料一千束大學寮料八百束修理池溝料一万束救急料六万束

但馬國國分寺料二万束文殊會料二千束修理池溝料二万束救急料一万八千束

因幡國國分寺料三万束文殊會料二千束修理池溝料三万束救急料四万二千八百七十八束俘囚料六千束

伯耆國國分寺料三万束藥分料一万束文殊會料二千束修理池溝料二万束救急料八万束俘囚料一万三千束

出雲國國分寺料四万束文殊會料二千束藥分料一万束修理池溝料三万束救急料四万束俘囚料一万三千束

石見國國分寺料二万束文殊會料一千束修理池溝料二万束救急料四万束

隱岐國國分寺料五千束文殊會料一千束修理池溝料三千束救急料一千束

播磨國國分寺料四万束文殊會料二千束平等寺料一千束施藥院料一万束藥分料一万五千束學生料一万五千束修理驛家料四万束池溝料四万束道橋料一万束救急料一十二万束俘囚料七万五千束

美作國國分寺料四万束文殊會料二千束修理池溝料三万束道橋料一千束救急料八万束俘囚料一万束施藥院料一千束

備前國國分寺料四万束淨福寺料七千束文殊會料二千束造院料一万束大學寮料一万一千束修理池溝料三万束救急料八万束俘囚料四千三百卅束修理驛家料一万束

備中國國分寺料三万束蓮嚴寺料一千束文殊會料二千束修造堰溝料一万七千束驛家料一万束救急料八万束俘囚料三千束

備後國國分寺料二万束文殊會料二千束鑄錢司俸料二万八千束修理池溝料一万五千束救急料八万束

安藝國國分寺料三万束文殊會料二千束修理池溝料一万束救急料十万束驛子糧料三万一千二百束

周防國分寺料二万束文殊會料二千束鑄錢司俸料二万八千束修理池溝料一万束救急料八万束
 長門國分寺料一万束文殊會料一千束修理官舍料二万束池溝料一万束救急料六万束兵糧料四万束
 紀伊國分寺料二万束金剛峯寺料五千六百十六束同寺燈分並ニ佛聖料二千八百束祐河寺料四百束
 文殊會料二千束修理池溝料三万束救急料六万束
 淡路國分寺料五千束大和大國魂神祭料八百束文殊會料一千束修理池溝料一万束救急料三万束
 阿波國分寺料一万四千束文殊會料二千束修理池溝料三万束道橋料五百束救急料六万束
 讃岐國分寺料四万束彌勒歸敬寺燈分料五百束五大菩薩供養料二千束文殊會料二千束藥分料一万束
 東造院料一万束修理池溝料三万束救急料八万束俸因料一万束
 伊豫國大學寮料一万束國分寺料四万束文殊會料二千束鑄錢司俸料二万八千束修理池溝料三万束救
 急料八万束俸因料二万束
 土佐國分寺料一万束文殊會料一千束修理安祥寺寶塔料五千束修理池溝料二万束救急料六万束俸
 因料三万二千六百八十八束
 筑前國分寺料三万二千二百九十三束修理觀世音寺料一万束文殊會料二千束衛卒料二万二千四百
 束日數ニ隨テ増減スルヲ以テテ修理府官舍料六千束池溝料三万束救急料八万束俸因料五万七千三百七十束
 筑後國分寺料一万三千三百九十四束修理觀世音寺料一万束文殊會料二千束衛卒料一万八千一百
 五束修理府官舍料六千束救急料三万束俸因料四万四千八百八十二束
 肥前國分寺料三万三千三百九十四束當國豐城島各一萬六千六百九十七束文殊會料二千束衛卒料一万八千一百五束修理
 府官舍料六千束池溝料三万束救急料四万束俸因料一万三千九百九十束
 肥後國分寺料四万七千八百八十七束文殊會料二千束衛卒料三万五千七百九十五束修理府官舍料
 一万束池溝料四万束救急料十二万束俸因料十七万三千四百卅五束
 豊前國分寺料一万四千二百七十四束文殊會料二千束衛卒料一万七千五百五十四束修理府官舍料

六千束池溝料三万束救急料四万束
 豊後國分寺料二万束文殊會料二千束衛卒料一万六千四百七十二束修理府官舍料六千束池溝料三
 万束救急料八万束俸因料三万九千三百七十束
 日向國分寺料一万束文殊會料一千束修理池溝料二万束救急料四万一千束俸因料一千一百一束
 大隅國分寺料二万束文殊會料一千束修理池溝料二万束救急料三万束
 薩摩國分寺料二万束同寺十一面觀世音菩薩燈分料一千五百束文殊會料一千束修理官舍料二万束
 救急料三万束
 壹岐嶋修理池溝料五千束救急料二万束主稅
 凡ソ諸國雜官稻ヲ減省スルコトヲ申請スト雖モ施藥院ノ藥分稻ヲ減スヘカラス主稅
 凡ソ俸因料ノ稻ハ三年儲ヲ置クノ外正稅ニ混合ス主稅
 凡ソ齋内親王伊勢國ニ向ヘハ頓宮ヲ造リ并ニ雜用ノ料稻ハ近江國一万二千束伊勢國二万二千束主稅

地子

〔雜用〕臨時雜事ノ用度ナリ

〔按〕地子ハ公田及ヒ官田等ヲ民ニ賣與シテ賃租ヲ納メシムルナリ合義解ニ云公田ハ乘田ナリ賃租トハ乘田一年ヲ限テ以
 リ春時直チ取ルテ賃ト爲シ人ニ與テ佃ラシメ秋ニ至テ稻ヲ輸サシムルヲ租ト爲ス即チ今ノ所謂地子ナリト延寶式ニ據ル
 ニ地子ハ田品ニ上中下々四等ノ差ヲ爲シ權給各五分ノ一ヲ徵收ス凡ソ一般田租ノ率ハ田品ノ差等チ問ハス其至テ
 キテ以テナリ地子ハ即チ重シ田品ヲ區別セサルヲ得サル所以ナリ
 〔令〕凡ソ諸國ノ公田ハ皆國司郷土ノ估價ニ隨テ賃租セヨ其價ハ太政官ニ送リ以テ雜用ニ宛テヨ田
 凡ソ賃租田ハ各一年ヲ限リ國ハ任マニ賃租シ及ヒ賣レ皆須ラク所部ノ官司ヲ經テ申牒シ然ル後總
 ルスヘシ田令

〔元正天皇養老三年九月廿二日〕詔シテ天下ノ民戸ニ陸田一町以上二十町以下ヲ給ヒ地子ヲ輸サシ

〔按〕粟邦言アハ合類節用集ニ後漢許慎ノ説ヲ引テ云粟ハ養稷種ノ總稱トス今ノ粟古ニ在テハ但呼テ粟ト爲ス後人乃チ專ラ梁ノ細キモノヲ以テ粟ト名ツクト延喜式ニ云凡ソ雜穀相博テ粟小豆各二斗ハ粟ノ三束ニ當ルト粟ハ即チアハナリ今諸書ヲ閱スルニ或ハ以テ穀類ト爲シ或ハ以テ黑米ト爲ス此條陸田ヨリ輸サシムルヲ以テ之ヲ觀レハ乃チアハニシテ所謂粟ノ細キモノタルコト知ルヘシ極日本紀ニ元正天皇詔シテ曰ク國家ノ臣民ハ要民ヲ富スニ在リ民ヲ富スノ本ハ務テ食ニ從フ云々今諸國ノ百姓未タ產術ヲ盡サス唯水澤ノ種ヲ種テ陸田ノ利ヲ知ラス或ハ邊早ニ遭フトキハ更ニ餘穀無シ秋穡者シ能メハ多ク機體ヲ致ス此乃チ唯百姓解ルノミニ非ス固ニ國司教導ヲ存セサルニ由レリ宜ク百姓ヲシテ麥禾ヲ種ヘシムヘシ男夫一人コトニ二段凡ソ粟ノ物タル久キチ支テ取レズ諸穀ノ中ニ於テ最モ是レ精好ナリ宜ク此狀ヲ以テ天下ニ告ケカテ盡シ耕種シテ時侯ヲ失フコト莫ラシムヘシ自餘ノ雜穀モ力ニ任セテ之ヲ課セヨ若シ百姓粟ヲ輸シテ種ニ轉スルモノ有ラハ之ヲ聽ルセト蓋シ天下民人陸田ニ麥粟ヲ種ルチ勸奨スルナリ地子ヲ輸サシムルコト段ニ粟三升亦陸田ニ種穀ヲ蓄積セシメン爲メ故ラニ之ヲ輕減スルナリ長承三年東大寺ノ古文書新御莊矢川中村夏見公島取帳ニ合伍拾陸兩陸段佰捌拾步所當加地子參拾陸石伍斗伍升ト云々是レ陸田ヨリ麥ヲ輸サシムルナリ而シテ其率段ニ麥三升二合七勺餘ト當時陸田賦課ノ輕キコト以テ見ルヘキナリ

〔聖武天皇天平八年三月二十日〕太政官奏ス諸國ノ公田ハ國司郷土ノ估價ニ隨テ賃租シ其價ヲ以テ太政官ニ送リ以テ公廩ニ供セント奏ス之ヲ可ス本紀

〔孝謙天皇天平寶字二年五月十六日〕太宰府言ス諸國ノ地子稻ハ一ニ先符ニ依リ任マニ公廩ト爲シ以テ府中ノ雜事ニ充ン本紀

〔桓武天皇延暦十五年十二月廿八日勅〕陸奥國屯田ノ地子自今以後宜ク町別ニ稻廿束ニ准シテ輸シシムヘシ類聚三

〔按〕此條所謂屯田ハ前篇攝津所ノ屯田ト異ニシテ畠土ノ屯田ト同シテ之ニ課スルニ地子ヲ以テスルナリ大凡地子ハ下々田ト雖モ町コトニ三十束ト爲ス陸奥國ノ屯田必シモ皆下々田ナラス而シテ其輕減ニ從フモノハ蓋シ屯田者ノ耕種スル所ナレハナリ

〔嵯峨天皇弘仁元年九月朔日勅〕大和國ノ田租地子稻ハ永ク平城宮ノ雜用料ニ充テヨ日本後紀

〔平城宮〕解前
篇ニ見ユタリ

〔四年二月十一日〕石見國ヲシテ乘田三十町ヲ營ミ其後ル所ヲ以テ故年ノ未納ニ填セシメ營功種子ハ正稅ヲ借リ充テ限ルニ三年ヲ以テシ地子ハ例ニ依テ之ヲ輸サシム日本後紀

〔式〕上田一段ノ地子十束中田一段八束下田一段六束下々田一段二束後紀

〔仁明天皇承和五年九月十四日〕太宰管内ノ地子交易ノ法ヲ定ム綿一屯直稻八束後紀

〔按〕綿一屯ハ二斤ナリ八束ノ稻ハ卷テ米四斗ヲ産ル是レ其交易ノ法ナリ

〔文德天皇嘉祥三年四月廿四日〕太政官今月十七日ノ詔旨ヲ重宣シ京畿諸國ニ頒下シテ云ク今詔旨ヲ案スルニ去年已往言上スル租稅ノ未納ハ悉ク免除スヘシ宜ク官長ニ命シテ分明ニ搜檢セシメ見ニ民身ニ在ラハ即チ免除ニ從フヘシ云々但地子ノ未納ハ免ス限ニアラス文德實錄

〔按〕租稅ノ未納ハ悉ク之ヲ免除シ地子ノ未納ハ免除セサルハ何ゾヤ當時租稅ハ田租ヲ謂フ田租ハ班給スルノ田地ニ隨テ之ヲ賦課ス其未納ニ係ルモノ固ヨリ之ヲ追徵スヘキニ在ラズト雖モ歲ニ凶歉アリ民ニ貧乏アリ窮蹙ノ甚キ其生活ニ關係スルモノ有リ地子ハ即チ然ラス班給スル田地ノ外更ニ公田チ佃ラシム宛竟其餘力ニ出ルモノトス民ノ所得ニ欠減有リトスルモノ以テ直チニ窮蹙スルニ至ラス是レ其免除セサル所以ナリ

〔清和天皇貞觀十七年八月廿二日太政官符〕右京職ノ解ヲ得ルニ曰ク云々頃年間カ如キハ五畿内ノ百姓絶戸ヲ紆隱シ私ニ其田ヲ領ス多キ者ハ五六百畑少キ者ハ八九十戸各地ノ利ヲ貪リ顯申スルニ心ナシ公家ノ費職トシテ此レ之ニ由レリ謹テ承和十一年三月一日ノ格ヲ案スルニ具ニ顯隱ヲ賞罰スルノ條ヲ設ケリ而ルニ民眼前ノ利ヲ求テ位階ノ貴ヲ忘ル今須ラク絶戸ヲ顯申スル人アラハ三年間半地子ヲ免シ其レヲシテ耕食セシメ厥後全ク地子ヲ收ムヘント宣ス請ニ依レ左右京職此ニ准セヨ類聚三代格三代實錄 政事要略

〔陽成天皇元慶三年十二月四日〕正三位行中納言兼民部卿藤原朝臣冬緒ノ奏狀ニ曰ク云々伏シテ請フ山城國八百町大和國一千二百町河内國八百町和泉國四百町攝津國八百町合セテ四千町ヲ割キ置キ若クハ獲稻若クハ地子其便宜ヲ量リ以テ公用ヲ支ヘント詔シテ之ニ從フ三代實錄 類聚三代格 實錄 政事要略

部卿藤原朝臣冬緒奏言云々請フ畿内ノ田ヲ割キ置キ若クハ獲稻若クハ地子其便宜ヲ量リ以テ公
用ヲ支ヘント今盡ク營ミ佃ラシメント欲セハ吏民ノ堪ヘ難キヲ慮リ全ク地子ト爲サハ公家ノ利少
カラシコトヲ恐ル仍テ折中商量シテ半分ヲ佃ラシメン如シ佃ルニ堪ルアラハ此限ニ拘ラス但佃田
ハ或ハ地子或ハ價直民ノ欲スル所ニ任セ宜キニ隨テ辨シ行ヘ其地子ノ法ハ自ラ式文アリ價直ノ數
ハ宜ク國ノ例ニ依ルヘシ如シ總正長有テ兩色ノ田ヲ得ント欲セハ先ツ以テ之ヲ行ヒ後ニ他人ニ及
ホセ云々類聚國史、類聚三代格
○本官田條中ニ具レリ

〔六年九月二日〕是ヨリ先キ民部省言ヌ主稅寮ノ解ニ曰ク式ニ云ク職田ヲ輸租田ト爲ス其未授ノ間
ハ輸地子田ト爲ス今畿内ヲ檢スルニ無主職田ハ穀倉院ニ收ム格式ニ載セスト雖モ而モ事是レ例ト
爲ル外國ニ至テハ存亡ヲ論セス永ク租田ト爲ス只式ニ違フノミ非ス亦公損アリ然トモ既ニ證驗
ナク勘徵ニ由ナシ請フ大納言已下及ヒ諸博士等其關アル毎ニ式部省ヲシテ移送セシメ以テ勘會ニ
備ヘン但其地子ハ正稅ニ混合シ將ニ公益ヲ存セントス又諸國郡司等或ハ喪ニ遭テ解任シ或ハ其身
死去シテ未タ補セサルノ間空ク年序ヲ經此ノ如キノ類寔ニ繁クシテ徒アリ而シテ進ノ所ノ租帳其
由ヲ見ス勘出スルコトヲ得ス事情ヲ商量スルニ遺漏アルニ似タリ諸國郡司ハ毎年三月三十日以前
ニ同省ヲシテ移送セシメ其地子ハ亦同ク正稅ニ混合セント太政官處分ス請ニ依レ三代
實錄

〔光孝天皇仁和元年三月八日〕使ヲ山城大和河内攝津等ノ國ニ遣シテ官田ヲ沽ラシム和泉國ノ官田
ハ二年地子ヲ納ルコトヲ聽ル三代實錄
類聚國史
〔按〕活トハ所謂一年ヲ限テ賣リ春時直チ取ルテ謂フ

〔十月五日〕勅シテ使者ヲ山城大和河内和泉攝津等ノ國ニ分遣シテ春宮ノ田ノ獲稻並ニ地子ノ直シ
京師ニ運送セシム類聚國史
三代實錄

〔醍醐天皇延喜十年十二月廿七日太政官符〕應ニ例進外ノ地子稻ヲ以テ例進内ノ米千四百卅二斛ニ
加春スヘシ

例進内ノ鹽ノ代米九十三石九斗例進外ノ地子稻米千三百卅八斛一斗
厨家ノ解ヲ得ルニ曰ク云々例進數少ク用途多端年中ノ納ル所ヲ以テ例用ノ支度ニ宛ルニ不足スル
所ノ米千四百卅二斛云々凡ソ件等ノ國例進内ノ鹽ハ用ニ充テ、餘アリ例進外ノ地子ハ其數居多ナ
リ加春セシムルニ至ルモ責メ無ル可シ望請フ早ク下知シテ特ニ加春セシメラレント然ラハ則
チ厨家煩ヲ省キ公用濟シ易カラント勅ス請ニ依レ諸國承知シ宣ニ依テ之ヲ行ヘ符到ラハ奉行セヨ
政事要略○事收納
總錄條中ニ具レリ

〔十四年八月八日太政官符〕去シ延曆十二年八月十三日厨家ノ解ヲ得ルニ曰ク地子田ノ數每國限有
リ一班ノ後豈増減アラシヤ而シテ諸國司等好テ地子田ヲ以テ租田ニ混ス實ニ所司勘出シテ地子稻
ヲ徵スト雖モ而モ空ク勘出ヲ置キ填納スルニ期无シ時遷リ吏替リ遂ニ免除ニ從フ地子減少スル所
ニ由ラサルハ莫シ望請フ諸國ニ下知シテ特ニ混合ヲ停メン若シ常ニ習ヒ改メサレハ將タ亦稅帳ヲ
拘セント勅ス請ニ依レ政事
要略

〔同日太政官符〕應ニ諸國ノ地子交易ノ絹綿調布商布鐵鐵等ノ價數ヲ定ムヘシ

- 伊勢國 絹六十疋直三千六百束正別六
十束
- 駿河國 商布五百端直五千束段別十束今定
テ六束ヲ充ツ
- 伊豆國 絹十一疋直六百六十束正別六
十束
- 甲斐國 絹卅五疋五丈直二千七百五十束正別六
十束
- 相摸國 商布四百五十九段九尺直四千五百九十三束六把段別
十束
- 武藏國 調布九百廿六段直二万七千七百八十束册別
十束

〔調布〕解後篇
ニ見エタリ
〔商布〕和名紗
ニ云和名多
和訓兼ニ云々
ハ手ナリニハ
布ナリト手作
本ノ布ナリ
セサルモノ多
シ蓋シ原ノ
誤ニ係レリ

- 安房國 調布百六十六段二丈八尺直四千九百九十束九把段別
- 上總國 調布廿段直八百束段別 商布二千八百段直二萬八千束段別
- 下總國 調布千五百段直二萬二千束段別
- 常陸國 商布二千五百段直二萬五千束段別
- 飛騨國 商布五百段直五千束段別
- 信濃國 商布千二百段六尺直萬二千束三把七分段別
- 上野國 商布九百八十段直九千八百束段別
- 下野國 商布千段直二萬束段別
- 若狹國 絹廿段直千二百束段別
- 越後國 絹卅四段直二千三百八十束段別
- 佐渡國 調布八十段直二千四百束段別
- 丹波國 絹九段直四百九十五束段別
- 丹後國 絹五十段直三千束段別
- 但馬國 絹四十段直二千四百束段別
- 因幡國 絹卅段直二千三百六十五束段別
- 伯耆國 鐵六百延直三千六百卅六束段別
- 出雲國 鐵千二百延直六百束段別
- 石見國 絹二百五十斤直二千卅二束八束段別
- 美作國 絹卅段直六百五十束段別
- 備中國 鐵四百口直千二百束段別
- 備後國 鐵五百口直千五百束段別
- 鐵二百九十延直千四百五十束段別
- 鐵二百五十延直千五百束段別

〔註〕延ノ名字ナリ或ハ云延ナリ

〔正〕延クハ屯ノ誤

安藝國 絹廿段直千二百束段別

長門國 綿三百九十八斤直二千三百八十束段別

伊豫國 絹十四段直七百七十束段別

筑後國 絹卅三足直三千四百卅束段別

豐前國 絹廿一足直千六百八十束段別

豐後國 絹卅段直二千四百束段別

肥前國 絹廿段直千六百束段別

同前ノ解ヲ得ルニ曰ク諸國ノ物價各差別アリ勸納ノ例何ソ一同ナルコトヲ得ン而シテ承前ノ例國法ニ依ラス貴賤ヲ論セス定テ絹一疋直稻五十束綿一屯百束ヲ納ム調布商布鑿鐵等亦准的無シ凡ソ物直ノ高下國例各異ナリ何ソ一例ニ依テ諸國ノ法ト爲サン加以ス件等ノ物價未タ據ル所有ラス之ヲ政途ニ稽ルニ堤防无キニ似タリ望請フ年來進ル所ノ地子帳ノ價數ニ因テ便テ定法ト爲サント勸ス請ニ依レ政事要界

〔按〕主稅式ニ云凡ソ五畿内伊賀等ノ國ノ地子ハ正稅ニ混合ス其陸奥ハ儲積并ニ鎮兵ノ根ニ充テ出羽ハ秋ノ祿太宰所管ノ諸國ハ對馬島司ノ公解ニ充ルノ外輕貨ニ交易シテ太政官ノ厨ニ送ル自餘諸國交易シテ送ル亦同シト此條列記スル所ノ諸國乃チ皆畿外ノ諸國ニシテ其地子ハ所前輕貨ニ交易シテ送ルモノナリ主計式ニ云絹綿各長サ六丈廣サ一尺九寸調布長サ四丈二尺廣サ二尺四寸綿ハ四兩ニ屯ト爲ス式式ニ云凡ソ度量權衡ハ官私悉ク大テ用フト度ハ後世ノ曲尺ナリ權衡ハ百六十斤ナリトス併セ綿シテ以テ參觀ニ備フ價直ノ事ハ雜爲估價條中ニ具レリ

〔十五日太政官符〕應ニ遺數ニ隨テ諸國例進外ノ地子稻ヲ充行フヘシ

延曆十二年八月十三日厨家ノ解狀ニ曰ク案内ヲ檢スルニ年中充ル所ノ列見定考ノ祿並ニ夏冬頒給ノ料商布三萬八百卅段晦料ノ油雜穀等直稻廿三萬九千五百卅三束五把爰ニ例進外ノ稻ヲ以テ彼料ニ相准シ遺ル所ノ數十萬九千餘束而シテ年々ノ例多少ヲ論セス濫ニ以テ符ヲ下ス仍テ過用ノ慾諸國克ヘ難シ望請フ先ッ稻ノ多少有無ヲ勘シ即チ遺數ニ隨テ符ヲ下サン抑前件雜用ノ遺猶其數アリ

〔列見〕公事根
源ニ云六位以
下ノ職能アル
者ノ選ヒ式部
兵部ニ省ヨリ
率テ參レルヲ
上テ其器量容
儀ヲ見ルナリ
〔定考〕公事根

〔按〕弘仁式ニ云上田一段ノ地子十束中田一段八束云々上條ニ詳ナリ此條所謂種稻上田ニ五百束中田ニ四百束等各地子各田品ニ依テ五分ノ一ヲ輸サシム五百束四百束ハ一町ヲ以テ之ヲ言ス然ラハ則チ上田一段ノ地子十束中田一段八束等念ク弘仁式ト同率ナリ又口遊ニ云上田ハ三十六歩ニ一束中田ハ卅五歩ニ一束下田ハ六十歩ニ一束下々田ハ百廿歩ニ一束之ヲ地子ト謂フト是但地子稻一束ヲ以テ四等田品ノ差等ニ當ルノミ其實ハ則チ一ナリ類聚三代格載スル所貞觀十八年五月廿一日ノ太政官符ニ於テ作スヘキ田卅一町三段種稻九千三百九十束地子一千五百二束四把段別四束八把云々卅一町三段ニ九千三百九十束下田ノ種稻ト爲ス下田ノ地子ハ段別六束ナリ而シテ四束八把ヲ課スルハ定率十分ノ二ヲ減スルナリ蓋シ其乘田ヲ於テ作シテ書生ノ食ニ充ルカ爲メ故ラニ之ヲ輕減ス亦陸奥國屯田ノ地子特ニ輕減ニ從フノ類ナリ不堪佃田ハ十分ノ二ヲ除クコトヲ聽ルストハ元慶三年二月八日ノ勅ニ曰ク損田ノ數疑殆ナキニ非ス然リ而シテ國宰其人ナリ仍テ使テ遺スコトヲ停ム云々但乘田ハ免ス限ニ在ラスト乘田ヲ於テ作スルモ不堪佃田ヲ言上スルモ其十分ノ二ハ特ニ之ヲ免除シ其餘ハ下々田ノ地子ニ准シテ納租セシムルナリ今地子田四等ノ品位ニ就キ圖解ヲ製スルコト左ノ如シ

地子田品比例圖

田	地	種	稻	春	米	地	子	春	米	比
上田	一町	五	百束	二十五	斛	百束	五	斛	五分ノ一	例
中田	一町	四	百束	二十	斛	八十束	四	斛	全	
下田	一町	三	百束	七	五斛	六十束	三	斛	全	
下々田	一町	百	五十束	七	斛	五斗	三十束	一	斛	五斗全

(△印ハ朱線)

右地子ノ率ハ即チ二公八民ニシテ當時ニ在テハ特ニ重シトス是レ他無シ官有ノ地子佃ラシムルヲ以テナリ後世武臣國郡ヲ專有シテ益其租ヲ重クス蓋シ是等ニ輕賤スルナリ

凡ソ五畿内ノ國官田ノ地子ハ耕種ノ人ヲシテ數ニ依テ種納シ毎年帳ニ附テ言上セシム主稅

〔鎮兵〕鎮守府ノ兵士ナリ

〔按〕畿内ノ官田ハ供御ノ料ト爲ス故ニ之ヲ宮内省ニ納ルナリ

凡ソ五畿内伊賀等ノ國ノ地子ハ正稅ニ混合シ其陸奥ハ儲備并ニ鎮兵ノ糧ニ充テ出羽ハ秋ノ祿太宰所管ノ諸國ハ對馬嶋司ノ公廩ニ充ルノ外輕貨ニ交易シテ太政官ノ厨ニ送ル自餘ノ諸國交易シテ送ル亦同シ但隨近及ヒ綠海ノ國ハ米ニ春テ運漕ス其功賃ハ便チ數内ヲ用フ主稅

〔按〕五畿内伊賀等ノ國地子ヲ輸スコト殊ニ多シ以テ正稅ノ不足ヲ補フ且地子ヲ使用スル東西各其便宜ニ隨フ輕貨ハ絹布等ヲ前フ畿外ハ京師ニ近ク及ヒ沿海ノ地ハ運漕ノ便ナルヲ以テ特ニ春米ヲ送致セシムルナリ

凡ソ諸國交易雜費ノ直ニ地子ヲ用ヒハ太政官厨ノ返抄ヲ以テ勘會セシム主稅

凡ソ官ニ進ル年料并ニ國中雜用等ノ米ハ春功ヲ充テス以外ハ皆充ツ白米五斗ニ稻二束黒米ニ一束但地子ハ白米五斗ニ三束黒米ニ二束乘田ヲ作ル家ヲシテ便チ春テ之ヲ輸サシム主稅

〔按〕黒米ニ春功ヲ充ルハ概數ヲ春テ黒米ト爲スチ謂フ地子ハ其率已ニ重シ且之ヲ輸送セシムルヲ以テ殊ニ其春功ヲ增加スルナリ

凡ソ山城國大原野社神殿ノ守二人ノ糧米日ニ各二升預從一人日ニ八合大和國春日社神殿ノ守二人日ニ各二升預從二人日ニ各八合並ニ當國官田ノ地子ヲ以テ之ニ充ツ主稅

凡ソ太宰彌勒寺ノ燈分料ハ豐前國ノ地子稻三百束ヲ以テ毎年之ニ充ツ主稅

凡ソ諸國ノ牧馬貢進ニ堪ヘサル者ハ官ニ申シテ賣却シ皮直ニ混雜シ毎年出舉シテ其息利ヲ用ヒ以テ貢馬ノ國ヲ經ルノ間及ヒ牧馬ノ秣料ニ充ツ但信濃國ハ便チ牧田ノ地子ヲ用ヒ其皮直ハ左右馬寮ニ送ル主稅

〔按〕本文官ノ所ニ據テ之ヲ考ルニ牧田ヲ置クハ獨信濃國ニ止ルニ似タリ拾芥抄載ル所諸國牧場信濃國ニ在ル者尤モ多シ其之ヲ置ク所以蓋シ此ニ因ルカ

凡ソ太宰府管内諸國ノ射田ハ郡毎ニ二町ヲ置キ其一町ハ步射ノ上手ニ賜ヒ一町ハ騎射ノ超勝ニ賜フ自餘兵士アル國ハ郡毎ニ一町ヲ置ク其田ノ地子ハ輕貨ニ交易シ國司簡試スルニ上番兵士騎歩ヲ限ラズ人別ニ十箭ヲ射ラシム毎日試ル所廿人ニ過ルコト勿レ能不ヲ擲量シ狀ニ隨テ之ヲ給フ其能

〔按〕弘仁式ニ云上田一段ノ地子十束中田一段八束云々上條ニ詳ナリ此條所謂雜稻上田ニ五百束中田ニ四百束等各地子各田品ニ依テ五分ノ一ヲ輸サシム五百束四百束ハ一町ヲ以テ之ヲ言ス然ラハ則テ上田一段ノ地子十束中田一段八束等全ク弘仁式ト同率ナリ又口遊ニ云上田ハ三十六歩ニ一束中田ハ卅五歩ニ一束下田ハ六十歩ニ一束下々田ハ百廿歩ニ一束之ヲ地子ト謂フト是但地子稻一束ヲ以テ四等田品ノ差等ニ當ルノミ其實ハ則テ一ナリ類聚三代格載スル所貞觀十八年五月廿一日ノ太政官符ニ營作スヘキ田卅一町三段雜稻九千三百九十束地子一千五百二束四把段別四束八把云々卅一町三段ニ九千三百九十束ハ下田ノ雜稻ト爲ス下田ノ地子ハ段別六束ナリ而シテ四束八把ヲ課スルハ定率十分ノ二ヲ減スルナリ蓋シ其乘田ヲ營作シテ書生ノ食ニ充ルカ爲メ故ク之ヲ輕減ス亦陸奥國屯田ノ地子特ニ輕減ニ從フノ類ナリ不堪佃田ハ十分ノ二ヲ除クコトヲ聽ルストハ元慶三年二月八日ノ勅ニ曰ク損田ノ數疑給ナキニ非ス然リ而シテ國等其人ナリ仍テ使テ道スコトヲ停ム云々但乘田ハ免ス限ニ在ラスト乘田ヲ營作スルモノ縱令ヒ不堪佃田ヲ言上スルモ其十分ノ二ハ特ニ之ヲ免除シ其餘ハ下々田ノ地子ニ准シテ納租セシムルナリ今地子田四等ノ品位ニ就キ圖解ヲ製スルコト左ノ如シ

圖例比品田地

田地	種	稻	春	米	地	子	春	米	比
上田一町	五百束	二十五斛	百束	五	斛	五分ノ一			
中田一町	四百束	二十斛	八十束	四	斛	全			
下田一町	三百束	七五斛	六十束	三	斛	全			
下々田一町	百五十束	七斛五斗	三十束	一斛五斗	全				

(△印ハ朱條)

右地子ノ率ハ即チ二公八民ニシテ當時ニ在テハ特ニ重シトス是レ他無シ官有ノ地子何ラシムルヲ以テナリ後世武臣四郡ヲ專有シテ益其租ヲ重クス蓋シ是等ニ輕胎スルナリ

凡ソ五畿内ノ國官田ノ地子ハ耕種ノ人ヲシテ數ニ依テ納租シテ毎年帳ニ附テ言上セシム主稅式

〔鎮兵〕鎮守府ノ兵士ナリ

〔按〕畿内ノ官田ハ供御ノ料ト爲ス故ニ之ヲ官内倉ニ納ルナリ

凡ソ五畿内伊賀等ノ國ノ地子ハ正稅ニ混合シ其陸奥ハ儲備并ニ鎮兵ノ糧ニ充テ出羽ハ秋ノ祿太宰所管ノ諸國ハ對馬嶋司ノ公廩ニ充ルノ外輕貨ニ交易シテ太政官ノ厨ニ送ル自餘ノ諸國交易シテ送ル亦同シ但隨近及ヒ縁海ノ國ハ米ニ春テ運漕ス其功賃ハ便チ數内ヲ用フ主稅式

〔按〕五畿内伊賀等ノ國地子ヲ輸スコト殊ニ多シ以テ正稅ノ不足ヲ補フ且地子ヲ使用スル東西各其便宜ニ隨テ輕貨ハ絹布等ヲ漕フ機外ハ京師ニ近ク及ヒ沿海ノ地ハ運漕ノ便ナルヲ以テ特ニ春米ヲ送致セシムルナリ

凡ソ諸國交易雜費ノ直ニ地子ヲ用ヒハ太政官厨ノ返抄ヲ以テ勘會セシム主稅式

凡ソ官ニ進ル年料并ニ國中雜用等ノ米ハ春功ヲ充テス以外ハ皆充ツ白米五斗ニ稻二束黑米ニ一束但地子ハ白米五斗ニ三束黑米ニ二束乘田ヲ作ル家ヲシテ便チ春テ之ヲ輸サシム主稅式

〔按〕黑米ニ春功ヲ充ルハ糲穀ヲ春テ黑米ト爲スチ謂フ地子ハ其率已ニ重シ且之ヲ輸送セシムルヲ以テ殊ニ其春功ヲ増加スルナリ

凡ソ山城國大原野社神殿ノ守二人ノ糶米日ニ各二升預從一人日ニ八合大和國春日社神殿ノ守二人日ニ各二升預從二人日ニ各八合並ニ當國官田ノ地子ヲ以テ之ニ充ツ主稅式

凡ソ太宰彌勒寺ノ燈分料ハ豐前國ノ地子稻三百束ヲ以テ毎年之ニ充ツ主稅式

凡ソ諸國ノ牧馬貢進ニ堪ヘサル者ハ官ニ申シテ賣却シ皮直ニ混雜シ毎年出舉シテ其息利ヲ用ヒ以テ貢馬ノ國ヲ經ルノ間及ヒ牧馬ノ秣料ニ充ツ但信濃國ハ便チ牧田ノ地子ヲ用ヒ其皮直ハ左右馬寮ニ送ル主稅式

〔按〕本文官ヲ所ニ據テ之ヲ考ルニ牧田ヲ置クハ獨信濃國ニ止ルニ似タリ拾芥抄載ル所諸國牧場信濃國ニ在ル者尤モ多シ其之ヲ置ク所以蓋シ此ニ因ルカ

凡ソ太宰府管内諸國ノ射田ハ郡毎ニ二町ヲ置キ其一町ハ步射ノ上手ニ賜ヒ一町ハ騎射ノ超勝ニ賜フ自餘兵士アル國ハ郡毎ニ一町ヲ置ク其田ノ地子ハ輕貨ニ交易シ國司簡試スルニ上番兵士騎歩ヲ限ラス人別ニ十箭ヲ射ラシム毎日試ル所廿人ニ過ルコト勿レ能不ヲ斟量シ狀ニ隨テ之ヲ給フ其能

射ノ人及ヒ給フ所ノ物數ハ朝集使ニ附テ省ニ送ル兵部式
 凡ソ隼人等不仕ノ料及ヒ條分ノ絶戸田ノ地子等ハ修理料并ニ雜用ニ充ツ集人
 凡ソ五畿内ノ職寫戸田ノ價ハ當國司ヲシテ彼地子ヲ收メシム京式
 凡ソ職寫不沽田ノ例損ハ不沽帳ノ田數ニ率テ一分ノ不堪三分ノ損ヲ除クノ外ハ全ク地子ヲ收メ其
 收ル所ノ稻數ハ帳ニ載セテ官ニ進ム但損有ルノ年ハ當國損ヲ申シテ官ノ勘定ニ依ル職亦徵免ス京式

〔按〕一分ノ不堪トハ十分ノ一不堪田トナルヲ謂フ三分ノ損トハ十分ノ三田地損傷スルヲ謂フ徵免トハ或ハ徵シ或ハ免スルナリ

凡ソ關官料要劇田ノ地子ハ職家ノ公用ニ充ツ京式

凡ソ市町ニ居住スルノ輩ハ市籍ノ人ヲ除キ地子ヲ進メシメ即チ以テ市司四面ノ泥塗道橋及ヒ當ニ河ヲ掘ルヘキ等ノ造料ニ充ツ其用帳ハ年ノ終ニ申送ス東西市式

〔按〕左右京式又云市人ノ籍帳ハ毎年造リ進メシムト市町ニ居住スト雖モ其本籍ノモノニ非サレハ地子ヲ出サシム市街ハ固ヨリ班田ノ比ニ非ス且人ノ多ク居住ヲ樂ム所因テ賦課重キニ從フナリ市籍ノ人ハ之ヲ免ス後世市街ノ地ハ一般其租稅ヲ免除シ及市街ノ地租ヲ稱シテ地子ト曰フ蓋シ是等ニ原本スルナリ

射田左右近衛府各十町近江國地子ハ騎射歩射ヲ教習スル用ニ充ツ左右近衛式

〔延長三年十二月十四日〕疫死并ニ流亡ノ百姓口分田ノ地子稻ヲ以テ價直ニ宛テ交易シテ調庸中男作物等ヲ進メシム政奉要略

〔朱雀天皇天慶四年〕駿河國ノ常赦判ニ云ク疫死ノ百姓口分田ノ地子稻ヲ徵サス官符ノ旨ニ依ルニ調庸并ニ中男作物ニ交易シ進納スヘキ色ナリ勘狀相違ス抑モ執狀ノ如キ者ハ是レ未納ナリ徵納セ

ス事ヲ怠リ恩蕩ヲ經タリ須ラク見任相承ケ作田人ヲ尋テ徵納支配スヘシ政奉要略

〔村上天皇天曆五年十二月廿七日太政官符〕穀倉院今月十日ノ解ヲ得ルニ曰ク謹テ式條ヲ案スルニ云ク无主位田ハ穀倉院ニ移シテ其地子ヲ收メシムト此文ノ如キハ畿内外國ヲ論セス院ニテ地子ヲ

〔傍嚴院〕近江國觀山ニアリ
 〔三味〕輪林志ニ云ニ三味ヲ去テ解脫ニ就クナリ
 此條算計吻合セシ蓋シ原書ノ誤謬ニ係ル

收ム可キ者ナリ而シテ只畿内ヲ收メ外國ヲ勘セス然ラハ則チ式行フ所ト彼此相違フ加以位田ヲ授給スル各二分ト爲シ一分ハ畿内ニ給ヒ一分ハ外國ニ給フ爰ニ民部省ノ行フ所ノ近江丹波國畿内ニ准スト號シ普ク諸大夫ニ給フ若シ其給ハサルノ間ハ无主位田ト爲ス其地子物ニ至テハ並ニ帳ニ附シ言上スヘシ云々望請フ天裁畿内ニ准シテ件ノ國ノ无主位田ハ其地子ヲ勘納シ特ニ公用ノ資ト爲ント勅ス請ニ依レ政奉要略

〔冷泉天皇安和元年正月廿八日〕今日近江國美濃國ニ下ス符ニ云ク云々楞嚴院ニ廿六口ノ僧ヲ置キ法花常行兩三昧ヲ修セシムルノ御願アリ茲ニ因テ來ル二月廿九日ヨリ始テ件ノ三昧ヲ修セシム並ニ彼國ニ下知シ畢ル件ノ佛僧供ノ雜用料米并ニ燈油等ノ料ハ毎年穀倉院ノ勅旨田地子米ノ内ヲ以テ永ク寺家ニ運ヒ件ノ三昧ヲ行ヒ云々國宜ク承知シ宣ニ依テ之ヲ行フヘシ山門堂會記

〔康平五年廣瀨庄地子九帳ノ事〕

- 成時九段大田四段 島五段大 所當地子 田一石二斗 白五斗七升
- 時吉二段 地子六斗
- 光則二段 地子六斗
- 朝算二段 地子六斗
- 逆九三段小 地子一石
- 秋助四段半 三段 地子九斗
- 島一段半 地子一斗五升
- 福成一丁四段大 三段四段四段五段小 地子七斗三升四合
- 十二段島七段小地 地子二斗五升
- 武吉島地二段半 地子二斗
- 清光地白二段 地子六斗
- 行照二段 地子六斗

- 松延二段
- 吉常二段
- 有正田一段半
- 支永二段半
- 近重田白四段
- 信任田白一段半
- 告枝地白一段
- 秋重田白二段
- 〇〇入道半
- 忠延七段
- 有常四段
- 元光六段
- 源照四段
- 頼源百廿
- 安晴三段
- 守武一段
- 見作
- 田七丁八段八分
- 島三丁八段
- 十月八日
- 地子九斗
- 地子六斗
- 地子四斗五升
- 地子三斗
- 地子七斗七升
- 地子一石
- 地子六斗七升五合
- 地子一斗
- 地子三斗
- 地子一斗五升
- 地子二石一斗
- 地子一石二斗
- 地子一石一斗
- 地子一斗
- 地子九斗
- 地子三斗
- 地子米廿三石四斗七升
- 地子米四石三斗五升

〔承保二年正月三日〕招提寺因幡國御莊島合貳拾町所當地子參拾斛云々東大寺古文書

〔按〕貳拾町ニ參拾斛ヲ課スルハ一町ニ一斛五斗ナリ是レ延喜定ル所下々田ノ率ナリ蓋シ莊園ノ地子宜ク重方如クナルヘシ而シテ是ノ如ク其レ輕シ地位ノ如何ヲ知ル可ラスト雖モ之ヲ要スルニ島ヲ以テノ故ニ然ルナリ

神寺稅

〔按〕神寺稅ハ即チ神寺田ヨリ社寺ニ收納スル所ノ稅ナリ抑モ我神祖開國ノ初君臣皆神ヲラサルハ無シ而シテ當時已ニ新嘗ノ祭典ヲ行フ又木華開耶姬命田稻ヲ以テ天ノ甜酒ヲ釀シ且以テ飯ト爲シ之ヲ神ニ饗ス神武天皇ニ至リ皇祖天神ナリ山ニ祭ル我邦上古以來神祇ヲ飲饗シ祭祀ヲ慎重スルコト以テ知ルヘキナリ崇神天皇ノ時ニ及ヒ神人異宮ノ制ヲ立テ爾來益之ヲ尊崇シ神ノ榮盛供御ノ費ニ供給スル者皆神稅ヲ以テテ中古上下佛ヲ信シ寺田寺封戸甚々隆ナリ而シテ其收納ヲ以テ香火ノ用ニ供ス即チ神稅ナリ然リ而シテ海内ノ社寺其數許多ニシテ枚舉ニ遑アラズ今其一斑ヲ舉ルノミ

〔伊香色雄〕集解ニ云太孫稚大臣ノ子ナリ八十手ノ集解ニ云八十人ト云フカトト

〔伊香色雄〕集解ニ云太孫稚大臣ノ子ナリ八十手ノ集解ニ云八十人ト云フカトト

〔天武天皇六年五月廿八日勅〕天社地社ノ神稅三分ノ一ハ供神ニ擬スルカ爲ニシ二分ハ神主ニ給ヘ

〔朱鳥元年五月十四日勅〕勅シテ大官大寺ニ七百戸ヲ封シ乃稅三十万束ヲ納ル日本書紀

〔行〕本無シ前
文ニ因テ之ヲ
補フ

ノ宜ク自今以後官庫ニ收納シ修行功德ノ日用ニ隨テ出シ充ツヘシト今勅ス詔書ニ云ク朕思フ所
リ宜ク其ノ舊ニ依リ寺家ニ還收シテ佛事ニ充テ用フヘシ仍テ大和國司僧綱及ヒ三綱ト出納ヲ計會
セヨト宜ク詔書并ニ寶龜十一年十二月十日ノ符ニ依リ舊ニ依テ當寺別庫ニ收納シ官家修行功德分
ニ充テ用フヘシ國司諸綱相對シテ其收物ヲ出納シ畢ラハ即チ民部省ニ申シ出シ用ルニ至テハ官符
ヲ待テ行フヘシ仍テ年ノ終ニ納物并ニ用殘等ノ帳ヲ造リ申送セヨ類聚三
〔嵯峨天皇大同四年四月十六日勅〕諸國神社ヲ修造スルノ狀宣勅先ニ訖ル而シテ年月ヲ經涉シテ未
タ修造ヲ加ヘス自今以後所在ノ長官其事ニ專當シ勸テ修理ヲ致セ其料度ハ神稅ヲ以テ充テ無封ノ
社ハ宜ク正稅ヲ用フヘシ日本紀略

〔弘仁三年五月四日勅〕伊勢國多氣度會及ヒ飯高飯野等七郡神戶ノ百姓等正稅ヲ徵スルニ緣テ必ス
刑罰ヲ加フ已ニ齋事ヲ亂リ或ハ逃散ヲ致ス是ヲ以テ昔年出舉ヲ停ム茲ヨリ以後富民ニ借求シ報償
スルニ至テ利ヲ加フルコト數倍擧者罪アリ債者弊ヲ受ク宜ク明年ヨリ始テ神稅ノ外正稅十三萬三
千束ヲ擧シ其息利ヲ以テ齋宮ノ用ニ宛ツヘシ日本後紀

〔十一年四月九日詔〕云々頃者水旱適セス年穀登ラス云々天下百姓負フ所ノ租稅未納ノ言上セル及
ヒ調庸ノ未進左右京畿内ハ弘仁十年以前七道諸國ハ九年以前並ニ多少ヲ論セス咸宜ク蠲除スヘシ
或ハ未タ言上セス追徵ニ由ナク并ニ去年借貸貧民ノ逋負未報ノモノモ亦之ヲ免セヨ神寺ノ稻モ亦
宜ク之ニ准スヘシ類聚

〔十二年八月廿二日太政官符〕神祇官ノ解ヲ得ルニ曰ク承前ノ例大神宮司伊勢國多氣度會兩郡神田
ノ租及ヒ七處ノ神戶田等ノ租ヲ檢納シ祭祀ニ支用スルコト從來尙シ中間國司預リ以テ檢納ス仍テ
案内ヲ檢スルニ太政官去シ延曆廿四年四月七日伊勢國ニ下ス符ニ曰ク云々太政官去シ延曆廿年七
月一日諸國ニ下ス符ニ曰ク今神祇令ヲ按スルニ云ク神戶ノ調庸及ヒ田租ハ並ニ神宮ヲ造リ及ヒ供
神ノ調度ニ充テ其神稅ハ一ニ義倉ニ准シ皆國司檢按セヨト令條ニ准據スルニ既ニ檢按ト稱ス支用

〔四千六百五
十束〕算計
合セテ蓋シ大
數ヲ算ルナリ

ニ至テハ理專ラ輒クシ難シ宜ク國司郡司神主等祭料ニ支度シ并ニ其殘ヲ注シ申上シテ裁ヲ聽クヘ
シ國司等用帳ヲ勘知シ神物ヲ報收スルコト既ニ舊例ニ違フ凡ソ此大神ハ天下ノ貴社ナリ是ノ如キ
ノ類元來禁スル所ナリ而ルニ今諸神ニ准シテ國司檢按スルコト事ニ於テ穩ナラスト宣ス宜ク例ニ
依テ國司ニ預ルコト勿ルヘシト厥ヨリシテ後宮司檢納シテ祭料ニ充テ用フ但物ヲ神宮及ヒ離宮ヲ
造ルノ用ニ充ラレ殘ル所數少クシテ祭用欠ルコトアリ仍テ更ニ欠料ヲ請ヘリ即チ太政官去シ弘仁
六年六月九日神宮并ニ國司ニ下ス符ニ曰ク云々年中神事一トシテ闕クヘキコト難シ當國ノ神稅殘
ル所數少シ望請フ他國ノ神稅ヲ欠ク所ノ料ニ充テ用ヒント宣ス他國ニ有ル所ハ徒ニ積テ用フルコ
ト希ナリ當國納ル所ハ用ニ隨テ已ニ盡ク縱ヒ要須有レトモ卒爾ニ何ソ支ヘン宜ク他國ノ神稅ヲ以
テ一ニ年中ノ雜用料ニ充ツヘシ其當國ノ神稅ハ每年備ヘ置ケ若シ已ムコトヲ得スシテ必ス用フヘ
キ者ハ先ツ申シテ後ニ用ヒヨト此ヨリ國司始テ亦預リ納ム須ラク符旨ニ依テ充テ用ヒシムヘシ而
ルニ年中祭用ノ稻合テ四萬一千一百九十束一把今他國ニ在ル神戶合テ百三十一烟輸ス所ノ租五千
二百五十束例用ヲ除ク外遺ル所亦一千五百八十五束亦當國出ス所ノ租三萬五千束爰ニ當國他國ノ
神稅合テ三萬六千五百八十五束即チ共ニ充テ用フルモ猶欠ル所ノ稻四千六百五十束其代ハ正稅ヲ
借リ用ヒ輸ス所ノ租ヲ割テ即便チ填進スト雖モ而モ年毎ニ殘ル封納有テ煩ヲ爲ス望請フ煩シク國
司ニ預ルコトヲ停テ神宮司ヲシテ舊ニ依テ檢納シ預リ以テ支用シ其祭事ヲ濟サシメン但正稅ヲ借
リ請フテ欠料ニ充ルハ永ク停止ニ從ハント勅ス請ニ依レ類聚三

〔清和天皇貞觀二年十一月九日太政官符〕神祇官去シ閏十月廿九日ノ解ニ曰ク大和伊賀伊勢志摩尾
張參河遠江等ノ國司論シテ云ク去シ延曆廿年七月二日ノ格ニ云ク案内ヲ檢スルニ太政官四月十四
日ノ符ニ云ク自今以後神戶ハ限ルニ二丁ヲ以テシ田租ハ十五束ニ定メント丁減シ物少フシテ供祭
應ニ乏カルヘシ宜ク天下ノ諸社同ク共ニ丁并ニ租數ヲ改張シテ一ニ舊例ニ依ルヘシ云々類聚三代格
條中ニ
具レリ

本封 卅戶
新封 廿五戶

租穀百石

遠江國 五十戶
代米百六十三石五斗

租穀二百石代七十

近江國 五十戶

代米三百六十六石二升

租穀二百石代八十五

美濃國 五十戶

代米三百六十六石二升

信濃國 廿五戶

代米百八十三石一升

上野國 廿五戶

代米 〇神宮雜例案〇事
封戸條中具レリ

紀伊國雜掌解申注進弘福寺雜物所濟

料封戸百烟 代九十七石四斗八合

租白米廿四石八斗五升八合

遠江國雜掌解申注進東寺御封所濟

料 百五十烟 代二百八十三石一斗二升二合

租穀六百石代百八十

紀伊國雜掌解申注進弘福寺御封代所濟

料 百烟 代百五石四斗八合

租白米廿四石八斗五升八合東寺百合古文書〇事
寺封戸條中具レリ

〔按〕以上ノ文書ニ據ルニ神寺ノ封戸毎烟租穀四石ト爲ス而シテ神宮封戸遠江國ハ五十戸ノ租穀二百石代米七十八石近江國ハ租穀二百石代米八十五石五斗二升東寺封戸遠江國百五十烟ノ租穀六百石代米百八十八石ト爲ス乃チ租穀ハ遠江國ニシテ代米ハ實額ナリ其現收神宮遠江ノ封租ハ石別三斗九升ニシテ一月一石五斗六升近江ノ封租ハ石別四斗二升七合六勺ニシテ一月一石七斗一升四勺東寺遠江ノ封租ハ石別三斗ニシテ一月一石二斗ニ當レリ諸國總封戸ノ代米ハ調絹唐米中男作物油封丁等ノ代米ヲ合セテ之ヲ言フ復々此ニ一々セス

免 租

〔按〕上古實租獨免ノ典得テ徵ス可ラス仁德天皇大仁ノ舉有シヨリ歷世斯典有リ其所由ナ尋ルニ御即位改元建都造宮行幸並ニ大嘗會祥瑞豐稔凶災疾苦軍事兵亂孝子節婦等ノ爲ニ之ヲ舉行セラル而シテ凶災ノ爲ニスルモノ最モ多シトス蓋シ租照ノ化上下同體以テ吉凶憂樂ヲ借ニスルニ出ルナリ抑モ當時世實事簡ニシテ倉庫餘リ有リ且慶賀給與賑救饑饉等一切實租ヲ減免シテ以テ之ニ充ツ免租殊ニ多キ所以ナリ而シテ損田ニヨリ其租ヲ減免スルハ特典ニ異ナリト雖モ亦凶災免租ノ事ニ屬ス因テ併セテ之ヲ取り年序ニ隨テ以テ錄載ス看者宜ク參酌スヘシ

〔仁德天皇四年三月廿一日詔〕今ヨリノ後三載ニ至ルマテ悉ク課役ヲ除キ百姓ノ苦ヲ息ヘヨ是日ヨリ始テ褸衣鞋履弊盡セサレハ更ニ爲ラス温飯暖羹酸醃セサレハ易ヘス心ヲ削シ志ヲ約シ以テ無爲ニ從事ス是ヲ以テ宮垣崩レテ而シテ造ラス茅茨壞レテ以テ茸カス風雨隙ニ入テ衣被ヲ沾シ星辰燦レヨリ漏レテ床褥ヲ露ス是後風雨時ニ順ヒ五穀豐稔三稔ノ間百姓富ミ寛カニ頌德既ニ滿チ炊烟亦繁シ日本書紀古事記

〔按〕書紀ニ云四年二月甲子天皇薛臣ニ詔シテ曰ク朕高臺ニ登テ以テ遠ク之ヲ望ムニ烟氣城中ニ起タス以爲フニ百姓既ニ貧クシテ而シテ家ニ炊者無キカ朕聞ク古聖王ノ世ニハ人々德ヲ祿スルノ音ヲ誦シテ家々康哉ノ歌存リ今朕億兆ニ臨テ茲ニ三年頌音聆ヘス炊烟轉々疎ナリ即チ知ル五穀登ラス百姓窮乏スルチ封畿ノ内尙ホ給セサル者アリ況ヤ畿外諸國テヤト是ニ至テ途ニ斯恩典ヲ煥發セラルナリ

〔七年九月〕諸國悉ク請テ曰ク課役並ニ免シテ既ニ三年ヲ經タリ此ニ因テ以テ宮殿朽壞シ府庫已ニ空シ今黔首富饒ニシテ遺テタルヲ拾ハス是以テ里ニ餘寡無ク家ニ餘儲アリ若シ此時ニ當テ稅調ヲ貢シテ以テ宮室ヲ修理スルニ非サレハ懼クハ其レ罪ヲ天ニ獲ント然レトモ猶之ヲ忍テ應サス日本

〔按〕本文課役ヲ免ス云々又稅調ヲ貢ス云々蓋シ課ハ田租ノ類ナリ後ハ庸役ニシテ調ハ貢調ナリ是時租庸調ノ目未ダ定立セスト雖モ三事自ラ已ニ備ルコト知ルベシ書紀ニ云七年四月辛未朔天皇聖上ニ居テ而シテ遠ク之ヲ望ムニ烟氣多ク起シ是日皇后ニ語テ曰ク朕既ニ宮中ニ坐シテ皇太后何チカ富メリト謂フ天皇曰ク烟氣國ニ滿シ百姓自ラ富ム皇太后ノ宮垣壞レテ而シテ修ルヲ得ズ殿屋破レテ衣被露ス何チカ富メリト謂フ天皇曰ク其レ天ノ若チ立ル是レ百姓ノ爲ナリ然ラハ則チ君ハ百姓ヲ以テ本ト爲ス是チ以テ古ハ聖王ハ一人飢ニ寒ルトキハ順テ身ヲ賣ム今百姓貧キハ朕力貸キナリ百姓富ムハ朕力富ムナリ未ダ百姓富テ君貧キコト有ラサルナリト此ニ至テ諸國盡ク課役並ニ免センコトヲ請ヘトモ猶之チ聽サレズ通計七年ニシテ十年十月ニ至リ始メテ課役ヲ科シテ以テ宮室ヲ修造ス是ニ於テ百姓老チ扶ク幼チ携ヘ村ヲ遷ヒ其チ其ヒ日夜ヲ問ハスカチ竭シテ争ヒ作ル是チ以テ未ダ幾時ヲ經スシテ而シテ宮室悉ク成ルト云フ

〔天智天皇五年七月〕大水アリ是秋租調ヲ復ス日本
〔按〕賦役令ニ云復ハ復除ナリ集解ニ云免稅ナリ要全ク免除スルヲ謂フ是條恩典圖ニ及フト一方隅ニ止ルト明カスル所無シ姑ク之ヲ闕知ス

〔天武天皇十年八月十日〕三韓諸人ニ詔シテ曰ク先日十年ノ調稅ヲ復スルコト既ニ訖ル且加以ス歸化ノ初年俱ニ來ルノ子孫ハ並ニ課役悉ク免ス日本
〔按〕賦役令ニ云外蕃ノ人投化スル者ハ復スルコト十年其家人奴婢放ダレテ戶貫ニ附ケ者ハ復スルコト三年ト凡ソ歸化ノ者ハ特ニ恩恤ヲ加ヘテ之ヲ撫安スルナリ

〔京〕書紀實ニ作ル類史一本ニ據テ之ヲ改ム

〔持統天皇四年九月十一日〕詔朕將ニ紀伊ニ巡幸セントスルノ故ニ今年京師ノ田租口賦ヲ收ルコト勿レ日本書紀

〔文武天皇元年八月十七日〕今年ノ田租雜徭并ニ庸ノ半ヲ免シ又今年ヨリ始テ三箇年大稅ノ利ヲ收メス高年老人ニ加恤ス日本書紀

〔按〕是月朔日天皇禪ヲ受ケ位ニ即ク恩典益シ之ニ由ルナリ

〔閏十二月七日〕播磨備前備中周防淡路阿波讚岐伊豫等ノ國飢ニ之ヲ賑給シ又負稅ヲ收ルコト勿シシム日本書紀

〔三年三月九日〕河内國白鳩ヲ獻ス詔シテ錦部郡一年ノ租役ヲ免ス又瑞ヲ獲ル人犬養廣麻呂ノ戶ニ復二年ヲ給フ日本書紀

〔大寶元年十月九日〕當年ノ租調并ニ正稅ノ利ヲ收ルコト勿ラシム唯武備郡ハ本利並ニ免ス日本書紀

〔二十日〕忽ニ從テ諸國ノ騎士當年ノ調庸及ヒ擔夫ノ田租ヲ免ス日本書紀
〔按〕此二條ノ恩免紀伊國武瀨ノ温泉ニ行幸アルニ由ルナリ

〔本上天皇〕持統天皇ナリ

〔二年四月八日〕飛驒國神馬ヲ獻ス云々百姓ニ復三年ヲ賜フ又諸國今年ノ田租ヲ免シ并ニ庸ノ半ヲ減ス日本書紀

〔十月十日〕太上天皇參河國ニ幸ス諸國ヲシテ今年ノ田租ヲ出スコト無ラシム日本書紀
〔令〕凡ソ田ニ水旱蟲霜不熟ノ處アラハ國司實ヲ檢シ具ニ錄シテ官ニ申セ十分ニシテ五分以上ヲ損セハ租ヲ免セ七分ヲ損セハ租調ヲ免セ八分以上ヲ損セハ課役俱ニ免セ若シ桑麻損シ盡キハ各調ヲ免セ其已ニ役シ已ニ輸スハ來年ヲ折スルコトヲ聽ルセ令

〔壬〕書紀實ニ作ル類史一本ニ據テ之ヲ改ム

〔慶雲元年五月十日〕備前國神馬ヲ獻ス西樓ノ上慶雲見ユ詔シテ天下ニ大赦シ改元シテ慶雲元年ト爲ス高年老疾並ニ賑恤ヲ加フ又壬寅ノ年以往ノ大稅及ヒ神馬ヲ出ス郡ニ當年ノ調ヲ免ス日本書紀

〔十月五日〕詔有テ水旱時ヲ失ヒ年穀稔ラサルヲ以テ課役并ニ當年ノ田租ヲ免ス日本書紀

〔元明天皇慶雲四年七月十七日〕天皇位ニ大極殿ニ即ク詔シテ曰ク云々京師畿内及ヒ太宰所部ノ諸國ニハ今年ノ調天下ノ諸國ニハ今年ノ田租ヲ復セヨ日本書紀

〔和銅二年十月廿八日〕詔比者都ヲ遷シ邑ヲ易ヘ百姓ヲ搖動ス鎮撫ヲ加フト雖モ未ダ安堵スルコト能ハス每ニ此ヲ念テ朕甚タ慰ム宜ク當年ノ調租並ニ悉ク之ヲ免スヘシ日本書紀

〔發〕續紀原ニ
作ル今類史ニ
從フ

〔五年九月三日詔〕云々伊賀國司阿直敬等獻スル所ノ黑狐即チ上瑞ニ合フ云々瑞ヲ出ス郡ニ庶ヲ免
シ瑞ヲ獲ル人戸ニ復三年ヲ給フ天下諸國今年ノ田租并ニ大和河内山背三國ノ調並ニ之ヲ原免セヨ
類日本紀
類聚國史

〔七年十月朔日〕美濃武藏下野伯耆播磨伊豫ノ六國大風屋ヲ發ク仍テ當年ノ租調ヲ免ス
〔元正天皇靈龜元年九月二日〕禪ヲ受テ位ニ大極殿ニ即ク詔シテ曰ク云々粵ニ左京職ヨリ貢スル所
ノ瑞龜ヲ得タリ臨位ノ初天嘉瑞ヲ表セリ天地ノ祝施酬ヒサルヘカラス其レ和銅八年ヲ改テ靈龜元
年ト爲セ云々天下今年ノ租ヲ免セヨ
類日本紀
類聚國史

〔養老元年九月廿二日〕不破當者二郡今年ノ田租及ヒ方縣務義二郡ノ百姓行宮ニ供スル者ノ租ヲ免
ス
類日本紀
類聚國史

〔按〕此月二十日美濃國當耆郡多度山ノ美泉ニ幸ス故ニコノ免租アリ次條亦同シ

〔廿七日〕志我依知二郡今年ノ田租及ヒ行宮ニ供スル百姓ノ租ヲ免ス
類日本紀
類聚國史

〔四年三月十七日〕太政官奏ス百姓ノ間稻ヲ負フ者多ク還ス可キコト無キニ緣テ頻ニ歲月ヲ經タリ
若シ切ニ徵スコトヲ致サハ因テ即チ進散セン望請フ養老二年以前ヲ限リ公私ヲ論スルコトナク皆
放免ニ從ハン庶クハ貧乏ノ百姓ヲシテ各家業ヲ存セシメ云々望請フ逃テ六年以上ヲ經能ク過ラ
悔ヒ歸ル者ハ復一年ヲ給ヒ其產業ヲ繼カシメント奏ス之ヲ可ス
類日本紀
類聚國史

〔十一月廿六日勅〕陸奥石背石城ノ三國ハ調庸并ニ租之ヲ減セヨ唯遠江常陸美濃武藏越前出羽ノ六
國ハ征卒及ヒ所馬從等ノ調庸并ニ房戸ノ租ヲ免セヨ
類聚國史

〔按〕續日本紀本年九月ノ條ニ蝦夷反亂云々ノ事有リ今此文ヲ考ルニ蓋シ其時軍旅ヲ與シ馬ヲ出スノ地及ヒ軍旅留所ノ
地人民ノ勞子戀スル爲ニ此恩免有ルカ

〔六年八月十四日詔〕聞カ如キハ今年雨少ク禾稻熟セス其レ京師及ヒ天下諸國當年ノ田租並ニ宣ク
之ヲ免スヘシ
類日本紀
類聚國史

〔房戸〕房係ヲ
出ス月ヲ謂フ

〔七年十月廿三日詔〕今年九月七日左京ノ人紀家獻スル所ノ白龜ヲ得タリ云々是ニ知ル天地ノ靈祝
國家ノ大瑞ナルコトヲ云々龜ヲ出ス郡ハ今年ノ租調ヲ免セヨ
類日本紀
類聚國史

〔按〕儀制令ニ云凡ソ祥瑞ノ應見麟鳳龜龍ノ類ノ若キ圖書ニ依ルニ大瑞ニ合ヘリ隨テ即チ奏奏セヨ上瑞以下ハ並ニ所同ニ
申シ元日ニ以聞セヨ其高獸ノ類生ナカラ獲ルコトアラハ仍テ其本性ヲ達ケシメテ之ヲ山野ニ放テ餘ハ皆治部ニ送レ若シ
獲ヘカラス及ヒ木連理ノ類送ルヘカカラサル者アラハ所在ノ官司奏給スルニ慮ニ非レハ具ニ雷圖シテ上レ其須ラケ賞スヘ
キ者ハ臨時ニ勅ヲ聽ケト然トモ其名物ヲ載セス唐書百官志ナ開スルニ星星慶雲ヲ大瑞ト爲シ白狼赤兔ヲ上瑞ト爲シ若
朱鳳ヲ中瑞ト爲シ嘉禾芝草木連理ヲ下瑞ト爲ス後世復々祥瑞ノ典ヲ舉用セス錄シテ以テ參考ニ備ルノヨ

〔聖武天皇神龜元年十月十六日〕紀伊國ノ百姓今年ノ調庸名草海部二郡ノ田租成ク之ヲ免ス
類日本紀
類聚國史

〔按〕五日紀伊國ノ行宮ニ行幸アリ風免蓋シ之ニ由ルナリ

〔三年九月十三日詔〕今秋大ニ稔シ民産豐實ス天下ト茲歡慶ヲ共ニセンコトヲ思フ宜ク今年ノ田租
ヲ免スヘシ
類日本紀
類聚國史

〔天平元年八月五日〕天皇大極殿ニ御シ詔シテ曰ク云々是ヲ以テ神龜六年ヲ改テ天平元年ト爲シ而
シテ天下ニ大赦セヨ云々又左右兩京今年ノ田租左京僧尼ノ父今年出ス所ノ租賦及ヒ太宰府ニ到ル
路次驛戶ノ租調神龜三年ヨリ已前ノ官物未納ハ皆免セヨ云々又諸國ノ天神地祇ハ宜ク長官ヲシテ
祭ヲ致サシムヘシ若シ限外應ニ祭ルヘキ山川有ラハ祭ルコトヲ聽ルシ即チ祝部ニ今年ノ田租ヲ免
セヨ
類日本紀
類聚國史

〔三年八月廿五日詔〕聞カ如キハ天地ノ祝フ所豐年最モ好シ今歲登穀ス朕甚ク之ヲ嘉ス天下ト共ニ
斯慶ヲ受ケンコトヲ思フ宜ク京及ヒ諸國今年田租ノ半ヲ免スヘシ但淡路阿波讚岐隱岐等ノ國ノ租
并ニ天平元年以往公私未納ノ稻ハ成ク之ヲ免除セヨ
類日本紀
類聚國史

〔六年三月十六日〕云々難波宮ニ供奉スル東西二郡今年ノ田租調自餘十郡ノ調ヲ免ス
類日本紀
類聚國史

〔按〕十日難波宮ニ行幸アルニ由ルナリ

〔四月三日〕河内國安宿大縣志紀三郡今年ノ田租ヲ免ス竹原井ノ頓宮ニ供スルヲ以テナリ
類日本紀
類聚國史

〔廿三日〕諸道ノ健兒儲士選士ノ田租并ニ雜徭ノ半ヲ免ス續日本紀
〔八年十月廿二日〕詔聞カ如キ。比年太宰管スル所ノ諸國公事稍繁ク勞役少カラス加以去冬疫疠シテ男女總テ困ミ農事廢スルコト有テ五穀饒ナラス宜ク今年ノ田租ヲ免シテ民命ヲ續カシムヘシ續日本紀

〔十一月十九日〕詔シテ京四畿内及ヒ二監國今年ノ田租ヲ免ス秋稼頗ル損スルヲ以テナリ續日本紀
〔九年八月十三日〕詔云々春ヨリ已來災氣連ニ發シ天下ノ百姓死亡實ニ多ク百官人等闕卒少カラス良ニ朕ノ不徳ニ由テ此災殃ヲ致ス天ヲ仰テ慙惶シ敢テ寧處セス故ニ百姓ヲ優復シ存濟ヲ得セシムヘシ天下今年ノ租賦及ヒ百姓宿負ノ公私稻ヲ免シ公稻ハ八年以前私稻ハ七年以前ヲ限トセヨ續日本紀

〔十年十月三日〕京畿内芳野和泉暨今年ノ田租ヲ免ス續日本紀
〔按〕是歲正月立儲ノ事アリ免租或ハ之ニ由ルカ

〔十二年六月十五日勅〕朕八荒ニ君臨シテ萬姓ヲ奄有ス薄ヲ履ミ朽タルヲ馭シテ情覆育ニ深シ衣ヲ求メ寢ヲ忘テ切ニ理恒ヲ納ル念フニ何ソ上玄ニ答ヘン人民休平ノ樂アリ能ク明命ニ稱フテ國家寧泰ノ榮ヲ致セリ云々宜ク天下ニ大赦スヘシ云々天平十一年以前公私負フ所ノ稻悉ク皆原免セヨ續日本紀

〔十一月四日〕和運野ニ遊獵シ當國今年ノ租ヲ免ス續日本紀
〔十三年八月十五日〕佐渡國去シ六月ヨリ今月ニ至ルマテ霖雨止マズ民產ヲ傷ルコトアリ當年ノ田租調庸ヲ免ス續日本紀

〔九月四日〕左右京百姓ノ調租四畿内ノ田租ヲ免ス遷都ニ縁テナリ續日本紀
〔十四年十一月五日〕左右京畿内今年ノ田租ヲ免ス續日本紀

〔按〕是歲九月大風雨宮中屋塌及ヒ百姓ノ廢舍ヲ壞シ免租或ハ之ニ由ルカ

〔十五年九月廿一日〕甲賀郡ノ調庸畿内ニ准シテ之ヲ收ム又當年ノ田租ヲ免ス續日本紀
〔按〕七月近江國樂音樂宮ニ行幸アリ免租蓋シ之ニ由ルナリ

〔十七年四月廿七日〕詔シテ巡察使ノ上奏ニ依テ天下諸國去年ノ田租ヲ原免ス續日本紀
〔按〕前年九月勅シテ巡察使ヲ畿内七道ニ遣ハシ郡國官司ノ不法私曲ヲ糾糾セシム上奏蓋シ之ニ由ルナリ

〔十八年三月七日勅〕右京ノ人尾張王白龜一頭ヲ獲タリ云々實ニ大瑞ニ合ヘリ云々宜ク天下六位以下皆一級ヲ加ヘ孝子順孫義夫節婦及ヒ力田ノ者ニ二級唯正六位上ハ當戶今年ノ租ヲ免シ其餘ヲ進ル人ハ特ニ從五位下ニ叙シ物ヲ賜フコト例ニ准シ龜ヲ出ス郡ハ今年ノ租調ヲ免スヘシ續日本紀

〔十九年七月七日詔〕去シ六月ヨリ京師亢旱ス是ニ由テ幣帛ヲ名山ニ奉シ雨ヲ諸社ニ祈ル至誠驗無クシテ苗稼憔悴セリ此レ蓋シ朕ノ政教民ニ不徳ナルカ宜ク左右京今年ノ田租ヲ免スヘシ續日本紀
〔二十年十月廿八日詔〕京畿七道諸國ノ田租ヲ免ス續日本紀

〔按〕四月太上天皇崩ス因テ此恩與アルカ
〔天平勝寶元年五月廿七日〕天下今年ノ田租ヲ免ス續日本紀
〔按〕是歲二月陸奥國ヨリ始テ黄金ヲ貢ス免租蓋シ之ニ由ルナリ

〔孝謙天皇天平勝寶二年十二月九日〕金ヲ出スノ郡今年ノ田租ヲ免ス續日本紀
〔按〕三月陸奥國守從五位下檜原遠東人等郡内ノ檜原郡多故濱ニ於テ黄金ヲ獲テ之ヲ獻ス金ヲ出ストハ之ヲ言フナリ

〔五年十二月十一日〕攝津國湖ニ遭フ諸郡今年ノ田租ヲ免ス續日本紀
〔十三日〕西海道ノ諸國秋稼多ク損セリ今年ノ田租ヲ免ス續日本紀

〔八年三月二日〕詔シテ河内攝津二國ノ田租ヲ免ス續日本紀
〔按〕前月難波ニ行幸シ河内河内ニ至リ行宮ニ御ス恩免蓋シ之ニ由ルナリ

〔五月三日〕天下諸國今年ノ田租ヲ免ス續日本紀
〔按〕四月太上天皇不豫ノ事アリ恩免蓋シ之ニ由ルナリ
〔天平寶字元年四月四日〕内舍人藤原朝臣薩雄中衛二十人ヲ遣シテ大炊王ヲ迎ヘ立テ、皇太子トナ

〔勝〕類史感ニ
作ル是歲四月
天平二十一年
改テ天平感
又改テ天平
實ト爲ス

〔一監國〕國造
本紀ニ云
元年芳野
置ク續和
監國二年
和泉

〔山陵司〕山陵

ヲ造營スルノ

司ナリ職員令

ニ云諸陵司令

職ヲ祭リ喪葬

凶禮及ヒ喪葬

名籍ノ事ヲ掌

ル

〔大頭〕軍防令

ニ云兵士十人

ヲ一六ト爲ス

〔吹吹日〕解前

篇ニ見エヨリ

〔呂〕本自ニ作

ル今類史ニ從

〔保良宮〕考證

ニ云西大寺寶

財藏寶庫保

良殿ヲ載ス

ス云々東大寺ノ匠丁造山陵司ノ役夫及ヒ左右京四畿内伊賀尾張近江丹波丹後但馬播磨美作備前伊等ノ國ノ兵士并ニ防人鎮兵衛士火頭仕丁鼓吹戸ノ人輸車戸ノ頭並ニ今年ノ田租ヲ免ス〔類聚國史〕

〔八月十八日勅〕朕寡薄ヲ以テ添ク洪基ヲ繼キ八方ニ君臨スルコト茲ニ九歳云々爰ニ駿河國益頭郡ノ人金刺舍人麻呂登兒ノ字ヲ成ヌヲ獻スルヲ得タリ云々宜ク天下勝實九歳ヲ改テ天平寶字元年トナスヘシ云々宜ク天平勝實八年ヨリ已前舉物ノ利悉ク應ニ除免スヘシ又今年晚稻稍亢旱ニ逢フ宜ク天下諸國田租ノ半ヲ免スヘシ寺神ノ封ハ此例ニ在ラス〔類聚國史〕

〔淳仁天皇天平寶字二年八月朔日〕高野天皇位ヲ皇太子ニ禪ル詔シテ曰ク云々百官司人諸國ノ兵士鎮兵傳驛戸等今年ノ田租ハ免セヨ〔類聚國史〕

〔三年十一月二日詔〕聞カ如キハ去シ十月中大風百姓ノ廬舍竝ニ破壊セラルト是ヲ以テ其舍ヲ修シシメンカ爲ニ今年ノ田租ヲ免セヨ〔類聚國史〕

〔四年十一月六日勅〕先歲逆徒アリテ家羅網ニ挂リ今年巡察シテ人憲章ヲ畏ル云々天下ノ逋租調官物未納已ニ言上セル者悉ク之ヲ赦除セヨ〔類聚國史〕

〔五年十月廿八日詔〕平城宮ヲ改作スルカ爲ニ暫ク移テ近江國保良宮ニ御ス云々當國ノ百姓及ヒ左右京大和泉山背等ノ國今年ノ田租ヲ免セヨ〔類聚國史〕

〔十一月十七日〕從四位下藤原惠美朝臣朝狩ヲ以テ東海道節度使ト爲ス云々遠江駿河伊豆甲斐相模安房上總下總常陸上野武藏下野等ノ十二國ニ船二百五十二隻兵士一万五千七百八十八人水手七千五百二十人ヲ檢定ス云々從三位百濟王敬福ヲ南海道使ト爲ス云々紀伊阿波讚岐伊豫土佐播磨美作備前備中備後安藝周防等ノ十二國ニ船二百二十一隻兵士一万二千五百八十二人水手四千九百二十人ヲ檢定ス正四位下吉備朝臣眞備ヲ西海道使ト爲ス云々筑前筑後肥前豐前豐後日向大隅薩摩等ノ八國ニ船二百二十一隻兵士一万二千五百八十二人水手四千九百二十人ヲ檢定

ス皆二年ノ田租ヲ免シ悉ク弓馬ニ赴キ兼テ五行ノ陳ヲ調習セシム〔類聚國史〕
〔六年二月十二日〕伊勢近江美濃越前等ノ四國郡司ノ子弟及ヒ百姓年四十已下二十已上ノ弓馬ニ練習スル者ヲ簡點シテ以テ健兒ト爲ス其死關及ヒ老病ノ者アラハ即チ以テ替ヲ與フ仍テ天平六年四月二十一日ノ勅ニ准シテ其身ノ田租及ヒ雜徭ノ半ヲ除ク〔類聚國史〕
〔七年正月十五日詔〕聞カ如キハ去シ天平寶字五年五穀登ラス飢饉スル者多シ宜ク其五年以前公私ノ債負アリ貧窮ニシテ公物ヲ備償スルニ堪ヘサル者ハ咸ク原免ニ從ヒ私物ハ利ヲ除キ本ヲ收ムヘシ又造宮ニ役使スル左右京五畿内及ヒ近江國ノ兵士等ハ寶字六年ノ田租並ニ之ヲ免セヨ〔類聚國史〕
〔八月朔日勅〕聞カ如キハ去歲霖雨今年元早五穀熟セス米價踊貴ス云々宜ク左右京五畿内七道諸國今年ノ田租ヲ免スヘシ〔類聚國史〕
〔八年十月十六日勅〕云々頃年水旱シテ荐リニ豐稔ヲ失ヒ民或ハ飢乏シ仍テ以テ軍興レリ宜ク天下今年ノ租ヲ免スヘシ〔類聚國史〕
〔稱徳天皇天平神護元年三月二日勅〕比年旱ニ遭テ歲穀登ラス云々備前備中備後三國多年元早シテ荒弊尤モ深シ茲ニ因テ負フ所ノ正稅進納スルコトヲ得ス宜ク天平寶字八年以前ノ官稻未納ハ咸悉ク之ヲ免スヘシ〔類聚國史〕
〔十月廿二日詔〕紀伊國今年ノ調庸皆原免ニ從ヘ其名草海部二郡ハ調庸田租並ニ免セヨ〔類聚國史〕
〔按〕是月十三日行幸アリ恩免益シ之ニ由ルナリ

〔閏十月三日詔〕河内和泉今年ノ調庸原免ニ從ヘ其河内國大縣若江二郡和泉國三郡ノ田租亦免セヨ〔類聚國史〕
〔二年六月廿六日勅〕聞カ如キハ左右京及ヒ大和國天平神護元年ノ田租未タ全ク輸了セス誠ニ頻年登ラス百姓乏絶スルカ爲ニ宜ク輸了ヲ除クノ外悉ク原免スヘシ〔類聚國史〕

〔延曆二年十月十六日〕詔シテ當郡今年ノ田租ヲ免ス本紀

〔按〕十四日河内國交野郡ニ行幸アリ恩免蓋シ之ニ由ルナリ

〔三年十一月朔日勅〕十一月朔旦冬至ハ是レ歷代ノ希遇ニシテ王者ノ休祥ナリ云々公卿以下宜ク普賜ヲ加ヘ京畿當年ノ田租並ニ之ヲ免スヘシ本紀

〔十二月二日〕詔シテ造宮ノ勞有ル者ニ爵ヲ賜ヒ又役夫ヲ進ル國今年ノ田租ヲ免ス本紀

〔按〕十一月天皇長岡宮ニ移幸ス造宮免租蓋シ之ニ由ルナリ

〔四年五月十九日〕是ヨリ先キ皇后宮ニ赤雀見ユ是日詔シテ曰ク云々宜ク正六位上ハ戸ノ今年ノ租ヲ免セヨ其山背國ハ皇都初テ建テ既ニ楚下タリ慶賞ノ被ル所常倫ニ殊ナルヘシ今年ノ田租特ニ宜ク免セシムヘシ又長岡村ノ百姓ノ家大宮處ニ入ル者ハ一ニ京戸ノ例ニ同フセヨ本紀

〔八年八月晦日勅〕陸奥國軍ニ入ル人等今年ノ田租宜ク皆之ヲ免シ兼テ復二年ヲ給フヘシ其壯鹿小田新田長岡志太玉造富田色麻加美黑川等ノ一十郡賊ト居ヲ接ス等ヲ同フスヘカラス故ニ復年ヲ延本紀

〔九年閏三月十六日詔〕朕寡德ヲ以テ寰區ニ臨馭ス云々其レ延曆三年ヨリ以往天下ノ百姓負フ所正稅未納ノ言上セル及ヒ調庸ノ未進ハ咸ク之ヲ免除セヨ縱ヒ未タ言上セスシテ徵納ニ由シ無キ者モ亦之ヲ免セヨ神寺ノ稻モ宜ク此例ニ准スヘシ本紀

〔九月十三日詔〕朕寡昧ヲ以テ忝ク寰區ヲ馭ス云々今聞ク京畿稔ヲ失フコト外國ヨリ甚シ兼テ疾疫アリテ飢饉ノ者衆シト宜ク左右京及ヒ五畿内今年ノ田租ヲ免シテ以テ弊ヲ息ムヘシ神寺ノ租モ亦宜ク此ニ准スヘシ本紀

〔十一月廿七日〕坂東諸國類ニ軍役ニ屬シ困ムニ疾旱ヲ以テス詔シテ今年ノ田租ヲ免ス本紀

〔十一年十一月廿八日〕永ク出羽國平鹿郡上置賜三郡ノ秋ノ田租ヲ免ス本紀

〔十三年十月廿八日〕詔シテ愛宕葛野二郡今年ノ田租ヲ免ス本紀

〔按〕是月廿二日都ヲ平安ニ遷ス恩免蓋シ之ニ由ルナリ

〔十六年六月廿八日詔〕云々天下ノ地都ヲ建ル者萬民勤苦殊ニ甚シ重テ宜ク今年ノ租ヲ免スヘシ又畿内ハ都下ニ接ス差發無キニ非ス宜ク半ハ之ヲ免スヘシ准大和國平群郡河内國高安郡去年霖ニ遭ヒ山阜頽崩シ損傷已甚シ特ニ全ク之ヲ免セヨ虛役ノ國ハ此限ニテラス本紀

〔十八年六月五日詔〕惟レ王國ヲ經スルハ德政ヲ先ト爲ス惟レ帝民ヲ養フハ嘉穀ヲ本ト爲ス云々時雍未タ洽チカラス陰陽和ヲ失ヒ去年登ラヌ稼穡害ヲ被ル其弊ヲ卷言スルニ懷ニ惻ムコトアリ宜ク寬恩ヲ敷テ彼各祥ニ答フヘシ其損ヲ被ルコト尤モ甚キノ處美作備前備後南海道ノ諸國肥前豐後等十一國ハ去年ノ田租特ニ全ク之ヲ免セヨ日本後紀

〔廿六日〕山城國乙訓葛野愛宕三郡ノ負租ヲ免ス日本後紀

〔七月廿三日〕備中國去年ノ租ヲ免ス風旱災ヲ爲シ五穀登ラサルヲ以テナリ日本後紀

〔十九年十一月二日詔〕云々其レ今年登ラヌ言上ノ國ハ宜ク田租ヲ免スヘシ日本後紀

〔廿一年八月三日〕相摸播磨美作備中備後安藝紀伊淡路阿波讚岐等ノ十國損田ノ百姓ノ負稅ヲ免ス日本後紀

〔九月三日〕伊賀伊勢尾張參河遠江駿河伊豆甲斐武藏上總下總常陸近江美濃上野下野越前越中能登越後丹波丹後但馬因幡伯耆出雲石見周防長門伊豫土左等ノ卅一國損田ノ百姓租稅ヲ免シテ調ヲ徵日本後紀

〔廿八日〕河内國今年ノ田租ヲ免ス日本後紀

〔廿二年閏十月廿七日詔〕云々粟太甲賀蒲生三郡今年ノ田租ヲ免セヨ日本後紀

〔按〕十六日天皇近江國蒲生野ニ行幸アリ恩免蓋シ之ニ由ルナリ

〔廿三年正月廿三日〕淡路國窮民ノ負稅九萬三千九百束ヲ免ス日本後紀

〔二月十八日〕大和國ノ田租并ニ地子ヲ免ス旱災ニ緣テナリ日本後紀

〔十月十日詔〕云々和泉國并ニ攝津國東生西成二郡ノ百姓今年ノ田租ヲ免セヨ日本後紀 類聚國史

〔十二日詔〕云々名草海部二郡ノ百姓今年ノ田租ヲ免セヨ日本後紀 類聚國史

〔按〕三日和泉國ニ行幸アリ恩免蓋シ之ニ由ルナリ

〔按〕十一日紀伊國玉出島ニ行幸アリ恩免蓋シ之ニ由ルナリ

〔平城天皇大同元年五月十八日〕位ニ大極殿ニ即ク詔シテ諸社ノ禰宜祝及ヒ諸寺ノ智行僧尼孝義人等ニ位一階ヲ給フ又五畿内饑寒孤獨ノ自存スル能ハサル者ニ物ヲ給ヒ又天下ノ言上セル未納ヲ免ス日本後紀

〔二年正月十三日〕丹後國加佐郡百姓ノ租調ヲ免ス水災殊ニ甚キヲ以ナリ類聚國史

〔相〕本缺ク今送史ニ續テ之ヲ補フ

〔十一月十二日〕太宰府言ス管内諸國水旱疾疫毎年相仍ル百姓彫亡シテ田園荒廢ス伏テ望ム特ニ田租ヲ免シ以テ窮弊ヲ濟ハン但國ノ損害ニ隨テ年ノ遠近ヲ定メント勅ス筑前肥前ハ宜ク二箇年ヲ免シ筑後豐前豐後日向大隅薩摩壹岐等ハ竝ニ一箇年ヲ免スヘシ類聚國史

〔三年五月五日勅〕聞カ如キハ大同元年洪水害ヲ爲シ餘弊未タ復セス去年以來疫癘流行シテ橫斃スル者衆シ云々宜ク大同元年水損ヲ被ルコト七分已上ノ戸ハ舉スル所ノ正稅未納悉ク免除ニ從フヘシ日本後紀 類聚國史

〔實〕本病ニ作ル今類史ニ從フ

〔嵯峨天皇弘仁元年正月十三日〕隱岐國大同元年以來ノ未納三万二千束ヲ免ス類聚國史

〔按〕此風典何ノ故ナルヲ知ラス前年五月五日ノ條ヲ以テ之ヲ推スニ蓋シ亦害ノ爲ナラン

〔廿一日〕土佐國香美郡ノ人物部文連全敷女ニ少初位上ヲ授ケ戸ノ田租ヲ免シテ以テ身ヲ終ヘシ其門閭ニ標シテ以テ節行ヲ旌ス類聚國史

〔十一月廿八日〕參河美作兩國ノ田租ヲ免ス大嘗ニ供奉スルヲ以テナリ日本後紀 類聚國史

〔二年十一月九日詔〕伊勢國頃年多事ニシテ百姓勞擾シ往年大嘗ニ供奉シテ頗ル轉運ニ疲ル云々宜ク今年ノ田租悉ク免シテ徵スルコト勿ルヘシ日本後紀 類聚國史

〔三年六月五日〕薩摩國蝗アリ通負ノ稻五千束ヲ免ス日本後紀 類聚國史

〔四年六月二日〕石見安藝ノ兩國大水アリ民ノ連租ヲ免ス類聚國史

〔十月五日〕大隅薩摩ノ二國蝗アリ未納ノ稅ヲ免ス類聚國史

〔同月〕筑後肥前豐前薩摩大隅ノ五國風フク民ノ租調ヲ免ス類聚國史

〔五年五月十八日〕出雲國意宇出雲神門三郡未納ノ稻十六萬束ヲ免除ス俘囚ノ亂アルニ緣テナリ類聚國史

〔七月廿一日〕大和河内兩國遠年未納ノ稻一十三万四千束ヲ免ス百姓窮乏シテ辨進ニ堪ヘサルヲ以テナリ日本後紀 類聚國史

〔十一月九日〕出雲國ノ田租ヲ免ス賊亂アリ及ヒ蕃客ニ供スルニ緣テナリ日本後紀 類聚國史

〔六年五月十四日〕薩摩國蝗アリ調庸田租ヲ免ス日本後紀 類聚國史

〔六月廿五日詔〕天黎元ヲ生シテ之カ司牧ヲ樹ツ云々夫レ百姓足ラズンハ君孰ト與ニ足ラン宜ク左右京畿内ヲシテ今年ノ田租ヲ免スコトナク務テ優恤ヲ存シテ朕カ意ニ副ハシムヘシ今年太宰府管内ノ諸國三箇年ノ田租ヲ免ス頻年登ラサルヲ以テナリ日本後紀 類聚國史

〔八年閏四月廿九日〕常陸國ノ人長幡部福良女ニ少初位上ヲ授ケ其戸ノ田租ヲ免シテ身ヲ終ヘシ以テナリ類聚國史

〔九月十日〕常陸國言ス去年十一月ノ格ニ依リ須ラク六年以上ヲ經シ夷俘ノ口分田ハ其租ヲ收ムヘシ而シテ夷俘等厚恩ニ當フト雖モ未タ貧乏ヲ免カレンス伏シテ望ム暫ク田租ヲ免シ以テ夷狄ヲ優セント之ヲ許ス類聚國史

〔九年八月十九日〕使ヲ諸國ニ遣シテ地震ヲ巡省ス其損害甚キ者ニハ賑恤ヲ加フ詔シテ曰ク云々今年ノ租調ヲ免シ并ニ民夷ヲ論セス正稅ヲ以テ賑恤セヨ類聚國史

〔九月十日詔〕云々畿内七道諸國言上セル弘仁八年以往租稅未納ノモノ一切徵スルコトヲ停メヨ其

左右京ノ民租去年已往懸負アルモノ言上不言上ヲ論セス亦原免ニ從ヘ類聚

〔十年七月廿五日勅〕安藝國土地墾薄其田下百姓農作スレトモ未タ盈儲有ラス是ヲ以テ去シ大同元年六箇歳ヲ限リ國內ノ田租十分ヲ率トシテ四ヲ免ス今年限既ニ滿ルト雖モ弊民未タ贖ラス宜ク更ニ延ルニ四年ヲ以テスヘシ類聚

〔十一月三日〕薩摩國蝗アリ田租ヲ免ス類聚

〔十一年四月九日詔〕上ヲ損シテ下ヲ益セハ民ノ悅ヒ驅リ無シ施舍責ヲ已ムルハ王政ノ貴フ攸ナリ頃者水旱適セス年穀登ラス云々天下百姓負フ所ノ租稅未納ノ言上セル及ヒ調庸ノ未進左右京後內ハ弘仁十年以前七道諸國ハ九年以前并ニ多少ヲ論セス咸宜ク蠲除スヘシ或ハ未タ言上セス追徵ニ由ナク竝ニ去年借貸貧民ノ逋負未報ノモノモ亦之ヲ免セヨ神寺ノ稻モ亦宜ク之ニ准スヘシ類聚

〔八月五日〕因幡伯耆石見安藝等四國未納ノ稻卅九萬九千束ヲ免ス類聚

〔十二年十月廿四日詔〕云々頃者陰精候ヲ失ヒ坎德災ヲ成ス河内國境害ヲ被ルコト尤モ甚シ秋稼之ヲ以テ淹傷シ下民其レニ由テ昏墊ス朕今事ニ即テ斯地ヲ經歷ス目ニ觸テ憂ヲ増ス兆庶何ノ辜アル其レ害ヲ被ル諸郡ハ三年ヲ給復セヨ尤モ貧下ナル者ハ去年ノ負稅未報及ヒ當年ノ租稅モ亦之ヲ蠲除セヨ其山城攝津ノ兩國地勢犬牙此ト相接ス此ヲ見テ彼ヲ知ル害必ス汎濫セン濱水ノ百姓資産ヲ流失スル者ハ今年ノ租稅ヲ出スコト勿レ類聚

〔十四年三月十九日〕下野國芳賀郡ノ人吉彌候部道足女ニ少初位上ヲ授ケ田租ヲ免シテ其身ヲ終ヘシメ門閭ニ標シテ以テ至行ヲ褒ス類聚

〔淳和天皇天長元年十一月十四日〕下野國ノ人三村部吉成女ヲ位二級ニ叙シ終身其戸ノ田租ヲ免ス節行ヲ旌スナリ類聚

〔二年三月廿一日〕常陸國ノ人丈部子氏女ヲ位二級ニ叙シ終身其戸ノ田租ヲ免ス用テ貞節ヲ旌スナリ類聚

〔六月三日〕節婦別公今虫賣ヲ位二級ニ叙シ終身戸ノ田租ヲ免ス以テ節行ヲ旌スナリ類聚

〔四年正月廿五日〕節婦豐前國ノ人難波部首子負賣ニ其戸ノ課役田租ヲ免シテ終身事勿ラシム類聚

〔五年三月廿九日〕筑前國ノ人難波部安良賣ヲ位二階ニ叙シ戸ノ田租ヲ免ス云々之ヲ名教ニ本クルニ孝節嘉スヘシ類聚

〔六年十月十九日〕甲斐國ノ人節婦上村主万女ヲ位二級ニ叙シ終身戸ノ田租ヲ免ス類聚

〔七年四月廿五日詔〕聞カ如キハ出羽國地震災ヲ爲シ山河變ヲ致ス云々所以ニ特ニ使臣ヲ降シ就テ存撫ヲ加フ其レ百姓居業震陷ノ者ハ使等所在ノ官司ト議量シテ當年ノ租調ヲ脱シ并ニ民吏ヲ論セス倉廩ヲ開テ賑ハシメヨ類聚

〔六月廿三日〕節婦伊豫國ノ人風早直益吉女ヲ位二階ニ叙シ終身其戸ノ田租ヲ免ス類聚

〔十年十月九日〕安藝國言ス加茂郡ノ人風早審麻呂德行懿美ニシテ孝養自ラ厚シ父母歿シテ後口五味ヲ絶テ哀慕ノ情暫モ忘ル、時ナント勅シテ三階ニ叙シ戸ノ田租ヲ免ス類聚

〔仁明天皇承和三年十二月七日〕安房國言ス安房郡ノ人伴直家主立性肅默常ニ孝道ヲ守リ父母歿シテ後口滋味ヲ絶テ廟ヲ建テ像ヲ設テ四時供養シ死ニ事ルコト生ルカ如ク未タ嘗テ懈倦セス其同心ヲ量ルニ孝子ト謂フヘシト勅ス宜ク三階ニ叙シ終身戸ノ田租ヲ免シテ門閭ニ旌スヘシ類聚

〔四年十一月十七日〕加賀國言ス菅能美郡ノ人財部造繼麻呂父母存スル日定省ノ禮其節ヲ失フコトナク歿シテ後操行變セスシテ朝夕哀慕ス隣里鄉邑推服セサルハナシ孝子ト謂フヘシト勅ス宜ク三階ニ叙シ終身其戸租ヲ免シ門閭ニ旌表シテ衆庶ヲシテ知ラシムヘシ類聚

〔五年十一月廿七日〕皇太子紫宸殿ニ於テ元服ヲ加フ詔ス云々承和四年以往言上セル租稅未納成ク免除ニ從ヘ類聚

〔七年六月十六日詔〕云々頃者備前旬ヲ淹テ莠殖或ハ損ス聞カ如キハ諸國飢疫シテ往々喪亡セリ云々但東海東山山陽三道驛戸ノ田租三箇年ヲ限テ殊ニ原免ニ從ヘ類聚

〔備九箇ニ早スルノ意ナリ易正義ニ云早ナ元陽ト曰フ早

〔善〕當ニ管ニ作ルヘシ管ハ所管ナリ

〔八年三月二日〕右京ノ人孝子衣縫造金繼女河内國志紀郡ニ居住シ年十二歲始テ親父ヲ失フ泣血人ニ過ク云々母年八十ニシテ死ス哀聲絶タス常ニ墳墓ヲ守ル勅シテ三階ニ叙シ終身戸内ノ租ヲ免シ門閭ニ旌表シテ衆庶ヲシテ知ラシム後紀日本

〔七月五日詔〕云々聞カ如キハ伊豆國地震變ヲ爲シ里落完カラス人物損傷シ或ハ厭没セラレ震後紀日本カラス必ス批政ニ應スルナラン往躅ヲ瞻言シテ内懷ニ愧ツ傳ニ云ハスヤ人ハ惟レ邦ノ本本固ケレハ邦寧シト朕ノ中襟涼ニ字有ニ切ナリ故ニ今殊ニ中使ヲ發シ就テ慰撫ヲ加フ其レ人居散逸シテ生業陷失セル者ハ使等ト在所ノ國吏ト勸量シテ當年ノ租調ヲ除キ并ニ倉ヲ開テ賑救シ屋宇ヲ助修セヨ淪亡ノ徒務テ葬埋ニ從ヘ夫レ化ノ被ル所ハ華夷ヲ隔ルコト無ク惠ノ草ヲ攸ハ必ス中外ヲ該タリ宜ク民夷ヲ論セス普ク優恤ヲ施シ詳ニ寬弘ノ愛ヲ暢ヘテ朕カ推溝ノ懷ニ副フヘシ後紀日本

〔十一月五月十四日〕甲斐國言ス山梨郡ノ人伴直富成女年十五郷人三枝直平麻呂ニ嫁シテ一男一女ヲ生ム而シテ承和四年平麻呂死去ス厥後節ヲ守テ改メス云々勅ス宜ク終身其戸ノ田租ヲ免スヘシ即チ門閭ニ標シテ以テ節行ヲ旌ス後紀日本

〔二十日〕武藏國言ス多摩郡猪江郷ノ戸主刑部直道繼ノ戸口同姓真刀自伴同郷刑部廣主ノ妻ト爲テ四男三女ヲ生ム廿一年ヲ經テ夫乃チ死ス真刀自伴喪ニ居テ禮アリ云々其操行ヲ見ルニ節婦ト謂フヘシト勅ス宜ク特ニ位ニ階ヲ授ケ兼テ終身同戸ノ田租ヲ免スヘシ後紀日本

〔嘉祥元年六月十三日詔〕近コト太宰府白龜ヲ獻スルモノ有リ所管豐後國大分郡擬少領膳伴公室吉寒川ノ石上ニ於テ之ヲ得タリ云々其レ承和十五年ヲ改テ嘉祥元年ト爲セヨ云々天下ヲシテ今年ノ田租ノ半ヲ輸スコト無ク大分郡ハ嘉祥ノ出シ攸ナレハ全ク今年ノ田租ヲ免セシメヨ後紀日本

〔二年三月九日〕攝津國ノ節婦土師衣富女ニ特ニ位ニ階ヲ授ケ終身同戸ノ田租ヲ免ス後紀日本〔文德天皇嘉祥三年四月廿四日〕太政官今月十七日ノ詔旨ヲ宣シ京畿諸國ニ頒下シテ云ク今詔旨ヲ案スルニ去年已往言上セル租稅未納悉ク免除スヘシ宜ク官長ニ命シテ分明ニ搜檢スヘシ見ニ民

身ニ在ルハ即チ免除ニ從ヘ文德

〔策命〕唐制ニ祭服アリ天地ヲ祀ル等之ヲ用フ古ノ策命ニ本ク即チ策命ナリ

〔悠紀主基〕邦自ユキスキ悠紀ハ齊原主基ハ次ノ義ナリ

〔日下部〕本史早部ニ作ル今類史ニ從フ

〔九月十四日〕參議左兵衛督正四位下藤原朝臣助ヲ遣シテ賀茂大神社ニ向ハシム策命ニ曰ク云々爾ヲ獲ルノ人岑成等ヲ從六位上ニ叙シ物ヲ賜フコト例ニ准シ天下ノ祝部ニ各其租ヲ免セヨ又五畿内七道諸國承和六年以往ノ調庸未進ハ咸ク免除ニ從ヘ文德

〔十一月廿三日詔〕云々出羽州壤偏ニ銅龍ノ機ニ應シ邊府ノ黎毗空ク梟禽ノ害ヲ被ル云々其災ヲ弼ルコト尤モ甚ク自存スルコト能ハサルハ國ヲシテ商量シ租調ヲ蠲免セシメヨ文德

〔仁壽元年十一月廿七日策命〕云々大嘗會ニ參リ出テ來テ仕ヘ奉ル悠紀主基二國ノ國司郡司百姓咸ヒ同々ノ人番上已上ニ御物ヲ賜フ云々又悠紀ノ國今年ノ庸物主基ノ國今年ノ田租ヲ免セヨ文德

〔清和天皇貞觀元年十一月二十日詔〕云々悠紀ノ國今年ノ庸物主基ノ國今年ノ田租ヲ免セヨ文德

〔五年五月二日制〕下野國ヲ以テ大國ノ例ニ准シ三十九戸ノ損ヲ免セヨ三代

〔同日〕伊賀國名張郡ノ節婦伊賀朝臣道虫女ニ永ク戸内ノ田租ヲ免シ終身事勿ラシメ即チ門閭ニ表シテ以テ貞操ヲ旌ス三代

〔六年二月五日〕攝津國武庫郡ノ節婦日下部連氏成實年十六ニシテ右京ノ人文室真人武庫麻呂ニ嫁ク二十七年ヲ歷テ武庫麻呂死ス氏成實喪ニ居テ禮アリ死ニ事ルコト生ルカ如シ日ニ再食セス遂ニ改醮セス詔シテ位ニ叙シ戸内ノ田租ヲ免シ終身事勿ラシメ即チ門閭ニ表シテ以テ貞操ヲ旌ス三代

〔八月十三日〕節婦紀伊國名草郡ノ人伴連宅子ヲ位ニ叙シ戸内ノ田租ヲ免シ其門閭ニ表シテ以テ貞節ヲ旌ス三代

〔七年三月廿八日〕近江國言ス伊香郡ノ人石作部廣繼女生年十五始テ以テ出嫁ス三十七ニシテ其夫ヲ失フ常ニ墳墓ヲ守リ哭シテ聲ヲ斷タス專ラ同穴ヲ期シテ再嫁ニ心ナシ其意操ヲ量ルニ節婦ト謂フヘシト勅ス宜ク二階ニ叙シテ戸内ノ租ヲ免シ即チ門閭ニ表スヘシ三代

〔高安城〕河内志云高安郡高安ノ故城郡川ノ上ニ在リ

テ其明文アリ爾後ノ事概見ス可シ但臨時ノ制各國以テ用度ニ充テ且貯蓄以テ臨時ノ用ニ備ヘ其京師ニ輸送スルモノハ年料春米雜物等ニ過キス是ヲ以テ徵收國內ニ止ルモノ多シ宜ク納期運送等ノ條ト參觀スヘシ
〔清寧天皇二年十一月〕伊與來目部小楯郡縣ヲ巡行シテ田租ヲ收歛ス日本書紀
〔天智天皇八年十二月〕高安城ヲ修メ畿內ノ田租ヲ收ム日本書紀
〔令〕凡ソ調物及ヒ地租雜稅ハ皆明ニ應ニ輸スヘキ物數ヲ寫シテ牌ヲ坊里ニ立テ衆庶ヲシテ同ク知ラシメヨ賦役

凡ソ地租ヲ受ンニハ皆乾淨ナラシメ次ヲ以テ勝ヲ收メ同時ノ者ハ遠ヲ先ニセヨ京國ノ官司輸入ト共ニ籌ヲ執テ對シテ受ケヨ京ニ在ルノ倉ハ主稅ト共ニ按檢セヨ國郡ハ則チ長官監檢セヨ令
田租ヲ剩徵シ地子ヲ過收スル等ノ罪ハ非法ニ准セヨ賦歛官ニ入ラハ坐贓ヲ以テ論セヨ私ニ入ラハ犯法ニ准シテ之ヲ論スヘシ令
〔元正天皇靈龜元年十月七日詔〕云々粟ノ物タル久ヲ支テ敗レテ諸殺中ニ於テ最モ是レ精好ナリ宜ク此狀ヲ以テ遍ク天下ニ告ケカテ盡シ耕種シテ時候ヲ失フコト莫ルヘシ自餘ノ雜穀ハ力ニ任セ之ヲ課セヨ若シ百姓粟ヲ輸シ稻ニ轉スル者有ラハ之ヲ聽ルセ本紀

〔按〕粟ハアハナリ粟ヲ以テ米ニ代納セシムルナリ粟ノ說ハ地子養老三年ノ條ノ按中ニ見エタリ
〔養老二年六月十六日制〕穀ノ物タル年ヲ經テ腐チテ自今以後稅及ヒ雜稻ハ必ス穀ト爲シテ之ヲ收メヨ本紀
〔按〕穀ハモミナリ大正稅及ヒ雜稻等ハ時々ノ支用ニ供セス多ク貯蓄ニ備ルナリ
〔聖武天皇神龜五年〕諸兄大臣ノ計ニ依テ米五斗ヲ以テ一俵トナス帝王本紀
〔按〕此時初テ米五斗ヲ以テ一俵ト爲ス爾來倭ノ字ヲ慣用ス俵ハ字典ニ云儀數又分界ナリト蓋シ倉米ヲ分テ界テ區隔ニ記ルノ義ニ起レルナリ

〔天平二年四月十日〕太政官處分ス畿內七道諸國ノ主典已上各職掌アリト雖モ行事ニ至テハ必ス應ニ共ニ知ルヘシ或ハ國司等私ニ稅帳ヲ造リ竟テ後ニ署ヲ取リ肯テ名ヲ署セス此ニ因テ上下事ニ觸テ相違フ又稅ノ收納輕惡ニスルヲ得ス稅帳ヲ進ルノ日額殺ヲ問ハス倉別ニ主管官人ノ名ヲ署セヨ本紀

〔按〕國司等トハ總テ國衙ノ官吏ヲ指稱ス主管官吏或ハ私ニ稅帳ヲ造リ而シテ署ヲ取ルニ當テ却テ己ノ名ヲ署セサルモノ有リ因テ之ヲ告戒スルナリ
〔六年七道檢稅使算計法〕東海道ハ二千七百寸ヲ以テ解法ト爲シ東山道ハ二千八百寸ヲ以テ解法ト爲シ北陸道ハ二千八百寸ヲ以テ解法ト爲シ山陰道ハ三千二百寸ヲ以テ解法ト爲シ山陽道ハ二千七百寸ヲ以テ解法ト爲シ西海道ハ三千二百寸ヲ以テ解法ト爲シ南海道ハ二千八百寸ヲ以テ解法ト爲ス延曆式

〔按〕當時委殺ノ法斛積ヲ以テ之ヲ定ム減大升ハ積二十七寸一分二釐強其一斛ヲ二千七百十二寸有奇トス和銅以來用フル所ノ大升ハ積三十九寸零六釐強其一斛ヲ三千九百零六寸有奇トス蓋シ此兩升ハ古來互ニ用フル所而シテ減大升ハ即チ今ノ大升ナリ其令ニ著スヲ以テ其法ニ從テ之カ大數ヲ舉ルモノ、如シ乃チ減大升ニ據レハ其二千七百寸ハ一斛弱二千八百寸ハ一斛強三千二百寸ハ一斛一斗七升強トス未タ其差等ヲ立ル所以テ詳ニセスト雖モ之ヲ次條ニ考ルニ是レ一也檢稅使ノ奏簡ニ出シモノニ似タリ

〔光仁天皇寶龜七年五畿七道檢稅使算計法〕委殺十年已上ヲ經ル者ハ二千七百寸ヲ以テ解法ト爲ス編並ニ新委年ヲ經サル者ハ二千八百寸ヲ以テ解法ト爲ス粟穀ハ二千九百寸ヲ以テ解法ト爲ス延曆式
〔按〕同書ニ云今按スルニ天平六年ノ使七道率ヲ異ニス寶龜七年ノ使共ニ是レ一何主稅察亦此法ニ同シ然ラハ則チ前使算スル所更ニ改ム可ラス猶先計ニ依テ物ノ遺ルヲ待ツヘシ但天下ニ法差差スヘカラス自今以後委スル所ノ粟穀ハ寶龜七年ノ例ニ依ルヘシト此ニ據レハ天下委殺ノ法延曆ノ時ニ至テ始テ一法ニ從フナリ

〔桓武天皇延曆十四年閏七月十五日勅〕開カ如キハ諸國郡倉ヲ建ルニ元一處ヲ置ク百姓ノ居郡ヲ去ルコト僻遠山川ヲ跋涉シ納貢ニ勞アリ加以ス倉舍比近覺宇相接シ一倉火ヲ失スレハ百倉共ニ燒クト言ニ其弊ヲ念フニ公私ニ損アリ宜ク須ラク郷毎ニ更ニ一院ヲ置キ以テ百姓ヲ濟ヒ兼テ火祲ヲ絶

〔火祲〕火災ヲ謂フ日本逸史不詳ニ作ル

ツヘシ今年ヨリ始テ輸ス所ノ租税ハ新院ニ收納セヨ但前ニ郡家ニ納ル所ノ不動物ハ舊ニ依テ動スコト莫ク其用ヒ盡ス倉ハ漸ク新院ニ遷シ倉ヲ置クノ法ハ一ニ延暦十年ノ符ニ依テ各相去ルコト十丈便ヲ量テ之ヲ置ケ類聚三

〔十五年十月廿一日勅〕聞カ如キハ諸國春ク所年料白米或ハ古稻ヲ以テ充テ或ハ便ニ春米ヲ納ムト民ノ弊ヲ承ル率ニ皆是ニ由ル朝委ノ情量之ノ如クナルヘケンヤ宜ク收納ノ日即チ進ル所ノ正税ヲ以テ春カシムヘシ假令ハ百束ヲ舉スルノ戸ハ春利十束然ラハ則チ百姓息スルコト有テ物亦遺ルコト無ケン類聚三

〔十六年二月廿八日勅〕租税ノ本ハ水旱ニ備フ錢帛ノ財ハ飢テ食ハレヌ今聞ク京職多ク錢ヲ收ルコトアリト事須ラク末ヲ賤ミ本ヲ貴ヒ一ニ錢ヲ收ルコトヲ絶ツヘシ但恐クハ民ニ貧富アリ必シモ穀ヲ畜ヘス宜ク貧乏ノ徒ハ錢ヲ進ルコトヲ聽ルスヘシ通計四分ノ一ニ過ルコトヲ得サレ日本後紀

〔十七年十月二十日勅〕糶穀ヲ量リ收ルニ斗斛限アリ年ヲ經テ除耗ス法令例ヲ立ツ今或ハ所司斛斗ノ外更ニ耗分ヲ加フ糶ハ則チ一俵ニ二升已上穀モ亦斛別ニ五升已上輸納スル百姓常ニ此費ニ苦ム自今以後糶穀ヲ檢收スルニ數ノ外更ニ耗分ヲ加フルコトヲ得サレ如シ違犯スル者アラハ法ニ依テ科處セヨ類聚三

〔廿四年十二月七日〕公卿奏議シテ曰ク諸家ノ封租ハ暫ク春米ヲ停テ輕貨ニ交易セント之ヲ許ス日本後紀

〔嵯峨天皇弘仁二年五月八日勅〕諸國進ル所ノ春米庸米去シ大同三四兩年早ニ遭テ悉ク進ルコトヲ

〔接〕春利トハ糶春貨ト言フカコトシ租百束コトニ功貨十束ヲ與ヘ民人ヲシテ正税ヲ春カシムルナリトアリト事須ラク末ヲ賤ミ本ヲ貴ヒ一ニ錢ヲ收ルコトヲ絶ツヘシ但恐クハ民ニ貧富アリ必シモ穀ヲ畜ヘス宜ク貧乏ノ徒ハ錢ヲ進ルコトヲ聽ルスヘシ通計四分ノ一ニ過ルコトヲ得サレ日本後紀

〔按〕糶分トハ糶減ノ爲ニ糶分ヲ加フ後世ノ所謂差米等ノ如シ五代史漢隱紀ニ云雷割田稅斛每ニ二升ヲ輸ス之ヲ糶米ト謂フト乃チ彼此古來之レアルナリ

〔廿四年十二月七日〕公卿奏議シテ曰ク諸家ノ封租ハ暫ク春米ヲ停テ輕貨ニ交易セント之ヲ許ス日本後紀

〔嵯峨天皇弘仁二年五月八日勅〕諸國進ル所ノ春米庸米去シ大同三四兩年早ニ遭テ悉ク進ルコトヲ

得ス若シ色ニ隨テ辨備セハ恐クハ民苦ヲ致サン今官庫ノ貯積ル盈餘アリ宜ク土ノ生スル所ニ任セテ調物ニ質與シ輕貨ニ進成スヘシ但糶内ハ正税ニ混合セヨ日本後紀

〔五年九月二十日〕右大臣從二位兼皇太弟藤原朝臣國人奏言ス諸國收ル所ノ官物本倉色目具ニ稅帳ニ注ス而シテ或ハ國司必シモ其人ニアラス便郡ノ稻ハ即チ公廩ニ充テ百姓ニ賜フモノハ必ス返郡ニ於テ是ヲ以テ不便ノ郡ハ物既ニ麻除ス交替ニ至テ彼此ヲ通計スルニ出雲國最モ此類多ク應ニ甲郡ニ貯フヘクシテ乙處ニ納メ帳ハ是レ倉ヲ全フシテ物ハ糶進トナル伏シテ望ム今ヨリシテ後普ク諸國ニ知ラシメ帳ニ依テ收納セン甲乙ノ郡通計スルコトヲ許サス若シ本倉相違セハ狀ニ准シテ科處セン庶クハ官家損少ク黎民濟ラシト請ニ依ル日本後紀

〔九年八月廿五日〕畿内諸國京戸ノ田租ハ錢ヲ停テ稻ヲ收メシム類聚三

〔仁明天皇承和五年十月十一日勅〕畿内諸國雜官稻ノ代ニ錢ヲ收ルハ一切之ヲ禁セヨ類聚三
〔十一年十一月二日太政官符〕出納明察載セテ法令ニアリ而シテ頃年慶院大炊ニ米ヲ納ルノ日未ダ必シモ概量セス下用ノ時量欠ルコト稍多シ斯レ則チ檢納ノ諸司覆量ヲ存セサルニ因ルナリ宜ク自今以後本司先シ俵毎ニ概量シ已ニ奸濫無キヲ知リ然ル後官ニ申シテ之ヲ收ムヘシ但諸司檢納ノ時ハ更ニ概量セス雷權衡ヲ用ヒヨ若シ奸濫及ヒ量欠ルコトアラハ必ス本司ヲシテ備償セシメ會テ寬宥セサレ類聚三

〔清和天皇貞觀十年六月廿八日太政官符〕撰格所ノ起請ニ曰ク太政官去シ齊衡二年八月廿六日五畿内諸國ニ下ス符ニ云ク太政官去シ承和十二年六月廿三日五畿内諸國ニ下ス符ニ云ク攝津國ノ解ヲ得ルニ云ク租稅ヲ收納スルハ良ニ郡司ニ由ル須ラク先ツ官物ヲ究メ後私事ニ及フヘシ而シテ頃年王臣諸家各家官ヲ出シ負物有リト稱シ競テ郡司及ヒ富豪ノ宅ヲ封シ其蓄フル所ノ稻ヲ取ル若シ國司相論スレハ却クルニ他故ヲ以テス只郡内ヲ侵損スルノミニ非ス還テ公家ト相爭フニ似タリ今須ラク諸家ノ物ヲ負フ人若シ國中ニ在ラハ彼家ハ國ニ牒シ國ハ追勘ヲ加ヘ法ニ據リ理ニ任シ彼是所

〔糶〕糶分トハ糶減ノ爲ニ糶分ヲ加フ後世ノ所謂差米等ノ如シ五代史漢隱紀ニ云雷割田稅斛每ニ二升ヲ輸ス之ヲ糶米ト謂フト乃チ彼此古來之レアルナリ
〔糶〕糶分トハ糶減ノ爲ニ糶分ヲ加フ後世ノ所謂差米等ノ如シ五代史漢隱紀ニ云雷割田稅斛每ニ二升ヲ輸ス之ヲ糶米ト謂フト乃チ彼此古來之レアルナリ
〔糶〕糶分トハ糶減ノ爲ニ糶分ヲ加フ後世ノ所謂差米等ノ如シ五代史漢隱紀ニ云雷割田稅斛每ニ二升ヲ輸ス之ヲ糶米ト謂フト乃チ彼此古來之レアルナリ
〔糶〕糶分トハ糶減ノ爲ニ糶分ヲ加フ後世ノ所謂差米等ノ如シ五代史漢隱紀ニ云雷割田稅斛每ニ二升ヲ輸ス之ヲ糶米ト謂フト乃チ彼此古來之レアルナリ

實錄十二月二

〔三〕三代格長
ニ作ル今實錄
ニ入札會黨ニ
米穀ヲ入レシ
證票ナリ

ラ得セシムヘシ此ノ如クナレハ則チ公私共ニ平ニ郡内肅然タラン望請フ早ク符ヲ下タサレ永ク奸
源ヲ絶ン宣ス請ニ依レ自餘ノ四國モ亦宜ク此ニ准スヘシト而ルニ諸國司等符旨ヲ慎マヌ已ニ違失
ヲ致シ彌奸盜ヲ長シ未タ轍ヲ改ルヲ聞カス凡ソ人情矯僞一ニ非ス或ハ細民ヲ侵冤シテ多ク私利ヲ
求メ或ハ力ヲ貴家ニ假テ巧ニ公責ヲ避ク國家ノ蠶斯ヨリ大ナルハ莫シ今宣ヲ被ルニ曰ク夫レ吏道
ハ格式ヲ以テ先ト爲ス棄テ、行ハサルハ豈循良ノ謂ナランヤ宜ク早ク下知シ疎漏セシムルコト莫
ルヘシト件ノ格七道ニ施スヘシ何ソ五畿ニ留ラン伏シテ望ム諸國ニ下知シテ矯濫セシムルコト莫
レト以前撰格所ノ起請具件スルコト右ノ如シ勅ス請ニ依レ類案三

〔十五年九月廿三日太政官符〕陸奥守正五位下安倍朝臣貞行ノ解狀ヲ得ルニ曰ク國中ノ政ハ收納ヨ
リ重キハナシ然ラハ則チ分配ノ吏其事ヲ勤ムヘシ而シテ任用ノ官未タ必シモ其人ナラス或ハ郡司
ノ税帳ニ誘カレ藁ヲ以テ稻トナシ或ハ富饒ノ百姓ニ賂ハレ虚ヲ以テ實トナス徒ニ入札ノ名有テ途
ニ欠負ノ弊ヲ致ス須ラク格ニ依リ罪ヲ科シ以テ懲革ヲ期スヘシ而シテ偏ニ俸料ヲ貪テ憲法ヲ以レ
ス望請フ此ノ如キ類ニ至テハ先ツ公廩ヲ奪ヒ然ル後ニ坐テ科セン若シ欠物居多ニシテ公廩ノ數少
キハ長官以下相共ニ填納セシメント宣ス請ニ依レ諸國此ニ准セヨ類案三代格

〔宇多天皇寬平八年四月二日太政官符〕開カ如キハ權貴ノ家勢ニ乘シ威ヲ挾ミ莊家ノ側近ト稱シテ
平民ノ田地ヲ妨ケ或ハ賣買和セス三四十町ヲ點領シ或ハ事ヲ負累ニ寄セ五六載ノ券ヲ責メ取リ租
ヲ收ルニ至テハ拒捍シテ輸サス賦税之ニ由テ入ラス國司之カ爲ニ煩多シ夫レ五位已上ハ冠蓋既ニ
貴ク委寄輕カラズ自ラ代耕ノ祿有リ何ソ載畝ノ利ヲ貪ラン仍テ須ラク諸宮王臣ノ家及ヒ五位已上
ハ莊田品位職田ヲ除クノ外一切ニ耕種スルコトヲ聽サ、ルヘシ假令百姓口分田ヲ賣買シ五位已上
職位田ヲ賃租スルモ皆國郡司ヲ經テ法ニ依リ券ヲ立テ租ヲ徵スルノ日指のアラシメン若シ乖越ス
ルコトアラハ違勅ノ罪ヲ科セン莊預等事ヲ本主ニ假リ濫ニ違犯ヲ致サハ陰贖ヲ論セス杖一百ニ決
シ國郡阿容セハ之ヲ重科ニ處セント勅ス宜ク件ニ依テ之ヲ行フヘシ類案三

例進及ヒ加春
ノ量數ハ合セ
ス恐クハ誤
アラシ

〔醍醐天皇昌泰元年二月廿七日太政官符〕備中國ノ解ヲ得ルニ曰ク案内ヲ檢スルニ年料稅春米ハ當
年春ク所ヲ以テ來年ノ料ト號シ載テ格條ニ在リ然ラハ即チ米色ニ至テハ年中辨究シテ殊妨有ルコ
ト无シ但大炊寮ノ生大豆小豆色々ノ雜穀大膳職ノ醬大豆及ヒ諸司ノ租春大糧等皆亦雜米抄帳ノ中
ニ載ス而シテ今上件ノ雜穀等當年收納ノ後正稅ヲ以テ交易スル所ナリ租春ノ大糧又春キ備フル米
ハ實ニ官符ノ到ルニ隨テ充テ行フ所ナリ事自ラ參差ニシテ年中究メ畢ルコト能ハス是ニ於テ秩限
已ニ滿テ同任ヲ去ル更ニ何ノ力ヲ以テ件ノ務ヲ辨濟セン加以ス雜米ノ抄帳稅帳ニ勤合スルコト
有ルコト無シ其當年ノ稅帳官ニ進ルノ期明年二月ニ在リ然ラハ則チ勾勘ノ官又年中抄帳ヲ勘スル
コト能ハスシテ返抄ヲ放ツ望請フ前司任終年ノ雜米雜穀前司數ニ依テ進納シ後任ノ人ヲシテ返抄
ヲ辨請セシメント勅ス請ニ依レ自餘ノ諸國亦宜ク此ニ准スヘシ類案三

〔延喜十年十二月廿七日太政官符〕應ニ例納ノ乘鹽ヲ以テ春米ニ改メ竝ニ例進外ノ地子稻ヲ以テ例
進内ノ米千四百卅二斛ニ加春スヘシ

參河國	三百斛	二百石例進	遠江國	三百七十斛	四百七十三石例進
美濃國	五百九十斛	三百卅一石例進	丹波國	二百十八斛	二百八十八石例進
播磨國	二百五十斛	二百六十五石例進	備前國	五百九十二斛	三百八十八石例進
備中國	百卅斛	五十石例進	備後國	百卅斛	五十石例進
紀伊國	六十斛	八十石例進	讚岐國	二百五十斛	卅三十九石例進
伊豫國	二百十斛	百五十石例進			

右厨家ノ解ヲ得ルニ曰ク謹テ案内ヲ檢スルニ厨家ノ雜用官人ノ月口總テ件ノ口在リ例進少ク用途
多端年中ノ納ル所ヲ以テ例用ノ支度ニ宛ルニ不足スル所ノ米千四百卅二斛斯ニ因テ常食屢絶ヘ資
俸尙ホ乏シ況ヤ自餘ノ雜事動スレハ闕怠ヲ致ス凡ソ件等ノ國例進内ノ鹽ハ用ニ充テ、餘アリ例進

外ノ地子ハ其數居多ナリ加春セシムルニ至ルモ青無ル可シ望請フ早ク下知シテ特ニ加春セシメラ
レンコトヲ然ラハ則チ厨家煩ヲ省キ公用濟シ易カラント勅ス請ニ依レ諸國承知シ宣ニ依テ之ヲ行
ヘ符到ヲハ奉行セヨ政事要略

〔式〕凡ソ畿内ノ國營田ノ稻ハ營料ヲ除クノ外米ニ春テ每年内藏寮ニ運送ス其收納帳ハ稅帳使ニ附
シテ官ニ進ム使彼寮ニ至テ之ヲ勘シ即チ返抄ヲ取リ主計寮ニ就テ抄帳ニ勘會ス民部式

凡ソ穀倉院ニ納ル所ノ穀ハ京職ノ稅帳ニ載セテ之ヲ申ス民部式○事穀倉院條中ニ具レリ

凡ソ諸國送ル所ノ雜米ハ送ルニ隨テ即チ收メ且日收ヲ給シ便チ省ノ印ヲ用フ既ニ進メ畢ルノ日返
抄シテ官ニ申ス民部式

凡ソ國內ノ官稻數少クシテ出舉雜用足ラサレハ預前ニ官ニ申シテ當年ノ租ハ願ヲ收ルコトヲ聽ル
シ諸封戸ノ租モ亦願ヲ收ルコトヲ聽ル主稅式

凡ソ雜穀相博フ粟小豆稻各二斗ハ稻三束ニ當テ大豆一斗ハ稻一束ニ當ツ自餘ハ令ノ如シ主稅式
〔按〕賦役令ニ云稻ハ二斗大麥ハ一斗五升小麥ハ二斗大豆ハ二斗小豆ハ一斗各粟一斗ニ當テコト雜穀夜倉條中ニ具レリ

凡ソ官ニ進ルノ年料并ニ國中ノ雜用等ノ米ハ春功ヲ充テス主稅式
凡ソ省營田ノ稻年ヲ聽ルノ後供御ニ任セス皆悉ク糶ト爲シ別倉ニ收納シテ正稅ニ混スルコト莫レ

此條算計吻合
セズ恐クハ詔
誤アラフ
〔施米〕備及ヒ
實屬獨ノ日
ノニ屬フ米ナ

〔白河天皇應德三年十二月廿九日主計寮解〕
年料白米仟佰漆拾伍斛
大炊寮納
施米佰伍拾斛

〔陽明門院〕後
朱雀帝ノ妃後
三條帝ノ母儀
ナリ

陽明門院御月料伍拾斛

太皇太后宮職御月料伍拾斛

皇太后宮職御月料參拾斛

皇后宮職御月料參拾斛

內堅所大糧料貳佰斛

造冷泉院米佰伍拾斛

生大豆肆拾肆漆斗

小豆拾玖斛漆斗

胡麻子參斛

醬大豆貳拾伍斛

勅旨白米貳拾斛

左馬寮秣大豆捌拾斛

租春米仟斛

修理職捌拾斛

左近衛府玖拾斛

右近衛府玖拾斛

左衛門府佰伍拾斛

右衛門府佰伍拾斛

左兵衛府佰斛

右兵衛府佰斛

主水司陸拾斛

〔內堅所〕太政
官式ニ據ルニ
太政官并ニ辨
官ノ命ヲ聽ク
所ナリ
〔冷泉院〕拾芥
抄ニ云黒代ノ
後院ナリト後
院ハ解前篇ニ
見エタリ

春宮坊佰貳拾斛

陽明門院御月料陸拾斛

皇太后宮職御月料伍拾斛

皇后宮職捌拾斛御月料伍拾斛
大概米參拾斛

加舉

尊徳院佛僧供料日米捌拾斛漆斗壹升貳合

法成寺新御堂佛僧供料米參拾陸斛肆斗捌升伍合

延曆寺實相院佛僧供料肆拾貳斛白米二十一斛六斗
黑米二十斛四斗

淨福寺利米捌拾壹斛肆斗肆升

右備前國應徳二年ノ雜米或ハ諸院宮寮ニ進納シ或ハ諸司諸縁ニ進納シ既ニ畢ル仍テ應ニ返抄ヲ給スヘシ申送件ノ如シ以テ解ス朝野群載

納期

〔接〕凡ソ實租ヲ收納スル其期無カル可ラス合ニ至テ始テ其文ヲ見ル蓋シ合ハ近江朝創製スル所從來已ニ之レ有ルコト知ル可シ而シテ今所謂十一月卅日以前ニ納メ畢ルモノハ各國内ニ於テ收納スルノ期トス春米等ノ京ニ運輸スルモノハ〔令〕凡ソ田租ハ國土收穫ノ早晚ニ准シテ九月中旬ヨリ起テ檢セ十一月卅日以前ニ納メ畢ヘヨ其春米ヲ京ニ運フ者ハ正月ヨリ起テ運ヘ八月卅日ニ納メ畢ヘヨ

〔清和天皇貞觀四年九月廿二日太政官符〕太宰府ノ解テ得ルニ曰ク民部省ノ式ヲ檢スルニ云ク諸國春米ヲ京ニ運フハ伊勢近江丹波播磨紀伊等ノ國ハ二月卅日以前尾張參河美濃若狹越前丹後ハ四月卅日以前但馬因幡美作備前讚岐ハ六月卅日以前並ニ送納シ訖シ若シ未進アラハ調庸ノ例ニ准シ公廩ヲ割テ辨備セシメント又延曆十四年七月廿七日ノ格ニ云ク實徳四年閏十一月廿三日民部省ニ下

ス符ニ云ク頃者諸國ノ雜米未進ノ數多ク既ニ國用ヲ闕ク仍テ案内ヲ檢スルニ實徳元年五月十五日諸國ニ下ス符ニ云ク春米ハ撥領ヨリ已上其事ニ專當シ史生ヨリ以上ハ綱領ニ充テ送レ若シ春運限ニ違ヘハ見任ヲ解却シ又公廩ヲ奪フコト一ニ前符ニ依ラン勅ス自今以後若シ未進ノ雜米アラハ多少ヲ問フコトナク國司史生ヨリ已上ハ皆公廩ヲ奪ヒ沒シテ官物トナシ主典ヨリ已上ハ並ニ即チ若ヲ貶シ專當ノ官ハ見任ヲ解却シ其郡司主帳ヨリ已上ハ成ク職田ヲ取リ任ヲ解キ若ヲ貶スル亦國司ニ同フセヨト今勅ス少ニ依テ多ヲ奪フハ事實ニ穩ナラス而ルニ斛米疋絹一物未タ進メサレハ則チ偏ニ格式ヲ稱シテ悉ク公廩ヲ奪ヘリ事ニ於テ思量スルニ深ク弘恕ニ乖ケリ自今以後宜ク國司史生ヨリ以上各差法ヲ作シ未進ノ數ニ准シテ其公廩ヲ割キ色ニ隨テ辨備シ京庫ニ進納スヘシ但其未進ノ物徵納シテ以テ公廩ニ充テシ其省察計會シテ年毎ニ勘出セヨ自餘ノ事條ハ一ニ先符ニ依レトテ件ノ文ヲ案スルニ專ラ他國ヲ論シテ未タ西道ニ及ハス是レ物京庫ニ納メシテ事所司ヲ經サルニ依ルナリ今府庫ニ納ル所ノ雜米ハ官舍器仗ヲ修理シ並ニ選士衛卒ノ糧厨司染所ノ使料等總テ三千七百八十餘斛或ハ正稅或ハ府儲年料ノ春運スル色別ニ數アリ而ルヲ國郡解緩シテ未進限ニ積メ

〔兼領〕職員令
ニ云大國ハ大
兼一人少兼一
人又大郡ハ大
領一人少領一
人
〔兼領〕考證ニ
云部領使ハ綱
領ナリト租米
ヲ押送スル者
ヲ謂フ
〔厨司〕飲食物
ヲ掌ル所ナリ
〔染所〕布帛ヲ
染ル所ナリ

リ斯ニ因テ納官ノ雜物資進期ニ違ヒ府中ノ例用闕乏特ニ多シ定ニ懲革文ナク格制未タ施サハルニ依レリ望請フ新ニ程期ヲ立テ以テ未進ヲ責ン但時澆政劇ニシテ憲法守リ難シ式ニ准シテ限ヲ立ルハ甚タ以テ促近ナラン今須ラク筑前筑後肥前ハ六月卅日以前豐前肥後ハ八月卅日以前豐後ハ十月卅日以前並ニ進納ノ期トナスヘシ若シ期ヲ過キテ未タ進メサルノ國アラハ考ヲ貶シ任ヲ解ク一ニ先格ニ從ハン又件ノ格ヲ案スルニ國司ハ既ニ公廩ヲ割テ而シテ辨備シ郡司ハ更ニ職田ヲ奪フテ以テ沒官ス試使ヘハ國司ノ公廩或ハ未納ヲ補ヒ郡司ノ職田復タ官ニ納メラル然ラハ則チ未進ノ代何物ヲカ辨填シ年中ノ用何ヲカ當ニ支給スヘキ加以ス公廩ハ欠負ノ儲ナリ填スル所ノ色類ニ觸テ多端ナリ重テ望ム先ツ職田ヲ以テ未進ヲ辨濟セシメン若シ未進ノ數多ケレハ乃チ公廩ヲ奪ハン然ラハ則チ懈惰ノ吏勸勵更ニ新ニ檢領ノ官催督自ラ休ミ資進期ニ合ヒ例用贈給セント勅ス制ヲ立ルノ

初苛酷ニ忍ヒス宜ク考ヲ貶シ任ヲ解クハ此度ハ停止スヘシ自餘ノ事ハ成ク請ニ依レ類案三
〔七年三月二日制〕七道ノ貢賦期ニ違ハ、國司五位ハ已上位祿ヲ奪ヒ六位已下ハ公廩五分ノ一ヲ折
取シ自今以後永ク恒例ト爲セヨ三代

〔式〕凡ソ諸國春米ヲ京ニ運フハ伊勢近江丹波播磨紀伊等ノ國ハ二月卅日以前尾張美濃若狹越
前加賀丹後ハ四月卅日以前但馬因幡美作備前讚岐ハ六月卅日以前備中備後安藝伊豫土佐ハ八月卅
日以前並ニ送納シ訖ル若シ未進有ラハ數ニ准シテ專當郡司職田ノ直ヲ奪フ若シ足ラサレハ亦國司
ノ公廩ヲ沒ス民部

〔御賽會〕公事
根原ニ據ルニ
大極殿ニテ最
親王經ヲ講シ
朝家ヲ護持ス
ルヲ祈ルナリ

〔圓融〕天皇天祿元年九月八日宣旨播磨國年料米ノ内永ク御齋會料ニ進納スル米百卅斛紀伊國綿代
錢代米六十斛油五斛 二斛ハ播磨國一斛ハ美作國 每年十二月ノ内早ク進納セシメヨ若シ期ニ違ヒ未進ヲ
致サハ將ニ一度ノ勸賞ヲ拘セントス中野宮年

〔按〕考課令ニ據ルニ内外ノ官人皆一年一度功過ヲ考按ス故ニ考課子應ニ選叙スヘキモ若シ期ニ違ヒ未進ヲ致ス等ノ公務
廢闕アレハ一度ノ選叙ヲ拘シ以テ之ヲ罰スルナリ

〔月宛〕歳月分
ト期ヲカコト
〔兼月〕歳月分
ヲ併セ期ニ先
ツノ期ナリ
〔修理職〕宮城
道路等ヲ修繕
スル職ナリ

〔後一條〕天皇長元元年十二月八日宣旨大炊寮ノ奏上ヲ得ルニ曰ク太政官去シ寛弘九年ノ符ニ云ク
年料春米進納期ヲ立ツ遲進ノ責嚴令頒ニ下ス勤王ノ更何ソ章條ヲ忘レン宜ク諸國ニ仰セテ新ニ參
期ヲ守リ限月以前ニ進納セシムヘシ但合期返抄ニ依テ將ニ功過ノ勤惰ヲ定メントス長和五年ノ符
ニ云ク諸國年料米各月宛ヲ守リ兼月進納セヨ若シ遠越有ラハ見任ヲ解却シ敢テ叙用セス今年ノ宣
旨ニ云ク諸國得替年ノ年料米ハ前司ヲシテ物實ヲ辨申シ日收ヲ以テ後司ニ分付セシメヨト宣旨
理職ノ例ニ准シ其合期物畢ルノ勸文ヲ副進セシメ永ク功課ノ備ト爲スヘシ朝野

未進

〔按〕未進トハ實租ノ當ニ進納スヘクシテ未納ニ係レルモノヲ謂フ上古ハ政體寛簡民人浮樸上下雍熙ニシテ未々所謂未進
ナルモノ有ラス已ニシテ欠負欠損アリ未納拒擧アリ歴世填納ノ法ヲ建報ス因テ併セ録シテ以テ參觀ニ備フ

〔孝謙〕天皇天平勝寶七年七月五日太政官宣案内ヲ檢スルニ太政官去シ天平十八年正月一日ノ符ニ
曰ク諸國司等正稅ヲ割キ留テ以テ公廩ノ料ト爲シ若シ正稅數少ク及ヒ民肯テ舉セサルアラハ必シ
モ限ニ滿テス其官物欠負未納ノ類ハ玆ヲ以テ填セシメ更ニ申スコトヲ許サス今事狀ヲ錄シテ伏テ
天裁ヲ聽ン勅ス奏ニ依レト聞カ如キハ諸國ノ公廩稻或ハ前後ノ國司同ク分テ已ニ入レ或ハ彼此相
競ヒ紛紜極リ無ク並ニ正稅帳ハ帳チ欠數ヲ注ス理須ラク朝範ニ奉遊シテ官物ヲ勘審スヘシ豈隱狀
ヲ事トナシ貪濁ヲ心トナシ曾テ公ヲ謹マヌシテ私室ヲ益スト曰フコトヲ得ンヤ故ニ今科條ヲ作リ
具スルコト左ノ如シ

一 動物欠負及ヒ欠損ノ事

右物ハ當時專當ノ人ニ徵シテ償填セシム

一 不動物欠負及ヒ欠損ノ事

右正稅帳ヲ按シ丈尺積高相錯マルニ依テ物實欠有ルヲ致サハ當時專當ノ人ニ徵シテ填セシム其
丈尺積高並ニ合テ而シテ後事ニ隨ヒ檢量スルノ日如シ欠有ラハ公廩物ヲ以テ填セシム即シ公廩
餘リ有ラハ例ニ依テ處分セヨ 假令天平勝寶六年交替ノ人正稅ノ事ニ關ラハ當年ノ公廩チ
時公廩物少クシテ償填スルコトヲ得サルハ狀ヲ具シ官ニ申シテ裁ヲ聽ケ但欠損物ハ一ニ動物ニ
准シテ推徵セヨ

〔丈尺積高〕丈
尺ハ倉中ノ高
廣積高ハ積載
ノ現數ナリ

今案スルニ所謂當時ハ唯先任ヲ指スナリ或ハ事ノ當時ニ發スルト説クハ非ナリ何トナレハ注
ニ六年交替ノ人正稅ノ事ニ關ラハ當年ノ公廩ヲ以テ之ヲ填シ事ニ關ラサレハ去年ノ公廩物ヲ
以テ之ヲ填スト云フ故ナリ但丈尺積高並ニ合テ而シテ後事ニ隨ヒ檢量スルノ日如シ欠有ルト
ハ今事意ヲ推尋スルニ此理アルヘカラス何トナレハ算家ノ術究メサル所ナシ丈尺既ニ合ハ、
何ニ由テ欠有ラシヤ唯思慮ノ外非常ノ事ナルノミ又案スルニ動用不動ノ欠負欠損ハ皆當時專
當ノ人ヲシテ之ヲ填セシムルトハ假ヘハ委殺ノ倉修葺ヲ勤メス數年ノ間濕損ヲ致サシムル有

〔花〕起ニ同シ

ラハ一任ノ國司主典以上及ヒ事ニ預ル史生應ニ共ニ填スヘシ又長官史生ヲ率ヒ分頭收納シ共ニ倉牘ニ署シタル後下盡スルニ至リ納ル所ニ欠ケ有ラハ史生以上其事ニ預ルヘシ此ノ如キノ類ハ理須ラク法ニ依リ差ヲ作シテ之ヲ填納セシムヘシ其多少制限及ヒ身ヲ役シ庸ニ折スル等ノ事ハ令條ニ具レリ更ニ煩シク載セス但任中公廩アル者ハ祿法ノ差ニ依ルヘシ若シ公廩ナキ者ハ法律ノ差ニ依ルヘシ

一未納物ノ事

右水旱不熟ノ年出舉雜物如シ未納アラハ當時ノ公廩物ヲ以テ之ヲ填納ス

〔按〕交野式天平勝寶七年七月九日諸國朝集使起請ニ云間フ欠負トハ一ナリヤ又欠負トハ一ナリヤ二ナリヤ又答フ欠負トハ二ナリ今令案スルニ欠負トハ一ナリトハ是レ公廩式ノ新編ノミ

法令ノ通例ニアラス間フ水旱不熟ノ年出舉雜物トハ未タ雜物ノ色ヲ知ラス答フ稻粟麥等ノ類間フ天平勝寶六年交野ノ人ノ人俱ニ關ル間フ公廩餘アラハ例ニ依テ處分ストハ未タ知ラス誰カ處分スルヤ又前後ノ人共ニ分アルヤ否ヤ答フ前後分チ爲シ又俱ニ分アリ間フ欠物巨多ニシテ公廩物數少ク猶填納スルコトヲ得サレハ狀ヲ具シテ官ニ申セトハ未タ知ラス未納既ニ官ニ申スチ經タル者ハ國ノ大小ニ隨テ徵納法ヲ立ツ然ラハ則チ前人ノ解由拘留スヘカラス間フ欠物ハ一ニ動物ニ准シテ推數スルトハ漏腐ニ縁ラス別ニ欠損アルモ未タ知ラス猶動物ニ准シテ徵スルヤ否ヤ答フ漏腐ニ縁ルニアラスシモノナリ今錄シテ以テ參觀ニ備フ

〔桓武天皇延暦六年閏五月十一日〕

左右京二職掌ル所ノ關租等ノ物色目ニ非ス或ハ徵收ヲ勤メスシテ多ク未納ヲ致シ或ハ其物ヲ犯用シテ遷替ノ司累ヲ後人ニ貽ス是ニ於テ始テ攝津職ニ准シ解由ヲ與ヘテ放シ本紀

〔九年十一月三日勅〕公廩ノ設ハ本ト欠負未納ヲ填補センカ爲ナリ國ノ大小ニ隨テ既ニ舉式ヲ立ツ而シテ今聞ク諸國司等欠物アリト雖モ猶公廩ヲ得ルト理須ラク法ニ依テ罪ヲ科シ沒シテ官物ト爲

スヘシ但國司等久ク官ニ仕ルノ勞有テ曾テ家ニ還ルノ資無キヲ以テ今故ラニ法制ヲ立ツ宜ク自今以後舊年ノ未納欠負有ラハ大國ハ三万束上國ハ二万束中國ハ一万束下國ハ五千束已上毎年徵填シ帳ニ附シテ申上スヘシ若シ此制ニ據ラスシテ未納アヌハ稅帳ヲ返却シ事ニ隨テ罪ヲ科セヨ其當年ノ未納ハ一ニ去シ天平十七年ノ式ニ依テ之ヲ填セヨ

〔按〕天平十七年ノ制ニ云諸國ノ公廩大國ハ四十萬束上國ハ三十萬束中國ハ二十萬束中ニ就テ大隅薩摩ノ兩國ハ各四萬束下國ハ十萬束中ニ就テ飛騨隱岐淡路ノ三國ハ各三萬束志摩國壹岐島ハ各一萬束若シ正稅數少ク及ヒ民舉スルコトナクセサル者アラハ必シモ限ニ滿テス其官物欠負未納ノ類ハ茲ヲ以テ填セシメ更ニ申スコトナク許サスト所謂天平十七年ノ式ナハ是ヲ謂ナリ

〔十四年七月廿七日太政官符〕去シ寶龜四年閏十一月廿三日民部省ニ下ス符ニ曰ク頃者諸國ノ雜米未進數多クシテ既ニ國用ヲ闕ク仍テ案內ヲ檢スルニ去シ寶龜元年五月十五日諸國ニ下ス符ニ云ク春米ハ豫領已上其事ニ專當シ史生已上綱領ニ充テ送ラシム若シ春運限ニ違ハ、見任ヲ解キ公廩ヲ奪ハンコト一ニ前符ニ依レト而シテ猶慎マヌ愈意闕ヲ致ス勅ス自今以後若シ未進ノ雜米アラハ多少ヲ問フコトナク國司史生已上皆公廩ヲ奪ヒ沒シテ官物ト爲シ主典已上ハ並ニ即チ考テ解シ專當ノ官ハ見任ヲ解却シ其郡司主帳已上ハ成ク職田ヲ取リ任ヲ解キ考テ貶スモ亦國司ニ同クセヨ仍テ諸國ヲシテ公廩ノ數正稅帳ト共ニ毎年申上セシメヨ自餘委曲元年ノ符ニ依レト前條ノ例ヲ承ルコト件ノ如シ勅ス少ニ依テ多ヲ奪フハ事實ニ穩ナラス而シテ斛米匹絹一物未タ進メサレハ則チ偏ニ格式ヲ稱シテ悉ク公廩ヲ奪フ事ニ於テ思量スルニ深ク弘恕ニ乖ケリ自今以後宜ク國司史生已上各差法ヲ作シ未進ノ數ニ准シテ其公廩ヲ割キ色ニ隨テ辨備シ京庫ニ進納スヘシ但其未進ノ物徵收シテ以テ公廩ニ充テ其省寮毎年ノ勘出ヲ計會セヨ然ラハ則チ未進ノ源此ヨリシテ絶ヘン自餘ノ事條ハ一ニ先符ニ依レ省宜ク承知シ勅ニ准シテ施行スヘシ

麻ノ設ハ本ト欠負未納ヲ填補センカ爲ナリ國ノ大小ニ隨テ既ニ舉式ヲ立ツ今聞ク諸國司等欠物有
リト雖モ猶公麻ヲ得ルト理須ラク法ニ依テ罪ヲ科シ其物ヲ沒官スヘシ但官人等久ク官ニ仕ルノ勞
有テ曾テ家ニ還ルノ資ナキヲ慮ル故ニ今法式ヲ立ツ舊年ノ未納欠物ハ大國ハ三万上國ハ二万中
國ハ二万下國ハ五千束以上毎年徵填シ帳ニ附シテ申上シ當年ノ未納ハ一ニ天平十七年ノ式ニ依テ之
ヲ填セヨト今勅ス出舉ノ息利ハ一ニ減少ニ從ヒ舊物ヲ填納セヨ理須ラク改張スヘシ宜ク大國ハ一
万八千上國ハ一万二千中國ハ六千下國ハ三千束已上毎年徵納セシムヘシ其當年ノ未納ハ一ニ先符
ニ依レト諸國承知シ宣ニ依テ施行セヨ延曆編定
〔廿四年三月二日勅〕采女ノ養物應ニ催送スヘキ狀頻ニ符ヲ下シ訖ル而ルニ諸國司怠慢ニシテ猶未
進多シ奉公ノ道何ソ其レ此ノ如クナラン宜ク未進ノ數ニ准シ國司ノ料ヲ奪ヒ色ニ隨テ辨備シヌニ
依テ送ラシムベシ自今以後永ク恒例ト爲セヨ代格

〔平城天皇大同二年五月十九日〕山陽道觀察使正四位下皇太弟傳兼宮内卿藤原朝臣國人奏言ス當道
播磨備中備後安藝周防等ノ五國去シ延曆四年以降廿四年已往庸并ニ雜穀等ノ未進其數少カラズ良
ニ頻年稔ラス人民彫弊スルニ由ルナリ今將ニ本色ヲ追辨セントスレハ國司則チ或ハ死シ或ハ替リ
相續テ成リ難ク百姓則チ且病且飢ヘ運進太々難シ伏シテ望ム未進ノ代一ニ額稻ヲ收テ正稅ニ混
合セン庶クハ公ニ於テ損ナク私ニ於テ便ヲ得ン但觀察使ニ任セラル、以來ハ一ニ舊ニ依テ辨進セ
シメン之ヲ許ス日本後紀

〔嵯峨天皇弘仁三年九月廿三日太政官符〕交替式ニ准スルニ國司ノ交替ニ官物ヲ付領スルコト明ニ
程期ヲ立ツ若シ欠損有ハ差ヲ作シテ填セシム或ハ公麻ノ差ニ依リ或ハ法律ノ級ニ准ス然ラハ則チ
欠損ノ徒己ノ分ヲ填納セシメ且解由ヲ與ヘテ即チ須ラク放還スヘシ而ルニ頃年諸國申ス所不與解
由ノ狀ニ總テ欠損ノ數ヲ添ヘ共ニ遷替ノ人ヲ煩ハシ途ニ一申ノ後末々補填スルヲ聞カス空ク歲月
ヲ過キ訴ヘ公庭ニ盈タシム唯式例ニ乖違スルノミニ非ス抑亦官倉ヲ虛耗ス吏タルノ道豈此ノ如シ

〔科〕本條ニ作
ル今一本ニ從
テ之ヲ改ム

〔科〕本條ニ作
ル今一本ニ從
テ之ヲ改ム

ナルヘケンヤ勅ス官物ヲ填納スルコト科條ナキニアラス宜ク鄭重ニ下知シ更ニ然ラシムルコト莫
ルヘシ若シ懷革セサレハ刑ヲ論スルコト法ノ如クセヨ類案三

三代格四月十
五日ニ作ル

〔六年十二月廿九日勅〕諸國司等各六年ノ任ヲ期シテ四歲ノ替ヲ慮ラス國內ノ雜務唯一途ノミニ非
ス今新格忽チ行レテ心事相違フ而シテ去秋下稔ニシテ損害殊ニ甚シ定テ知ル遷替ノ人必ス拘留ニ
累ハン宜ク明春新舊交替ノ政ヲ須テ今年ノ損ニ依リ有ル所ノ未納帳ニ隨テ分付スヘシ即チ後任國
司ヲシテ延曆廿五年四月十六日舊年未納ヲ填納スルノ格ニ准シテ毎年徵集シ帳ニ附シテ言上セシ
メン但返舉虛納欠負未納有テ公麻ヲ得ルノ類ハ法ニ准シテ科附セヨ日本後紀

〔十年五月二日〕公卿奏議シテ曰ク倉庫令ニ云ク凡ソ官倉ヲ欠損シテ應ニ徵スヘキ者若シ欠損ヲ分
付セラル、ハ徒未タ任ヲ離レサル者ハ本倉ニ納メ已ニ任ヲ去ル者ハ後任及ヒ本貫ニ於テ便ニ納ル
ヲ聽ルスト今畿内ノ國司偏ニ此令ニ據リ欠損ノ物咸ク外國ニ填ツ夫レ畿内ハ京華ニ接近シ公用繁
ク廣シ加以ス稻ノ貴賤ヲ論スルニ内外懸隔ス而シテ近ヲ失ヒ遠ニ填ツ弊タル良ニ深シ伏シテ望ム
自今以後畿内ノ欠損外國ニ填ルヲ停シ之ヲ許ス類案國史

〔淳和天皇天長二年十月二十日太政官符〕太政官去年八月廿一日山城國ニ下セル符ニ曰ク國ノ解ラ
得ルニ云ク諸郡司ノ解ニ云ク收納ノ事ハ令條ニ程ヲ立ツ賃租ノ物ハ須ラク法ニ依テ進ムヘシ而ル
ニ王臣ノ家竝ニ諸司人等多ク部内ニ接シテ雜田ヲ耕營ス其租ヲ徵スルニ至テ辨備スルコトヲ肯セ
ス租稅ノ未納ハ大概之ニ由レリ郡司ノ罪ニ入ルハ是レ己ノ怠ニアラス仍テ處分ヲ請フト國司覆勘
ヲ加フルニ事是レ實アリ望請フ王臣ノ家竝ニ内外ノ官人等營ム所ノ田租ハ十一月卅日以前ニ進メ
猶未進アラハ彼數ヲ勘録シテ言上シ其賜フ所ノ俸祿ハ未進ノ數ニ准シテ便チ京庫ニ留メン宜ス凡
ソ官物ヲ檢納スルハ程期ナキニアラス勅ヲ勘責ヲ加ヘハ何ソ稽違ヲ致サン宜ク嚴ニ勘徵ヲ加ヘ猶
未進アラハ其名ヲ實錄シテ言上スヘシト今宣ス宜ク畿内諸國ヲシテ一同ニ行ハシムヘシ類案三代格
〔仁明天皇承和元年六月十四日勘解由使判〕

和泉國ノ未納五萬餘束

〔少目〕一本權
少目ニ作ル

右國守外從五位下長峰宿禰茂智麻呂天長十年九月二十九日ノ解ニ曰ク件ノ未納已ニ言上ヲ經タリ然ラハ則チ名帳アルヘシ前守高庭ニ問フ申シ云フ交替分付ノ日理須ラク名帳ヲ責メ兼テ對勘シテ而シテ疑ハサルヘシ前司良臣豐田麻呂等列見ヲ勞スルコトナク且當時ノ公廩ヲ以テ代ヘテ壹萬五千束ヲ填ス前件遺ル所名帳アルコトナシ應ニ不動ノ怠ヲ勘シテ避ル所ナカルヘシト今去年六月八日ノ詔書ヲ檢スルニ曰ク今日味爽以前大辟罪以下罪輕重ト無ク成ク之ヲ赦除ス唯強竊ニ盜ハ赦ス限ニ非スト未納ハ理之ヲ赦免許容セス官格ニ依ルニ填スヘクシテ填セズ天長五六兩年ノ公廩ヲ分チ得ルハ事盜詐ニ涉レリ仍テ須ラク前司及ヒ同任ヲシテ填納シ然ル後ニ放還セシムヘシ

〔五年六月廿一日〕太宰府言ス府吏ノ公廩ハ未納アリト雖モ猶正稅ヲ以テ全ク之ヲ給ハラレ彼代ハ國司ヲシテ徵填セシメン若シ當國ノ正稅數少ケレハ管内ニ通シ行ント之ヲ許ス權日本後紀 類案國史

〔六年十月朔日太政官符〕前近江權介從五位下藤原朝臣濱雄少目從七位上刑部氏繼等ノ解ヲ得ルニ曰ク一任ノ中兩年熟セス任中官物ノ未進數多シ默爾トシテ居ラント欲スレハ後ノ責避ケ難ク部ニ入テ勘セント欲スレハ前司力ナシ望請フ官符ヲ賜ハリ當時ノ吏ト相共ニ部ニ入り件ニ依テ勘納セシ宣ス年ヲ踰ヘテ究メス意國司ニアリト雖モ而モ官物ヲ備ルニ至テハ聽サ、ル可ラス宜ク收納ノ國司ト共ニ部ニ入テ勘納スヘシ此ニ因テ當年ノ事ヲ妨滯セシムルコトヲ得サレ類案三

〔八年八月四日〕相模國高座郡大領外從六位下勳八等壬生直黑成ニ外從五位下假ス貧民ニ代リ調布三百六拾端貳丈八尺庸布三百四拾五端貳丈八尺正稅壹萬壹千壹百七拾貳束貳把ヲ填進ス云々仍テ其身ヲ褒スルナリ權日本後紀

〔十四年七月三日太政官符〕神祇官ノ解ヲ得ルニ曰ク諸國進ル所ノ神稅帳ヲ檢スルニ勘出ノ物類ニ觸テ數多シ須フク官ニ申シ填納セシムヘシ而シテ承前ノ例ヲ檢スルニ稅帳使等ノ期狀ヲ取テ張ヲ勘ヘ畢リ狀ハ民部省ニ移送ス而ルニ使等毎年相替テ先事ヲ勞セス茲ニ因テ勘出ノ物年ヲ經テ填ス

〔假〕職司ニシ
テ五位ニ叙ス
ルハ特例ナリ
故ニ云爾

〔編丁〕押丁ノ
類ナリ

一本權子ノ下
三斗ノ字アリ
又二斗ヲ三斗
ニ作ル

〔浮宮〕浮浪人
ヲ指ス

ルコトナシ望請フ民部治部等ノ省ノ例ニ准シ官ニ申シテ填納セシメン宣ス請ニ依レ類案三

〔文德天皇齊衡二年十一月十五日太政官符〕伊勢國ノ解ヲ得ルニ曰ク諸郡司ノ解ニ云ク例進ノ雜米其數限ニ多ク未進相尋テ連年絕ヘス是故ニ國吏未タ公廩ヲ沒スルノ責ヲ免レヌ郡司常ニ職田ヲ斂ハル、ノ憂ニ苦ミ人民彫弊シ鄉邑淪亡ス何トナレハ貢進ノ家ハ法ノ如ク春糞シ監領ノ吏ハ數ニ依テ辨納ス仍テ即チ運漕シ例ニ依テ貢備ス而シテ檢收ノ所既ニ是レ法ニ違ヒ貧弱ノ人夫其量納テ空リ途ニ斗概ノ間ヲシテ方術多端鍾石ノ外ヲシテ增加少カラサラシム綱丁等目其奸ヲ見レトモ口取テ言ハス欠費ノ積ル所還テ本數ニ倍セリ茲ニ因テ綱領ノ輩ハ合門弊亡シ規避ノ徒ハ舉族逃遁ス東民ノ煩斯ヨリ甚キハナシ望請フ早ク言上セラレ年料ノ雜米ハ彼綱丁ヲシテ自親ラ量リ進メシメント國司覆審スルニ陳スル所理ニ合ヘリ望請フ所司ニ下知シ件ニ依テ施行セン然ラハ則チ欠失ノ費聞ユルコトナク未進ノ責自ラ絶ヘン宣ス請ニ依レ諸國進ル所宜ク亦此ニ准スヘシ類案三

〔清和天皇貞觀七年八月朔日太政官符〕尾張國ノ解ヲ得ルニ曰ク案内ヲ檢スルニ中嶋郡貞觀四年期ニ違ヘル未進糯米五斗三升五合種子三升四合胡麻子一升桂子二斗五升直ニ准スルニ稻一十九束一把四分其代ニ郡司ノ職田ヲ沒セラル直稻五百六十八束如今未進數少クシテ沒スル所斯ニ多シ加之郡司ハ職田ヲ除クノ外亦納ル所ナシ而ルニ少ニ依テ多ヲ奪フ愁訴寔ニ深シ望請フ未進ノ數ニ准シテ件ノ職田ノ直ヲ沒セント宣ス請ニ依レ自餘ノ諸國亦宜ク此ニ准スヘシ類案三

〔陽成天皇元慶三年五月十三日〕上總國司言メ頻年災疫シテ百姓多ク死シ調庸租稅ノ未進限ニ積ム望請フ二箇年間出舉ヲ停止シ公營田ヲ佃ラシメ正稅ノ本額式ニ依テ借貸シ糶稻ノ殘額帳ニ附テ言上セント之ヲ許ス三代實錄 類案國史

〔八年八月四日〕勅シテ上總國ヲシテ境内ノ浪人ヲ括逐セシム是ヨリ先キ彼國司言ス齊衡二年六月二十五日ノ格ニ曰ク太政官去シ延曆十六年四月二十九日太宰府ニ下ス符ニ云ク浮宮ヲ括責スルハ先ニ已ニ下知ス云々從五位下行助教淨野朝臣富家浪人シテ吏ノ行フ所ニ乖キ官物ヲ勘納スルニ至

テ國宰ニ對捍シ郡司ヲ凌寃ス租稅過多ク調庸貢ヲ闕ク職トシテ此レ之ニ由ル望請フ彼格ニ准シテ放逐セン但留任シテ國務ニ從フコトヲ情願スル者ハ狀ヲ呈テ土戸ニ貫付セント之ニ從フ三代實錄

〔按對捍トハ官ニ對シ命ヲ擧クナリ其罪大ニシテ未遂未納ノ比ニ非ス當時綱紀未タ弛マズ其人浮寄ノ外未タ此格アツクルナリ〕

〔無庫〕庫中物無キナリ

〔雜任〕長次判官主典四等ノ官ノ外ナリ

〔土浪〕土民浪人ナリ

〔六衛府〕左右衛門左右兵衛左衛門右衛門左衛門兵士ナリ

〔光孝天皇仁和元年三月十日〕是ヨリ先キ紀伊國介外從五位下與道宿禰春宗ノ解ニ曰ク去シ貞觀十五年ノ交替ニ不用ノ惡稻五萬七千九百四十一束既ニ糞芥トナリ更ニ出計セス請フ未納ノ率ニ准シテ全物ト成サント是ニ至テ之ヲ許ス三代實錄
〔宇多天皇寬平六年八月四日太政官符〕左大臣ノ奏狀ニ曰ク日者大炊ノ廩院數無庫ヲ申ス其由緒ヲ尋ルニ誠ニ未進ニ縁レリ凡ソ年料白米ハ大稅ノ利稻ヲ以テ諸國春進ス一年應ニ萬八千石ヲ納ムヘシ而シテ或年ハ見納六七千石或年ハ稅ニ八九千石然ラハ則チ既ニ三分ノ一ヲ欠ク何ソ百餘ノ用支ヘン伏シテ格條ヲ見ルニ寶龜元年四年類ニ法制ヲ垂レテ云ク諸國雜米未進ノ數多ク既ニ國用ニ關ク事須ラク格條已上其事ニ專當シ史生以上綱領ニ宛テ送ルヘシ若シ未進アラハ多少ヲ問フコトナク國司史生以上皆公廩ヲ奪ヒ主典已上並ニ即チ考テ貶シ專當官ハ見任ヲ解却シ郡司主帳以上ハ成ク職田ヲ取リ任ヲ解キ考テ貶ス亦國司ニ同クセヨ延曆十四年ノ格ニ云ク少ニ依リ多ヲ奪フ事實ニ穩ナラス而シテ斛米疋絹一物未タ進メサレハ偏ニ格式ヲ稱シ悉ク公廩ヲ奪ヘリ事ニ於テ思儀ニルニ深ク弘恕ニ乖ケリ自今以後宜ク國司史生以上各差法ヲ作シ未進ノ數ニ准シ其公廩ヲ割キ色ニ隨テ辨備シ京庫ニ進納スヘシト件等ノ格ニ據ルニ未進ニ隨テ公廩ヲ誤ル延曆ノ格ニ載スト雖モ專當ヲ罪シ綱領ヲ貶スル尙ホ寶龜ノ制ヲ存ス今ノ庶フ所ハ專當國司ノ罪始制ノ如ク綱領史生亦見任ヲ解却シ其國司解由ヲ進ルノ日未進ナキヲ知リ後ニ及テ之ヲ收メント勅ス請ニ依レ實錄
〔七年九月廿七日太政官符〕聞カ如キハ諸司ノ雜任以上王臣ノ僕從ノ中部内ニ居住シ業編戶ノ輩ニ同フシテ或ハ成ヲ本主ニ假リ或ハ事ヲ本司ニ寄セ春正稅ヲ給スレハ則チ官舍ニ置キ月ヲ涉テ受ク

ス秋田租ヲ徵スレハ亦爭テ獲稻ヲ運ヒ期ヲ過テ輸スコトナシ此ノ如キノ類ハ土浪ヲ論セス理ニ任セテ勸責シ許容スルコトヲ得サレ若シ逆テ國郡ノ教諭ニ順ハサレハ事須ラク其本司本主ヲ具錄シテ急ニ以テ言上スヘシ事ニ隨テ罪ヲ科セン國司忍テ言ハサレハ同ク重責ヲ加ヘン諸國此ニ准セヨ實錄
〔醍醐天皇昌泰四年閏六月廿五日太政官符〕播磨國ノ解ヲ得ルニ曰ク調庸租稅ハ國ノ大事ナリ此國ノ百姓過半ハ是レ六衛府ノ舍人ナリ初メ符牒國ヲ出テシ以後偏ニ宿衛ト稱シテ課役ニ備ヘス田疇ヲ領作シテ正稅ヲ受ケス无道ヲ宗ト爲シ國郡ニ對捍シ或ハ作ル所ノ田稻ヲ私宅ニ刈收スルノ後其倉庫毎ニ爭テ牒札ヲ懸ケ本府ノ物ト稱シ勢家ノ稻ト號ス或ハ事止ムヲ獲ス收納使等之ヲ認メ懲ス時ハ是非ヲ辨セ捕テ以テ凌轢シ動スレハ群黨ヲ招キ恣ニ懲惡ヲ作ス是ニ於テ租稅ノ專當調庸郡司彼威猛ヲ憚リ物實ヲ納レサレトモ僅ニ契狀ヲ責メ空ク里倉ヲ立ツ茲ニ因テ調庸期ヲ過テ未タ進メス正稅法ニ違テ返擧ス前後ノ吏遷替ノ時件ノ未進返擧等ノ色前司ニ勘負シ途ニ無實ト爲ル官物ハ欠失シ國宰ハ羈絆セラレ此強梁ヲ許サハ安ソ興復ヲ期セン望請フ官裁制ヲ張リ罪ヲ科シ調庸租稅期ニ合テ進メシメント宣ス課役ヲ免除スルハ理獨符ヲ待チ正稅ヲ班收スルハ尤モ耕田ニ據ル開カ如キハ諸衛ノ舍人未タ皇憲ヲ知ラス專ラ宿衛ヲ怙ミ國郡ヲ蔑爾ス既ニ所部ノ民タラハ何ソ宰吏ノ政ヲ扞カン宜ク教諭ヲ加ヘ違背ナカラムヘシ若シ制ヲ下スノ後猶違犯スルアラハ身ヲ捕ヘ及ヒ名ヲ錄シ言上セヨ隨テ即チ事重キハ解却シ犯輕キハ罪ヲ科セン其未進官物ハ貢納セシメ會シ寬宥セサレ諸國此ニ准セヨ實錄
〔延喜十九年七月十三日太政官符〕勘解由使ノ解ヲ得ルニ曰ク案内ヲ檢スルニ官稻ノ本ハ田租ヨリ出ツ年輸ノ數ハ明ニ公帳ニ注ス而シテ今諸國言上スル所前司ニ解由狀ヲ與ヘス交替使帳任用分付實錄帳等ヲ檢スルニ田租穀類並ニ租春米等ノ未納ヲ注載スルコト巨多ナリ並ニ皆當時國郡司等之ヲ徵納スル所而シテ付領ノ時空ク負累ト爲リ遷替ノ後辨填スルニ由無シ重テ物意ヲ案スルニ解後

ノ怠前人ニ在リト雖モ徵納ノ勤宜ク後任ニ屬スヘシ況ヤ復タ前司適マ赦免ニ逢マハ後司專ラ辨填ヲ勤ム但徵納多少未タ章程ヲ定メス古今ノ勸判大同小異或ハ云ク見任ノ吏ヲシテ率分ヲ徵填セシメン或ハ云ク後司相承ケ數ニ依テ徵填セント事兩端ニ分レ判一定ニ非ス諸國ノ牧宰何ソ狐疑ソ決セン方今偏ニ率分ヲ守ント欲スレハ則チ格式ノ文未タ准的ヲ見ス全ク徵納ヲ責ント欲スレハ則チ辨填ノ務後司堪ヘ難シ望請フ田租未納率ヲ立テ之ヲ徵納セシメ其率法ハ正稅ノ率ニ准シテ每年之ヲ填セシメン立テ、判例ト爲シ永ク遵行セシメン然ラハ則チ官物ノ填納此ニ於テ期ス可ク國司ノ疑ヒ今ヨリ永ク斷ヘント勅ス請ニ依レ

〔按〕付領トハ猶授受ト言フカコトシ前司任テ後司任テ領スルナリ國郡司等交替ノ際前司ノ未タ徵填セサルモノ空ク負累トナリ後司其弊ヲ受ク因テ徵納ノ率ヲ立ルナリ

〔式〕凡ソ諸國ノ雜米未進アラハ其官長ノ解由ヲ返却シ未進ナキヲ知テ然ル後下サシム 大政 官式

〔按〕返却トハ之ヲ受理セサルナリ下サシムトハ受理シテ了テ民部省并ニ勸解由使ニ下付セシムルナリ

凡ソ諸國例進ノ地子米並ニ交易ノ雜米未進アラハ朝集調庸稅帳等ノ返抄ヲ拘留ス 太政 官式

凡ソ畿内國營田ノ地子米未進アラハ調ノ返抄ヲ拘ス 民部 式

〔按〕畿内國營田ノ地子米ハ概テ官内省ノ所用ニ屬ス若シ未進アラハ返抄ヲ拘スルコト獨リ調ニ止ルハ何ソヤ式文ヲ據スルニ諸國皆調庸及ヒ中男作物ヲ輸ス畿内ハ調有テ庸及ヒ中男作物ナシ是レ獨リ調ノ返抄ヲ拘留スル所以ナリ凡ソ甲ノ未進ニ乙ノ返抄ヲ拘留スルハ何ソヤ國司等ハ納物ヲ速テスルヲ以テカトナス且地子米年料等ハ尤モ其送致ヲ慢ニス可クナルモノトス故ニ此ニ未進アレハ彼返抄ヲ抑留シテ其責任ヲ速テセシムルナリ

凡ソ諸國年料雜交易物ハ當年充進シテ年ヲ踰ルコトヲ得ス若シ未進アラハ調庸ノ返抄ヲ拘ス 民部 式
〔村上天皇天曆元年閏七月十六日〕左辨官檢非違使ニ下シテ曰ク五畿内近江丹波等ノ國司ノ奏狀ヲ得ルニ云ク法條ヲ檢スルニ既庫律ニ云ク應ニ輸スヘキ課稅及ヒ官ニ入ルヘキノ物ニシテ廻避詐匿シテ輸サス或ハ巧偽濫惡ナラハ關ク所ヲ計リ盜ニ准シテ論ス疏ニ云ク調庸雜稅ノ類及ヒ應ニ官ニ入ルヘキノ物ニシテ廻避詐匿シテ逗留ヲ作シ遂ニ廢闕ヲ致シ及ヒ巧偽濫惡ニシテ官司ヲ欺妄スル

〔陪填〕賑救令ニ陪填ノ字アリ陪填セリト訓セリ

〔估終〕香札傳ニ云茲ヲ估テ自ラ終ルナリト律ニ再犯ノ義ニ取レリ

〔徵納〕恐ラクハ懲罰ノ誤

ハ皆關ク所ノ物數ヲ總計シ准論シテ罪ヲ科シ法ニ仍テ陪填スト寛平七年九月廿七日ノ格ニ云ク美濃國ノ解ヲ得ルニ云ク凡ソ諸國ノ例郡司ヲ分配シテ租稅調庸ノ專當ニ充テ土浪ヲ驅使シテ官ニ進ル雜物ノ綱丁ニ差ス若シ官物ヲ損失スルコト有ラハ領人ノ私物ヲ取テ其欠負ヲ填納ス而シテ此國ノ人心巧多クシテ只奸欺ヲ事トシ官物ヲ欠失スルニ至テ國司其私物ヲ沒シ官舍ニ運納セント欲スルニ臨ミ忽チ官家ニ就テ假ニ寄進ト爲シ其家牒ヲ請テ當國ニ送り或ハ云ク是レ家ノ出舉物ト或ハ云ク寄進借物ト代ト或時ハ札ヲ懸ケ或時ハ杭ヲ打ツ此ノ如キノ違濫勝テ計フヘカラス國司詳ニ家物ニ非ルヲ知ルモ權勢ヲ恐ル、カ爲ニ擊目閉口ス是故ニ官物已ニ未進ヲ致シ國宰其負累ニ罹ル國ノ治メ難キ斯ヨリ大ナルハ莫シ望請フ元來其家物ト稱スルニ由ナキ者ハ家牒アリト雖モ更ニ許容セサラン然ラハ則チ部内肅清ニ官物全ク納ラント請ニ依レ又聞カ如キハ諸國ノ雜任以上王臣ノ僕從ノ中部内ニ居住シ業編戶ノ輩ニ同フシテ或ハ威ヲ本主ニ假リ或ハ事ヲ本司ニ寄セ春正稅ヲ給スレハ則チ官舍ニ置キ月ヲ涉テ受ケス秋田租ヲ徵スレハ亦爭テ獲稻ヲ運ヒ期ヲ過テ輸スコト無シ此ノ如キノ類ハ土浪ヲ論セス理ニ任セテ勸責シ許容スルコトヲ得サレ若シ逆テ國郡ノ教諭ニ順ハサレハ事須ラク其本司本主ヲ具錄シテ急ニ以テ言上スヘシ事ニ隨テ罪ヲ科セン國司忍テ言ハサレ同ク重責ヲ加ヘン諸國此ニ准セヨト同六年二月十三日ノ格ニ云ク紀伊國ノ解ヲ得ルニ云ク正稅ヲ班舉シテ若シ對捍スル輩有ラハ管スル所ノ獲額ヲ勘收シテ不足ノ官稻ヲ填補シ以テ懲罰ヲ爲シ會テ寬縱セサラント請ニ依レ若シ懲罰スルノ後猶後改セサレハ京戶ノ子弟及ヒ浪人ハ寛平三年九月十一日ノ格ニ依テ勒シテ本郷ニ還シ及ヒ移シテ遠所ニ配シ復タ留住セシメサレ其當國ノ人估終ノ者ハ有官無職及ヒ院宮勢家ノ人ヲ論セス名ヲ錄シテ言上セヨ殊ニ重科ニ處セン諸國若シ此類アラハ同ク亦之ニ准セヨト今律條ノ如キノ官物ヲ奸遁スルノ輩其罪盜ニ准シテ之ヲ論ス又格旨ヲ按スルニ京戶ノ子弟及ヒ浪人ハ勒シテ本郷ニ還シ及ヒ移シテ遠處ニ配シ復タ留住セシメサレト案内ヲ檢スルニ事朝章アリ人須ラク徵肅スヘシ而シテ民ノ不良ナル狼戾多端只一時ノ威猛ヲ假テ百王ノ

〔船工〕船ハ國
字ナリ由ニ入
リ後木スル甲
ノヲ謂フ

〔近衛天皇久安元年正月十七日〕左辨官伊賀國ニ下シテ曰ク國守藤原朝臣信經ノ解狀ヲ得ルニ云ク
案内ヲ檢スルニ東大寺ノ御封米先例國庫ニ徵納シ下行シ來ル所ナリ而シテ近來彼寺ノ抽工等志ニ
公田ヲ押作シ御封ヲ推募ス國司愁憤ヲ懷ケトモ強テ制止ヲ加ヘス便チ之ヲ補フ其外數百石ノ官物
國庫ニ辨濟スヘキノ處皆悉ク抑留ス仍テ催促ヲ加ル時大衆アリト稱シ惡僧等ヲ招キ濫行ヲ致シ左
道ノ基何事カ之ニ如シ況ヤ當國近代以降莊園多クシテ國領幾ナラス適マ殘ル所ノ公田又權門百姓
等意ニ任セテ押作シ地利ヲ辨セス何ヲ以テ封家納官濟物臨時色々ノ召物其勤ヲ致サンヤ望請フ天
恩早ク宣旨ヲ下サレ各沙汰人等ニ付シ官使ヲ以テ催サシメント勅ス請ニ依レ國宜ク承知シ宣ニ依
テ之ヲ行ヘ東大寺
古文書

〔按〕世慮降リ綱紀愈弛ミ權門豪從各其私ヲ逞フシ官物ノ徵納止タ未迄ノミナラス拒捍暴橫雖チ接スルニ至ル竟ニ國家衰
亂ヲ致ス所以ナリ

運漕

〔按〕收租同ヨリ陸運漕漕ヲ要ス然トモ曩時ノ制正稅公辦雜糧皆稻若クハ穎ヲ收メ多クハ其國內限リ之ヲ處分ス故ニ單及
ヒ遠地ニ運漕スルハ年料雜物等ニ過キサルナリ歷世其道ヲ講シ方法漸ク整フ延喜式ニ至テ大ニ備ル以テ徵ス可キナリ
〔崇神天皇十七年七月朔日詔〕船ハ天下ノ要用ナリ今海邊ノ民船無キニ由テ以テ甚タ步運ニ苦ム其
レ諸國ニ令シテ船舶ヲ造ラシメヨ日本書紀

〔按〕本史ニ據ルニ伊弉諾伊弉册尊ノ時既ニ製機漕船云々ノ事有リ又神武天皇舟師ヲ帥テ東征ス我邦船有ルコト尙シ然
ルニ原本此下ニ云冬十月始テ船舶ヲ造ルト蓋シ天下人民ナシテ編ク船ヲ用ヒ以テ步運ノ勞ニ代ヘシムルハ是時ニ始ルナ
リ

〔宣化天皇元年五月朔日詔〕夫レ筑紫國ハ遐邇ノ朝屆スル所去來ノ關門トスル所云々故ニ朕阿蘇仍
君ヲ遣シ河内國茨田郡ノ屯倉ノ穀ヲ加ヘ運ハシム蘇我大臣稻目宿禰ハ宜ク尾張連ヲ遣シ尾張國ノ
屯倉ノ穀ヲ運ハシムヘシ物部大連麴鹿火ハ宜ク新家連ヲ遣シ新家ノ屯倉ノ穀ヲ運ハシムヘシ阿倍
臣ハ宜ク伊賀臣ヲ遣シ伊賀國ノ屯倉ノ穀ヲ運ハシムヘシ官家ヲ那津ノ口ニ修造セヨ日本書紀(事)
田條中ニ具レリ

〔令〕凡ソ行程馬ハ日ニ七十里歩ハ五十里車ハ卅里公式

〔按〕集解ニ云馬日ニ七十里歩五十里車卅里トハ未タ知ラス物ヲ持ツヤ持タスヤ並ニ同キヤ否ヤ答フ此令ハ物ヲ持ツカ
ナリ云々ト蓋シ人ニ於テハ必シモ然ラサルモノ有リト雖モ馬車ハ之ヲ運輸ニ用フルコト知ルヘシ雜令ニ云凡ソ地ノ度
五尺ヲ步ト爲シ三百步ヲ里ト爲スト當時曲尺一尺二寸ヲ以テ一尺ト爲ス即チ七十里ハ今ノ九里二十六町五十里ハ六里三
十四町卅里ハ四里六町ニ當レリ

〔元明天皇和銅五年十月廿九日詔〕諸國ノ役夫及ヒ運脚ハ郷ニ還ルノ日糧食乏少ニシテ達スルコト
ヲ得ルニ由ナシ宜ク郡稻ヲ割テ別ニ便地ニ貯ヘ役夫ノ到ルニ隨テ任ニ交易セシムヘシ雜日

〔元正天皇養老六年閏四月廿五日〕太政官奏シテ曰ク兵ヲ用フルノ要ハ衣食ヲ本ト爲ス錢ニ儲糧無
クハ何ソ固守スルニ堪ン民ニ募テ穀ヲ出サシメ鎮ニ運輸スルコト道ノ遠近ヲ程テ差ヲ爲ス可シ
委輸スルコト遠ハ二千斛次ハ三千斛近ハ四千斛ヲ以テ外從五位下ヲ授ント之ヲ可ス其六位已下八
位已上ニ至テハ程ノ遠近ニ隨テ穀ヲ運スルノ多少亦各差アリ雜日

〔聖武天皇天平十一年四月十四日〕天下諸國ヲシテ駄馬一疋負フ所ノ重サ大ニ二百斤ヲ改テ百五十斤
ヲ以テ限ト爲サシム雜日

〔按〕大ニ二百斤ハ今ノ三十二貫ナリ百五十斤ハ今ノ二十四貫ナリ延喜木工式人擔ノ條ニ云貳瓦十二枚筒瓦十六枚瓦九枚
宇瓦七枚並ニ一擔ト爲ス若シ積ニ准スレハ大六十斤ナ一擔ト爲ス車載ノ條ニ云貳瓦一百廿枚筒瓦一百卅枚瓦八十枚宇
瓦六十枚各一兩ニ載ス駄ハ三分ノ二ヲ減スト式ノ法ハ人擔九貫六百目車載ハ率之二十倍シ乃チ九十六貫トス駄其三
ノ二ヲ減スレハ三十二貫ナリ今大ニ二百斤ヲ改テ百五十斤ト爲ス式載スル所ノ如キハ蓋シ其舊法ニ復スルナリ事ハ
雜舊條中ニ詳ナリ

〔孝謙天皇天平勝寶八年十月七日〕太政官處分ス山陽南海諸國ノ春米自今以後海路ヲ取リ漕送セヨ
若シ漂損アラハ天平八年五月ノ符ニ依テ五分ヲ以テ論シ三分ハ綱ニ徵シ二分ハ運夫ニ徵セヨ但美
作紀伊ノ二國ハ此限ニアラス雜日

〔按〕是時大和ニ都ス山陽南海ノ兩道ハ海運ニ便ナリ美作ハ山陽ニ屬スルモ海ニ遠ク紀伊ハ南海ニ屬シ地勢大和ニ背接シ
テ皆運漕ニ不便ナリ是ヲ以テ其制餘國ト同カラサルナリ

〔其間〕公式令
ヲ按スルニ凡
ソ論議ハ其允
可セラルヘキ
ニ於テ開字ヲ
御盡ス

〔雜田料〕管田
ノ雜用ヲ謂フ
〔挾抄〕船師チ
謂フ和訓乘ニ
云梅取ナリ
〔全〕悉クハ乏
ノ誤

〔十人〕悉クハ
千人ノ誤

但運賃ハ並ニ正稅ヲ給ヒ給法ハ常例ニ加増シテ以テ民力ヲ勸メン管見ノ及フ所商量スルニ件ノ如
シ畫開既ニ訖ル類案三
〔清和天皇貞觀十二年十二月廿五日制〕北陸山陽南海西海等ノ道諸國ノ官物京ニ運フニ人物漂損セ
ハ乘ル所ノ人ヲ總計シ半分以上ナレハ充テ、乃チ原免ニ從ヘ^三代
〔十八年三月九日〕參議太宰權帥從三位在原朝臣行平壹伎嶋ノ水田一百町ヲ營ミ對馬嶋ノ年糧ニ充
テシメシコトヲ請フ曰ク文簿ヲ檢スルニ六國一年對馬嶋ニ漕運スル所ノ年糧穀二千斛運賃并ニ雜
田料ノ穀類三萬四千五十束中ニ就テ筑前筑後肥前豐前豐後等ノ國各三百二十斛肥後國四百斛運賃
穀一萬七十四束並ニ綱丁挾抄水手百六十五人係丁稻三千二百八十束凡ソ厥費ス所大畧件ノ如シ而
シテ往古以來全ク到ルモノ實ニ年中ニ五六ノ三四ヲ漂ハス故ヲ以テ運輸ノ國人物從テ盡キ檢領ノ
嶋糧儲蓄ニ全シ壹伎嶋司并ニ習俗人民等習申シテ云ク壹伎嶋ハ肥前國等且犯人夜對馬嶋ノ上ニ若
岸センコトヲ恐ル壹伎嶋モ亦之ノ如シ其潮落チ潮來ルコト他處ニ似ス而シテ陸地ノ人民漂波ナラ
サルニ蕩沒ヲ程枚スレハ踵ヲ連テ溺死スルコト絶ヘス今故實ヲ檢スルニ延曆以往件ノ年糧穀六箇
國ヨリ遞ニ壹伎嶋ニ送リ壹伎嶋受領シテ對馬嶋ニ轉漕ス而シテ大同以來已ニ停廢ス伏シテ以ルニ
古人ノ遠圖深ク物理ニ達ス但六國ヲシテ漕運セシムルモ猶弊ヲ救フニ由ナシ因テ文簿ヲ檢スルニ
壹伎嶋ハ課丁二千餘人并ニ是レ半輸者ナリ千人ハ御油ヲ貢シ千人ハ府儲ノ油并ニ雜穀等ヲ進ム又
同嶋水田六百六十町而シテ八十六歩ヲ沒ス中ニ就テ百姓ノ口分田并ニ雜職田等ヲ除クノ外死者ノ
口分并ニ疫死ノ口分國造田等一百餘町今商量スルニ十人ノ丁ヲ役シ百町ノ田ヲ營ム其勢掌ヲ反ニ
ヨリモ易シ府進ルノ雜物ヲ停テ對馬嶋ニ運フ年糧ノ事ハ又人民ニ仗ラン假令ハ壹伎嶋進ル所ノ
雜油并ニ雜穀等ヲ停メ六國ヨリ進メシメ六國運フ所ノ年糧ヲ停メ壹伎嶋ノ田租ヲ營マシメシ利害
ヲ以テ返納スル所ノ稻二萬九千六百三十餘束即チ其支度用途載セテ別紙ニアリ但反經ノ可否利害
明ニシ難シ因テ彼嶋守賀茂直峰并ニ事ニ練レタル書生等ヲ召テ利害ヲ陳セシメ之ヲ勘シテ已ニ

〔十月五日〕實
錄十二月六日
ニ作ル

ル云々是ニ於テ公卿奏議シテ曰ク聖人世ヲ濟フ物ヲ便ニスルヲ以テ先ト爲シ明王民ヲ馭ス宜ヲ制
スルヲ以テ貴ト爲ス今行平請フ所漸ク風浪運漕ノ費ヲ省テ封疆任土ノ規ヲ存シ以テ祥有ランコト
ヲ欲ス云々謹テ事狀ヲ錄シテ天裁ヲ聽ント奏ス可ス^三代
〔按〕筑前等ノ五國各三百二十斛肥後國四百斛併セテ二千斛トス而シテ運賃穀并ニ綱丁等ノ稻併セテ一萬三千三百五丁
四束此米一束五升ヲ以テ算スレハ六百六十七石七斗トス而シテ向キ雜田料若干束有リ其費ス所鮮少ナラスト謂フ可キ
リ壹伎嶋ハ絶海ノ小島諸般不便ナルヲ以テ課丁皆定納ノ中ヲ輸シ御油及ヒ府油等ヲ進ム今此課丁ヲ以テ其耕サレ田一
百町ヲ營ニ以テ對馬ニ送リ御油府油等ハ之ヲ六國ヨリ進ム乃チ彼此冗費ヲ省減ス因テ此請アルナリ
〔陽成天皇元慶元年七月廿七日〕大嘗會行事所奏ス五畿七道諸國會料ノ雜物ヲ運輸スルニ係丁ヲ差
課シ負擔シテ路ニ就キ遠近多ク疲レ請フ輸程ノ艱期會ヲ失フコトナカラント詔シテ正稅ヲ以テ之
ヲ給シ後年ニ舉填セシム^三代
〔三年十月四日〕太宰府言ス壹伎嶋田一百町ヲ營作シ其獲稻ヲ糶ト爲シ對馬嶋ニ送テ以テ防人ノ年
糧ニ充ツ而シテ嶋地隘狹田疇薄墾耕作ノ苦ヲ爲スノミニアラズ亦轉漕ノ煩アルヲ知ル嶋司申
フ早ク言上セラレ件ノ營田救民ノ費ヲ停メ今以テ國用ノ正稅分ニ充テハ運送ノ漂失填シ易クシテ
年損煩シカラスト請フ壹伎嶋糧ヲ運フノ勞ヲ停テ其年糧田百町ノ地子ハ嶋司例ニ依テ勸納セント
之ニ從フ^三代
〔按〕對馬島ノ年糧漕運ノ事是ニ至テ其舊ニ復ス主稅式六國ヨリ對馬島ニ送送スルノ文アリ以テ參觀スヘシ
〔光孝天皇仁和元年十月五日〕勅シテ使者ヲ山城大和河内和泉攝津等ノ國ニ分チ遣シテ春宮ノ田ノ
獲稻並ニ地子ノ直ヲ京師ニ運送ナシム^三代實錄
〔式〕凡ソ齋內親王三節ノ祭時神宮ニ參シ及ヒ四度ノ祓所ニ向ヘハ三箇神郡司互ニ之ニ供給ス其料
米ハ國司公郡ノ正稅ヲ以テ春キ精ケテ之ヲ送ル夫馬ハ三箇郡司儲ケ備フ<sup>度別ニ夫五十八馬
八十疋〇神祇式</sup>
〔按〕夫ハ人夫ナリ馬八十疋ハ馬コトニ別ニ馬丁ヲ用フルナリ
凡ソ畿內ノ國營田ノ稻ハ營料ヲ除クノ外米ニ春テ每年內藏寮ニ運送ス<sup>民部式〇事收納
總錄ニ具レリ</sup>

〔因〕運脚ナリ

凡ソ官物京ニ運フニ應ニ綱領ニ差スヘキ者ハ米三百石以上ハ國司史生以上ノ任ニ勝タル者ヲ差シ充ツ此數ニ滿タサレハ郡司及ヒ子弟並ニ百姓ノ殷富家口重大ナル者ヲ差ス自餘ノ雜物亦此數ニ准ス若シ官物ヲ損失スルコト有ラハ科處スルコト法ノ如シ其物ハ五分ヲ以テ論シ三分ハ綱ニ徵シ二分ハ脚ニ徵ス但漂失ノ物ハ乘ル所ノ人ヲ總計シテ半分已上死セハ隨近ノ官司ニ告ケ證驗證署ヲ請ヒ分明ニシテ乃チ免除ニ從フ承告ノ司ニ送り實ヲ檢シテ驗ヲ與フ若シ勘知ヲ加ヘスシテ帳ク公驗ヲ與フル者ハ並ニ與ニ罪ヲ同フス民部式

年料春米

伊勢國	大炊ニ一千七百石
美濃國	内藏ニ四百石大炊ニ六百石
越前國	内藏ニ五百石大炊ニ六百石
丹波國	内藏ニ五百石大炊ニ六百石
但馬國	大炊ニ五百石
播磨國	内藏ニ二百石大炊ニ三百石
備前國	内藏ニ二百石大炊ニ三百石
備後國	大炊ニ五百石
紀伊國	大炊ニ二百石
伊豫國	大炊ニ二百石
右廿二國各正稅ヲ以テ春キ運フ白米ハ大炊察ニ送り黒米ハ省及ヒ内藏察ニ送ル其運送ノ儀夫ハ陸ニ路ノ糧ヲ給フ <small>民部式</small>	
〔按〕大炊察ニ送ルモノハ追日燂炊ノ用ニ充ツ故ニ白米ヲ要ス内藏察ニ送ルモノハ以テ其儀備ニ充ツ故ニ黒米ヲ要スナ	
尾張國	大炊ニ一千八百石
近江國	内藏ニ五百石大炊ニ六百石
若狹國	大炊ニ二百石
加賀國	大炊ニ二百石
丹後國	大炊ニ二百石
因幡國	大炊ニ二百石
美作國	大炊ニ二百石
備中國	大炊ニ二百石
安藝國	大炊ニ二百石
讃岐國	大炊ニ二百石
土佐國	大炊ニ二百石

年料租春米

尾張國	石一千
遠江國	石一千
美濃國	石一千
越前國	石一千
丹波國	石一千
美作國	石一千
備中國	石一千
安藝國	石一千
伊豫國	石一千
參河國	石一千
近江國	石一千
若狹國	石一千
加賀國	石一千
播磨國	石一千
備前國	石一千
備後國	石一千
讃岐國	石一千
土佐國	石一千

〔功糧〕功賃ナリ

右十八國ハ各租穀ノ内ヲ以テ春收シ官符ノ到ルニ隨テ之ヲ進ム其精代運賃ハ正稅ヲ用フ安ニ預ト爲シテ本ヲ關クコトヲ聽サス民部式

凡ソ筑前筑後肥前肥後豐前豐後等ノ國ハ毎年穀三千石對馬嶋ニ漕送シテ以テ嶋司及ヒ防人等ノ糧ニ充ツ其部領ノ糧船賃挾抄水手ノ功糧ハ並ニ正稅ヲ用フ主稅式

凡ソ五畿内伊賀等ノ國ノ地子ハ正稅ニ混合シ其陸奥ハ備前並ニ鎮兵ノ糧ニ充テ出羽ハ秋ノ祿太宰所管ノ諸國ハ對馬嶋司ノ公廩ニ充ルノ外輕貨ニ交易シテ太政官ノ厨ニ送ル自餘ノ諸國交易シテ遠ルモ亦同シ但隨近及ヒ縁海ノ國ハ米ニ春テ運漕ス其功賃ハ便チ數内ヲ用フ主稅式

凡ソ神寺諸家ノ封租ハ輕貨ニ交易シ并ニ米ニ春テ之ヲ送ル其春運功賃亦租内ヲ用フ若シ家請受スルコトアラハ聽シテ充ツ主稅式

〔按〕封租ノ春運功賃ハ租内ヲ用フ是レ定法ナリ若シ封租ヲ給ハル家請受スルコトアラハ其功賃ヲ合セテ之ヲ給フナリ

凡ソ十五大寺ノ安居供養ノ料米ハ寺別ニ廿一石六斗二升七合但大安寺ハ大般若經會ノ料六石八斗ヲ加フ竝ニ當國正稅ヲ春テ之ヲ送ル其春運ノ功モ亦正稅ヲ用フ主稅

諸國雜物ヲ運漕スル功賃
〔按〕當時尤モ浮屠ヲ重ニス十五大寺安居供養ノ料米ハ各其國ノ正稅ヲ春キ送リ春運ノ功モ亦特ニ正稅ヲ用フルナリ

畿内山城國一東五把大和河内攝津等ノ國東和泉國東
東海道伊賀國一東五把伊勢國十二志摩國十八尾張國廿一參河國廿三海路ハ米一石ニ賃稻十六東二把

武藏國八十安房國東上總國百下總國九十常陸國百
東山道近江國一東二美濃國十二飛騨國册五信濃國六十上野國九十下野國百五陸奥國二百出羽國百

東一北陸道若狹國陸路一東五把海路一東五把陸路一東五把
東一北陸道若狹國陸路一東五把海路一東五把陸路一東五把

國陸路八十海路一東五把陸路一東五把
國陸路八十海路一東五把陸路一東五把

山陰道丹波國一東三把陸路一東三把
山陰道丹波國一東三把陸路一東三把

山陽道播磨國陸路一東五把海路一東五把
山陽道播磨國陸路一東五把海路一東五把

備前國陸路一東五把海路一東五把
備前國陸路一東五把海路一東五把

備中國陸路一東五把海路一東五把
備中國陸路一東五把海路一東五把

備後國陸路一東五把海路一東五把
備後國陸路一東五把海路一東五把

備前國陸路一東五把海路一東五把
備前國陸路一東五把海路一東五把

備中國陸路一東五把海路一東五把
備中國陸路一東五把海路一東五把

備後國陸路一東五把海路一東五把
備後國陸路一東五把海路一東五把

備前國陸路一東五把海路一東五把
備前國陸路一東五把海路一東五把

備中國陸路一東五把海路一東五把
備中國陸路一東五把海路一東五把

備後國陸路一東五把海路一東五把
備後國陸路一東五把海路一東五把

備前國陸路一東五把海路一東五把
備前國陸路一東五把海路一東五把

備中國陸路一東五把海路一東五把
備中國陸路一東五把海路一東五把

備後國陸路一東五把海路一東五把
備後國陸路一東五把海路一東五把

備前國陸路一東五把海路一東五把
備前國陸路一東五把海路一東五把

備中國陸路一東五把海路一東五把
備中國陸路一東五把海路一東五把

備後國陸路一東五把海路一東五把
備後國陸路一東五把海路一東五把

備前國陸路一東五把海路一東五把
備前國陸路一東五把海路一東五把

備中國陸路一東五把海路一東五把
備中國陸路一東五把海路一東五把

備後國陸路一東五把海路一東五把
備後國陸路一東五把海路一東五把

〔水〕淡水飲料
ニ供スルモノ
ナリ

凡ソ諸國運送ニ夫ヲ須フルコトハ皆近ヲ以テ遠ニ及フ均ク通シテ差シ充ツ其發遣ノ日及ヒ綱與并
ニ初給運處ハ先ツ差ニ應スル車馬人夫ノ數并ニ發處ノ時日ヲ定メ預メ行程ヲ定テ先ツ前所ノ國郡
ト相知リ明ニ期會ヲ爲シ預メ集テ生業ヲ妨廢シ及ヒ飢寒ヲ致スコトヲ得ス

中編第二

自養和
至慶應

田租總錄

〔按〕中古班田ノ法壞レテ莊園領地盛ニ起レリ以來田租ノ制大ニ上世ニ異ナリ上世公田ノ租ハ口分田ニ比スレハ大ニ重シ
蓋シ公田ハ全ク官ノ所有ニシテ臨時人ニ假シテ佃ラシムルニ由ルルナリ莊園領地ヲ私有スルモノ自ラ之ヲ公田視スルモ
ノ、如ク賦租從テ重ク且調庸ノ制廢シテ一切之ヲ田地ニ賦課ス田租ノ偏重ニ至ル所以ナリ今其要畧ヲ考ルニ地方凡例錄
ニ云保元平治以後兵農分レテヨリ諸國ノ租法大ニ變シ上田ハ六分中田ハ四分下田ハ二分ナリ地頭三納ム之ヲ平均スレハ四
公六民ト爲ル則チ當時ノ法ナリト是レ其概率ナリ源賴朝段コトニ兵糧米五升ヲ課セリ諸國ノ守護地頭之ニ依テ便テ粟欲
誅求ス足利氏ノ時莊園既ニ廢シ所領諸國ニ通ク田租ノ輕重一ナラス然トモ大法ハ概テ舊例ニ因循シ四公六民トス天正文
祿ニ至リ豐臣秀吉租法ヲ一變シ三分ニシテ其二ナ收ム想フニ當時諸國亂離田地ノ段少ク課問スルモノアリ水旱荒歉ナリ
稱スルモノアリ連租ノ計一ニシテ足ラズ而シテ舊實ニ由リ間マ無人ノ地ニ賦スル所ナリ秀吉乃チ田地ノ境界ヲ正シ一段
ニ六十歩ヲ削リ削ル所ヲ以テ損スル所ヲ補フ之ヲ前世ニ比スレハ重キハ則チ重シ然トモ租法頗ル平準ナリ從來買田ノ
弊ヲ一洗セシカ如シ徳川氏ニ至リ一定シテ五公五民ノ法ヲ用ヒ以テ慶應ニ至レリ蓋シ中葉租法ノ沿革率子此ノ如ク但巨
家豪族法網難脱ノ際ニ乘シ重賦橫賦以テ其私ヲ濟スモノ有リ其流風餘弊所在ニ波及シ各地異同アルモノ尠カラズ皇永
祿天正ノ間ニ至ルマテ概テ宣旨升テ用ヒ以後始テ京升ヲ用フ諸家社寺ノ領地等ニ至テハ間マ異種ノ量ヲ用ヒタリ
中古ハ多ク租ヲ以テ收納セリ

〔安徳天皇壽永二年十月十四日宣〕東海東山諸國年貢神社佛寺及ヒ王臣家領莊園舊ノ如ク領家ニ隨
フ可シ

〔後鳥羽天皇文治元年十一月廿九日勅〕諸國ニ補任スル守護地頭等權門勢家ノ莊公ヲ論セス兵糧米

段別五升ヲ課スヘシ

〔按〕莊ハ莊園ナリ公ハ公領ナリ是時莊園公領概テ王臣諸家ニ據ス賴朝奏請シテ守護地頭ヲ置キ兵糧米ヲ課ス蓋シ稅目ハ
從來ノ如クニシテ段コトニ五升ヲ加徵スルナリ當時用フル所ノ量ハ延久ノ宣旨升トス即チ其五升ハ京升ノ四升八合或句
零五貳々餘ニ當レリ

〔二年三月廿一日宣〕諸國ニ催ス兵糧米ヲ停止スヘシ

〔按〕賴朝兵糧米ヲ加課スルハ人心ノ服セサルヲ知ル故ニ亦奏請シテ之ヲ廢ス然トモ陽ニ之ヲ廢シ陰ニ猶加徵スル所多シ
爾後諸國ノ領家兵糧米免除ヲ請フヲ見テ知ルヘキナリ

〔九月五日〕〔總追捕使源賴朝令〕諸國莊公ノ地頭等領家ノ所務ヲ忽ニスト聞ケリ限アル地頭地利ノ
外交交ユ可ラス乃貢以下懈緩ス可ラス遠越ノ輩ニ於テハ嚴科ニ處スヘシ

〔按〕限アル地頭地利トハ定限アル地頭ノ租入ヲ謂フ當時地頭其定率ヲ超工領家ノ租入ヲ私スルモノ多シ是令アル所以ナ
リ

〔五年十一月朔日〕源賴朝伊豆國ノ乃貢甘苦十合ヲ京師ニ上ル

〔建久五年十一月廿六日〕征夷大將軍源賴朝武藏相模兩國ノ乃貢ヲ京師ニ進ム

〔六年十二月二日〕源賴朝駿河國富士郡ノ濟物綿千兩ヲ京師ニ上ル

〔按〕當時郡國所在概テ王臣武家等ノ占有スル所トナリ皇家ノ所入甚々微ナリ武藏相模ハ賴朝ノ領スル所乃貢ハ領家所
入ニ屬ス因テ先ツ其額分ヲ京師ニ上進セシナリ

〔七年〕源賴朝相模武藏兩國ノ所濟絲綿等ヲ京師ニ上ル

〔土御門天皇正治元年四月廿七日〕〔源賴朝令〕東國分地頭等荒不作ト稱シ乃貢減少ノ地ニ於テハ向
後領掌ヲ許ス可ラス

〔按〕東國分トハ猶鎌倉所屬ト官フカコトシ當時荒損ヲ爲稱シ歲貢ヲ私スルノ弊有リ因テ之ヲ警戒スルナリ
〔貞應二年四月〕〔淡路國國領莊園地頭注進〕賀茂郷ノ内田六丁二段廿歩ハ三斗代山田保ノ内二町

〔保〕五家相保
ツノ後ニ出テ

〔甘苦〕和名鈔
ニ食經ヲ引テ
云紫菜狀葉扁
上ノ如シ葉石
三ノ生ス是物
色ナリト爲ス
俗呼テ神仙菜
ト曰フ又淡語
抄ニ云阿末乃
里俗ニ甘苦ノ
字ヲ用フ
〔濟物〕眞物ナ
リ

〔所務〕貢租其
他納スヘキ
モノヲ謂フ
〔乃貢〕年鈔ニ
同シ

小村藤ノ稱ナ

〔大犯三條〕貞永式目ニ云大番備後謀叛殺害人ノ三事ヲ謂フ此三事ヲ成分スルハ守護ノ事ル所ナリ

〔河上〕近江國ノ地名ニ河上アリ少ク多ク小ニ作ル所ニ詳ナリ

ハ四斗代東神代保ノ内二町八段三百五十歩ハ一斗五升代ナリ田租

〔按〕同書ニ云斗代ハ一段ノ糶米ナリト然トモ諸古文書ニ據テ之ヲ考ルニ多クハ一段ノ租米ヲ謂ヘリ下條野所所以テ徵スヘキナリ

〔後堀河天皇寛喜三年五月十三日〕〔鎌倉府令〕諸國ノ守護人大犯三條ノ外過分ノ沙汰ヲナス可ラス檢非違所ハ寛宥ノ計ヲ廻ラシ乃貢ノ勤ヲ專ニスヘシ東

〔九月八日〕〔安藝國寺原莊所當米注進〕田捌町漆段貳百歩内六町二段二百六十歩ハ三斗五升代一町一段ハ三斗代九段三百歩ハ二斗五升代四段ハ二斗代ナリ殿島社

〔按〕古來田品概子上中下三等或ハ下々加テ四等ニ分チ每品取糶同シカラス是レ其一中ト雖モ斗代ノ各異ナル所以ナリ

〔延應元年十二月廿二日〕〔大法師有玄注進〕東大寺河上領大佛殿萬花會僧供料田伍段少ノ内參段少ハ所當一斛伍斗但十一合升定ナリ一升ハ寺升ニテ一升九合ニ延テ可シ貳段ハ所當一斛一斗但同升定ナリ東大寺

〔按〕三段少ノ所當ハ一段ニ四斗五升二段ノ所當ハ一段ニ五斗五升トス十一合升ハ其制詳ナラズト雖モ官升ノ一升一合トシテ之ヲ算スレハ所當一斛伍斗ハ一斛六斗五升ニシテ一斛一斗ハ一斛二斗一升ニ當ル即チ三段少ノ所當ハ一段ニ四斗九升五合ニシテ二段ノ所當ハ一段ニ六斗五合ナリトス

〔寛元四年二月〕〔安藝國三角野村所當鐵注進〕二斗代ノ地五町此分鐵百斤一斗代ノ地三町四段小此分鐵三十四斤三目三分ナリ殿島社

〔按〕古來安藝國鐵ヲ輸スチ開カス其接壤ノ地美作備後ノ二國調鐵ノ事アリ當時安藝國亦鐵ヲ産シ斗代ニ充ルコト以テ設スヘキナリ

〔後深草天皇寶治元年十一月廿七日〕〔令〕畿内諸國ノ守護地頭等内檢ヲ遂ケ過分ノ所當ヲ責取ルヲ以テ土民百姓ヲ安堵セシメ難シ國司領家ノ目錄ニ就キ沙汰ヲ爲スヘシ東

〔按〕國司領家ノ目錄トハ蓋シ田地所當等ヲ記スルモノナリ根クハ泯滅シテ傳ハラス凡例錄ニ據ルニ當時ノ租法ハ凡ソ四公六民ナリ然トモ守護地頭其定率外ニ於テ更ニ課米スル所アリシナリ

〔檢注〕解前條ニ見エタリ

〔二年十二月十二日〕〔令〕諸國地頭ノ所務重テ其沙汰アリ國司領家ノ檢注ニ任セ本地頭ハ先例ニ依リ新地頭ハ率法ヲ守リ沙汰ヲナスヘシ濫行ニ及フ可ラス東

〔建長二年八月十三日〕〔後國大野莊ノ内田三段半ノ分米ハ壹石貳斗八升島一町三百歩ノ分麥ハ四石三斗四升ナリ野莊國大

〔按〕此田一段ハ分米三斗六升五合七勺餘島一段ハ分麥四斗六勺餘ニ當レリ田園類記ニ云分米斗代石盛皆同体異名ナリト凡例錄ニ云畝歩ノ高ヲ謂フト二說皆未タ必シモ然ラス其分米ト稱スルハ本來田幾何分ノ米ノ義ニシテ高ニ稱スルモノアリ年貢ヲ言フモノアリ故ニ高ニ稱シ年貢ニ用フル皆一筆ノ分ニシテ乃チ之ヲ合算スレハ其總數ニ應ス諸國古文書以テ徵スヘシ

〔六年四月廿二日〕〔僧明縁和泉國大島郡和田莊莊官百姓ニ下知シテ曰ク新田ノ所當壹斗伍升參合肆勺段別ニ沙汰ヲナスヘシ自餘雜公事ニ於テハ更ニ沙汰アルヘカラス和

〔濠吹〕解前條ニ見エタリ

〔建長六年四月廿九日〕〔評定〕西國莊公ノ本地頭所務ハ往昔ノ由緒ニ依リ先規ノ例ヲ追ヒ新儀ノ非法ヲ止ムヘク新地頭ハ率法ニ從ヒ濫吹ヲ止ムヘシ東

〔正元元年二月十日〕〔令〕山野河海領家國司方ノ地頭分折中ノ法ヲ以テ各半分ヲ知行シ先例ニ限アル年貢等ハ本法ヲ守リ之ヲ違亂ス可ラス式目新

〔龜山天皇文永元年四月廿六日〕〔令〕諸國百姓田稻ヲ刈取ルノ後麥ヲ其地ニ蒔キ田麥ト號ス領主等其所當ヲ徵取ス租稅ノ法豈然ル可ンヤ宜ク備前備後兩國ノ家人等ニ令シテ自今以後之ヲ徵取ス可ラス式目新

〔五年七月〕〔若狹國實檢太田文〕田五町四段三百歩内六斗四升八合代三段一石代一段百五十歩八斗代二町一段八十歩五斗代二町百四十歩六斗代八段二百九十歩合所當米三十五石八斗一升六合二勺餘東寺

〔八年七月〕〔備中國新見莊總檢作田注進〕田廿二町五段ハ五斗代八町九段卅代ハ四斗代四町五段

領等ニ存スル
モノアリ

五代ハ三斗代合米百六十一石八斗七升ナリ東寺百合
古文書

〔弘安元年七月〕〔五郎權正等寄進狀〕

東大寺佛餉田料所事

伊賀國名張郡新莊領ノ内

所當三石六斗

大和國法貴寺

一田一段

所當六斗

山城國大隅莊ノ内

一田二段

所當七斗

〔一段ニ米三斗五升〕

大和國法花寺ノ前字樓棟

一田一段

所當三斗

伊賀國名張郡出作領ノ内

一田一段

所當四斗五升

一田大

所當四斗

〔一段ニ米六斗〕

一田一段

所當五斗

一田一段六十歩

所當九斗東大寺
要録

〔一段ニ米七斗七升壹合餘〕

〔正應元年五月廿八日〕法橋和尚位寛秀大和國笠間莊ノ内字於波田ノ田一段ヲ東大寺ニ寄進ス其
所當米七斗ナリ東大寺
要録

〔永仁六年〕攝津國池田莊壽命寺ノ燈油佛性田字豊後前貳段柳坪壹段毛原壹段八溝田壹段ノ園方
ナリ要録

〔園方〕園圃領
ノ分ト言フカ
コトシ

所當米ハ段別ニ壹斗ナリ壽命寺
施行狀

〔嘉元元年五月〕備後國太田莊定田四十二町五段七十歩ノ所當米五十五石四斗四升六合一勺三撮
ナリ要録

〔按〕此田一段ノ所當米一斗三升四勺餘ニ當レリ

〔徳治元年五月〕大法師快玄大和國十市郡東郷井口ノ田二段ヲ東大寺ニ寄進ス其所當米二石ナリ
東大寺
要録

〔正和五年九月十日〕春若丸等伊賀國名張郡ノ内字寺門ノ田二段ヲ東大寺ニ寄進ス其所當米一石
一斗ナリ東大寺
要録

〔文保二年六月十四日〕〔東寺領丹波國大山莊年貢請文〕合田八町一段三十代ハ下地ヲ以テ寺ノ用
足ニ切進メラル、ノ時段別一色石代ヲ定メラル然トモ損亡ノ時其事故ヲ訴ルニ就テ其煩ナキニ

非ス仍テ百姓ノ稟請ニ從ヒ上田三町三段ハ段別七斗五升中田三町二段ハ段別五斗七升下田一町

六段卅代ハ段別四斗五升ト上中下ノ斗代ヲ定メラル、所ナリ然ラハ向後ニ於テ旱風水ノ損ニ

依ラス元ヨリ京庫納タルノ上ハ毎年十一月中ニ寺庫ニ運上スヘシ更ニ事ヲ左右ニ寄セ一塵タリ

トモ未進懈怠ヲ爲サ、ルナリ東寺百合
古文書

〔按〕東寺用フル所ノ量十餘種アリ所在異同アレトモ其普通使用スルハ蓋シ宜旨升トス今姑ク本文上田ノ糶米ハ此升ノ一

石五斗中田ノ糶米ハ一石三斗下田ノ糶米ハ一石一斗トシ四公六民ノ制ニ據テ之ヲ考ルニ上田ハ六分中田ハ四分下田ハ二

分ノ租率ニ適當セスト雖モ田ノ品位ニ隨テ租ニ等差アルハ是率ヲ用フルニ似タル所アリ且鎌倉府ノ量制租法略推知スヘ

シ因テ圖解ヲ左ニ見ハス

〔用足〕要脚ト
同シ錢ヲ謂フ

鎌倉府租法圖

田	下		中		上		品位	曲	尺	宜	升	宜	升	宜	升
	一段	一步	一段	一步	一段	一步									
一町	三千六百步	方六尺	三千六百步	方六尺	三千六百步	方六尺	八合三勺餘	四合壹勺餘	貳合零餘	貳拾貳石	壹石壹斗	壹石壹斗	四斗五升	四石五斗	四石五斗
一段	三百六十步	方六尺	三百六十步	方六尺	三百六十步	方六尺	八合三勺餘	四合壹勺餘	貳合零餘	貳拾貳石	壹石壹斗	壹石壹斗	四斗五升	四石五斗	四石五斗
一步	三百六十步	方六尺	三百六十步	方六尺	三百六十步	方六尺	八合三勺餘	四合壹勺餘	貳合零餘	貳拾貳石	壹石壹斗	壹石壹斗	四斗五升	四石五斗	四石五斗

(△印ハ朱線)

右租法上田獲米官升ノ壹石五斗ハ京升ノ壹石四斗四升六合壹勺餘租米ノ七斗五升ハ七斗貳升三合餘中田獲米官升ノ壹石三斗ハ京升ノ壹石貳斗五升三合三勺餘租米ノ五斗七升ハ五斗四升九合五勺餘下田獲米官升ノ壹石壹斗ハ京升ノ壹石六升五勺餘租米ノ四斗五升ハ四斗三升三合八勺餘ニ當レリ

〔後醍醐天皇元年十月〕年貢及ヒ仕丁役員數ノ事ヲ諸國ニ令ス
〔北光明天皇貞和二年十二月三日〕征夷大將軍足利尊氏令ノ近年守護等國司領家ノ年貢納納ト櫻シ佛神用催促ト號シ使者ヲ所々ニ遣シ民屋ヲ追捕シ非法張行ノ風聞アリ若シ然ラハ忽チ守護職ヲ改

〔後醍醐天皇元年十月〕年貢及ヒ仕丁役員數ノ事ヲ諸國ニ令ス
〔北光明天皇貞和二年十二月三日〕征夷大將軍足利尊氏令ノ近年守護等國司領家ノ年貢納納ト櫻シ佛神用催促ト號シ使者ヲ所々ニ遣シ民屋ヲ追捕シ非法張行ノ風聞アリ若シ然ラハ忽チ守護職ヲ改

易スヘシ正員知ラス代官ノ結構ニテ證據分明ナラハ則チ彼所領ヲ沒收スヘシ所帯ナケレハ遠流ノ刑ニ處スヘシ式目新

〔接〕當時南北兩朝爭鬪止マス守護等其權カチ恣ニ暴賦橫欲至ラサル所ナシ故ニ嚴令以テ之ヲ禁スルナリ
〔四年七月十七日〕尾張國中島郡福重保田島治券合貳町ハ永代ヲ限リ錢五拾貫文ヲ以テ治却スル所ナリ領家ノ年貢段別貳拾文毎年沙汰ノ外天下加徴萬難公事等ノ他役アラサルナリ
〔五年二月〕尾張國妙興寺保注進田島拾陸町玖段三百歩ノ濟物ハ絲七拾兩綿五拾兩絹壹匹四丈大豆五石捌斗壹升六合ナリ

〔按〕尾張國ノ調ニ絹絲等ヲ輸スハ主計式ニ見エタリ今之ヲ田島ノ濟物ニ用フ是レ調物也シテ田租ト爲ルモノナリ凡ソ調庸ノ制類廢シテ一切之ヲ田地ニ賦課ス租法ノ益混亂シ途ニ偏重ニ至ル所以ナリ
〔應永元年〕上野國新田莊得河田島目錄

- 一 田四町五段 分錢拾貫三百文
- 一 田壹町八段 分錢拾貫三百文
- 一 田三段半 分錢壹貫五拾文
- 一 田壹町 分錢貳貫七百文
- 一 田五段 分錢壹貫三百文
- 一 田貳段 分錢六百文

遠江 貳拾五萬五千百六拾石
 駿河 拾五萬三千八百石
 甲斐 貳拾貳萬七千六百石
 伊豆 六萬九千八百三拾貳石
 相模 拾九萬四千三百四石
 武藏 六拾六萬七千六百石
 安房 四萬五千拾五石
 上總 三拾七萬八千八百九拾貳石
 下總 三拾九萬三千貳百五拾五石
 常陸 五拾三萬貳千百石

東山道

近江 八拾貳萬五千三百七拾九石
 美濃 五拾四萬三千石
 飛驒 三萬八千五百石
 信濃 四拾萬三千三百五拾八石
 上野 四拾九萬六千三百七拾七石
 下野 三拾七萬四千八拾三石
 陸奥 百六拾七萬貳千八百六石
 出羽 三拾壹萬八千九拾五石
 北陸道
 若狹 八萬五千三百拾石

越前 六拾七萬九千八百七拾石
 加賀 三拾五萬五千五百七拾石
 能登 貳拾壹萬五千石
 越中 三拾八萬貳千九拾八石
 越後 三拾九萬七百七拾石
 佐渡 壹萬千三拾石

山陰道

丹波 貳拾六萬三千八百八拾七石
 丹後 拾壹萬七百八拾四石
 但馬 拾壹萬七百七拾三石
 因幡 八萬八千五百貳拾石
 伯耆 拾萬九百拾七石
 出雲 拾八萬六千六百五拾石
 石見 拾壹萬千七百七拾石
 隱岐 四萬九千八拾石

山陽道

播磨 三拾五萬八千五百三拾四石
 美作 拾八萬六千拾八石
 備前 貳拾六萬千七百六拾貳石
 備中 拾七萬六千九百貳拾九石
 備後 拾八萬六千五百五拾石

安藝 拾九萬四千五百五拾石
 周防 拾六萬七千八百貳拾石
 長門 拾三萬六千六百六拾石
 南海道
 紀伊 拾四萬三千五百五拾石
 淡路 六萬貳千四百石
 阿波 拾八萬三千五百石
 讚岐 拾貳萬六千貳百石
 伊豫 三拾六萬六千貳百石
 土佐 九萬八千貳百石
 西海道
 筑前 三拾三萬五千六百九拾石
 筑後 貳拾六萬五千九百九拾八石
 豐前 拾四萬三千七拾石
 豐後 四拾壹萬八千三百拾三石
 肥前 三拾萬九百三拾五石
 肥後 三拾四萬貳百貳拾石
 日向 拾貳萬八拾八石
 薩摩 貳拾八萬三千四百八拾貳石
 大隅 拾七萬五千五拾七石
 二島

壹岐 五千三百貳石
 對馬 八千貳百五石

〔按〕石高ハ本卜租率ヲ定ルカ爲ニ之ヲ設ク蓋シ中古ノ租法廢替セシヨリ田地ノ段歩ニ依テ租率ヲ定ム爾後復々舊穀ノ多寡ニ隨テ租率ヲ定ム石高ハ即チ舊穀ノ石數ナリ此稱天文祿ノ間ニ創ル原書ハ後人ノ記スル所ニ係レリ我輩年貢不納ノ島嶼ヲ除キ畿内七道ノ地ヲ檢シテ得ル所ノ石高此ノ如シ後世天文ノ權卜稱スルモノ即チ是ナリ之ヲ合計スレハ千八百六拾八萬三千六百九拾六石ト爲ス今姑ク四公六民ノ法ニ據テ之ヲ算スレハ其租額七百四拾七萬三千四百七拾八石四斗ヲ得蓋シ當時政化未タ運カラス檢田ノ遺漏所在尠カラズ且好精墾墾ノ田地亦頗ル多シ是レ其概數タルコト知ルヘキナリ乃チ之ヲ表示スルコト左ノ如シ

種名	石	高	租	穀	租	米
山城	貳拾貳萬五千貳百六拾貳石		九萬四百石八斗		四萬五千五拾貳石四斗	
大和	四拾四萬八千九百四拾五石		拾七萬九千五百七拾八石		八萬九千七百八拾九石	
河内	貳拾四萬貳千五百五石		九萬六千八百四拾貳石		四萬八千四百貳拾壹石	
和泉	拾四萬五千五百拾貳石		五萬六千六百四石八斗		貳萬八千三百貳石四斗	
攝津	三拾五萬六千六拾九石		拾四萬貳千四百貳拾七石六斗		七萬千貳百拾三石八斗	
伊賀	拾萬六百貳拾三石		四萬貳百四拾九石貳斗		貳萬百貳拾四石六斗	
伊勢	五拾六萬七千五石		貳拾貳萬六千八百貳石		拾壹萬三千四百壹石	
志摩	壹萬七千八百五拾四石		七千四百拾壹石六斗		三千五百七拾石八斗	
尾張	五拾七萬千七百三拾七石		貳拾貳萬八千六百九拾四石八斗		拾壹萬四千三百四拾七石四斗	

三	河	貳拾九萬七百拾五石	拾壹萬六千貳百八拾六石	五萬八千四百拾三石
遠	江	貳拾五萬五千百六拾石	拾萬貳千六拾四石	五萬千三拾貳石
駿	河	拾五萬三千八百石	六萬千五百貳拾石	三萬七百六拾石
甲	斐	貳拾貳萬七千百六石	九萬八千四百貳拾四石	四萬五千四百貳拾壹石貳斗
伊	豆	六萬九千八百三拾貳石	貳萬七千九百三拾貳石八斗	壹萬三千九百六拾六石四斗
相	樓	拾九萬四千三百四石	七萬七千七百貳拾壹石六斗	三萬八千八百六拾石八斗
武	藏	六拾六萬七千百六石	貳拾六萬六千八百四拾貳石四斗	拾三萬三千四百貳拾壹石貳斗
安	房	四萬五千拾五石	壹萬八千六石	九千三石
上	總	三拾七萬八千八百九拾貳石	拾五萬五千五百五拾六石八斗	七萬五千七百七拾八石四斗
下	總	三拾九萬三千貳百五拾五石	拾五萬七千三百貳石	七萬八千六百五拾壹石
常	陸	五拾三萬貳千百石	貳拾壹萬貳千八百四拾石	拾萬六千四百貳拾石
近	江	八拾貳萬五千三百七拾九石	三拾三萬五百五拾壹石六斗	拾六萬五千七拾五石八斗
美	渡	五拾四萬三千石	貳拾壹萬七千貳百石	拾萬八千六百石
飛	驛	三萬八千五百五石	壹萬五千貳百四拾貳石	七千六百貳拾壹石
信	渡	四拾萬三千五百五拾八石	拾六萬五百四拾三石貳斗	八萬貳百七拾壹石六斗
上	野	四拾九萬六千三百七拾七石	拾九萬八千五百五拾石八斗	九萬九千貳百七拾五石四斗
下	野	三拾七萬四千八拾三石	拾四萬九千六百三拾三石貳斗	七萬四千八百六拾六石六斗
陸	奧	百六拾七萬貳千八百六石	六拾六萬九千百貳拾貳石四斗	三拾三萬四千五百六拾壹石貳斗
出	羽	三拾壹萬八千九拾五石	拾貳萬七千貳百三拾八石	六萬三千六百拾九石

若	狹	八萬五千三百拾石	三萬四千百貳拾四石	壹萬七千六拾貳石
越	前	六拾七萬九千八百七拾石	貳拾七萬九千九百四拾八石	拾三萬五千九百七拾四石
加	賀	三拾五萬五千五百七拾石	拾四萬貳千貳百貳拾八石	七萬千百拾四石
能	登	貳拾壹萬五千石	八萬六千石	四萬三千石
越	中	三拾八萬貳千九拾八石	拾五萬貳千八百三拾九石貳斗	七萬六千四百九拾九石六斗
越	後	三拾九萬七百七拾石	拾五萬六千三百八石	七萬八千五百五拾四石
佐	渡	壹萬千三拾石	四千四百拾貳石	貳千貳百六石
丹	波	貳拾六萬三千八百八拾七石	拾萬五千五百五拾四石八斗	五萬貳千七百七拾七石四斗
丹	後	拾壹萬七百八拾四石	四萬四千三百拾三石六斗	貳萬貳千五百五拾六石八斗
但	馬	拾壹萬七百七拾三石	四萬四千三百九石貳斗	貳萬貳千五百五拾四石六斗
因	幡	八萬八千五百貳拾石	三萬五千四百八石	壹萬七千七百四石
伯	查	拾萬九百四拾七石	四萬三百七拾八石八斗	貳萬八千九拾九石四斗
出	雲	拾八萬六千六百五拾石	七萬四千六百六拾石	三萬七千三百三拾石
石	見	拾壹萬千七百七拾石	四萬四千七百八石	貳萬貳千三百五拾四石
隱	岐	四十九百八拾石	千九百九拾貳石	九百九拾六石
播	磨	三拾五萬八千五百三拾四石	拾四萬三千四百拾三石六斗	七萬千七百六石八斗
美	作	拾八萬六千拾八石	七萬四千四百七石貳斗	三萬七千貳百三石六斗
備	前	貳拾六萬千七百六拾貳石	拾萬四千七百四石八斗	五萬貳千三百五拾貳石四斗
備	中	拾七萬六千九百貳拾九石	七萬七百七拾壹石六斗	三萬五千三百八拾五石八斗

備	後	拾八萬六千五百五拾石	七萬四千四百六拾石	三萬七千貳百三拾石
安	藝	拾九萬四千五百五拾石	七萬七千六百六拾石	三萬八千八百三拾石
周	防	拾六萬七千八百貳拾石	六萬七千貳拾八石	三萬三千五百六拾四石
長	門	拾三萬六千六百六拾石	五萬貳千貳百六拾四石	貳萬六千三百三拾貳石
紀	伊	拾四萬三千五百五拾石	五萬七千四百貳拾石	貳萬八千七百拾石
淡	路	六萬貳千四百石	貳萬四千八百四拾壹石六斗	壹萬貳千四百貳拾石八斗
阿	波	拾八萬三千五百石	七萬三千四百石	三萬六千七百石
讚	岐	拾貳萬六千貳百石	五萬四千八拾石	貳萬五千貳百四拾石
伊	豫	三拾六萬六千貳百石	拾四萬六千四百八拾石	七萬三千貳百四拾石
土	佐	九萬八千貳百石	三萬九千貳百八拾石	壹萬九千六百四拾石
筑	前	三拾三萬五千六百九拾石	拾三萬四千貳百七拾六石	六萬七千三百三拾八石
筑	後	貳拾六萬五千九百九拾八石	拾六萬六千九百九拾九石貳斗	五萬三千九百九拾九石六斗
豐	前	拾四萬三千七拾石	五萬七千貳百貳拾八石	貳萬八千六百拾四石
豐	後	四拾壹萬八千三百拾三石	拾六萬七千三百貳拾五石貳斗	八萬三千六百六拾貳石六斗
肥	前	三拾萬九百三拾五石	拾貳萬三百七拾四石	六萬八千八拾七石
肥	後	三拾四萬貳百貳拾石	拾三萬六千八拾八石	六萬八千四拾四石
日	向	拾貳萬八拾八石	四萬八千三拾五石貳斗	貳萬四千拾七石六斗
薩	摩	貳拾八萬三千四百八拾貳石	拾壹萬三千三百九拾貳石八斗	五萬六千六百九拾六石四斗
大	隅	拾七萬五千五拾七石	七萬貳拾貳石八斗	三萬五千拾壹石四斗

豐	岐	五千三百貳石	貳千貳拾石八斗	千六拾石四斗
對	馬	八千貳百五石	三千貳百八拾貳石	千六百四拾壹石
通	計	千八百六拾八萬三千六百九拾六石	七十四拾七萬三千四百七拾八石四斗	三百七拾三萬六千七百三拾九石貳斗

〔廿三年〕〔安藝國安藝郡文書〕

右租穀ハ四公六民ノ法ヲ以テ石高ヲ除シ租米ハ租穀ヲ五合摺トナシ以テ算出スル所ナリ

- 一田壹段 米五斗
- 一田壹段 米四斗
- 一田壹段半 米八斗
- 一田壹段小 〔一段ニ米五斗三升三合三勺餘〕 米七斗
- 一田壹段半 〔一段ニ米五斗貳升五合〕 米九斗
- 一田壹段小 〔一段ニ米六斗〕 米六斗五升
- 一田半 〔一段ニ米四斗八升七合五勺〕 米三斗五升
- 一田大 〔一段ニ米七斗〕 米三斗
- 一田壹段 〔一段ニ米四斗五升〕 米三斗五升
- 一田壹段 錢八百八拾文
- 一島五段大

〔大〕解前篇ニ見エタリ

〔一段ニ錢百五拾五文貳分九釐餘〕

一田八段

米三石

〔一段ニ米三斗七升五合〕

一田壹段小

米七斗

〔一段ニ米五斗貳升五合〕

一田大

米三斗

〔一段ニ米四斗五升〕

一皇貳段

錢四百文

〔一段ニ錢貳百文〕

一田壹段小

米七斗

〔一段ニ米五斗貳升五合〕

一田壹段

米六斗五升

一田壹段六拾步

米七斗五升安藝國田所氏文書

〔一段ニ米六斗四升貳合八勺餘〕

〔天文年中〕〔足利義輝令〕年貢ノ半濟本所ノ愁訴アリ尤モ其謂レアルカ天下豐饒ノ上ハ返付ス可シ

新札往來

〔按〕半濟ハ租額ヲ折半シテ其一ヲ貢スルヲ謂フ本來本所ニ全收スヘキ田租ナリ地頭等事ニ托シテ自ラ其租額ノ半ヲ收ム所此令アルナリ

〔永祿元年四月〕〔武田信玄制條〕百姓ニ對シ定ル所務ノ外非分ヲ爲ス可ラス軍議ニ云上扈ヲ行ヘ

ハ則チ下急刻シ賦斂數ヲ重クスレハ刑罰極リ無ク民相殘賊ス信玄家法

〔正親町天皇天正十四年正月十九日〕〔關白豐臣秀吉制條〕百姓其在所ノ田畠荒レシム可ラス給人檢

見ヲ遂ケ其有米三分ノ一ヲ百姓ニ付シ其二ヲ未進ナク之ヲ收ムヘシ武家事記

〔給人〕武家名目抄引ク所ノ諸記ニ據ルニ率武家所領中ニ於テ諸務

ヲ執ラシム者領地役料等ヲ給與スルニ由ルルナリ

〔後陽成天皇文祿二年〕關白豐臣秀吉山口玄蕃ヲシテ豐後國ノ地ヲ檢セシメテ其制條ヲ定ム曰ク年貢ハ來秋立毛ノ上ヲ以テ見合スヘシ但惡キ所ハ其百姓ニ遣ハスヘシ是レ來年ノ滿作ヲ期スルカ爲

ナリ豐後國利光村文書

〔同年〕豐臣秀吉宮部善祥坊ヲシテ豐後國ノ地ヲ檢シ高帳目錄貢納定納ノ法ヲ究メシム豐西檢地帳

〔按〕是ヨリ先キ豐後大友義統國除カル秀吉乃チ山口玄蕃宮部善祥坊ヲ遣シテ其地ヲ檢セシム山口ハ海部大分大野直入四郡ヲ檢シ宮部ハ國東遠見玖珠日田四郡ヲ檢ス而シテ前條山口ノ爲ス所ハ檢見取ノ法ニ據リ宮部ハ定免ノ法ニ據リ蓋シ各

地習慣ト人情トニ隨テ之ヲ處定スルナリ

〔三年六月十七日〕〔豐臣秀吉檢地條例〕升ハ京升タルヘシ從來ノ升ハ悉ク收取スヘシ伊勢國檢地帳

〔按〕是レ秀吉地ヲ檢シテ糶米租米等ヲ量ラシムルナリ難波家所傳ノ古升書書ニ京升ヲ慶長ノ新製ト以テ本文ニ據レハ則チ然ラス蓋シ京升ハ天文文祿以前間マ用フル所アリ秀吉ノ檢地ニ至リ於テ之ヲ一般ニ用フルナリ

〔四年二月十一日〕〔大山伯耆守制條〕アサキ村土免高合九百拾六石七斗六升ニテ物成ヲ合三百石

ニ定ム此內麥五拾石大豆四拾石種六拾石ニ定ム但麥ハ米ニ貳升代ヘ稗ハ米ニ三升代ヘタルヘシ

旱水風損アラハ檢見ヲ以テ申付クヘシ三州國傳古文書

〔按〕土免ハ本高ナリ謂フ土免ニ依テ物成ヲ定メ風水旱ノ損アレハ則チ檢見法ヲ用フ是レ定免法ナリ當時已ニ兩法並ヒ行ハレシコト見ルヘシ

〔十月〕〔原長賴制條〕年貢米割付ノ制ハ田畠ニ應シ上中下ニ高下ナキヲ要スヘシ

〔按〕田畠ノ高租米米等ヲ記シ百姓ニ下付スルヲ割付免狀或ハ下札ト曰フ割付ハ關東免狀ハ駿河以西ニ稱スル所ニシテ同

マ下札ノ稱ヲ難ヘ用フ凡例條ニ據ルニ檢見取ナレハ年コトニ下付シ定免ノ地ナレハ年期中ハ此割付ニ據ルヘキナリ切

替ノ初年ニ下付ス破免損地又ハ起返及ヒ小物成諸運上ニ増減アル等ハ年期中ト雖モ更ニ下付スルナリ又名主莊屋ナシテ

割付ノ如ク納期マテニ必ス皆濟スヘキナ明證セシム之ヲ拜見證文ト曰フ

荒地アラハ斟酌シテ土免ヲ下ケ百姓代官相謀テ作り年貢ハ少分ニ取ルヘシ三州國傳古文書

〔四年〕〔令〕天下ノ賦稅三分ノ二ハ地頭之ヲ取リ三分ノ一ハ耕民自ラ之ヲ取ル可シ慎テ田畠ヲシテ

荒蕪ニ就カシムルコト勿レ豐臣秀吉書

四百九十九

〔按〕是ヨリ先キ既ニ此法ヲ用フル所アリ又五公五民ノモノアリ四公六民ノモノアリ是時一定シテ二公一民ト爲セリ伊勢國檢地帳ニ據ルニ秀吉ノ歩法ハ曲尺方六尺三寸チ一步トシ三百歩チ一段トシ糶米ノ率ヲ定ルニ上田ハ一石五斗中田ハ一石三斗下田ハ一石一斗下々田ハ照料シテ定メ上島ハ一石二斗中島ハ一石下島ハ八斗下々島ハ照料シテ定メ屋敷ハ一石二斗トセリ從々疊後越前二國ノ檢地帳ニ據ルニ上田糶米ノ率ニ一石八斗一石六斗一石四斗中田ニ一石七斗一石四斗一石二斗下田ニ一石二斗一石等島亦之ニ准シテ差等チナスモノ有テ一定ナラス是レ品位相同シト雖モ地質ニ甲乙有テ然レナリ且他ノ諸書ヲ考ルニ伊勢國檢地帳記スル所ノ如キモノ多シ以テ其概法ト爲スヘシ而シテ概摺ハ概テ五合摺トス因テ國島ノ品位ニ照シ糶米租米ノ概率ヲ示スコト左ノ如シ

文 祿 田 租 法 圖

田		地		糶		米		租	
品位	曲	尺	京	升	京	升	京	升	米
上	一步	方六尺三寸	壹	升	五	合	三	勺	餘
中	一步	方六尺三寸	壹	升	三	合	三	勺	餘
下	一步	方六尺三寸	壹	升	三	合	三	勺	餘
上	一段	三百步	三	拾	石	拾	五	斗	壹
中	一段	三百步	七	合	三	勺	餘		
下	一段	三百步	貳	拾	石	拾	壹	斗	壹
上	一町	三千步	八	合	四	合	六	勺	餘
中	一町	三千步	貳	拾	石	拾	壹	斗	壹
下	一町	三千步	貳	拾	石	拾	壹	斗	壹

(△印ハ朱線)

文 祿 島 租 法 圖

島		地		糶		米		租	
品位	曲	尺	京	升	京	升	京	升	米
上	一步	方六尺三寸	八	合	四	合	六	勺	餘
中	一步	方六尺三寸	六	合	六	勺	餘		
下	一步	方六尺三寸	五	合	三	勺	餘		
上	一段	三百步	貳	拾	石	拾	壹	斗	壹
中	一段	三百步	貳	拾	石	拾	壹	斗	壹
下	一段	三百步	貳	拾	石	拾	壹	斗	壹
上	一町	三千步	八	合	四	合	六	勺	餘
中	一町	三千步	六	合	六	勺	餘		
下	一町	三千步	五	合	三	勺	餘		

(△印ハ朱線)

〔毛見〕日次紀
〔事〕云都更立
〔由〕ノ豊内ヲ檢
按スルヲ謂フ

右租法田島一段ハ徳川氏以來ノ一段二十九歩六合五勺ニ當ル而シテ其糶米ノ率ハ徳川氏ノ時ニ異ナラス蓋シ租率ハ二公一民ノ率キニ在リト雖モ糶米ノ率ニ於テハ徳川氏ヨリ寛ナリトス
〔慶長二年三月廿四日〕長曾我部元親制條知行ハ毛見ノ上ヲ以テ三分ノ二ハ地頭三分ノ一ハ百姓之ヲ取ルヘシ百姓從ハサレハ地頭ノ心ニ任スヘシ
〔按〕前家ノ領地必シモ二公一民ノ法ニ依ラサルモノアリ長曾我部ハ全ク秀吉ノ法ヲ遵ハスルナリ
新開田ノ段米ハ其年ヨリ運上スヘシ又次年ヨリ有様ノ買物ヲ運上スヘシ
〔按〕是ヨリ先キ段糶米ノ率アルハ同守領等臨時賦課スルモノニ係レリ此段米ハ新開等ノ地ニ租額賦課スルモノナリ

〔摺〕種ヲ磨テ
米ト爲スナリ

〔太〕一種ノ米
ニシテ赤色アリ
ニシテ白色アリ共
ニ太米ト稱シ
齊田ニ作ル其
味美ナラス成
形圓説ニ云即
チ大冬米ナリ
赤米ト稱スナリ
ノ八九ハ其色
赤キナ以テナ
リ

〔吉〕太ニ對ス
ル其米ヲ謂フ
太吉皆方言ナ
リ

〔石〕一本六
石ニ作ル
〔九〕一本六
石ニ作ル
〔貳〕一本壹
石ニ作ル

〔四〕一本三
石ニ作ル

〔拾五〕一本五
石ニ作ル

- 年貢ハ總テ摺タルヘシ太吉ハ地面ノ立毛ニ從フヘシ但太ヲ吉地ニ作ルハ堅ク停止スヘシ若シ此
旨ニ背カハ貢物ハ吉ヲ收ムヘシ
- 〔按〕土佐國今猶太米アリ然トモ當時ノ瘠地漸々良田トナリ吉多クシテ太甚タ稀ナリ益シ太ハ瘠地ニ宜ク吉ハ良田ニ宜ク
而ルニ因テ其瘠地ヲ易ヘ收租不便ノ弊アリ故ニ之ヲ告成スルナリ
- 國中ノ段米ハ定シ如ク運上スヘシ 長曾我部元 親百箇條
- 〔慶長三年〕總高
- 畿内
- 山城 貳拾貳萬五千貳百六拾貳石
 - 大和 四拾四萬八千九百四拾五石五斗
 - 攝津 三拾五萬六千六拾九石壹斗
 - 河内 貳拾四萬貳千五百五石八斗
 - 和泉 拾四萬千五百拾貳石七斗
- 東海道
- 伊賀 拾萬石
 - 伊勢 五拾六萬七千五百五石壹斗四升
 - 志摩 壹萬七千八百五拾四石九斗壹升
 - 尾張 五拾七萬千七百三拾七石四斗
 - 三河 貳拾九萬七百拾五石
 - 遠江 貳拾五萬五千百六拾石
 - 駿河 拾五萬石
 - 伊豆 六萬九千八百三拾貳石

〔三〕一本二
石ニ作ル

- 甲斐 貳拾貳萬七千六百拾六石
 - 相模 拾九萬四千三百四石
 - 武藏 六拾六萬七千貳拾六石
 - 安房 四萬五千四拾五石
 - 上總 三拾七萬八千八百九拾貳石
 - 下總 三拾九萬三千貳百五拾五石
 - 常陸 五拾三萬八石
- 東山道
- 近江 七拾七萬五千三百七拾九石
 - 美濃 五拾四萬石
 - 飛騨 三萬八千石
 - 信濃 四拾萬八千三百五拾八石
 - 上野 四拾九萬六千三百七拾七石
 - 下野 三拾七萬四千八拾三石八斗
 - 陸奥 百六拾七萬二千八百六石
 - 出羽 三拾壹萬八千九拾五石
- 北陸道
- 若狹 八萬五千石
 - 越前 四拾九萬九千四百拾壹石
 - 加賀 三拾五萬五千五百七拾石
 - 能登 貳拾壹萬石

〔三石〕一本二
石ニ作ル
〔八百六石〕一
本三百五拾八
石ニ作ル

越中 三拾八萬貳百九拾八石貳斗八升
越後 三拾九萬七百七拾石
佐波 壹萬七千三拾石

山陰道

丹波 貳拾六萬三千八百八拾七石
丹後 拾壹萬七百八拾四石
但馬 拾壹萬四千貳百三拾五石
因幡 八萬八千五百石
伯耆 拾萬九百四拾七石
出雲 拾八萬六千六百五拾石
隱岐 四千九百八拾石
石見 拾壹萬千七百七拾石

山陽道

播磨 三拾五萬八千五百三拾四石
美作 拾八萬六千拾八石七斗
備前 貳拾貳萬三千七百六拾貳石
備中 拾七萬六千九百貳拾九石
備後 拾八萬六千五百五拾石
周防 拾六萬七千八百貳拾石
安藝 拾九萬四千五拾石
長門 拾三萬六千六拾石

〔八百〕一本七
石二作ル
〔七百六拾貳
石〕一本三
八十八石三
作ル

〔千〕一本萬二
作ル

南海道

紀伊 貳拾四萬三千五百五拾石
淡路 六萬貳千四百石
阿波 拾八萬三千五百石
讃岐 拾貳萬六千貳百石
伊豫 三拾六萬六千貳百石
土佐 九萬八千貳百石

〔六萬〕一本三
萬二作ル

〔三萬〕一本二
萬二作ル

西海道

筑前 三拾三萬五千六百九拾五石
筑後 貳拾六萬五千九百九拾八石
豐前 拾四萬石
豐後 四拾壹萬八千三百拾三石
肥前 三拾萬九千九百三拾五石
肥後 三拾四萬千貳百貳拾石
日向 拾貳萬八拾八石四斗四升
薩摩 貳拾八萬三千四百八拾貳石七斗四升
大隅 拾七萬五千五拾七石貳斗三升

〔八石〕一本七
石二作ル
〔貳石〕一本八
石二作ル

〔按〕右石高ノ總計千八百五拾萬九千四拾三石七斗四升トス之ヲ三分シテ其ニテ算スレハ田租ノ總額千貳百三拾三萬九千三百六拾貳石四斗九升三合餘ヲ得之ヲ天文ニ比スレハ石高ハ拾七萬四千六百五拾貳石貳斗六升ヲ減殺シ租額ハ四百八拾六萬五千八百八拾四石九升三合餘ヲ增加セリ是レ租率ノ增加スルニ由テ然ルナリ然トモ諸國法ヲ異ニスル者亦之アリ今其概數ヲ推算シテ表示スルコト左ノ如シ

租 穀 租 米 准 算 表

五百六

國名	租	米	准	算	表
山城	貳拾貳萬五千貳百六拾貳石	拾五萬百七拾四石六斗六升六合六勺	七萬五千八拾七石三斗三升三合三勺	拾四萬九千六百四拾八石五斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗
大和	四拾四萬八千九百四拾五石五斗	貳拾九萬九千貳百九拾七石	拾四萬九千六百四拾八石五斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗
攝津	三拾五萬六千六拾九石壹斗	貳拾三萬七千三百七拾九石四斗	拾四萬九千六百四拾八石五斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗
河內	貳拾四萬貳千五百五拾八斗	拾六萬四千四百三拾八石六斗六合六勺	拾四萬九千六百四拾八石五斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗
和泉	拾四萬五千五百拾貳石七斗	九萬四千三百四拾壹石八斗	拾四萬九千六百四拾八石五斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗
伊賀	拾萬石	六萬六千六百六拾六石六斗六升六合六勺	拾四萬九千六百四拾八石五斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗
伊勢	五拾六萬七千五百五拾壹斗四升	三拾七萬八千七拾石九升三合三勺	拾四萬九千六百四拾八石五斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗
志摩	壹萬七千八百五拾四石九斗壹升	壹萬九千九百三拾石七升三合三勺	拾四萬九千六百四拾八石五斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗
尾張	五拾七萬七千七百三拾七石四斗	三拾八萬八千五百五拾壹石六斗三升六合六勺	拾四萬九千六百四拾八石五斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗
三河	貳拾九萬七千七百拾五石	拾九萬三千八百拾石	拾四萬九千六百四拾八石五斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗
遠江	貳拾五萬五千五百六拾石	拾七萬百六拾六石六斗六合六勺	拾四萬九千六百四拾八石五斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗
駿河	拾五萬石	拾萬石	拾四萬九千六百四拾八石五斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗
伊豆	六萬九千八百三拾貳石	四萬六千五百五拾四石六斗六升六合六勺	拾四萬九千六百四拾八石五斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗
伊豫	貳拾貳萬七千六百拾六石	拾五萬千七百四拾四石	拾四萬九千六百四拾八石五斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗
甲斐	拾九萬四千三百四拾石	拾貳萬九千五百三拾六石	拾四萬九千六百四拾八石五斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗
相模	拾九萬四千三百四拾石	拾貳萬九千五百三拾六石	拾四萬九千六百四拾八石五斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗
武藏	六拾六萬七千五百拾六石	四拾四萬四千七百五拾石六斗六升六合六勺	拾四萬九千六百四拾八石五斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗	拾四萬九千六百八拾九石七斗

安房	上總	下總	常陸	近江	美濃	飛騨	信濃	上野	下野	陸奥	出羽	若狹	越前	加賀	能登	越中	越後	佐渡
四萬五千四拾五石	三拾七萬八千八百九拾貳石	三拾九萬三千貳百五拾五石	五拾三萬八石	七拾七萬五千三百七拾九石	五拾四萬石	三萬八千石	四拾八萬八千三百五拾八石	四拾九萬六千三百七拾七石	三拾七萬四千八拾三石八斗	百六拾七萬貳千八百六拾石	三拾七萬八千九拾五石	八萬五千石	四拾九萬九千四百拾壹石	三拾五萬五千五百七拾石	貳拾貳萬石	三拾八萬貳百九拾八石貳斗八升	三拾九萬七百七拾石	三萬七千三拾石
三萬三拾石	貳拾五萬貳千五百九拾四石六斗六升六合六勺	貳拾六萬貳千七百七拾石	三拾五萬三千三百三拾八石六斗六升六合六勺	五拾壹萬六千九百九拾九石三斗三升三合三勺	三拾六萬石	貳萬五千三百三拾三石三斗三升三合三勺	貳拾七萬貳千貳百三拾八石六斗六升六合六勺	貳拾四萬九千三百八拾九石貳斗	貳拾壹萬五千貳百四拾石	貳拾壹萬貳千六百三拾三石三斗三升三合三勺	貳拾壹萬貳千六百三拾三石三斗三升三合三勺	五萬六千六百六拾六石六斗六升六合六勺	三拾三萬貳千九百四拾石六斗六升六合六勺	六拾六萬七千四拾六石六斗六升六合六勺	拾四萬石	貳拾五萬三千五百三拾石壹斗八升六合六勺	貳拾六萬五千五百三拾石三斗三升三合三勺	三萬五千五百五拾三石三斗三升三合三勺
壹萬五千拾五石	拾貳萬六千貳百九拾七石三斗三升三合三勺	拾三萬千八百五拾石	拾七萬六千六百六拾九石三斗三升三合三勺	貳拾五萬八千四百五拾九石六斗六升六合六勺	拾八萬石	壹萬貳千六百六拾六石六斗六升六合六勺	拾三萬六千六百九拾九石三斗三升三合三勺	拾貳萬四千六百九拾四石六斗	拾貳萬五千四百五拾九石	拾貳萬四千六百九拾四石六斗	五拾五萬七千六百貳拾石	貳萬八千三百三拾三石三斗三升三合三勺	拾六萬六千四百七拾石三斗三升三合三勺	拾貳萬八千五百貳拾三石三斗三升三合三勺	七萬石	拾貳萬六千七百六拾六石九升三合三勺	拾三萬貳百五拾六石六斗六升六合六勺	五萬六千七百七拾六石六斗六升六合六勺

五百七

圖 法 租 畠 享 貞

畠々下			畠 下			畠 中			畠 上			畠々上			品位	畠
一町	一段	一步	一町	一段	一步	一町	一段	一步	一町	一段	一步	一町	一段	一步	曲	
三千步	三百步	方六尺一分	三千步	三百步	方六尺一分	三千步	三百步	方六尺一分	三千步	三百步	方六尺一分	三千步	三百步	方六尺一分	尺	地
拾石	壹石	三合三勺餘	拾四石	壹石四斗	四合六勺餘	拾八石	壹石八斗	六合	貳拾貳石	貳石貳斗	七合三勺餘	貳拾四石	貳石四斗	八合	京升	刈 粃
五石	五石	壹合六勺餘	七石	七石	貳合三勺餘	九石	九石	三合	拾壹石	拾壹石	三合六勺餘	拾貳石	拾貳石	四合	京升	石 盛
貳石五斗	貳斗五升	八勺餘	三石五斗	三斗五升	壹合壹勺餘	四石五斗	四斗五升	壹合五勺	五石五斗	五斗五升	壹合八勺餘	六石	六斗	貳合	京升	租 米

圖 法 租 田 享 貞

田々下			田 下			田 中			田 上			田々上			品位	田
一町	一段	一步	一町	一段	一步	一町	一段	一步	一町	一段	一步	一町	一段	一步	曲	
三千步	三百步	方六尺一分	三千步	三百步	方六尺一分	三千步	三百步	方六尺一分	三千步	三百步	方六尺一分	三千步	三百步	方六尺一分	尺	地
拾八石	壹石八斗	六合	貳拾貳石	貳石貳斗	七合三勺餘	貳拾六石	貳石六斗	八合六勺餘	三拾石	三石	壹	三拾貳石	三石貳斗	壹升六勺餘	京升	刈 粃
九石	九石	三合	拾壹石	拾壹石	三合六勺餘	拾三石	拾三石	四合三勺餘	拾五石	拾五石	五合	拾六石	拾六石	五合三勺餘	京升	石 盛
四石五斗	四斗五升	壹合五勺	五石五斗	五斗五升	壹合八勺餘	六石五斗	六斗五升	貳合壹勺餘	七石五斗	七斗五升	貳合五勺	八石	八斗	貳合六勺餘	京升	租 米

〔東山天皇元祿年中總石高〕

畿内

山城 貳拾貳萬四千貳百五拾七石七斗八升八合壹勺六撮
大和 五拾萬四千九拾七石三斗八合六勺八撮
河内 貳拾七萬六千三百貳拾九石八斗貳升九合五勺四撮
和泉 拾六萬千六百九拾貳石壹斗貳升六合四勺
攝津 三拾九萬貳千七百七石六斗九升九合八勺

東海道

伊賀 拾萬五百四拾石貳合
伊勢 六拾貳萬千貳拾七石四斗四升貳合
志摩 貳萬六拾壹石六斗四升壹合
尾張 五拾貳萬四千四百八拾石五斗壹升八合
三河 三拾八萬三千四百拾三石四斗四升貳合三勺
遠江 三拾貳萬八千六百五拾壹石四斗三升六合五勺八撮
駿河 貳拾三萬七千九百三拾七石四斗七合貳勺
甲斐 貳拾五萬三千貳拾三石貳斗七升壹合三撮
伊豆 八萬三千七百九拾壹石貳斗八升貳合三勺
相模 貳拾五萬八千貳百拾六石五斗八升貳合貳撮永千三百四拾八貫八百壹文
武藏 百拾六萬八千九拾八石六斗八合貳勺三撮
安房 九萬三千八百八拾六石貳斗壹升貳勺三撮
上總 三拾九萬九百拾七石九斗四升六合壹撮

下總 五拾六萬八千三百三拾壹石壹斗壹升三合七勺四撮
常陸 九拾萬三千七百七拾八石四斗五升八合永貳拾壹貫文
東山道

近江 八拾三萬六千八百貳拾九石七斗貳升七勺
美濃 六拾四萬五千五百壹石五斗三合
飛騨 四萬四千四百六拾九石貳斗壹升九合
信濃 六拾壹萬五千八百拾八石七斗三升七合五勺四撮
上野 五拾九萬千八百三拾四石四斗四升八合八勺七撮
下野 六拾八萬千七百貳石八斗壹合四勺六撮
陸奥 百九拾貳萬千九百三拾四石八斗八升七合五勺四撮
出羽 百拾貳萬六千貳百四拾八石八斗三升四合四勺

北陸道

若狹 八萬八千貳百八拾壹石五斗貳升貳合四勺
越前 六拾八萬四千貳百七拾壹石八斗九合六勺
加賀 四拾三萬八千貳百八拾壹石七斗七升
能登 貳拾三萬九千貳百八石七斗九升五合四勺
越中 六拾壹萬千石壹斗
越後 八拾壹萬六千七百六拾九石貳斗七升七勺
佐渡 拾三萬三百七拾三石九斗壹升壹合
山陰道
丹波 貳拾九萬三千四百四拾五石五斗四升七合四勺

丹後 拾四萬五千八百貳拾壹石壹斗八升貳合
 但馬 拾三萬六百七拾三石貳斗三升五合
 因幡 拾七萬七百貳拾八石貳斗八升九合
 伯耆 拾九萬四千四百拾六石五斗六升七合
 出雲 貳拾八萬貳千四百八拾九石七斗三升九合
 石見 拾四萬貳千四百九拾九石貳斗三升五合
 隱岐 壹萬貳千六百拾五石貳升三合

山陽道

播磨 五拾六萬八千五百拾七石五斗七升九合
 美作 貳拾五萬九千三百五拾三石七斗壹合
 備前 貳拾八萬九千貳百貳拾四石七斗壹升
 備中 三拾貳萬四千四百五拾五石六斗貳升三合
 備後 貳拾九萬五千六百七拾八石八斗八升八合
 安藝 貳拾六萬九千四百七拾八石三斗壹升
 周防 貳拾萬貳千七百八拾七石六斗七升
 長門 拾六萬六千六百貳拾三石六斗四升五合

南海道

紀伊 三拾九萬七千六百六拾八石壹升九合
 淡路 七萬四百貳拾八石壹斗
 阿波 拾九萬三千八百六拾貳石貳斗八升五合
 讃岐 拾八萬六千三百九拾四石四升四合

伊豫 四拾貳萬九千六百六拾三石貳斗五升八合五勺四撮
 土佐 貳拾六萬八千四百八拾四石九斗七升四合

西海道

筑前 六拾萬六千九百八拾壹石四斗貳升
 筑後 三拾三萬四千四百九拾七石七斗六升九合
 肥前 五拾七萬貳千貳百八拾四石壹斗貳升三合
 肥後 五拾六萬三千八百五拾七石壹斗七升八合
 豐前 貳拾七萬三千八百壹石八斗四升八合三勺
 豐後 三拾六萬九千五百四拾六石七斗九升壹合六勺
 日向 三拾萬九千九百五拾四石五斗貳升八合
 大隅 拾七萬八百三拾三石四斗五升壹合
 薩摩 三拾壹萬五千五百六拾壹石壹斗貳撮
 壹岐 壹萬八千七拾貳石八斗六合
 對馬 數闕

琉球 拾貳萬三千七百拾壹石八斗壹升三合四勺三撮

地方凡例

〔按〕右總計貳千五百九拾壹萬六千七百七拾四石五斗七升七合餘永千三百六拾九萬八百壹文トス五公五民ノ法ニ據テ算出スレハ租額千貳百九拾五萬五千三百三拾七石貳斗八升八合餘永六百八拾四萬九百文餘ヲ得之ヲ慶長ニ比スレハ石高七百四拾萬千六百三拾石八斗三升七合餘永千三百六拾九萬八百壹文租額六拾壹萬五千九百七拾四石七斗九升五合餘ト永錢トナ増加セリ蓋シ國家向賑諸國墾闢ノ田漸ク増益シ且琉球國ヲ加フルヲ以テ然ルナリ此石高ヲ町步下租帳田高ノ町步ニ對照シテ石盛租米ヲ表示スルコト左ノ如シ

石 盛 租 米 田 平 均 表

國名	田		畠		田畠合計	石	石高	段石盛米	段租米
	畝步	畝	畝步	畝					
山城	11,100	10,100	1,800	1,700	12,900	3,200	3,600	3,300	3,300
大和	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
河内	11,100	10,000	1,000	1,000	12,100	3,200	3,600	3,300	3,300
和泉	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
攝津	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
伊賀	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
伊勢	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
志摩	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
尾張	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
三河	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
遠江	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
駿河	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
甲斐	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
伊豆	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
相模	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
武藏	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000

安房	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
上總	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
下總	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
常陸	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
近江	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
美濃	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
飛騨	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
信濃	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
上野	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
下野	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
陸奥	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
出羽	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
若狹	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
越前	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
加賀	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
能登	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
越中	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
越後	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000
佐渡	10,000	10,000	1,000	1,000	11,000	3,000	3,300	3,000	3,000

〔料所〕徳川氏ノ領地ヲ云フ
〔仕置〕法度ヲ云フ
〔人物〕高成ハ人ニ課スル所ノ課金ナリ
〔勘定組頭〕勘定所中一部ノ長ヲ謂フ一部ノ中長二人或ハ三人ナリ
〔用掛〕臨時職ニ補シ奉テ執ルノ稱ナリ
〔年番〕年々番番スルヲ謂フ

〔手代〕農政座右ニ云テ代官ノ職ナリ
〔不將〕解前篇ニ見ユ

〔坪刈〕検見ノ時一坪ノ作毛ヲ刈テ取箇ノ標準ト爲ス
〔添掛見〕別ニ人ヲ差シテ其事ヲ検視セシムルヲ謂フ

〔中御門天皇正徳二年四月〕〔徳川家宣達〕料所ノ取箇八年々不足ニテ私領ノ取箇ハ料所ヨリ格外宜シ因テ常ニ仕置ノ旨ニ心ヲ用ヒテ申付クヘシ諸懸物等ノ費ナキヲ要シ嚴密吟味スヘシ費用アルハ百姓困窮ニ至ルヲ以テ取箇不足ヲ生スルナリ〔金鑑〕

〔三年七月〕〔徳川家繼達〕料所取毛ノ吟味ハ例年秋末ニ至リ勘定組頭ノ内年番ヲ立テ帳簿ヲ調査セリ而ルニ取毛ハ特リ秋作ノ善悪ニ限ラス亦麥作其外畠作ノ景況國々ノ土地等ヲ考ヘ上ノ爲モ宜ク百姓ヲシテ困窮ニ至ラサシムルヲ料所ヘシ當分ノ用掛ニテハ辨理シ難キコト有ルヘキニヨリ向後ハ春中ヨリ年番ヲ立テ年中ノ事ヲ詳ニ吟味シテ取毛免相ヲ定ムヘシ〔類案〕

〔享保六年閏七月〕〔徳川吉宗達〕年貢ハ百姓ニ得心セシメ漸々定免ヲ申付クヘシ但是マテ高免下免地面ニ不相應ノ所ハ追次改正スヘシ〔類案〕

〔按〕田租ノ法年般ノ熟否ヲ檢シ收穫ノ多寡ヲ算シ以テ租額ヲ定ム之ヲ檢見取ト謂フ數年ノ收穫ヲ平均シ年期中定率以テ租額收ム之ヲ定免ト謂フ定免法ハ極テ收租ニ便ナリ因テ是令アリ

〔十一年七月四日〕〔達〕取箇正當ナレハ村方ハ高免ヲ悅フ可シ何トナレハ取箇上レハ作徳亦上リ取箇下レハ作徳亦下ル然ルニ登殺宜ク取箇上リ作徳モ亦増セシニ猶高免ノ窮苦ヲ申立ルモノ有ルニ於テハ吟味ノ上不正ノ高免ハ之ヲ免除シ手代村役人等ノ處置ヲ吟味シ仕置申付クヘシ高免ノ窮苦ヲ申立ルハ畢竟定法取箇ノ外不將ノ入用ヲ掛ルヲ以テナリ此事嚴ニ吟味スヘシ〔差出方〕
〔十三年四月〕〔達〕檢地ニ因テ地廣地狹トナリ及ヒ山海市場ノ營業村ノ盛衰村費隣村ヨリ多キ理由等精密吟味シ同様ナレハ免モ同様タルヘク若シ相違アラハ免モ違フヘキニ付其旨書出スヘシ但村費定ノ外不急ノ事ヲ急ニスル等公明ナラサル費ヲ増課スル所モ之アリト聞ク此ノ如キハ熟料ノ上村費ヲ減シ取箇ヲ進マシムヘシ

〔按〕村費ハ所謂郡中制村入用等ノ類ニシテ其種目甚々多シ而ルニ地方ノ小吏名主等間マ私曲ノ事ヲ作シ弊害カラシメテ以テ屢々之ヲ告戒スルナリ

其目的無ク増スヘキ取箇弛ミ又取箇強ケレハ百姓窮苦スヘキヲ以テ審料詳察シ百姓ヲ抑制セテ都

テ得心ノ上定ムヘシ〔金鑑〕

〔十五年八月〕〔達〕定免ノ田畠四分以上ノ損毛ニテ檢見取ノ引方ハ損毛ヲ改メ引ヲ立ツヘシ但高取米又ハ段別ニテモ四分以上ノ損毛ニ當ラハ引ヲ立ツヘシ〔類案〕

〔櫻町天皇元文二年七月〕〔達〕總テ取箇坪刈及ヒ定免三分以上ヲ減スルノ方信シ難キモノアリ添檢見ノ者ヲ差遣スト雖モ猶私和スル輩アリ或ハ破免ヲ申立ル場所添檢見ノ者ヲ差遣スレハ定免ナルモノ有リ又ハ手代等ノ言ニ從ヒ悉皆吟味セサルアリ其他手代等私曲アルモ其沙汰ニ及ハス私ニ之ヲ免スル等ノ過失ヲ改メサルモノ有リト聞ク以後各注意至ラスシテ不精ノコト有ルニ於テハ容赦シ難キヲ以テ其旨心得ヘシ定免場所ハ其年ノ風旱水損等ノ申立ニテ破免スレトモ近年ハ幾ント兩年ニ破免スルヲ以テ定免ノ詮ナシ檢見場所モ同様ノ申立ニテ近年漸々下免ト成來ルニ依リ諸事怠ナク心ヲ盡シテ取箇ノ進ムヲ要スヘシ

損毛ニテ取箇ノ減スルヲ風水旱等ニ因ルト稱スレトモ甚カラサルニ破免スルハ別ニ趣意アラシ又檢見入ト成ル場所最初ヨリノ檢見場ニ不相應ノ劣リアル所ハ處置ノ方アルヘシ因テ此兩條便宜ノ意見アラハ小事ニテモ申稟スヘシ〔金鑑〕

〔按〕檢見取既ニ弊アルヲ以テ享保中定免取ノ法ヲ設ク而ルニ亦破免許稱等ノ弊アリ此兩法村里ノ貧富土地ノ價額等ニ因テ適不通アリト雖モ其弊アル所以ノモノハ事代官以下地方吏ノ懈怠又ハ手代等村民ト私和スル所アル等ニ由レリ

〔同月〕〔達〕本年麥作損亡注進ノ中不相應ノ損毛高多キ者アリ檢見取場ハ秋作ノ景況ニ由リ引ニ斟酌アルヘキヲ以テ損毛高ノ中ヲ除キ書出スヘシ又定免場ハ三分ヨリ八九分マテノ損毛ニテ書出ストモ田ノ檢見ト違ヒ手代ノ實檢ノミニシテ何分ト定ルニ由リ田ノ取箇引戻ノ心ヲ以テ五六分マテハ無難トナシ其餘三分四分損毛ヲ定メ改テ吟味シ損毛ヲ書出スヘシ〔類案〕

〔按〕引トハ租ヲ減除スルヲ謂フ地形地味ノ變革及ヒ水旱風蟲等アレハ則チ之ヲ點檢シテ其租ヲ減除スルナリ而シテ引ニ諸種アリ曰ク年々引違々引地不足引無地高引石盛遠引石間引田畠成引字違引障屋敷引神佛免引伊勢屋敷

〔預所〕徳川氏ノ領地ニシテ諸藩ノ保管スル所ヲ謂フ

〔毛頭〕些少ノ謂ナリ

〔釐取〕釐金何分何釐ノ算計ヲ以テ高ニ賦課スルヲ謂フ

〔段取〕何斗何升何合ノ算計ヲ以テ段歩ニ賦課スルヲ謂フ

〔色取〕作毛ノ佳麗ニ隨テ租ヲ以テ租トシテ取ルヲ謂フ

〔傳〕猶所由トシテ言フカコトシ

〔合毛〕一步ノ概何合何斗ト定メ坪別ノ標準ニ供フルヲ謂フ

〔町領〕百姓地ニシテ市街ヲナスモノヲ謂フ

〔助成〕猶所得トシテ言フカコトシ

〔名主〕村里若クハ市街ノ長ヲ謂フ

〔莊屋〕上ニ同シ

〔十一月七日〕〔徳川家重達〕地方ノ事六十年以前ノ檢地ナルヲ以テ六尺三寸或ハ五寸ノ竿ヲ用ヒ格外歩廣ノ場所アリ譬ヘハ百町歩ノ所ハ百三拾町或ハ百五拾町歩アリ因テ小損ニテハ引ヲ立ツ可ラス是マテ引來ル干減其外水所等ニテ引ヲ立テサル可ラサル場所ハ吟味ノ上引ヲ立テ無理ナル事ハ毛頭爲スヘカラス差出方掛留 記 牧民金鑑

〔三年七月〕〔達〕去年中達セシ取箇釐取段取色取トモ舊例ニ仍リ其場所ニ掛札スヘキヲ心得違ニテ之ヲ爲サ、ルモノ有リ今年ハ檢見取場ノ取箇定ラハ定免檢見トモ悉ク掛札シ右掛札一村分寫ヲ添ヘ勘定所ニ届出ツ可シ教令 類纂

〔按凡例〕掛札ハ年貢高釐取段取等ヲ札ニ記シ其村ノ高札場又ハ名主莊屋ノ門等見易キ所ニ表揚スルナリ是ノ百姓ナシテ其年ノ取箇ヲ知ラシメ且納税ノ際村吏等ノ私曲ヲ防クカ爲ニ設ルナリ

〔四年四月十九日〕〔達〕取箇豐年ニハ釐取段取ノ場所トモ幾何マテハ取得ヘキ旨書出スヘシ右ハ世ノ標準ト成リ各役中ノ重事タルヲ以テ今マテノ取ニ拘ラス實意ノ所能ク吟味シ書出スヘシ尤モ定免檢見取場トモ一村限本新田ノ譯マテ細記スヘシ實意ノ所ヲ糺シ吟味スルコト專用ナリ教令 類纂

〔同月〕〔達〕取箇年々吟味有レトモ向後代官ニ達シテ村々ノ景况ヲ視察シ立毛ノミニ限ラス村柄ノ甲乙ヲ計リ無難ノ年ハ幾何マテ取得ヘシト免ヲ付シテ差出サセ勘定所ニ備置キ年々之ニ比照シ年ノ豐凶ニ隨ヒ吟味スヘシ尤モ其帳簿ハ代官ニ命シテ之ヲ作り差出サシムヘシ教令類纂、太 成令續集

〔桃園天皇寬延元年八月晦日〕〔達〕合毛年々ノ増減ハ有毛ニ隨ヒ定法ヲ以テ處分スヘシ差出方掛留 記 牧民金鑑

〔三年六月六日〕〔達〕木綿作ノ取付ハ稻作ノ上毛ニ准スルノ例トス木綿ハ特ニ利益多キモノナレハ豐作ノ上毛ヲ以テ吟味スヘシ

屋敷年貢ハ其村上島ノ取箇ヲ付シ田島損毛アルモ屋敷ニハ引ナキヲ定法トナス

町場ハ其所ノ繁昌助成等ヲ計テ破格ノ高免ヲ付スヘシ差出方 掛留記

〔十一月〕〔達〕年々取箇付ノ順序石代等ヲ名主莊屋ノ門前又ハ高札場ニ掛札ヲナシ翼年ノ取箇付及ヒ石代ノ掛札ト掛替ヘ常ニ村民ニ取箇ノ旨趣ヲ了解セシムヘシ記 方續留 牧民金鑑

〔寶曆五年六月十六日〕〔達〕取箇付ハ免相及ヒ村柄土地ノ様子納方等ヲ考ヘ漸々取箇増スヘキヲ旨トシテ吟味スヘシ但舊習ヲ改ルコトハ勘定所ニ申出ツヘシ差出方 掛留記

〔六年九月廿八日〕〔達〕取箇付ハ釐取段取有毛取ナルモ釐取段取ノ適當セサル所ハ斟酌ノ上有毛取然ルヘキ旨寬延二年達セシヲ以テ方今ハ有毛取ヲ用ヒ定法ノ如ク五分ノ取箇ナリ然ルニ甲州ニ限リ五分ノ取箇ヲ用ヒス先年坪別ノ上村柄ノ盛衰等ヲ量リ免元ヲ定メシニ村ニヨリ免元同シカラサルモノ有リト聞ケリ今ニ其時定ル所ノ免元ヲ用フルヤ年數ヲ經ルヲ以テ變地等有ルヘク今猶之ヲ用フルハ不相當ニ付免元加減セシヤ甲州ハ五分ノ取箇ニテハ國益ナラサルユヘ免元定置カサル可ラサルヤ又定法ノ如ク用フルヤ取箇付處分ノ方委細申出ツヘシ又以後取箇付ハ五分ニ定ムヘキヤ又免元ヲ用フルヲ國益トナスヤ實地熟料ノ上委細伺出ツヘシ牧民 金鑑

〔按〕武田氏亡後其領地悉ク徳川氏ニ屬スト雖毛概不信之ヲ改メシ其租法大ニ異ル所無シ收納ニ大切小切ノ法有テ維新ノ際ニ至ルマテ猶存セリ甲州ハ田地膏腴性亦好キナリ以テ一升ノ概ハ五合四勺五撮餘ノ權ニ當ル又廿八内外ノ石盛アリ是レ其上田トシ今姑ク五公五民ノ法ニ據テ之ヲ算スレハ一石四斗ノ租米トス即チ他所上田ノ一倍ナリ凡例錄ニ云甲斐越前等諸國ノ石盛ハ坪別額ニ據テ算出セシニアラス只國高ノ數多キナリト是レ或ハ然ラン且甲州ハ梨葡萄栗柿棗栗種精糖煙草等ノ產物アリ收利甚々多キナリ以テ石盛ヲ付スルコト他所ヨリ高シト云蓋シ諸國間マ此類アリ

〔七年八月〕〔達〕五分取ハ一切收穫ノ五分トナス干減糞不熟泥冠等ヲ除キタルモノ、半分ヲ五分トナスヘシ教令類纂、地方 根元記、合條錄

〔按〕是レ代官等五分取ノ義ヲ誤解シ一切ノ收穫ヲ折半スルモノアリ百姓江戸ニ愁訴ス因テ更ニ諸國ノ代官等ニ告示セシナリ

〔八年五月二十日〕〔達〕島ハ一切引ナキ定ナレトモ寬保二年關東大水ノ時特ニ相應ノ引ヲナセリ然ルニ去丑年出羽越後前美濃其他關東東海道一統ノ水難タルニ因リ猶亦特別ノ仁惠ヲ以テ其一個

〔舊合〕前年ノ取米ニ比准シテ本年ノ取米ノ高下定ルカ爲メ其額石數ヲ推算シテ檢見ナリト標準トナスナリ

年制外ノ引ヲナセトモ以後ハ從前達シ置タルカ如ク島ノ引ハ爲ス可ラス
〔後桃園天皇安永五年正月〕〔徳川家治達〕取箇ノ事檢見ノ時ハ勿論平日村柄ノ盛衰石盛ノ高下ヲ料リ年々段取合毛ヲ檢シ不同ノ段取改正ヲ旨トシテ豫メ調査シ定免切替又ハ檢見ノ時比照熟料セハ取箇増スヘキニ畢竟前年ノ當合或ハ近年ノ増減ニ拘リ一体ノ出來不同モ檢査至ラスト聞ク且巡村檢見ノ外農業ノ故障トナラサル時節ヲ見テ巡村シ諸事心ヲ著ク可キ旨達シ置キシニ猶等閑ナルモ有リ已來公務ノ暇村々見分ノ上取箇ノ處置ヲ申出ツヘシ
〔七年十二月〕〔達〕屋敷成ノ島ハ段取増ヲ吟味スヘキニ舊ノ取箇ニテ増加ノ吟味ナキ場所所有リト聞ク屋敷島ノ位不相當ナルニ付村限點檢シテ取箇ヲ進マシムヘシ
〔光格天皇天明二年六月〕〔達〕諸國村々若シ風水旱等ニテ取箇ニ關涉スル場所アラハ村分ケヲ以テ詳査シ檢見以前勘定所ニ届出ツヘシ右ノ如キ村々其外荒地多キ場所ヘハ勘定所ヨリ見分ノ者ヲ差遣シ場所ノ景況損毛ノ位等ヲ實檢セシムヘシ若シ届出ナキ所ハ論ナク届出アル場所ニテモ故ナク不相當ノ引不熟石代等代官ヨリ申立ツルコト有ラハ處分アルヘキニ付取箇ノコト怠慢ナク勵精スヘシ
〔按〕不熟石代トハ水旱蠲免等ニテ米穀熟セスシテ米納爲シ難ク代金ヲ以テ租ヲ納ルナリ而シテ多クハ其民ニ利アルカ故ニ少ク不熟アルハ輒チ以テ口實トナス故ニ地方吏チシテ之ヲ檢察セシムルナリ

〔毛管〕田ニ種ウヘキモノチ島ニ島ニ作ルヘキモノチ田ニ換種スルノ類チ謂フ
〔小前〕小民チ謂フ

〔四年八月〕〔達〕近年用水不足ト稱シ田ニ島毛ヲ作り取箇減スト聞ク向後毛替ヲナス分ハ小前帳ヲ檢シ享保二十年審査ノ上木綿紅花麻藍烟草瓜ノ類ヲ作レル分田ハ勝手作ト同ク田ノ上毛ニ准シ島ノ免合宜キ地ハ島ノ上毛ニ取箇付ヲナシ粟稗等雜作ノ分田ハ田上毛ノ半毛取箇トナシ島ノ免合宜キ地ハ島上毛ノ半毛ニ取箇付セシニ因リ小前ニ至ルマテ遺漏ナク達スヘシ
〔五年正月廿二日〕〔達〕田ハ稻作ヲ本毛トシ島ハ麥作ヲ本毛トシテ石盛等ヲ定ルニヨリテ麥菜種等ノ類夏時收納ノ分ハ田ノ裏毛ニテ島ハ秋時收納ノ作物裏毛タリ然ルニ木綿ハ田ニ作ルモ稻ニ過キタル益アルヲ島ニ作レハ本毛ノ麥ヲ取リタル後裏毛ニ作り取ルヲ以テ重作徳ニ當ルナリ尤モ五畿内ハ土地ニ應シ島本綿特ニ能ク登熟セルヲ以テ從來檢見ヲ爲シ根取ノ外ニ増スヘキ處分モ之アルナリ然ラハ假令木綿作不熟ノ年タリトモ根取ノ減スヘキ理無キニ其斟酌ナク近年ハ木綿一作ノ善惡ノミニテ島ノ取米ヲ吟味シ取箇漸々減少スト聞ク島ノ本綿作ハ裏毛ト雖モ格外作徳アルニ因リ以後ハ取箇ニ吟味ヲ遂クヘシ
〔按〕根取ハ檢地ノ上石盛チ付シテ一段ノ取米幾何ト定ル租率チ謂フ譬ヘハ上田ノ石盛十五此租米七斗五升ト定メ敷租ノ標準トナスナリ凡例條ニ云爾東ハ田ノ上中下チ分チ段取ノ制アリ誠引檢見ノ時損毛アレハ畝ニテ引トモ根取ハ動サス上方ハ蠲取ナレトモ先ツ段別石盛租米チ定メ之チ高ニ付シ始テ蠲取トナル故ニ幾箇何分何釐ノ免即チ根取ナリト上方トハ五畿近江丹波播磨等ノ諸國チ謂フ

〔寛政二年二月廿二日〕〔徳川家齊達〕先年取箇増加ノ時ニハ諸國石代賤ク減殺ノ時ニハ石代金納宜キヲ以テ却テ取箇止ノ減殺ヲ補ヘリ之ヲ照料スレハ取箇ノ減スルハ其處置弛ムニ在リ取箇付規矩ヲ越ルニ至テハ村民窮苦ニ及フ者有ルヘケレトモ然ラサレハ窮苦スヘキノ理無シ平年ニ増收シ以テ凶年ノ備ヲ爲スコソ仁惠ノ第一ナレ然ルニ取箇付ノ弛ムヲ以テ仁惠トナスハ本旨ニ背ケリ假令定免ノ村ニテモ取箇増スヘキ場所ハ年季明ノ時檢見取ニモ爲シテ之ヲ試ミ取箇増ス上ニテ復タ定免ト爲シ又年久ク檢見取ノ村ニテモ定免ヲ申付ケ又村柄立直ルヘキ所ハ定免ヲ願ハストモ其利害ヲ詳論シ定免トナシ又外稼等ヲ見込ミ増加申付ル等熟料シ取箇増シ遠カラス前時ノ取箇止ニ復スルヲ要スヘシ
〔三年十一月〕〔達〕島ハ田ト違ヒ兩毛三毛アリ從來定取タルヲ以テ不作ノ年タリトモ容易ニ年貢ノ引ヲナスヘカラス殊ニ關東永取ノ地ハ通常ノ事ニテ引ヲ立サル定法ナリ縱ヒ一國一圃ニ關スル水旱損等ニテ理由判然タル地ニテモ麥作秋作マテニハ諸種取入ノ時節異ルヲ以テ譬ヘハ島永取百貫文納來ル場所ハ右百貫文ノ内五分即チ五十貫文ハ麥作殘五分ノ内貳分五釐ハ夏作貳分五釐ハ秋作ト定メ夏秋トモ貳拾五貫文ツノ割合ヲ以テ損毛ノ時ニ應シ吟味ノ上右割合ノ分定取年貢ノ内ヨ

〔取箇止〕收稅額ナリト下ハ郡縣ノ和名ハ北相分ツノ道似中央十字ニ字チ用フ
〔外稼〕稼外カセヤ耕作ノ熱業チ謂フ
〔見込〕計度ノ額ナリ和爾推ニ云込ハ入ナリ

リ引ヲナセシ例アレトモ是レ又通常ニテハ許サ、ル事タリ牧民
〔四年四月十一日〕〔達〕一所ノ出水ヲ口實トシ敷村ノ島方引ヲ申立テ且從來定リタル島歩合ノ差別
ナク多分ノ引ヲ申立ルハ吟味至ラサルヲ以テ酌量ノ上已ムヲ得サル分ハ秋作貳分五釐引ト爲スヲ
標準トナスヘシ差出方掛留
〔七月〕〔達〕取箇ヲ前々ニ比照スルニ格外取劣トナレリ右ハ畢竟村民等不相應ノ風俗ヲ好ミ又ハ檢
見入用等ニ至ルマテ多分ノ村費ヲ要シ自然免合ニ關涉スレハナリ總テ村費ヲ格外ニ減セシメシニ
作物無難ノ年柄ハ特別ノ處置アルヘキヲ檢見前後ノ作物風聞ヨリ取箇付弱ク坪刈出合ハ標準ノ名
ノミニシテ唯近來取劣タル免合ニ比較スル類アリ此ノ如クニテハ前々ノ免合ニ復スヘキ理ナシ因
テ此後取箇又ハ諸引多キ場所ヘハ逐次點檢ノ者ヲ差遣スヘシ但平年ノ作ニテ取箇付ニ疑アレハ亦
糺スヘキヲ以テ其旨手代等ニ曉諭シ舊例ニ拘ラス精覈吟味スヘシ牧民

〔取劣〕租米ノ
定額ヨリ減損
スルヲ謂フ
〔出合〕作毛ヲ
坪刈シテ獲ル
所ノ額何合ト
定リタルヲ謂
フ
〔元取〕舊時ノ
取高ヲ謂フ

〔十二年七月朔日〕〔達〕不作ノ年引ヲ立ルハ已ムヲ得サレトモ翌年無難ナレハ必ス本免ニ引戻シ元
取ヲ失ハサルコト第一ナルニ近年ハ不作ノ翌年元取ニ復スル類少ク漸次取劣リ畢竟有毛取トノミ
誤認スルニ至レルコト甚タ宜カラサルニ付此後深ク注意シ取箇付失錯無ク吟味スヘシ差出方掛留
〔享和三年六月廿九日〕〔達〕去戌年五畿關東甲州東海道等ノ諸國水損ニ付取箇多ク減殺セリ右ノ如
キ損毛多キ翌年ハ根取免ニ回復シ取箇付ヲナシ元免ヲ失ハサルコト舊例ナルニ寛延年中ヨリ一統
有毛取トナリ以後根取ノ照料スヘキモノ無ク凶作ノ翌年村民ノ苦情ニ泥ミ自然取箇弛ミ其村々元
免ヲ失ヒ年々下免ニテ年々經自ラ地免ノ如ク成來ル村アリ既ニ明和七八兩年ノ旱損ニモ取箇多ク
減シ其後元取ニ復セス下免ト成ル村々多キニ付右國々ハ勿論其餘ノ分モ一統熟料シ前二十年内
ノ高免ノミヲ標準トセス殺作ニ隨ヒ根取免ニ回復スルヲ要スヘシ差出方掛留
〔按〕享保年中定免ノ法ヲ立レトモ三分以上ノ損毛ハ則チ之ヲ蠲免シ三分以内ハ入民ノ内損トス是ヲ以テ民其便ナラサル
ヲ訴フル者アリ故ニ又有毛取ノ法ヲ設ク有毛取ハ檢見取ノ一種ニシテ地ノ登否ニ依テ徵收スル至公ノ法ナリ而シテ其弊

〔文化十二年〕〔伊豆國附嶋書上目録〕
大島

- 一 島段別六拾壹町九段廿壹步 但一段ニ
永三拾文
- 此年貢永拾八貫五百七拾八文壹分
- 一 屋敷三町九段七畝廿四步 但一段ニ
永五拾文
- 此年貢永壹貫九百八拾九文
- 一 新開島段別四段三畝九步 但一段ニ
永拾三文
- 此年貢永六拾文貳分五釐
- 一 新開島段別壹町三段七畝步 但一段ニ
永拾七文
- 此年貢永貳百拾九文七分
- 一 新開島段別三拾九町五段七畝拾五步 但一段ニ永五
文七箇半分
- 此地代永拾三貫八百五拾壹文貳分
- 神津島
- 一 島段別貳拾壹町七段七畝貳拾壹步
- 此年貢永五貫七百八拾四文
- 内
- 居屋敷壹町三段五畝貳拾七步
- 此年貢永六百七拾九文
- 麥島貳拾町四段壹畝貳拾四步
- 此年貢永五貫百四文五分

新島

一 島段別六拾五町壹段八畝九步 新島本村 枝柳若江村
此年貢永拾貳貫貳百六拾壹文三分

内

屋敷壹町六段五畝三步 但一段二 永五拾文
此年貢永八百貳拾五文五分
麥島六拾三町五段三畝六步 但一段二 永拾八文
此年貢永拾壹貫四百三拾八文八分

字大原

一切替島六町貳段壹畝步 新島本村
此年貢永三百七拾貳文六步 但一段二 永六文

字大原次

一大繩段別三町壹段七畝六步 但一段二 永六文
此年貢關

利島

一 居屋敷八段拾貳步 但一段二 永五拾文
此年貢永四百六文

一 麥島六町七段四畝拾步 但一段二 永拾文
此年貢永六百七拾四文貳分

三宅島

一 永貳拾貳貫六百貳拾九文三分 見取畑

〔切替島〕樂草
等ノ交夷シ島
ト爲シタルモ
ノナリフ
〔大繩段別〕新
壘スヘキ地ノ
周圍チ丈量シ
段別チ定メ解
下年期中高低
ニ置クナリフ

此段別百拾壹町九段壹畝貳拾壹步

八丈島

一 田島段別貳百三拾九町七畝壹步半 八丈島小 島下
此黃軸年貢三百八拾七段五分三釐

内

田五拾七町八段八畝貳拾四步半 但一段二 黃軸貳段
此黃軸年貢百拾五段七分七釐

島百八拾壹町壹段八畝七步 但一段二 黃軸五分
此黃軸年貢貳百七拾壹段七分六釐

一 新田島段別八拾三町八段三畝三步
此黃軸年貢八拾八段七分八釐

内

田六町壹段九畝拾八步 但一段二 黃軸八分
畑七拾七町六段三畝拾五步 但一段二 黃軸壹段

去年年貢上納體文ノ内

一 新開田段別四段貳畝貳拾七步 但一段二 黃軸壹段八分
此年貢黃軸五分七釐

同上

一 新開島段別壹町八段五畝貳拾七步 但一段二 黃軸壹段
此年貢黃軸壹段八分六釐

青个島

一島段拾九町七段六畝壹步
此年貢黃軸貳拾六段

御藏島

一島段別五町壹段六畝拾三步
此年貢永七百三文貳分

内

屋敷四段七畝貳拾七步 但一段ニ
永五拾文

此取永貳百三拾九文五分

麥島壹町五段貳畝貳拾八步 但一段ニ
永貳拾文

此取永三百五文九分

粟芋島三町壹段五畝拾八步 但一段ニ
永五文

此取永百五拾七文八分 伊豆國附
七島寄上

〔按〕伊豆國附島寄米ヲ産セズ故ニ黃軸水鏡等ヲ以テ貢租ニ充テ寬政以來數命シテ開墾セシメ又米穀ヲ給與シテ之ヲ勸奨ス是ヲ以テ貢租ハ寬政以後ニ始ルモ多シ今本文年貢段別ヲ推算スルニ間マ疑フヘキモノアリ蓋シ小數ヲ捨テ概算セシニ由ルナルヘシ

〔仁孝天皇天保三年四月廿一日〕〔令〕諸國ノ高改正ニ付萬石上下其外一村限新田及ヒ改出高ヲ書出スヘシ從前ノ鄉村高帳ト齟齬スルモ害ナキヲ以テ新田高及ヒ高外モ收納ノ場ハ毎村ノ段別ヲ記註シテ出スヘシ時宜ニ由リ毎村ヲ檢査セシメン其時記註ト合ハサル場所アラハ嚴科ニ處スヘシ天保錄

〔按〕德川氏數年ニ一回諸國ノ石高ヲ檢スレトモ猶田地本高ヲ隱匿スルモノアルヲ以テ又嚴ニ之ヲ令スルナリ下條攝ル所ノ石高ハ則チ此令ニ從テ稟報スルモノナリ

〔同年總石高〕

畿内

山城 貳拾三萬百三拾壹石七斗六升八勺六撮
大和 五拾萬千三百六拾壹石六斗九升壹合五勺六撮
河内 貳拾九萬三千七百八拾六石六斗三升四合五勺
和泉 拾七萬貳千八百四拾七石九斗八升六合
攝津 四拾壹萬七千三百九拾九石壹斗貳升七合

東海道

伊賀 拾壹萬九拾六石五斗三升六合
伊勢 七拾壹萬六千四百五拾壹石四斗九升貳合七勺
志摩 貳萬千四百七拾石三斗九升八合
尾張 五拾四萬五千八百七拾五石七斗九升三合
三河 四拾六萬六千八拾石七斗四升六合八勺
遠江 三拾六萬九千五百五拾貳石五斗七升五合壹勺八撮
駿河 貳拾五萬五百三拾八石七斗五升三合九撮
甲斐 三拾壹萬貳千五百五拾九石三斗貳升九合四勺九撮
伊豆 八萬四千七百七拾壹石貳斗九升三合六勺
相模 貳拾八萬六千七百拾九石七斗五升六合八勺九撮永千三百四拾六貫六百七拾文
武藏 百貳拾八萬千四百三拾壹石六升八合八勺貳撮
安房 九萬五千七百三拾六石貳斗三升九合七撮
上總 四拾貳萬五千八拾石四斗五升三合四勺
下總 六拾八萬千六拾貳石六斗三升壹合六勺六撮
常陸 百萬五千七百七石四斗八升九合三撮永貳拾壹貫文

東山道

近江 八拾五萬三千九拾五石三斗五合五勺九撮
 美濃 六拾九萬九千七百六拾四石三斗貳升壹合六勺六撮
 飛騨 五萬六千六百貳石三斗九合
 信濃 七拾六萬七千七百八拾八石七升七合六勺
 上野 六拾三萬七千三百三拾壹石六斗三升三合壹勺
 下野 七拾六萬九千九百五石貳升七合三撮
 陸奥 貳百八拾七萬四千貳百三拾九石五升九合八勺八撮
 出羽 百貳拾九萬五千三百貳拾三石五斗貳升壹合四勺四撮

北陸道

若狹 九萬千拾八石八斗貳升貳合貳勺
 越前 六拾八萬九千三百四石八斗壹升九合八勺七撮
 加賀 四拾八萬三千六百六拾五石八斗四升八合七勺
 能登 貳拾七萬五千三百六拾九石九斗九升貳勺
 越中 八拾萬八千八石四斗六升壹合八勺貳撮
 越後 百拾四萬貳千五百五拾五石五斗三升五合八勺五撮
 佐渡 拾三萬貳千五百六拾五石四斗九升壹合

山陰道

丹波 三拾貳萬四千三百三拾六石貳斗六升八合六勺七撮
 丹後 拾四萬七千六百拾四石八斗四合四勺六撮
 但馬 拾四萬四千三百拾三石八升四合三撮

因幡 拾七萬七千八百四拾四石六斗貳升四合
 伯耆 貳拾壹萬七千九百九拾石八斗貳升貳合貳勺八撮
 出雲 三拾萬貳千六百貳拾七石四斗六升五合
 石見 拾七萬貳千貳百九石七斗六升八合三勺貳撮
 隱岐 壹萬貳千五百五拾九石六斗

山陽道

播磨 六拾五萬九千九百六拾四石八斗壹升三合五勺
 美作 貳拾六萬貳千九拾九石九升八合
 備前 四拾壹萬六千五百八拾壹石八斗五升四合
 備中 三拾六萬三千九百拾五石六斗壹升四合貳勺壹撮
 備後 三拾壹萬貳千五拾四石九斗三升貳合
 安藝 三拾壹萬六千四百八拾八石四斗八升九合
 周防 四拾八萬九千四百貳拾八石六斗七升七合
 長門 四拾萬四千八百五拾三石三斗三升三合

南海道

紀伊 四拾四萬八百五拾八石三斗七升七合七勺
 淡路 九萬七千六百六拾四石七斗八升四合
 阿波 貳拾六萬八千八百九拾四石三斗貳升九合
 讚岐 貳拾九萬三千三百貳拾石貳斗五升六合四勺
 伊豫 四拾六萬九千九拾七石六斗三升九合三勺四撮
 土佐 三拾三萬貳拾六石五斗貳升

西海道

筑前 六拾五萬千七百八拾貳石貳斗七升八合四勺四撮
 筑後 三拾七萬五千五百八拾八石八斗九升七合八勺
 肥前 七拾萬六千四百七拾石七斗貳升三合壹勺九撮
 肥後 六拾壹萬九千九百貳拾石貳斗九升壹合壹勺
 豐前 三拾六萬八千九百拾三石六斗四升五勺
 豐後 四拾壹萬七千五百拾四石貳斗貳升七合壹勺五撮
 日向 三拾四萬百貳拾八石八斗六升壹合七勺九撮
 大隅 拾七萬八百三拾三石四斗五升壹合
 薩摩 三拾壹萬五千五百六拾壹勺貳撮
 壹岐 三萬貳千七百四拾貳石九斗貳升壹合
 對馬 數關

琉球 拾貳萬二千七百拾壹石八斗壹升三合四勺八撮
 〔按〕右總計三千五百拾五萬八千九百拾七石八斗四升壹合餘水三千三百六拾七石六斗七拾文トス之ヲ折半スレハ千五百貳拾七萬九千四百五拾八石九斗貳升餘水六百八拾三石貳斗五文ノ租額ヲ得之ヲ元額ニ比スレハ石高四百六拾四萬八千貳百四拾三石貳斗六升四合餘租額貳百三拾貳萬四千貳拾拾石六斗三升貳合餘ヲ增加セリ蓋シ昇平年久ク田野益開ケ收穫豐盛スルニ由テ此ノ如シ但水ノ僅ニ減損セルハ島ノ田トナルモノ有ルカ故方輕賤ハ古來石高ノ稱ヲ用ヒス租入ノ法内地ト異ナルヲ以テ此ニ掲載セス唯本文ノ石高ニ據テ租額租米ヲ推算表示スルコト左ノ如シ

租 穀 租 米 准 算 表

國名	石	租	穀	租
山城	貳拾三萬三千三百拾壹石七斗六升八勺	拾壹萬五千六百拾五石八斗八升四勺	五萬七千五百三拾貳石九斗四升貳勺	拾貳萬五千三百四拾石四斗貳升貳勺
大和	五拾萬三千三百六拾壹石六斗九升壹合	貳拾五萬六千八百八拾石八斗四升五合	拾貳萬五千三百四拾石四斗貳升貳勺	拾貳萬五千三百四拾石四斗貳升貳勺
河內	貳拾九萬三千七百八拾六石六斗三升四合五勺	拾四萬六千八百九拾三石三斗壹升七合	七萬三千四百四拾六石六斗五升八合	拾貳萬三千四百四拾六石六斗五升八合
和泉	拾七萬貳千八百四拾七石九斗八升	八萬六千四百貳拾三石九斗九升三合	四萬三千貳百拾壹石九斗九升六合	拾貳萬四千三百四拾九石七斗八升壹合
攝津	拾七萬九千九百九拾九石壹斗貳升七合	貳拾萬八千六百九拾九石五斗六升三合五勺	拾七萬九千九百九拾九石壹斗貳升七合	拾七萬九千九百九拾九石壹斗貳升七合
伊賀	拾壹萬九千九百九拾九石壹斗三升六合	五萬五千四拾八石貳斗六升八合	貳萬七千五百貳拾四石壹斗三升四合	拾七萬九千九百九拾九石壹斗貳升七合
伊勢	七拾壹萬六千四百五拾壹石四斗九升七合七勺	三拾五萬八千貳百貳拾五石七斗四升六合三勺	壹萬七千九百拾貳石八斗七升三合	拾七萬九千九百九拾九石壹斗貳升七合
志摩	貳萬四千四百七拾石三斗九升八合	壹萬七百三拾五石壹斗九升九合	五千三百六拾七石五斗九升九合五勺	拾七萬九千九百九拾九石壹斗貳升七合
尾張	五拾四萬五千八百七拾五石七斗九升三合	貳拾七萬貳千九百三拾七石八斗九升六合五勺	拾三萬六千四百六拾八石九斗四升	拾七萬九千九百九拾九石壹斗貳升七合
三河	四拾六萬六千八百七拾石七斗四升六合八勺	貳拾三萬三千四拾石三斗七升三合	拾壹萬六千五百貳拾石壹斗八升六合七勺	拾七萬九千九百九拾九石壹斗貳升七合
遠江	三拾六萬九千五百五拾貳石五斗七升五合壹勺	拾八萬四千七百七拾六石貳斗八升	九萬貳千三百八拾八石壹斗四升三合七勺	拾七萬九千九百九拾九石壹斗貳升七合
駿河	貳拾五萬五千三百八拾石七斗五升三合	拾貳萬五千貳百六拾九石三斗七升	六萬貳千六百三拾四石六斗八升八合	拾七萬九千九百九拾九石壹斗貳升七合
甲斐	三拾壹萬貳千五百五拾九石三斗貳升九合四勺	拾五萬六千七百七拾九石六斗六升四合	七萬八千三拾九石八斗三升貳合三勺	拾七萬九千九百九拾九石壹斗貳升七合
伊豆	八萬四千七百七拾石貳斗九升三合	四萬貳千八百五拾石六斗四升六合八勺	貳萬四千四拾石八斗貳升三合四勺	拾七萬九千九百九拾九石壹斗貳升七合
相模	六拾八萬六千七百七拾九石七斗五升	拾四萬三千三百五拾九石八斗七升	七萬六千六百七拾九石九斗三升九合	拾七萬九千九百九拾九石壹斗貳升七合
武藏	百貳拾八萬四千三百三拾壹石六升八合八勺	拾四萬七千七百七拾五石五斗三升四合	三拾貳萬三千五百五拾七石七斗六升七合	拾七萬九千九百九拾九石壹斗貳升七合

積	貳拾九萬三千三百貳拾石貳斗五升六合四勺	拾四萬五千六百六拾石壹斗貳升八合四勺	七萬貳千八百三拾石六升四合壹勺
伊	四拾六萬九百九拾七石六斗三升九合三勺	貳拾三萬四千九拾八石八斗壹升九合六勺	拾壹萬五千貳百四拾九石四斗九合
土	三拾三萬貳拾六石五斗貳升	拾六萬五千拾三石貳斗六升	八萬貳千五百六石六斗三升
筑	六拾五萬七千七百八拾貳石貳斗七升八合四勺	三拾貳萬五千八百九拾壹石壹斗三升九合四勺	拾六萬貳千九百四拾五石五斗六升九合六勺
筑	三拾七萬五千五百八拾八石八斗九升七合八勺	拾八萬七千七百九拾四石四斗四升八合九勺	九萬三千八百九拾七石貳斗貳升四合四勺
肥	七拾萬六千四百七拾七石七斗貳升三合壹勺	三拾五萬三千貳百三拾五石三斗六升壹合五勺	拾七萬六千六百拾七石六斗八升七合四勺
肥	六拾壹萬九千九百貳拾石貳斗九升壹合壹勺	三拾五萬五千九百六拾石壹斗四升五合五勺	拾五萬貳千九百八拾石七升貳合七勺
豐	三拾六萬八千九百拾三石六斗四升五勺	拾八萬四千四百五拾六石八斗貳升貳勺	九萬貳千貳百貳拾八石四斗壹升等
豐	四拾壹萬七千五百拾四石貳斗貳升七合壹勺	貳拾萬八千七百五拾七石壹斗壹升七合五勺	拾萬四千三百七拾八石五斗五升六合七勺
日	七拾四萬百貳拾八石八斗六升壹合七勺	拾七萬六拾四石四斗三升八勺	八萬五千三拾貳石貳斗壹升五合四勺
大	拾七萬八百三拾三石四斗五升壹合	八萬五千四百拾六石七斗貳升五合五勺	四萬貳千七百八石三斗六升貳合七勺
廣	三拾壹萬五千五百六斗壹勺	拾五萬七千五百貳石八斗餘	七萬八千七百五拾壹石四斗餘
豐	三萬貳千七百四拾貳石九斗貳升壹合	壹萬六千三百七拾壹石四斗六升五勺	八千八百八拾五石七斗三升貳勺餘
對	數		
馬	拾貳萬三千七百拾壹石八斗壹升三合四勺	六萬千八百五拾五石九斗六合七勺	三萬九百貳拾七石九斗五升三合二勺
球	三拾九萬八千九百拾七石八斗	九千五百貳拾七萬九千四百五拾八石九斗壹升八合八勺	七百六拾三萬九千七百貳拾九石四斗五升七合四勺
通	三拾九萬八千九百拾七石八斗	九千五百貳拾七萬九千四百五拾八石九斗壹升八合八勺	七百六拾三萬九千七百貳拾九石四斗五升七合四勺

右ハ五公五民ノ法ヲ以テ租額ヲ推算シ之ヲ五合權ニシテ租米ヲ示ス其勺未滿ノ小數及ヒ水ハ數多カラサルヲ以テ之ヲ略ス

〔免直〕免テ改ルヲ謂フ

〔四年七月〕〔達〕是マテ年々荒地起返下免ノ場所免直等檢査ノ爲メ勘定方ヲ差遣スレトモ今更ニ差遣セサルヲ以テ取簡付及ヒ起返免直ヲ精密吟味シ起返免直ノ分ハ別紙トナシ年々取簡帳ニ添ヘ差出スヘシ若シ吟味盡シ難キトキハ添檢見等ノモノヲ差遣スヘシ

〔代官等〕代官等ノ所ナリ代官檢査此ニ當直ス之ヲ障屋詰ト稱ス

遺セサルヲ以テ取簡付及ヒ起返免直ヲ精密吟味シ起返免直ノ分ハ別紙トナシ年々取簡帳ニ添ヘ差出スヘシ若シ吟味盡シ難キトキハ添檢見等ノモノヲ差遣スヘシ

〔十四年六月〕〔徳川家慶達〕代官等今年ヨリ一層勉勵古來ノ取簡ニ復スルヲ要スヘシ障屋詰ヲ命セシ上ハ毎事ヲ輕便ニシ村費ノ裁抑ヲ旨トシ時々巡村シテ村柄ノ盛衰等ヲ實檢シ檢見前本田島新田島荒地起返場見取場其他切添切開又ハ免上本免入等ト爲スヘキ場所ハ悉ク點檢シ少モ遺漏ナク取簡付ヲナシ必ズ手附手代等ニ專任ス可ラス尤モ公益ノ事アラハ稟啓スヘシ

〔按〕正稅ハ元來田租ナ官倉ニ貯藏シ以テ臨時ノ需用ニ充ルナリ中葉以降正稅ノ制衰替シ國領等國司守護ノ管スル所傳ニ其租入ノ幾分ヲ朝家ニ貢ス是ヲ當時ノ正稅ト爲ス

〔安徳天皇壽永二年〕源賴朝關東八國ノ正稅ヲ貢ス

〔後宇多天皇弘安九年八月十四日〕左辨官佐渡國守平朝臣倫平ニ令シテ一國平均國檢ヲ行ヒ正稅官物ヲ完フセシム

〔按〕平倫平ノ解ニ據ルニ權民等前司和與ノ地ト稱シ或ハ請所ト號シ正稅ヲ辨セサルモノ年アリ是ニ於テ令ナ下シ之ヲ完收セシメ以テ東寺僧監造管ノ費ニ充ルナリ

〔後醍醐天皇建武元年十月〕地頭等ニ令シテ曰ク諸國莊園郷保地頭職以下本領新恩ヲ論セス管領セ

ル田地ノ分正實之ヲ注進スヘシ正稅以下種々ノ雜物等出ス所分ノ一ヲ御倉ニ進濟スヘシ

〔十一日〕〔越前國雜堂請文〕太田野保國衙ノ正稅先例ニ任セ懈怠ナク其沙汰ヲ致サン

〔北〕後光嚴天皇貞治五年四月十一日勅尾張國中島郡吉松保ノ限アル正稅懈怠ナク沙汰ヲ爲スヘシ

〔後小松天皇應永三年三月十四日〕尾張國國衙ノ正稅ヲ國中平均沙汰シ若シ難澁ノ輩アラハ罪科ニ

處セシム諸寺文

〔十年八月六日〕〔征夷大將軍足利義持令〕尾張國國衙正税及ヒ一圓ノ地難溢アリ各所紛紛太々然ル可ラス早ク朝用ヲ完フスヘシ

〔十六年十二月廿五日〕〔尾張國妙興寺領田地沽却狀〕平野源九郎要用アリ錢漆貫參百文ヲ以テ永代ヲ限リ重代相傳ノ私領田參段ヲ耕雲菴ニ賣却スルコト實正ナリ但國衙ノ正税段別伍拾文ノ圓光寺ニ毎年沙汰アルヘシ他役アル可ラス

〔廿七年十一月六日〕〔田地沽却狀〕性秀要用アリ錢玖貫陸百文ヲ以テ永代ヲ限リ相傳ノ知行田陸段ヲ沽却スル所ナリ但色清段別伍拾文正税段別伍拾文毎年其沙汰アルヘシ他役アル可ラス

〔後陽成天皇天正十六年四月十五日〕關白豐臣秀吉永ク洛中ノ地子ヲ以テ禁中ノ正税ニ充ツ

〔色清〕色ハ絲麻木綿等ノ諸種ヲ謂フ濟ハ獨濟物ノ濟ハナリ

定免取

〔按〕地方録ニ云免トハ石盛高ノ如ク取ルヘキ百姓ノ作徳ナ慮リ石盛ノ内幾分ヲ免シテ取ルノ義ナリ凡例録ニ云石盛ノ當ヨリ幾分ヲ免シテ取ルノ義ニテ乃チ七斗五升取ルヘキハ其貳斗ヲ免シ五斗五升取ルノ類ナリト所謂當トハ當ニ取ルスヘキノ税額ヲ謂フ二説大同小異アリ之ヲ要スルニ田地收獲ノ内ニ於テ其幾分ヲ減免シ實租ヲ定テ之ヲ徵スルノ義ニ起リ途ニ田租率ノ通稱トナレルナリ而シテ之ヲ稱スルニ免幾額ト曰フ一箇ハ即チ一分ナリ定免取トハ五年若クハ十年ノ租額ヲ平均シテ之カ率ヲ定メ年限ヲ期シ年期中ハ年ノ豐歉ニ拘ラス定免ノ租額徵收スルナリ若シ風水旱等ノ大損アレハ檢見ノ上其幾分ヲ減除ス之ヲ破免ト曰フ定免ノ法ヲ運ク施行スルハ享保六年ニ在リト雖モ其由テ來ルコト久シ在昔田一段ノ租額一東五把及ヒ二束二把ノ法アリ鎌倉府ノ時丹波國大山莊ノ年實清文ニ云風水旱損ニ由ラス上中下田ノ斗代チ上納ス云々足利氏ノ時播磨國矢野莊代官職清文ニ云水旱風旱ノ損害ニ拘ラス毎年實清文運上ス云々文祿二年豐臣秀吉宮部善神房チシテ豐後ノ地ヲ檢シ實租定納ノ法ヲ立テシム同四年三州國崎ノ文書ニ云アサ井村ノ土免チ九百拾六石七斗六升ニ物成チ三百石ニ定ム若シ風水旱ノ損失アレハ則チ檢見ヲ用フト土免ハ本高チ謂フ物成ハ地租ナリ以上皆定納ノ法ニシテ

即チ定免ナリ蓋シ定免取ハ一般檢見人馬出役等ノ勞費無ク且田租ノ收獲自由ニシテ尤モ簡便ナリトスル所ナリ

〔中御門天皇享保六年閏七月〕〔征夷大將軍德川吉宗達〕年貢ハ百姓ニ得心セシメ追次定免ニ定ムヘシ但高免下免其地不相應ノ所ハ改ムヘシ

〔七年七月〕〔達〕定免田畑ノ内旱水風蟲等大ニ損毛アリテ閭村ノ百姓申出ル時ハ檢見ヲ爲シ有毛ノ如ク取簡ヲ見取ニ申付クヘシ定免ヨリ高免ノ地モ有ルヘク豫メ其旨ヲ領スヘシ但一村内ニテ檢見ヲ請フモノアリ請ハサルモノアリテ一定ナラサルハ其請ニ從フヘカラス

〔十二年九月〕〔達〕定免ノ地風旱損等ニテ百姓引ヲ請フ時五分以下ハ其請ヲ許サス五分以上ハ檢見ノ上引ヲ立ツヘシ但一村ノ損毛モ五分以上ナレハ引ヲ立ツヘシ

定免及ヒ檢見取ノ地損毛ノ注進アラハ速ニ手代ヲ差遣吟味シテ申稟シ且又立返ルヘキ景況アラバ速ニ申稟スヘシ但時宜ニ因テハ各直ニ實檢スヘシ又添檢見ヲ差遣スルコトアルヘキヲ以テ遲速ナク注進スヘキ旨豫メ各村ニ申達スヘシ

〔十二年四月〕〔達〕定免場水旱損等有ル時五分以上ノ損毛ハ引ヲ立ツヘキ旨嚮ニ達スレトモ今ヨリ四分以上ニテ引ヲ立ツヘシ五分以上ニテ其地相應ノ村ハ先達ノ如クナルベシ今年年季明ノ定免又去年定ル定免或ハ來年ヨリ末年季明定免ノ地モ右ノ如ク吟味スヘシ

今年年季明ノ分及ヒ去年定メタル定免ノ分ヲ其村相應ノ取簡ニ定ル上ハ其年季ヲ五個年七個年又八十個年十五個年等ニ定ムヘシ然トモ百姓得心セス相應セサル分ハ年季ヲ短ク定ムヘシ

今マテハ右ノ如ク吟味セシテ定免年季ノ切替毎ニ増租セシヲ以テ百姓モ切替毎ニ増租スト思料ス故ニ相應ノ取簡ヲ付シ難シ此旨特ニ諭達スヘシ

〔十五年八月〕〔達〕定免ノ田畑四分以上ノ損毛ニテ破免ノ時檢見取ノ引ハ其損毛ヲ檢覈シテ引ヲ立ツヘシ但高取米又ハ段別トモ實ニ四分以上ノ損毛ナラハ引ヲ立ツヘシ

〔切替〕改更ノ義ナリ

田ハ上方筋木綿作ノ場所損毛アル時從前ノ檢見取ニ准シ吟味ノ上四分以上ノ損毛ナラハ引ヲ立ツ

畑ハ麥作半毛夏秋作ニテ大豆小豆木綿粟米稗菜大根其外諸種ノ分ヲ半毛トナシ取米永毛麥作夏秋作等分ニ分チ麥作四分以上損毛ノ時ハ麥作取米永ノ内ヲ以テ引ヲ立テ夏秋作四分以上ノ損毛タラハ麥作取米ノ内ヲ以テ引ヲ立ツヘシ

田畑トモ一村内ニテ水入塙堤外等段別別レタル所ハ四分餘ノ損毛又ハ皆損タルモ一村ヲ平均シ四分内ニ當レハ引ヲ立テ難シ但村ノ所有ナレハ引ヲ立テサレトモ百姓別レテ右場所ノミ所有セハ引ヲ立ツヘシ附傳書 牧民金鑑

〔九月〕〔達〕定免村ノ内永荒地起返ラハ狭小ニテモ其年ヨリ租米金ヲ收入シ來レリ以後ハ替ヘハ高拾石荒地ノ内壹石起返ルモ其年ヨリ徵收スヘシ壹石以内ノ分ハ代官所預所ニテ吟味シ年季切替ノ時高及ヒ租米ヲ増スヘシ小前荒地高拾石内起返ノ分モ之ニ准ス

定免年季ノ内川穴山崩ノ荒地引ハ百姓一人分所有高拾石ノ内壹石荒地トナラハ引トナシ壹石内ハ引トナサス定免ノ米金ヲ徵收スヘシ御書付 並傳書

〔十九年正月〕〔達〕定免ノ地ハ豐年ノ餘贏ヲ以テ凶年ノ不足ヲ補フ可キニ付是マテ四分以下ノ損毛ハ取箇ニ引ヲ立テサレトモ三分餘ノ損毛ニテハ百姓ノ債多ク凶年積クトキハ夫食ヲ請フニヨリ吟味ノ上貸與セリ向後ハ貸與セサルヲ以テ三分以上ノ損毛ハ引ヲ立テ三分以下ハ定免ノ如ク徵收スヘシ尤モ定免年季替ヘハ五個年ナルニ三四個年モ三分ニ近キ損毛續キ百姓窮苦堪ヘ難キ事由アラハ之ヲ細記シ別格ノ救助ヲ稟問スヘシ

〔夫食〕解難篇ニ見ユマリ

〔按〕定免ノ法水旱等ノ損毛ニ過ヘハ民其租ヲ買スルニ由ナン故ニ享保七年村内百姓一定シテ檢見ヲ請フトキ之ニ從テ減免ノ法ヲ設ケ因テ同十二年ハ五分以上ノ損毛ニテ減免シ同十三年ハ四分以上トシ今又三分以上トス是ニ於テ減免ノ法全ク定ル其三分四分等ヲ處定スルハ一村ノ平準ヲ以テス凡ソ定免ハ田地多キ者ニ優ニシテ少キ者ニ優ナラス何トナレハ其

多キ者ハ損スル所アルモ損セサル所ヲ以テ之ヲ償フテ得ヘシ少キ者ハ損スル所アレハ以テ之ヲ償フヘキモノナシ是シ其應分ナ煩セシ所以ナリ

〔潰百姓〕解難篇ニ見ユマリ

外稼等ヲ誤算シテ高免ヲ付シ或ハ他ノ事故有テ百姓困窮シ又ハ潰百姓アルノ類ニシテ當今作物宜シカラス取箇不相應ナル村アラハ定免年季内ニテモ速ニ吟味シ一村限其事由ヲ記シテ稟問スヘシ牧民金鑑、牧令類、軍出方掛留記

〔櫻町天皇元文二年七月〕〔達〕定免ノ分ハ今年ノ麥作三分ヨリ八九分マテノ損亡ト注進アレトモ畑ハ田ノ檢見ニ異ニシテ唯手代ノミニテ幾分ト定ルニ依リ田ノ取箇引戻シノ心ヲ以テ五六分マテハ無難トシ其餘ヲ三分四分等ノ損亡トナシ更ニ吟味スヘシ牧令類

〔同月〕〔達〕定免場所ハ其年ノ風旱水損等ノ申立ニ依テ破免スレトモ近年ハ幾ト隔年ニ破免スルノ以テ定免ノ詮ナシ檢見場所モ同様ノ申立ニテ近年漸々下免ト爲來ルニ付諸事急ナク心ヲ盡シテ取箇ノ進ムヲ要スヘシ

損毛ニテ取箇減スルヲ風水旱ニ由ルト稱スレトモ甚シカラサルニ破免スルハ別ニ趣意アラシ又檢見入トナル場所最初ヨリノ檢見場ニ不相應ノ劣アル所ハ處置ノ方アルヘシ因テ此兩條便宜アラハ小事ト雖モ申稟スヘシ牧民金鑑

〔三年五月〕〔達〕畑ハ損毛アルモ古來概ネ引ニ立テサルナリ要スルニ畑作ハ一毛ノミニ非ス諸作アルヲ以テ田ノ如ク檢見シ難ク損亡ノ吟味ナキヲ以テ向後ハ田ノミ從前ノ如ク三分以上ノ損毛ハ引ヲ立テ畑ハ引ヲ立テサルヲ旨トシテ定免ヲ定ムヘシ

五畿内中國筋木綿作取トナス場所ノ分畑ハ勿論田ノ木綿作モ稻作同一ニ檢見スヘキヲ以テ右國々ハ木綿作ノ分田ト同ク引ヲ立テ其餘ノ畑ハ他ノ國々ト同ク引ヲ立テサルヘシ牧令類、令條錄

〔按〕作取トハ賃租子納メスシテ其作毛ヲ專收スルヲ謂フ享保十五年八月ノ條ニ據ルニ上方筋木綿作ハ已ニ檢見取ノ法アリ而ルニ編作取トナスモノアリ因テ之ヲ檢束スルナリ

〔桃園天皇寬延二年五月〕〔徳川家重達〕向後ハ取箇ヲ定免トスヘシ若シ今年ヨリ定免トシ難キ所ハ
二三年ノ内定免ト爲スヲ要スヘシ類案

〔寶曆四年七月十九日〕〔達〕定免ハ檢見スルヲ待タズ稻作ハ隨意ニ刈入レ役人馬等ノ村費ナク總テ
便宜ナルヲ以テ年季切替ノ時免相増セトモ百姓得心シテ定免ヲ受ク然ルニ數十年定免ニテハ其高
多キ百姓ノ爲ニハ宜シト雖モ高少ク又ハ粗田ノミノ百姓ハ追次疲弊スヘキ場所アリ且永年ノ定免
村ニテ代官手代等連年巡村セサル所ハ土地不相應ノ下免ナル場所モアルヘキヲ以テ定免年季切替
ノ時ハ一村限詳査スヘシ金鑑

〔五年六月十六日〕〔達〕定免ハ總テ便宜ナルヲ以テ年季切替ノ時増免ニテ定免ヲ受來ル場所ハ年季
明ノ時改テ檢見取ト爲シ土地ヲ熟檢シテ又定免ヲ請ハ、其處分ヲ申出ツヘシ差出方掛留

〔後櫻町天皇明和四年三月〕〔徳川家治達〕上方筋ハ檢見取多シ然ルニ年々檢見ヲ受クレハ刈入等白
由ナラス又村費多シ右村費等ヲ見込マハ格別取箇モ増シ定免ノ村増スヘキヲ以テ今年ヨリ切替定
免ハ勿論新規定免ノ村モ増加スルヲ要スヘシ差出方掛留

〔五年四月七日〕〔達〕定免ハ作徳ノ餘分ヲ見込ミ心ヲ培養ニ盡シ刈入ノ時期ヲ失ハス米性モ自ラ宜
ク檢見諸費ヲ省キ便宜言フヲ待タサルニ檢見取ヲ好ム者ハ多ク取箇ノ引ヲ期シ動スレハ不正ノ事
起ルナリ五畿内筋代官所ハ去亥年新規定免村ヲ増サシメタルヲ以テ他ノ料所モ其利害ヲ百姓ニ恐
論シ定免ノ地増加スルヲ要スヘシ

地高或ハ入會村ノ内故無ク免合ノ高下有リ外稼モ爲ス等ノ村柄宜キ場所ハ下免ニシテ農業ノミ
地高免ナルモノアリ畢竟其村ノ舊貫ニ依リ前年及ヒ五十年ノ取辻ニ照シ取箇ヲ付來ルモノ
アルヲ以テナリ因テ隣村等ノ免合ヲ照料シ故無ク免合ノ低キハ吟味ノ上取増ヲ要スヘシ差出方掛留
〔後桃園天皇明和八年三月十六日〕〔達〕代官所預所切替及ヒ新規定免ノ分貳箇以下ノ下免其他享保
以來ノ新田高入以後地味改良ノ場所モアルヘキニ高入以來増無キモノ有リ是レ吟味ノ至ラサルヲ

〔地籍〕地ノ連
接スル所ナリ
〔入會村〕大牙
相接スル地ヲ
取辻取米高
ナリ

リ因テ今年定免願出アラハ一村毎ニ吟味シ取箇ノ増スヲ要スヘシ差出方掛留

〔光格天皇天明五年正月廿二日〕〔達〕五畿内ノ木綿田畑取箇ハ檢見定法ノ如クスヘシト雖モ若シ定
根取ニ定ムレハ却テ公益ニシテ且百姓ノ便利タラハ之ヲ審査シ木綿作ハ特ニ作徳アルヲ以テ根取
ノ外増米ヲナシ畑ノミニテモ定免ト爲スヘシ牧民金鑑

〔寛政四年二月〕〔徳川家齊達〕五畿内近江丹波播磨諸國ハ地位特ニ宜キニ當今ノ取箇辻延享寶曆
比スレハ取劣多シ右ハ近年取箇ノ弛ミシヨリ追次檢見取ノ地多キニ由ルカ檢見取ハ人馬等ノ費用
リ定免ハ刈入等モ自由ニテ熟ノ年モ増無ク且年季内ニテモ三分以上ノ損毛ナレハ減租ノ方有リ
其便宜ヲ知テ檢見ヲ受ルハ畢竟平生農業ニ怠リ檢見ノ時不正ノ手段ヲ求レハナリ近年ハ自然ニ取
劣ノ取箇ヲ根取ト同視シ舊ニ復スルノ期無シ因テ近年取劣ノ分ハ悉ク定免ト爲シ舊ニ復スルヲ要
スヘシ

綿作ハ作得多ク且麥作或ハ菜種等ノ收穫有リ縱令損毛有ルモ容易ニ引ヲ爲スヘキニ非ス因テ攝津
河内ノ内綿檢見ノ場所以來其檢見取ヲ止メ定免トナスヲ要スヘシ牧民金鑑

〔七月〕〔達〕今年年季明ノ定免繼年季及ヒ新規定免ハ前時ノ免及ヒ延享元子年寶曆二申年等ノ免ニ
照シ多ク減米有ルカ又ハ二十年内ノ損地減米ニ非スシテ全ク取劣リシ分ハ皆檢見取ト爲シ取箇
ノ進ムヲ要スヘシ尤モ定免村ヲ檢見取ト爲スハ取増ヲ要スル事勿論タルニ從前ノ定免辻ヲ根取ト
思フ者アルハ誤ナリ檢見ノ方漫ナレハ檢見取ノ地多シ是レ百姓ニ私利アルヲ以テナリ檢見ノ方嚴
ナレハ取箇其當ヲ得自然定免取ノ地多キニ至ルナリ右斟酌ノ上檢見取ノ方嚴ニ吟味スヘシ牧民金鑑
〔九年九月五日〕〔達〕定免ハ豐作ノ年ト雖モ定租ノ外ハ徵收セス又水旱等ニテ三分以上ノ損アルハ
破免トスル定規ニシテ百姓ニ便宜ナルヲ以テ二十年來ノ取箇ニ減米アルハ概ク定免トハ爲シ難
キ規矩ナリ尤モ右二十年中ニテモ前後無比ノ豐年アレハ別格ヲ以テ定免ヲ許セトモ今年ハ多分
ノ減米ヲ以テ新規定免ヲ申立ルモノ有リ右ハ取箇ノ損益ニ關スルニ由リ特ニ斟酌スヘシ牧民金鑑

〔仁孝天皇文政二年六月七日〕〔達〕定免切替ノ時僅ニ増米ヲナシ前時ニ比スレハ許多ノ減米ヲ以テ定免申立ルモノ有リ取箇ハ村ノ盛衰地ノ佳惡農作ノ餘業等ヲ量レハ増米ヲ申付ルモ困却セサルヘキニ追年取箇ノ弛ミシヨリ取劣多キヲ以テ免合段取等嚴ニ吟味シ取箇ノ進ムヲ要スヘシ
新田未タ熟良ナラサル時定免ト爲初追次地味熟シ當今ニテハ甚シキ下免ニ當リ又手當定免其外不定地ニテ定免ト爲レル地所ハ豫メ點視シテ地味作毛ノ佳惡ニ應シ段取等ヲ撿覈シ定免年季明ニ至リ至當ノ増米ヲ爲スカ又ハ一旦檢見取ニナシテ取増スヘシ〔牧民金鑑〕

〔四年二月十九日〕〔達〕定免ハ新規切替トモ向後三月晦日ヲ限リ伺出ツヘシ〔牧民金鑑〕

〔按〕實曆明和及ヒ安永ノ間連年豐熟シテ收租十分ナリト云々又頻ニ年有リ故ニ實曆明和等ニ比較シテ定免何書ニ記入セシメ而シテ之ヲ出スニ三月晦日ヲ以テセシムルナリ

〔天保九年八月四日〕〔徳川家慶達〕多ク破免ヲ申立ル時ハ再吟味ハ勿論事宜ニ因リ其人ヲ遣シテ撿覈セシムヘシ〔差出方掛留記〕

〔十一年三月〕〔達〕定免ヲ伺出ルニ年々後ル、モノ有リ今年ハ四月廿日ヲ限リ伺出ツヘシ尤モ二十一年ノ内減米アラハ其事由ヲ明記スヘシ〔牧民金鑑〕

〔十四年六月〕〔達〕定免ノ村破免檢見申立ノ際坪刈ノ上段ニ二分内外ノ損毛ヲ三分以上又ハ五分以上ノ如クシテ引ヲ立ルモノアリ前時ハ一國一郡ニ關涉スル凶作ニ非サルヨリハ引ヲ爲サ、リシニ享保ニ至リ五分以上ノ損毛ヲ破免ト爲シ猶四分以上トシ又夫食種代等ハ容易ニ貸付ケサル目的ニテ三分以上ト爲セリ右ハ特別ノ仁惠ナルヲ以テ以來破免檢見ノ時至當ニ處分スヘシ〔牧民金鑑〕

檢見取

〔按〕檢見トハ作毛ヲ檢視スルナリ地方大概集ニ云作毛ノ豐凶ヲ見分シテ其年ノ取箇ヲ定ルナリト夫レ水旱蟲霜等ニ由リ作毛ノ損傷スル時ハ其租ヲ減免スルコト古來ノ定法ナリ然トモ是レ特ニ地租定額上ノ處分ニ係テ檢見ノ原真ニ斯ニ懸斷スト雖モ中世以降檢見取ノ法ハ則チ此ニ異ナルモノ有リ蓋シ地租定額ノ設ケ無ク歲ノ豐凶ナ問ハズ年々田地作毛ヲ檢視シテ之カ租率ヲ定ルナリ文明十二年ノ乘福寺文書ニ云土貢ニ於テハ毎年檢見ヲ以テ納ム又土貢ハ官家ノ使節ト事務ト毎年檢見ヲ送ケ寺納ヲ完フス可シト永正十二年ノ妙興寺文書ニ云寺納ハ檢見ノ上ヲ以テ定ムヘシト天正十四年豐臣秀吉ノ制條ニ云檢見ヲ爲シ三分ノ一ヲ百姓ニ付シテ其ニ收ムヘシト即チ檢見取ナリ徳川氏ノ時ニ至リ遺ク之ヲ施行シテ免取ノ法ト並用シテ定免取便ナラサレハ乃チ改テ檢見取ト爲シ檢見取弊アレハ復々以テ定免取ト爲ス而シテ其法皆頗ル凶荒ナ加ヘタリ蓋シ檢見取ハ作毛ヲ檢シテ其租ヲ定ルニ依リ根取免ニ照準スト雖モ年々豐熟ニ隨テ租額ニ異同アルコト定免ニ反セリ而シテ色取檢見有毛檢見遠檢見請檢見引檢見一々五檢見等其法一ナラス又大檢見小檢見遠檢見等ノ稱アリ其詳ナルコトハ雜篇ニ載録ス

〔明正天皇寛永年中〕征夷大將軍徳川家光定免ハ百姓困難スルヲ以テ料所一般檢見取ト爲ス〔一話〕
〔按〕當時曾根覺齋ノ議ニ云凡ソ定免ハ預メ收額ヲ定ム若シ凶年饑饉ニ遇ヘハ民大ニ之ヲ苦ムト是ニ於テ一般檢見取ト爲スト雖モ檢見取亦弊ナキコト能ハス幾ナラスシテ遂ニ兩法並行フニ至レリ凡例條ニ云享保十八年料所ハ都テ有毛取ト爲スト是レ亦一時ノ便ニ出ルナリ

〔中御門天皇享保四年八月〕〔徳川吉宗達〕近年料所ノ立毛小檢見ヲ停止スレトモ立毛ノ善惡ハ細密ニ吟味シ難キヲ以テ今秋ヨリ前時ノ如ク小檢見ヲ爲スヘシ
風水旱損等ニテ皆損引ト爲ル可キ塲所ハ別シテ小檢見ヲ精密ニス可シ殘毛有ル所ハ皆損ト爲スヘカラス

大檢見ノ法坪刈モ爲サス丁簿ナラスト聞ク本年ヨリ精密吟味シ取箇ノ根本トナスヲ要スヘシ〔教令〕
〔櫻町天皇延享二年七月五日〕〔達〕色取又有毛檢見ノ取箇付替ヘハ上田石盛十五釐取免五箇ニテハ七斗五升ニテ當合壹升毛トス然ルニ坪刈増合ヲ加ヘ壹升五合トナルトキハ根取ニ拘ラス右壹升五合ノ分ハ五分ノ取箇ヲ付シ以下ノ低合ハ一段コトニ免ノ割付釐取取ヲ定メサレハ低合毛ノ百姓内割ニ不同ヲ生ス且中下田ノ秋作上田ヨリ優レルモノアリ却テ釐取取共ニ増スヘキヲ以テ百姓高免トノミ誤解スルモノアリ因テ合毛切取箇ノ意旨ヲ明示スヘシ〔牧民金鑑〕
〔桃園天皇寛延二年三月〕〔徳川家重達〕檢見坪割ノ上ニ取箇ヲ定ルコト關東ハ段取上方ハ釐取ノ定

〔小檢見〕手代大檢見ニ先チ精細檢見スルヲ坪刈地方録ニ又坪檢見ト稱ス
〔大檢見〕代官權村ヲ巡廻シ小檢見ニ照シ一般檢見スルヲ坪刈ア
〔増合〕増セシ合毛ヲ謂フ
〔低合〕合毛ノ低キヲ謂フ
〔合毛切〕合毛ノ高チ限ルナリ

〔水磨〕水ノ爲メ作毛ノ廣敷スルヲ謂フ

格ナレトモ享保十三四年諸國一統根取ノ改正ハ根取免ニ強弱不相當ノ地所々之アリ或ハ水帳亡失シ小前帳等ニ依テ石盛位付ヲ爲セトモ段取釐取適當セサル所有ルヘキヲ以テ毛石ハ段取石取ト無ク年々ノ作毛ニ隨ヒ村吏田主實檢ノ上合毛帳ニ捺印セハ年貢作徳明白ニシテ百姓ノ疑ヒ無ルヘシ因テ斟酌ノ上有毛取ト爲スヘシ〔按〕釐取段取地味僅ニ變スレハ即チ免ニ高下ノ不當ヲ生シ取箇ヲ改付スヘシト雖モ盡ク改ム可ラサルノ弊無クトモス右毛檢見取ハ則チ否ス根取ノ標準無ク又上中下田ノ別無ク一步ノ合毛ヲ檢算シ一筆毎ニ之ヲ合算シ田位ニ拘ラス作毛ノ多寡ニ隨テ取箇ヲ付ス四テ上田ノ作毛或ハ下田ヨリ減シ下田却テ上田ノ如キモノアル由之ヲ折中スルノ制トス

〔寶曆六年四月三日〕〔達〕去秋大損毛ノ國多ク不作ヲ申立ルヲ以テ添檢見ヲ命セシニ却テ取増ト爲レリ全ク各人緩漫取箇付不精ナルニ由ル不時ノ至ナリ以後必ス改ムヘシ

〔九年七月朔日〕〔達〕今年諸國農作特ニ豐饒ナルヲ以テ檢見坪刈等一層心ヲ用ヒ取箇ヲ進マシムヘシ

〔水磨〕水ノ爲メ作毛ノ廣敷スルヲ謂フ

取箇申年以來年々不同有リ丑年ハ子年ニ比スレハ米六萬石餘ヲ減シ寅年モ水磨附荒等ニテ丑年ヨリ大ニ減セリ今年ハ豐熟ニテ立毛ノ實檢自然弛ミヲ生スヘキニ付特ニ著意吟味スヘシ〔後桃園天皇安永六年八月〕〔徳川家治達〕檢見取ハ合毛勻撮ノ異同ニテ高ニ増減ヲ生スルコト其ダ多シ縱ヒ小高ニテ合毛ヲ掛ルノ理ナシ然トモ一體ノ見込ニテ取箇ヲ付スルハ各人ノ勉否ニ在ルヲ以テ豫メ土地免合ノ當否ヲ察シ檢見坪刈ノ時ニ臨ミ諸事周到スルヲ要スヘシ

〔按〕合毛ヲ掛クトハ蓋シ内見合毛ヲ乘スルノ謂ナリ地狭ク高小ナルモノト雖モ坪刈出合等ノ法ヲ省奪ス可ラス但全體ヲ照料シテ租率其當ヲ得ノコトヲ要スルナリ

トモ村民ノ勤惰ニ隨ヒ上田モ下田ト爲リ下田モ上田ノ立毛ヲ得ルニ至ルヘシ右斟酌シテ取箇ヲ進マシムヘシ〔七年八月朔日〕〔達〕今日ハ諸作無難タルヲ以テ後年ノ標準タルヘキ取箇ヲ付スヘシ但格外下免ニ當ル場所アラハ段當ヲ野帳ニ略記シテ出スヘシ但檢見ノ際村費ヲ減省セシメ旅宿其他朝夕ノ用品ニ至ルマテ心ヲ用ヒハ手代モ自ら檢束シ百姓モ特ニ欣戴スヘシ

〔八年八月朔日〕〔達〕檢見ハ定法アレトモ段當貳升三升等ノ差ニ至テハ其立毛目力ニ悉シ難ク僅ニ心ヲ用ヒハ百姓ノ痛トナラス穩ニ取増ヲ得ヘクシテ其公益多カルヘシ〔光格天皇天明五年正月廿二日〕〔達〕五畿内ハ畑木綿特ニ地味ニ適當シ其成熟十分ナルニ因リ前時ハ檢見ノ上取箇根取ヨリ増スモノアリ縱ヒ成熟十分ナラサルモ根取ヨリ減スヘキ理ナキニ近年ハ本綿摘取リ枯草トナリシ地ヲ稻作同時ニ檢見シ木綿ノ熟否モ明知シ難ク菜大根等定根取ノ難作ヨリ取劣レリ以來木綿ハ裏毛ナリト雖モ特ニ作徳アルニ因リ其意ヲ以テ取箇付ヲ爲シ木綿ニ桃ヲ結フニ及テ手代ヲ差遣シテ小檢見ヲ爲シ代官檢見ノ時木綿斤付其他定法ノ如クスヘシ

〔同月〕〔達〕田ノ雜作ハ檢見ノ時其村ノ上毛ニ準シ取箇付ヲ爲スヲ以テ稻作シ難キ場所ハ荒蕪ニ歸セシムルモノアルヘシ右上下毛ノ取箇付スルハ百姓ノ勝手作タルヲ以テナリ因テ自今稻作ナシ難ク雜作ノ分ハ其作毛ノ登否ニ應シ斟酌ノ上取箇付ヲナスヘシ〔七年八月七日〕〔徳川家齊達〕檢見ハ村民ヨリ立毛内見帳ヲ出シ巨細實檢ノ上作毛ノ善キ場所ニテ坪刈スルナルヘシト雖モ百姓苗代跡等ト稱スル所ハ坪刈セス又春法ノ際干減等ヲ懇願スレハ寛假スト聞ク素ト内見ハ村民隨意合付スレトモ坪刈ハ熟否ニ應シ各意見ノ如ク十分ニ處分スヘキヲ以テ此意手代等取等ニモ詳諭シ取増スヘシ畢竟取箇付ハ合勻ニテモ莫大ノ増減アルニ付精密吟味ヘシ

〔九月〕〔達〕今年諸國豐熟スルヲ以テ取箇付精密ナルヘキニ來申年ノ作毛十分ナラスシテ今年豐熟

〔苗代〕苗代トハ和歌山ニ云稻種ヲ下ス所ナリト即チ秋田ナリ苗代田ナリシ跡ヲ謂フ

段高場取見取備附

〔按〕段高場トハ草生地及ヒ池沼岸邊ノ填地川堤外ノ不定地等之ヲ高ニ結フモ百姓或ハ得ル所ナキヲ以テ唯其段別ヲ定メ輕租ヲ課スルノミニシテ高外ニ置クモノヲ謂フ輕淺須知ニ據ルニ享保八年武藏國ノ林場ヲ墾闢セシメ芝地壹段ニ役米三升ヲ課セリ諸國異同有リト雖モ率亦此類ナリ是等多クハ村ノ附有ニシテ之ニ依テ一村ヲ成スモノ甚々夥シ然トモ年々輕租地味熱良スレハ則チ收テ高ニ結フノ制トス流作場亦較ヤ之ニ同シ固テ之ヲ合録ス流作場ハ川堤外及ヒ湖池沼岸邊ニテ時ナク晴ナク一面水ヲ蒙ル地ニ作ルヲ謂フ地方竹馬集ニ云川水ノ暖ナル所ニ作ルヲ謂フト是レ亦段別ノミニナシメ輕租ヲ課シテ高外ニ置ク其租率ハ段高場ト大同小異ナリ早歲ニハ作場多クシテ雨澤甚キ歲ハ作リ難シ若シ既ニ耕種ハルモ水至レハ一時皆流失スルコト測ル可ラス然トモ地勢地味改良スレバ則チ段高場ト爲スモノトス

〔桃園天皇實曆六年九月十二日〕〔征夷大將軍德川家重達〕代官所段高場ハ是マテ取箇差出帳ニ附記スレトモ今年ヨリ本途取箇ニ同ク吟味スヘシ牧令類纂

〔後桃園天皇安永七年七月〕〔德川家治達〕段高場ノ内追次地味熱良ニ至レル分ハ嚴コ檢査シテ高入ト爲スヘシ尤モ川附不定地ノ場所ハ專ラ堤防ニ注意シ作毛ニ應シテ取箇付ヲ吟味スヘシ

〔按〕段高場ハ租率輕ク且高掛ノ費ナシ農民之ヲ利トシ地味熱良スト雖モ墾墾シテ官ニ告ケス不定地ノ如キ亦改良ノ方ヲ講セサルノ弊アリ内テ代官等チシテ之ヲ檢察セシムルナリ

〔光格天皇寬政三年七月廿三日〕〔德川家齊達〕段高場ノ内耕作シ難キ所モ之アレトモ稻作ノ所モ多カルヘシ本年ハ特ニ熟作ニ付舊貫ニ拘ラス取箇ヲ付スヘシ差出方掛留

〔四年七月〕〔達〕關東筋ノ内段高場多シ本年ハ諸作豐熟ニ付去年達セシカ如ク立毛相當徴收スヘシ牧令類纂

〔仁孝天皇天保三年五月二日〕〔令〕段高場流作場等ハ村コトニ調査シ鄉村帳ノ末ニ記載シテ出スヘシ尤モ鐵先其他試作中ノ分モ有ルヘキヲ以テ右等ハ無論私領ノ地嚙タリトモ都テ高入ニ成ルヘキ場所アラハ村限細調シテ申立ツヘシ御書付

〔按〕私領トハ諸藩等ノ領地ヲ謂フ是レ全國ノ石高ヲ檢スルカ爲メ段高場流作場ニ至ルマテ査察申セシム故ニ幕府及ヒ諸藩ノ領地ヲ檢セサルナリ

〔十二年十一月九日〕〔德川家慶達〕流作場段高場ノ内ニハ高入トナルヘキ分モ之アルヘシ縱ヒ高入ニ至ラストモ年々作毛ヲ檢シ免直増等吟味スヘキナリ其新田高入トナル分ハ地味未熟ノ時檢地ノ上石盛ヲ付スルヲ以テ下免ノ所多シ地味熱セハ取箇増收ヲ吟味スヘシ御留

〔十四年六月〕〔達〕段高場流作場ノ年々經テ地勢變シ本田ニ等シク水害ナキ分其他切添切開等アルヘキニ付速ニ檢地シテ石盛ヲ付スヘシ高入トナラサル分ハ相當ノ取箇ヲ付スヘシ牧令類纂

見取場

〔按〕凡例錄ニ據ルニ見取場トハ百姓川岸山傍原野等ノ地僅ニ五畝三畝墾闢種蠶スルハ之ヲ高ニ結ハス段別ヲ定メ年々其作毛ヲ檢シテ取箇ヲ付スル地ヲ謂フ又定見取屋敷見取アリ定見取ハ山野等ノ薄地ヲ墾闢シ其費用鈔カラサルモノハ年々豐熟ニ拘ラス輕租ヲ定賦スルヲ謂フ即チ定免ナリ其租率亦段高場ト大同小異ナリトス屋敷見取ハ川岸堤外等ノ地ヲ經營シテ屋敷ト爲スハ上高ニ准スルノ制ニ由ラスシテ輕租ヲ定賦スルヲ謂フ

〔中御門天皇享保十八年七月廿七日〕〔征夷大將軍德川吉宗達〕高入伺出ノ内近年ノ見取場ハ有レトモ往時ノ見取場少ク年々實毎年一様ニテ定納ノ野手米場等ノ如ク引付吟味モ爲サスト聞ク失宜タリ自今地位善良ノ所ハ追次高入ヲ稟問シ浮地薄地等ニテ年々經ルモ到底高入ナシ難シト決セル分モ猶吟味ノ上見取場ト成置カス公益ト爲ルヲ要スヘシ御書付

〔桃園天皇實曆六年九月十二日〕〔德川家重達〕代官所ノ見取場ハ是マテ取箇差出帳ニ附記スレトモ今年ヨリ本途取箇ニ同ク吟味スヘシ牧令類纂

〔後櫻町天皇明和二年八月〕〔德川家治達〕見取場ハ何年ヨリ見取場ト爲リシヤ又年々經ル分ハ何ゾ以テ高入ト爲シ難キヤ吟味スヘシ

高入ト爲ルヘキ分ハ何年ヲ期シ高ニ入ルヘキヤ年々等ヲ吟味スヘシ
見取場ノ内惡地及ヒ猪鹿ノ害アリ高入トナリ難キ旨申立アレトモ右ハ古田畑ノ内ニモ多ク之アリ